

三六 長崎県士族多田弘齋東京府士族二見正則

鳥取県士族山部隼太連署左府公へノ建白

時弊救済ハケ条ノ急務

(表紙)
「上書」

二三八四ノ一

恭惟

左府相公閣下曩ニ

皇帝陛下ニ奉ル十四則、天下ノ為メニ時弊ヲ改メントス、

而シテ

朝廷未タ敢テ之ヲ収用セス、今茲甲戌四月二十七日初テ

左大臣ニ拜ス、天下衆庶田父野老皆欣テ曰、人于日真

ノ相公出ツ、必ス天下ノ蒼生ヲ済ン、然シテ未タ敢テ

事ヲ拳ケサル、蓋シ觀ル所アリ、抑モ志ヲ同フスルモ

ノ無キ耶、

相公閣下既ニ已ニ天下ノ物望ニ協則何ソ孤立ヲ憂ンヤ、

皇国未タ積弊ニ至ラサルヲ

御洞察被為在、コレヲ改革シテ独立不羈、赫々国権ヲ

振興スヘシ、乃チ速ニ嫌疑ヲ決シ、猶予ヲ定メ以テ内

外ヲ主持スヘシ、古ヨリ危疑ノ際非常ノ拳必ス夫ノ強

力果断、敢テ衆議ヲ犯ス者身ヲ挺シテ以大難ニ当リ、

然シテ後チ大事済スヘキ也、今

閣下其責重其望盛ナリ、希クハ衆志ノ向フ所ヲ察セヨ、

臣等見ル所当今ノ急務八条アリ、別紙ニ録シ以テ呈

尊覽、区々憂国ノ微誠瀆冒

威尊惶悚無己昧死百拜謹上言、

五月

二三八四ノ二

鳥津左府相公閣下

長崎県士族

多田弘齋

東京府士族

二見正則

鳥取県士族

山部隼太

一 皇国礼儀ヲ確定スル事

当今結髪散髪アリ、薙髪アリ、半髪アリ、羽織アリ、袴アリ、洋服アリ、洋服ニシテ草履・雪駄・木履ヲ用羽織袴ニテ革靴ヲ用ユルアリ、或ハ帽子ヲ脱シテ礼ト為スアリ、手ヲ揖シテ礼スルアリ、各一様ナラス、宜シク速カニ貴賤礼儀之典ヲ確定スヘキ也、

一 人材撰挙之事

賢不肖ヲ弁別シテコレヲ黜陟スルハ、蓋シ

三公ノ職務也、忠厚老成守道憂国者各其長所ヲ取リ、之ヲ用ユヘシ、其性忠直才幹アルモノヲ上トス、其才秀ストモ善ク道ヲ守ル者其次也、才学アリ、善ク古今事蹟ニ通達シ事ニ望ミ卓識アル者又其次也、奸詐邪謀勢ニ随ヒ改メ変スル者ハ小人也、決シテ用ユヘカラサル也、

一 張国権事

五大洲中一地球上之人民也、然則世界之人民一致シテ一ノ大政府ヲ建、一ノ君長ヲ立統御スヘキ訳ナレトモ、

其種類自分別アリ、各国建国ノ体各々同シカラス、風俗民情亦自不同者アリ、我

皇国ノ如キ凡二千五百三十四年

皇統連綿、終古變易ナキハ世界中其比アルコトナシ、然レトモ世界大イニ開クルニ及ヒ彼此各々利害長短アリ、且貨物亦彼此有無ヲ通シテノ便利ヲ計ルハ、蓋シ已ム可カラサルノ勢ナリ、各其権力アリテ以テ争論無キヲ謀ル、因テ国体ヲ立以テ国権ヲ張り、外国ノ交際ハ信義ヲ厚シ、其風俗ハ混淆ス可ヘカラス、支那人西人ノ奴隸タル者モ風俗ヲ改メス、又敢テ洋服ヲ用ヒス、是即支那国権ノ立所以ナリ、我國権ノ立所ハ兵権・刑法権・貨弊ノ権、此三権鼎立シテ独立不羈ノ権力ヲ張テ、以テ

皇国ヲ維持スルヲ要ス、

一 文武一途ノ事

国家非常ノ節ハ諸官員モ亦兵役ニ充ツ可シ、華士族亦終身兵役ニ充ツ可シ、縦令士祿ヲ奉還スト雖トモ、士

ノ名存スルトキハ亦兵役ニ充ツ可シ、
一 官員以四年可定年限事

御一新之初此良法ヲ設ケラル、美事ト謂フ可シ、其人
実材実効アラハ改メテ四年ヲ命ス可シ、

一 監察御史ヲ置キ以テ正百官事

監察御史ハ諸省百官ノ權衡也、華族中忠良正直ヲ挙ケ
テ御史ト為シ、士族廉直ノ者亦挙之、

一 節用度事

御一新以來土木大ニ興リ、其他冗官・冗役・冗費計ニ
タヘス、就中当今警視庁ノ費用凡百二十九万四千七百
九十五円、盜賊・放火・不良ノ為メニ之ヲ設置ス、諸
県定額ヲ見ルニ二百五十四万八千二十九円、県官ハ其
任不輕、然ルニ県官ノ入費ヲ以計之則市中番人ノ入費
甚超過セリ、即是治国会計ノ過ナラン、可痛慨也、

一 信賞必罰之事

信賞必罰ハ治国ノ大本也、大本一タヒ立ハ君ハ仁、臣
ハ忠、民ハ服ス、

王室多難ノ際憂国勤勞ノ士ハ已ニ斃黜ス、所謂忠厚ノ
者ハ無能トシ、或ハ当世ニ迂闊トス、

王室多難ノ日觀望兩端ヲ持スル徒或抗

王師者コレヲ収録シテ人材トス、夫レ賞不中則人進マ

ス、罰不中ハ人懲リス、信賞必罰ノ典豈ニ詳ニセサル

可ケンヤ、

冊子原寸 縦二八種 横一〇種 七枚

三五 華士族授産金及地租改正ニ就テノ甲乙二案

(別紙) 朱
「地券稅」

六百万円減

文書原寸 縦一五・四種 横六・八種

(朱) 欄外ニテリ
「取次人海江田」

改稅授産ノ兩法方今ノ規則名ト建築乙トノ得失ヲ比

較シテ其略目ヲ挙ク

○華士族ノ授産金甲ハ六年分一億八百万円二千七百万石、
乙石四万ニシテ

乙八十年分一億八千万円同七、差引七千二百万円ノ増シナリ、

○授産金ヲ以テ買フヘキ地所、甲ハ官有地アルノミ、其熟田ヲ買フモノアレハ農ニ産ヲ失フモノアリ、乙ハ熟田ノ所得五百三十万石家禄分四百五十万石、雑税分八十万石、代価二億千二百万円ノ売ルヘキ地所ノ内ニ於テ撰フコトヲ得ヘシ、

○甲ハ一億八百万円ノ官金ヲ費シ、乙ハ一円金ヲ費サス、

○甲ノ官有地ヲ土ニ売ルハ価賤シ、乙ハ公費トナリ価貴カルヘシ、如此貴賤アルモノハ士ノ余裕トナルヲ以テ然ルニ非ス、不融通ノ然ラシムルナリ山林開墾等ハ富民ニ、適ムト雖モ雑税ノ適シ貧人ニ適当セス、

○甲ハ数十年ノ後家禄四百五十万石ヲ収ムルノ算数アルヘシト雖モ、爾後賦課スル所ノ雑税三千二百万円ヲ超ルニ非サレハ、毫モ歳入ヲ増スコトヲ得ス地券税率百分ノ三ト定ムト雖モ雑税ノ増スニ随ヒ百分ノ一トナスヘシトノ明文アリ、百分ノ三即チ二百万石ト見ル時ハ百分ノ二ハ八百万石ナリ、石四円トシテ三千二百万円ナリ、乙ハ予メ直税ノ内八十万石ヲ減シ、雑税ヲ課スヘキノ理ヲ示シ機ヲ啓ク、

○甲ハ直税増加スルコト少シ、乙ハ土力ヲ以テ地力ヲ進

メ、直税年ヲ逐テ増加スヘシ重税ノ貧村ハ山出金スヘキ地多ク土族ノ移ルモノ多ク地力著シク進ム、

○改税ノ方法、甲ハ地価ノ高低直チニ租税ノ増減ニ係ルヲ以テ、万民拳テ価ヲ詐ルノ情アリ、其奸ヲ破ルニ官民（難）雜視セサルヲ得ス、且其実ヲ得ルコト大ニ難シ、乙ハ所得ノ多少アリトモ金ヲ納受セサレハ租税増減ナキヲ以詐ルノ情ナク、其実ヲ得ルコト易シ、

○甲ハ地所ノ価ヲ問フ、価ハ自作タリトモ必ス小作ヨリ生ス、乙ハ直チニ小作ヲ以テ足レリトス、

○甲ハ地券調入費多クシテ、而モ之ヲ民費トス、乙ハ所得調入費少ク、而モ社金ヲ以テ之ヲ償ヒ、且其余リヲ以テ時俗ヲ進メントス、

○甲ハ地券ノ総計ヲ拳ケスシテ、予メ税率ヲ百分ノ三ト確定セリ、此ノ百分ノ三ナルモノ旧税額ニ齊シカラハ、怨望甚シクシテ其功卒ヘ難カラン、若旧額ヨリ減スル時ハ、財政立ツ可カラス、此ニ到ラハ或ハ雑税ヲ課スルノ議アランカ、雑税ハ前章ニ細注スル如ク凡三千二百万円

ハ田税ヲ減スルノ公文アリ、官用ハ成スノ義ナシ、究セサルヲ得ンヤ、乙ハ全国ノ所得ヲ挙ケ算計シタル税率ニシテ過不及アルコトナシ、

○甲ハ改税ノ期各県各区緩急随意ナリ、重税ノ地方ハ速ニ功ヲ挙ケ、輕税ノ地方ハ遷延シ、仮令旧新税額増減ナキモ数年ノ間歳入減セサルヲ得ス、乙ハ然ラス、

明治七年五月

木下助三郎

冊子原寸 縦二七・五釐 横二〇釐 三枚

三三六 台湾事件ニ付北京ニ於ケル日清兩國談判

並ニ日本出兵説

二冊

二二八六ノ一

書拔

柳彼国も亦近隣たるを以て、我大臣現に彼へ交友を望たれハ、此辺最注意せらるゝ所也、又貴国台湾之地ハ往昔我国人及和蘭人・鄭成功など嘗て占拠したりしを、貴朝の版図に帰せしに、従前其東都に在る土蕃なる者

一昨年冬、我國の人民彼地に漂泊せしを殺害せり、故ニ我政府の義務として其罪を処分せざるを得ず、惟蕃域ハ従来貴国の府治ニ服さる由なれ共、貴国領属之地と大牙接連したれハ、我大臣の意ハ未タ貴国に告ずして此役を興さん、万一貴轄之地ニ聊も波及する事有て、端なく其猜疑を受けハ、兩國の和好を傷へんことを恐れ、故ニ預め此義を貴政府ニ説明せらるゝ也、

彼前年生蕃か暴殺せしハ琉球国民にて、未タ貴国人なることを聞かず、抑琉球人ハ我属国なれハ、其横難ニ遭たる時我福建の総督より殺余逃命の民を救恤して仁愛を加へ、本国に帰したるなり、

琉球ハ従来我属藩にて、我朝より撫字する事尤久し、中葉以降薩摩に付庸たり、況ヤ今大政日新、一民も王臣ニ非らざる莫きを以て専ら撫恤を務む、故ニ琉人を殺す、薩民を害するも我政府保護の權に碍る事均一にして、洗^有完の義務を起さんとす、而して之を我国人と謂ふ、何ぞ妨ん、貴大臣琉球を以て属国と言はるれと

も、我ハ只我屬地を視爲し、今貴國ニ對して兩屬の帰着を論するニハ非ざる也、且問、福建の総督逃難の琉民を救恤すといふ不知、其暴殺を行へる生蕃をは如何処置されしや、

此島民に生熟兩種あり、熟蕃ハ漸々我王化ニ服したれとも、只生蕃は我朝実ニ之を如何するなく、化外の野蕃なれハ甚之を理せざる也、

鄭此説ハ我國議者の皆知る所にて、生蕃暴横を他國の民ニ加へし也と貴國の初より凡幾多次嘗テ処分有たるを聞かず、故ニ我國の志士今度ハ直チニ往て問罪せんと謀る、独我副島大臣(種邑)兩國の好誼を保重せんのに、姑く衆諍を制し、此奉使の便に因て貴政府ニ明告せらるゝハ、誠ニ一団の好意也、此事固より國是ニ係りたれハ、化外の地を理するに何の他に告る事を為ん、然れとも一の小醜を懲らすに因て若シ隣國の和を失ふニ至らハ、我外務の重任ニ在る、何を以て天下に答へんと申されたり、請ふ、此意を諒察せよ、

彼生蕃の暴悪を制せざるハ我政教の逮及せざる所也、然とも生蕃琉民を殺せし時、福建総督より難民を救護せし奏報の書類もあれハ、猶、検査して他日復卷するを待たれよ、

柳貴大臣既ニ生蕃の地ハ政教の及ハざる所と云ひ、又旧來其証蹟有て化外孤立の蕃夷なれハ、只我獨立國の処置ニ帰するのミ、福建総督奏聞の書ハ貴國の京報等ニ拠て瞭知したれハ、今更に見る事を願ハす、今日我等より報告ニ及び貴大臣答議せられし件々帰館して我副島大臣ニ復命すへし、

話畢て寓に返る、

冊子原寸 縦二七・五厘 横二〇厘 三枚

二二八六〇二

沈秉成

啓者前キニク聞、

貴國有下派兵赴台湾生蕃地方之説上、当囑陳司馬赴

台端ニ問レ信、經下 繙譯官將二月廿八日接到長崎電報、抄示上 係下 貴国外務省派員前日往 台湾生蕃ニ查問、等語上、並未レ提ニ及派レ兵之事ニ、迨後本道屢聞ニ新聞紙ニ述下及、貴国派ニ撥大兵、並租ニ美国牛約輪船ニ裝載赴レ台事上、係ニ確鑿ニ台湾生蕃地方係ニ在中國幅員之中、亦即中国之人今貴

国興ニ問罪之師、前ニ往彼、必從ニ厦門・瓊瑤等ノ口ニ經過、自応先向ニ中国ニ商議上、方為ニ正弁、現在貴国並無ニ米文、究竟有ニ無派レ兵赴レ台之舉、柳原大臣曾否レ起程、約計何日可ニ到ニ上海滬、即祈 貴領事詳細賜レ悉、以便下稟コ

報 通商大臣ニ核一弁上、倘 貴領事來ニ接、確信ニ並望、飛速 轉下詢示レ知、如果、寔有ニ派レ兵赴レ台之事ニ則請、止ニ住 師船一俟ニ柳原大臣到レ此与ニ總理衙門ニ商議妥協再行ニ定奪、本道与ニ貴領事ニ共ニ事一方ニ諸承ニ和衷濟ニ事関ニ大局、用特奉順頌ニ助祉、並盼ニ惠覆、不具、

清三月十九日

日本五月初四日

昨日上海申報
五月十二日

聞近日中官在ニ海関、報関裝兵器、至ニ厦門者已屬不
少レ藉以欣知、本朝有防ニ拒東洋之志上也、

右之通相見候得共、当地より別ニ軍艦又は兵士等差遣致
候儀ハ無御座候、

拜啓、愈御清健御奉職被成御座奉恐賀候、陳は下官儀去
ル十日ニ長崎より申上置候通、同日夜十時頃飛脚船へ乗
込、今日午前十時無異上海へ着港、仏国租界内大馬路ノ
長崎商人木棉屋ト申店へ寓居仕候、今便ハ下官并丸田兩
人ニテ、松村・谷元兩氏ハ長崎へ滞在次便より来航之管
ニ御座候、当地着早速日本領事初メ面会、当国ノ事情聞
糾シ候処、去ル五月四日上海道台沈秉成ト申者より別紙
之通日本領事品川忠道へ申遣候由、右之趣ニテハ、台湾
生蕃地方トテモ支那幅員中ナレハ、我国ヨリ勝手ニ着手
可致致ニ無之意十分ニ相見、尤是ハ道台一己ノ議論ニハ
無之、即チ当国ノ外国事務總理衙門ノ趣意ト被察申候、
左候得は支那政府ハ台湾全島ヲ其管内ト致シ居候ニハ相

違無御座、且又当地新聞紙ヲモ略覽仕候ニ、日本ノ支那政府ニ照会ナク台湾ニ出兵スルハ不条理トノ議論余多有之、畢竟昨年天津ニテノ談判ハ全ク無証拠ノ物ニ屬シ、此末長崎より台湾へ向ケ出発ノ諸船彼地ニテ事ヲ発シ候上ハ、尚更当政府へハ勿論、各外国へ被対候而も御難題之次第ト鄙考仕候、前条書面ハ早速領事より東京へ差立候由ニ御座候へハ、最早入尊覽候半ト相考候得共、為念写取差上申候、下官ニモ当地着、緊急之事情モ御座候ハ、直ニ帰朝親述仕候含ニ御座候処、先ツ切迫之形況ニハ無之候間、六七日モ此表事状探偵仕、松村氏等来会ノ上ハ福州厦門へ罷越可申候、

福建地方へ支那より出兵ノ事ハ、確乎タル報知相分り不申候へ共、福州ニハ数多之兵員有之候事故、此節防備之為兵隊繰出シ候義ハ左も可有之ト之評判ニ御座候、

長崎より進発之諸船ノ内二隻ハ已ニ厦門着之由、当地へ相分り居申候、

前条沈秉成ノ書面ニ我領事之回答、此義ハ自分限り回答

可致事件ニ無之間、早速本国政府へ稟報之上何分之挨拶ニ可及ト之大意ニ御座候、就而は何れ追々使節被差立不申候テハ不相叶儀ト奉察候、何分ニモ此節之事件ハ乍恐御着手ノ順序不相整、頗ル匆卒ニ涉リ候欤ト奉存候、

支那政府モ丙三年来軍艦ヲ造リ又ハカツトリンク砲并スベンセル銃或ハ水雷等、外国より購入、乍不開化モ兵備ニハ格別注意致居候事ニ承り申候、

支那帝ハ従前九重之内ニ深居、極テ尊大ニ致居候処、此頃ハ北京市中ヲ不時騎馬扨ニテ往来、人民帽ヲ脱シテ敬礼スルノミ、其易簡ノ為体且老人ニ遇フトキハ馬ヲ止テ之ヲ慰問スル扨ト申程ノ次第、追々開化ニ赴キ候義ト被察申候、此ハ新聞紙ニ見ル所ナリ、

右は草略明日長崎へ之船便へ托シ候積ニテ、不取敢見聞之俛御報知申上候也、

五月十三日

小牧昌業

黒田次官公閣下

追伸、先日当地ニ一混雜ノ事件有之候由、上海城西ニ当地寄留甯波人ノ墳墓有之、右之地ヲ仏人馬車道ヲ造ルト

(傳)

テ打崩候故、甯波人大沸騰、遂ニ去ル三日同所ニ而甯波人仏人ト争鬪、支那ハ六人即死、仏ハ二人手疵ノ由、其

夜支那人仏人ノ家屋ニ軒放火イタシ、其ヨリ兩國官員立

会ニ相成、各兵ヲ備ヘ談判アリ、其後稍平穩ニ相成候ヘ

共、今ニ未決着ノ由、支那人ハ固ヨリ過激ニ候得共、仏

人モ不法ノ所為有之候由、尚追々詳細ノ始末可申上候、

一昨日英公使パークスヨリ当地ノ英領事ヘ電報、日本ニ

テ台湾出兵暫ク見合候得共、決シテ取止候趣意ニハ無之

旨申遣セリ、当地領事ヨリ直ニ北京英公使ヘ通知致候由

ニ御座候、

冊子原寸 縦二七・五釐 横二〇釐 六枚

三六七 元小倉藩士穂積重樹ヨリ政府ヘノ建言

軍制改革ノ件

(表紙)
一御軍制之儀ニ付

建言書

謹而陳述

夫兵者國家之存廢衆民之生死ニ係ル一大重事ナレハ、往

古ヨリ諸國ニ軍団之儲有テ軍陣之儀ヲ肆ヘセシ由、古史

ニ見エタリ、其事中絶シ、応仁示來亂世打続、武事盛大

ニ隨ヒ、慶長年間始テ兵学作家ナル者興リ、所謂大江氏

之遺訓ヲ逐テ一派ヲ立、或ハ楠子ヲ名義トトシ、或ハ北

越ニ家其末派等數家各教書ヲ著シ、私ニ流名ヲ呼テ世ニ

施行ス、就中寛文年間長沼澹齋ナル者數流ニ亘リ研究シ、

思ルニ孰レモ古人之糟粕ニテ來世之模範トナシ難キヲ知

リ云ハ、今ヨリ百年之後必大砲火器盛大ニ開ケ、鬪戰之

格沿革シ、只管勝易キニ捷ヲ極ルノ情態ニ移ルヘシ、而

レハ従前諸家之伝法後世之用ニ適シ難シ、余素リ淺陋薄

識ナレトモ、務テ一ノ兵書ヲ撰述シ、後來ノ用ニ当ルヤ

否後識者之卓見斧正ヲ請也ト云々、其擲ル所古戰ヲ不逐

其意ヲ得テ、其跡ニ不泥主ト為スハ節制紀律漢土ニ則リ、

大砲火器蕃夷之精巧ヲ採リ、弓馬槍刀本邦自然ニ秀ルヲ用ユ、此三件ヲ目途トシ、接戦之形勢審ナルハ實際ニ処シタル將士之子弟ヲ訪テ章明シ、竟ニ兵要録一部ヲ作シ兵法之規矩準繩ヲ示ス迄ニテ、用ユヘキ國ニ隨テ取捨裁制為ス可ヤウニナシ置トモ、尙其時ニ中スル人々此右ニ可出新按アラハ、斯拙書即時ニ火中ス可シト遺言シ、且流名ヲ不呼王者之師トシ、大小砲保合ナス等蘭人ニ依テ索搜シ、粗卒業スト雖トモ、尙後世究理至尽ノ時ニ当ル人宜ク取捨スヘキヲ希也ト云々、其辭不空近世洋法漸次ニ開ケ、各人方向彼ニ歸スニ至リ、愚重樹ノ師者野慵齋ナル者澹先師之宿意ヲ繼、崎陽ニ遊歴シ洋銃学ヲ勤メ、彼カ長スヲ取テ我短ヲ補ヒ、倭漢洋合偏之兵制ヲナスニアラネハ彼之右ニ立ニ難シトシ、專勉強ナス年アリ、執政水野忠邦君師ヲ嘉シ食容トシ、旧幕軍制改革委任之旨アレトモ、故有テ不成、亦故葦山県令江川氏師ヲ尊崇シ居室ニ邀ヘ、倭洋合併之新式ヲ為スヲ議ス可ク計ル中、江氏卒シ不遂遺憾ト云ヘシ、彼是以テ翁ノ志念不果ヲ知、

愚重樹ニ托シ此意ヲ繼ヲ依頼シ、常州土浦ニ於テ没ス、因テ重樹建書ナス再三スレトモ許容ヲ不蒙、時勢ニ不適ヲ以テナルヘシ、情思ニ、兵ノ道タル活法活機一隅ニ拘泥ナスヲ僻疾トス、其目トスヘキ、其國々ノ制度ニ隨ヒ、人情ニ応シ、地ニ拠リ、時ノ勢ニ任スル四也、今ヤ西洋軍術・器械・究理至尽、是澹先師ノ尤採ル所也、然レトモ之レヲ終始彼ニ拠ルト亦我物ト為スノ別有テ、彼ニ拠ノ一端ナレハ死物也、我カ有トナセハ活物也、故ハ我ニ可採、我ニ可棄、其長短取捨シ未發之新式ヲ興行ナスニアラネハ、諸蕃ノ右ニ出ル不能、所謂之ク所ニ乖クニ非レハ勝算アリトセス、洋式ニ処スル人々倭流ト一口口ニ破シ、唯未開ナルモノト定メテ不採、未開ナル故アルヲ不穿、旧幕三代台君之深意アリテ兵之真訣ヲ務テ除ケルヲ不知、又諸流ノ中ニハ糊口ノ為ニ一派ヲ立、蟲漏杜撰ナル類モ不寡、是等ノ徒浮屠氏ニ依テ九字護身法火ノ印水ノ印抔伝ヘ、俗人ヲ惑シ或ハ最時採雲氣烟氣ノ吉凶ヲ解、或ハ兵器製作等ヲ主張ナス如キ類アルヲ以テ、無用

迂遠ノ物ト極メ、一般如ストシ、選者ノ巧拙ヲモ不探言
下ニ破棄、西洋々々トノミ眼着スルモ拘泥僻疾ヲ不免、
趙括ノ徒ナルヘキカ、彼ニ拘泥ナスヨリ槍刀ヲ無用ノ器
トシ、初中後砲戰ヲ以テ足レリトスモ、亦不尽、山川節
所狹隘ノ地且戰守ノ利ニ因テ長兵器短兵器用途アリ、而
ラハ我意ヲ去テ公平ニ広ク取容シ、軍制改革倭漢洋合編
シテ一ノ新式立サセラレンニハ、海内ノ良識者撰拳セラ
レ、評論叮嚀ニ議シ、衆庶ノ婦ス所ヲシテ確定アラシ
ク、仰望ス、愚重樹素リ洋学ニ不亘、倭法トテモ其地位ニ不
至、無智短愚、且老齡不根、方今自然
御興立之時アルトモ其席末ニ列スル不能、右長沼澹齋子
ノ先見不失御採用ナリテ、野情齋子積年ノ志念貫徹ナス
ヲ懇願ノ余リ此旨奉建言、

元小倉藩士当時隱遁

洗手再拜、

明治七年乙戌五月

浅草森田町僭居

穂積重樹

冊子原寸 縦二七・八種 横一九・五種 四枚

三八 伊地知貞馨ヨリ左府公ヘノ建言

内治外ニ就テ

(表紙)
「左大臣公ニ奉ル草案」

内外ノ形勢ヲ覽觀シ窺カニ惟ヘラク、朝鮮征スヘク、
台湾討スヘシ、何ントナレハ、本朝二百余年太平ノ
化ニ浴シ、人心愜安、明治三年ノ春鞏下兵起リ、繼テ
奥羽ノ征討アリト雖トモ、一時ノ戰爭ニシテ幸ニ神速
功ヲ奏シ、復古ノ大業立ツ、故ニ壯士未タ兵ニ鑿カス、
一般ノ人民未タ兵苦ヲ知ルニ至ラス、上下ノ官員目前
ノ安ヲ偷ミ常ニ戒ム所ノ者少フシテ、驕奢放逸身ヲ抛
チ、其職ニ尽スノ心アル人鮮シ、海外ニ兵ヲ出シ敵国
外患生スレハ、胡越船ヲ同フスルノ勢アツテ人心一致
シ安ク、海陸ノ兵備モ実着ナリ安ク、且壯士ノ氣焰外
ニ洩レ、内分裂スルノ憂ヲ消シ、治事ノ官員モ各戒ル
ノ心アツテ自然職務ニ勉励、命令モ下徹シ安カラン、
攻ル者ハ勢千里ノ外ニ伸ヒ、守ル者ハ力一城ノ下ニ屈

スト、攻ルノ守ルト勢ノ異ナル、日ヲ同フシテ論スヘカラス、初ヨリ自國ヲ確守スルマテノ目途ニテハ其不振知ルヘシ、魯西亜五大洲ヲ并吞セント欲スル祖意ヲ体任スルカ如ク、セメテハ亞細亞一洲ヲ一定スル位ノ規模ハ立置レタシ、故ニ曰ク、朝鮮征スヘク台湾討スヘシ、兵ハ凶器、^(A.P.)諷リニ動カスヘカラスト雖トモ、時ト勢トニヨリ然ラサルヲ得サルコトアリ、名無ク筋ナク忽然兵ヲ加ント欲スルニ非ス、必ス其國ニ向ツテ言フ可ノ名アリ、外國ニ對シテ答フヘキノ辞アツテ、然ル后之ヲ施スヘシ、或ハ言ハン、二國ニ手ヲ下サハ清國激怒瑕隙ヲ生シ、一大難ヲ生セント、是レ固ヨリ然リ、然レトモコレ止ムヲ得サルノ勢ナリ、清國・朝鮮ハ同洲ノ國ニシテ我ト接近シ、風俗人氣稍近ク、親睦交接患難相同フシ、連衡シテ國ヲ持チ、且國ヲ起シタシ、コレ上乘ノ策ニシテ、百方力ヲ此ニ尽シタシ、然リトイヘトモ清國ハ古來ヨリノ臭弊ニテ自ラ中華ト稱シ、其大ヲ頼ミ内心ニハ 我ヲ輕蔑シ、永ク同等ノ交

リヲ為スノ心ナキニ似タリ、連雞棲ヲ同フシカタシトカ近年中ニハ事故生シ條約破ルコトアルニ至ラン、況ンヤ今日ノ勢ヲヤ、虎ニ乗ルノ勢中止スヘカラサレハ、^(睡)范雎力遠交近ノ策ニ出テサルヲ得ス、若シ今ニ清國我ト交リヲ全フスルノ意アラハ無上ノ幸ナリ、其意ニ応セサルヘカラス、然ラスシテ彼ヨリ釁ヲ開クコトアラハ戦ヲ決スヘシトノ内決ハ居ヘ置レタシ、唯 我ヨリ尽ス可ヲ尽シ、手數順序ヲ失ハサルノミ、台朝ヘ手ヲ施ストモ戦ニ及ハスシテ功ヲ奏スルヲ上乘トスヘシ、假令戦ニ及ヒ大捷ヲ得ルトモ、必ス其地ヲ略有シ、我カ版圖トナスヘカラス、其君ヲ立テ其官ヲオキ、敵ニ條約ヲ結ヒ 我付庸ノ如シテ和親貿易スヘシ、或ハ言ハン、 本朝微弱元氣ヲ復スルヲ本トシ、内地ヲ頓整スルヲ勉ムヘシ、決シテ兵ヲ海外ニ動カスヘカラス、此ノ論大ニ理ニ当ルト雖トモ、天下ノ事一概ニ論スヘカラス、内ヲ実シテ外ニ及ホスハ常道ナリ、時ト勢トニヨリ外ニ施シ、此ノ勢ヲ以テ内ヲ実セシムルコトモ

アルヘシ、今日ノ勢外ニ張ルノ勢ナケレハ、内地ヲ一致充実セシムルコト克ハサルニ似タリ、然リトイヘトモ目今即チ之ヲ施行セント言フニ非、其手下スヤ本末順叙アルヘシ、是レ廟堂上ニ定メ置キ玉フ目途ナリ、上ニ此位ノ大図立サレハ海外ト対峙シ 本朝ヲ維持シテ隆起セシムルコトアタハサルヘシ、願クハ早ク此ニ至ルノ本ヲ立ラレタシ、熱ニ懲リ冷ニ吹クトカ、一時無法ニ施行統紀ナキカ如クナルニ懲リ、專一ニ持重論ヲ主張スルマテニテハ、翻ツテ却歩前日ノ勢ヨリ退キ、随テ牆下ノ憂生スルアラン、台地ハ発兵ノ後ナレハ今更論スルニ及ハス、此ノ上ハ機ニ投シ勢ニ応シ名ト筋トヲ失ハス、臨機ノ好処置アルヲ祈ルノミ、朝鮮ノ如キハ大本確立、内政略釐正人心略定リ、下上ヲ信スルノ日ニ至リ、外国ノ異議ヲ来サ、ルヤウニシテ大ニ着手アリタシ、請フ、試ミニ内政釐正ノ概略ヲ摘論セン、

一大事ヲ成就スルハ唯忍耐ノ二字而已、此ノ二字ニ違ハ、決シテ大事ヲナスコト能ハス、忍フ可カサルニ忍ヒ

耐ユヘカラサルニ耐ヘ、初メテ成ルコトアルヘシ、コレ要路ノ諸公着目シ玉フヘキ最要領ナリ、

一垂統一系不拔ノ帝国万世動スヘカラサル大本ヲ確定、衆ト盟ヒ置キ玉ヘカシ、

一政府議事分レ、動モスレハ表疏職ヲ辞スル人アリ、廟堂ノ体裁ヲ失フノミナラス、一般ノ人心ニ関スル大事件ナリ、草創ノ際止ムヲ得サルノ事ナルヘシト雖トモ、蓋シ規則章程ノ立サルヲ以テ更ニ然ルコトアルヘシ、願クハ參議以上其事ヲ議シ玉フヤ、其次第ハケ様ト規則章程ヲ預定シ置玉フヘシ、

一勅詔ハ固ヨリ政府ノ命令輕々數下シ玉フヘカラス、幾重ニモ熟議条理順序ヲ誤ラス、時機至当ト定リテ後発シ玉フヘシ、其一タヒ発シ玉ヘル命令ハ大体ヲ失シ、答フキノ辞ナキニ非サルヨリハ、万人口ヲ揃ヘテ誹議シ、局ニヨリ何程申立ルトモ、諸公二念ナク死ヲ以テ確守動揺シ玉フヘカラス、瑣々ノ命令サヘ屢改レハ人心動揺ス、況ンヤ重大ノ事件忽チ変改アラハ、庶民

疑擬政府ヲ輕視シ、信ヲ下ニ墜リ玉フ日人心帰着スルノ期決シテアルコトナカルヘシ、

一 恐ナカラ当分ノ佩ニテハ治道立ツカヘラスト申セトモ、容易ニ万事ヲ改メ玉フヘカラス、善事ニ移ルコトサヘ輕タニ之ヲ改レハ、人心ヲ動シ為サ、ルニシカサルコトアリ、幾度モ御熟議大本要領ノミヲ斡旋シ玉フヘシ、大本要領斡旋セハ随テ万事面ヲ改ルニ至ラン、

一 政府合体前途目的御確定、議論一ニ出テ衆説ニ動搖セス、靄然タル仁厚ノ 朝旨一般ノ人民ニ蒙ラシメ玉フ所ヲ本ニ立テ置レタシ、此ノ御誠意貫徹セハ、終ニハ人心感動 朝廷ヲ愛戴スルニ至ラン、人アツテノ材ナリ、寧ロ材ヲ失フトモ人心ヲ失ヒ玉フコト勿レ、

一 外国交際ハ方今ノ大要務、礼節ヲ厚フシ信義ヲ全フシ、条理明白ニ応接シ、曖昧模糊不分明ノ應對ヲ禁シ、可否善悪成ルヘク即座ニ決答アリタシ、若シ不条理ノ事条約外ノ儀ヲ強テ言ヒ立ナハ、小事トイヘトモ仮借スヘカラス、 我ヲ侮慢疵瑕ニ付ケ入ルノ勢アリ、戒心

セサルヘカラス、

一 海陸軍ヲ宏張スル如キハ今日上ノ急務、固ヨリ論ヲ待タス、鉄道開カサルヘカラス、産物殖セサルヘカラス、鉦山開カサル可ラス、器械開カサルヘカラス、然レトモ是等ノ事ハ成ヘク下ニ示諭之開カシメ、官ヨリハ之ヲ保護シ自ラ手ヲ下サ、ルヘシ、其内民心ニ関係スルコトノ如キハ下上ヲ信スルノ後着アリタシ、

一 広ク人才ヲ愛シ、一芸一能アル者ハ廢棄スヘカラス、殊ニ西洋ノ事情ニ通達シ、各国ノ通弁ヲ得タル者ニ至ツテハ猶更ノ事ナリ、然レトモ政府院省其本ニ立チ、要路ニ関セル所ハ技芸ナクトモ忠誠ニシテ大体ヲ諒得セル人ヲ用ヒ玉フヘシ、芸ヲ以テ取レル人器度ナケレハ必ス大用シ玉フヘカラス、方今其弊ナキニ非ス、外人ヲ雇ヘル心持ニテ待遇ヲ厚フシ俸給ヲ多クシ、不満職ヲ去ラサラシムルノミ、

一 至急有用ノ事ニ就キ不急無用ノ事ハ一切廢止シ玉フヘシ、此等ノ事ハ其条件多カルヘケレハ、其向ヘ御取調

ノ上略定シ置レタシ、

一府県ノ官員ヲ清撰シ、上下ノ情義通達、官民同情ニ至ラシムル如キハ、内務省ヲ置セラレタレハ自ラ此ニ及フヘシト略筆セリ、

右等ノ件々ハ自ラ 御意中ニ在ラレセラル、儀ト存シ奉リ候ヘトモ、鄙見ノ仮記載

御採扱ニ備ヘ奉リ候、謹言、

明治七年五月

伊地知貞馨頓首再拜

冊子原寸 縦一八・五種 横二〇・三種 一〇枚

三六 湊川神社宮司折田年秀ヨリ三条相国ヘノ再

建白

新法令四則

〔表紙〕
「再建白艸稿」

建言四則

一官員之商法ヲ禁ス可シ

大凡商売ハ利ヲ計ツテ義ヲ顧ミス、己レノ為ニシテ人

ノ為ニセス、施スヲ惡テ得ルヲ歛ヒ、而初テ商道利益ノ方法整ヒ一家活計ノ道立ツ可シ、是世上普通ノ商法ナリ、而不正ノ商法タルヤ世ノ盜賊ト均シキ而已、蓋廟堂府県在来ノ官員重爵ニ居リ、高禄ヲ食ミ、其職ヲ職トシ、国ノ為ニ謀リ民ノ為ヲ慮リ、孜々節義廉恥ヲ存シ、風俗ヲ正シ、紀綱ヲ更張セント欲スル者、豈商売貪利ノ心ヲ恣ニシ、争テカ其責任ヲ塞キ四民ヲ馭スルヲ得ヘケンヤ、故ニ禄ヲ食ミ官ヲ守ル者宜布商法ヲ嚴禁シ、節義ヲ励シ利欲ニ溺レサラシム可キナリ、伏テ乞、明鑑ヲ賜エ、

一十等以下官員ノ給禄ヲ増加ス可シ

語曰、益士禄賞則竭其力、尊天敬神、則日月當時、尚賢使能則官府治ル、人君重禄ヲ掛ケ、高爵ヲ序ツル者ハ有能ヲ勸メ、職任ヲ責ルノ權衡ナリ、大凡職ヲ奉スルモノ禄輕シテ而責重、則成功シ難シトス、故ニ禄ヲ勸メテ以テ功ヲ励ス、是政權ノ尤重スル処、今十等官

以下ノ給禄甚底シ、物価ノ高低ヲ以テ算計スルニ、一家一日ノ生計何ヲ以テカ保全スルヲ得ンヤ、是以テ職任ノ外更ニ商利ヲ期シ、又或ハ貪欲ノ心ヲ生シ、遂ニ節義廉恥ヲ忘ル、ニ至ル、故ニ其禄ヲ増シ風俗ノ頹敗ヲ防ク、實ニ是レ廟堂政權ノ大綱至治ノ要枢ナリ、伏乞明鑑ヲ賜エ、

一 姦商内国物品ノ物価ヲ乱シ、窮士民ヲ苦シムルヲ禁止ス可シ

政ハ実ナリ、權ハ用ナリ、凡事實有レハ必ス用有リ、故ニ政權ハ相離ルヘカラス、而政ハ民アルニ由テ興ル、民無クンハ乃チ政アルコト無ク、民アレハ必ス政アリ、是以民ヲ治ル必ス政權ヲ正シ法外ノ民事ヲ制止シ、兼併ノ弊害ヲ抑へ、而此ノ政權タルヤ、下民ニ付与ス可ラス、蓋シ又此政權ヲ以テ下民ヲ束縛スルニ非ラサルナリ、曰ク、民ニ自主自由ノ權ヲ与フト、是上ニ誠実政權ノ正法ヲ維持シテ、而民ヲシテ其正法ニ依頼シ敢テ政權ニ触レサラシメ、其業ヲシテ勉勵セシメ之レヲ

利導ス、於是初テ自主自由ノ權自ラ下民ニ備ツテ、各志業ヲ延シ、上下交相安ンスルニ至ル、故ニ云ク、政ハ民ヲ治ルカ為ニ興ル、夫所謂政令ニ法ラス、法度ニ依ラス、自己ノ欲スル処ヲ恣ニシ、云ク、吾レニ自主自由ノ權ヲ持スト、而政度ノ外ニ居ラント欲ス、然レハ則天下固ヨリ政ナカルヘキナリ、今ヤ海内ノ豪商大凡政權ヲ憚ラス、其欲ヲ逞シ専ラ其利ヲ占ム、故ニ窮民益疲弊シ、富民ハ独益富ム、夫レ此レヲ政令中庸ヲ得タリト云可ラス、故ニ府県在来治民ノ官庁ニ於ル、宜ク視聽ヲ広クシ、其姦ヲ抑へ、其橫ヲ戒メ民苦ヲ救フスハ、他日变故ノ時ニ及テ何ヲ以テカ人民ヲ馭スヘキヤ、伏テ乞、明鑑ヲ賜エ、

一 開港場之法度ヲ一定ス可シ

貿易ハ通信交和ニ二国相利スルノ謂ニシテ、更ニ制度号令ノ相関スル処ニ非ラス、抑輸出入ノ際ニ於ルヤ、物品ヲ抑揚スルノ權素ヨリ我レニ在リ、彼レ安ソ我ヲ制止スルヲ得ヘケンヤ、而其在留人物亦必ス我ノ制度ヲ

奉シ、宜ク通信交和ノ大基ヲ侵凌ス可ラス、今府県開港場之制度ヲ熟覽スルニ、物品輸出入ノ制限ナク、毎ニ彼レカ制止ヲ受ケ、我カ限有ル天然ノ産物ヲ輸出シテ彼レカ限無人工ノ玩物ニ易エ、而其制税ノ如キ素ヨリ抑揚不同ノ權變アルコト無ク、是以彼レ我ヲ容易トシ、抗議凌侮敢テ忌憚スルコト無シ、故ニ内外理事ノ際ニ於ル妨害ヲ生スル少シトセス、其甚シキニ至ツテハ、彼レ我カ国旗ヲ侵ス、土民切齒叱罵ス、然レトモ官知テ知ラサルヲ作ス、我誤テ彼レカ国旗ニ触ル、忽チ其罪ヲ鳴ラシテ之レヲ詰責シ、嚴ニ律ヲ加フ、此平日我カ制度号令ノ容易ナルニ慣ル、カ故ナリ、蓋シ主宰ノ任ヲ撰択セサルニ由ルナリ、夫レ古今ノ書ヲ讀ミ、國体ヲ識別シ、治乱ノ枢機ヲ知り、節義廉恥ヲ固守シ、以テ王室ヲ奉戴セント欲スル者、如何ソ此ノ如キ失体輕蔑ヲ外人ニ受クヘケンヤ、故ニ宜ク制度一定ノ号令ヲ下シ、有能ヲ撰挙シ其任ニ當ツ可シ、伏テ乞、明鑑ヲ賜エ、

不肖年秀誠惶誠惶頓首頓首謹建白

曩ニハ嚴威ヲ冒犯シ、強テ請謁シ、愚賤ヲ顧ミス空疎ヲ度ラス、時事急務ノ封事十則ヲ奉リ、且ツ府県ノ民情ヲ審案シ、猥ニ治乱得失ヲ指陳ス、實ニ是斧鉞之常刑ニ當ル、然レトモ

賢明相公閣下敢テ其無礼ヲ尤メス、寬厚ノ慈仁重罪ヲ赦ルシ、還テ恭ク德音ヲ賜ル、恐縮感泣ノ至リニ任エス、蓋シ思念スルニ、此ヨリシテ天下ノ賢明至言

朝堂ニ聚テ、而不日盛運ノ紀綱更張スルヲ知ル可シ、誠ニ天下蒼生ノ幸之レヨリ大ナルハ無シ、不肖年秀誠惶誠惶頓首頓首謹白ス、今ヤ天下ノ形勢内ニハ人々眼ヲ拭ヒ政機更革ノ号令ヲ仰キ、外ニハ軍務征台ノ捷報ヲ望ミ、人心聚散已ニ呼吸ニ遍リ、治乱興廢ノ枢機現ニ今日ニ在リ、志士仁人安ソ傍觀座視ス可キノ秋ニ非ラス、

賢明相公閣下宜ク時勢ヲ洞察シ、天下ノ望ミヲ足シ、人心ヲ聚ム可シ、俯伏大願ノ至ニ堪ヘサルナリ、蓋シ年秀曾テ奉ル処ノ封事十則、其建議素ヨリ迂遠事情ニ適セス、

然レトモ又事実ノ弊害ヲ論スル少シトセス、然ルニ未タ
其一事ヲ聽シテ而之レヲ

廟堂府県ノ間ニ施シ、四民歡喜ノ声揚ルヲ聞ス、古ヨリ
天下ノ存亡スル所以ハ則尽ク是四民ニ寄ル、一ニ曰、民、
二ニ曰、軍、三ニ曰、吏、四ニ曰、士、此ノ四民ノ心聚
ハ則國家安ク、四民ノ心散則國亡、而人心聚散ノ際実ニ
毫髪ヲ容レス、今海内四民ノ心殆騷擾解体セントス、
賢明相公閣下宜ク人情ヲ鑑ミ、封事十則ノ中其最宜ク事
実ニ切ナルヲ撰テ、而之レヲ採用シ、綱紀ヲ振シ人心ヲ
繫キ、而后二三大臣ト与ニ孜々トシテ公議ヲ講求シ、政
權ヲ整エ四海ヲ維持センコトヲ大願スル而已、若夫英斷
決議法令一タヒ更リ黜陟宜キヲ得ル時、則天下翕然トシ
テ興起シ、覽材有能期セスシテ至ラン、夫レ政ノ原ハ風
俗ヲ正シ人心ヲ和シ、節義ヲ守リ廉恥ヲ知ルニ在リ、熟
以ミルニ、方今

廟堂府県在来ノ官員或ハ商利ヲ貪リ、皎然鄙劣之業ヲ作
シ、其臭体市井ノ商奴ニ相類似スル者有リ、大凡商ハ節

義廉恥ノ誠心有ルコト無シ、苟モ此ノ心有ル者ハ則世ノ
高利ヲ掠メ難シ、故ニ節義廉恥ヲ知ルノ商ハ、所謂愚商
ニシテ毎ニ人ニ致サレ、遂ニ破産ス、是以商ハ慧黠貪利
ヲ貴フ、故ニ古今賢明士大夫毎ニ商ヲ賤シ此レヲ有道廟
廷ノ上ニ施行スルヲ恥ツ、不肖年秀誠惶誠恐頓首頓首謹
白、昔日嚴威ヲ冒シ、恭ク德音ヲ奉スルノ後、日夜戴恩
ノ重キヲ想望シ、且ツ天下積弊ノ速カニ一掃センコトヲ
冀ヒ、更ニ封事四則ヲ奉ル、実ニ此レ姑息ノ婆心ヲ懷キ、
天下ノ興廢ヲ憂エ、軀ヲ殺シテ以テ

聖代ニ報セント欲ス、故ニ動スレハ貴權ヲ顧ミス、万死
ヲ犯ス、伏テ冀ハ其愚ヲ憐ムヘシ、但シ又其無礼ヲ尤メ
ス、狂愚ヲ赦ルシ、而又建言スル処ノ封事ヲ聽シ天下ノ
蒼生此ノ鴻沢ヲ被ル時ハ、則

賢明相公閣下寛容大度普ク天下ニ雷轟シ、四海賢明ノ格
言自ラ至リ、天下ノ隆治又何疑ンヤ、幸ニ明覽ヲ賜エ、
謹テ斧鑕ヲ俟、

少教正兼湊川神社宮司折田年秀謹白

明治七年五月

奉

三条賢明相公閣下

冊子原寸 縦二四・二櫃 横二六・七櫃 七枚

三〇 神仏混淆ニ関スル久光公ノ意見

其実ハ不可施行云々、

按スルニ、 皇国ノ神祇官アルハ固有ノ本体ニシテ移

動ス可ラス、然ルニカ、ル妄言ヲ吐ルハ其罪論ヲ待タ

ス、不可施行ト云テ神祇官ヲ下シテ省トシ、又下シテ

教部省トス、故ニ愈以テ地ニ墜テ又救フ可ラス、弊ア

ラハ之ヲ改メテ成ヘキタケ翼賛スベキコトナルニ、遂

ニ万国無比ノ皇統一系ノ御国体ヲシテ傾覆ニ至ントス、

歎息流涕ノ外ナシ、

神官ト僧侶ト共ニ一大教場ニ於テ云々、

此事別ニ論ゼリ、実ニ不体裁ノ極ナリ、

内務省章程

一社寺云々

右ハ職員令ヲ按スルニ、神戸ノ管轄ハ神祇官、僧尼ノ

管轄ハ玄蕃寮ト區別アルヲ、今社寺ノ管轄ヲ混シテ内

務省ニ於テスルハ孟浪ノ極ナリ、式部寮ニテ神祇ノ職

務ヲ兼シムルナラバ神官モ式部ニテ管轄シ、僧尼ハ内

務省中ニ寺院司ヲ置テ管轄セシムベキコトナリ、カク

テコソ神仏ノ異同判然トシテ神国ノ神国タル本体立ト

云ベケン、

文書原寸 縦二六・五櫃 横六九・二櫃

三二 熊谷県下有志総代 牧野義道等ヨリ伊集院九郎ヘノ願

書

私塾再興許可ノ件

(表紙)
一願書

乍恐上書奉懇願候、

熊谷県管下
武蔵国入間郡竹間沢村

南第二大区小三区牧野義道

同 古市場村

南第二大区小二区高山忠晴

同 外村々

南第一大区三大区式拾人

右之者共義、旧来私塾設来、遠近之幼童相集メ日用ノ文字ヲ師範任、間ニ漢籍素読教示致居候処、先般御布告ニ付去四月中幼童教示ノ義御廃止ニ相成、筆弟子不殘親元へ差戻シ居候処、去ル十月頃小学校大区毎ニ開校ニ相成、仍之熊谷県御役員ノ中学務掛リト申、或ハ区毎ニ学校掛リ又ハ学校保護役ト申者共、權威ヲ以家毎ノ幼童強而学校へ入門為致、洋風ヲ專ラトシテ横文字洋算ヲ教示仕、尚校内ニ教師或ハ助教師数多ノ師範人、遊惰ノ勤方掛リ合ノ者共多分ノ月給ヲ食リ、仍而ハ則反別割人員ノ籍割合莫太ノ入費、月々村々ノ戸長ヨリ取立ニ相成、下々殆ント難渋仕、教示方ノ文字ハ不馴ノ事故幼童モ進ミ不申、右体ノ次第区毎村々家毎ニ父子共歎息仕居候、然ル処幼

童事故隔地ノ学校へ行兼或ハ柔弱又ハ病身ノ幼童入校ニ

不相進、依而彼処此処ニ幼童徒ニ日月ヲ経リ候処ヨリ、

親タル者共我等方へ慕来リ、右様幼童月日重候迄、是迄

ノ文字学校下々乍稽古教導相頼ミ申様願来リ候得共、先

般御廃止之事故曠而教導致兼候ニ付、日雇へ同様ニ三四

人宛預リ置候処、区长或ハ学校掛リ者ヨリ私塾体相成不

申被差止、然レ共從

朝廷之大元御布告ニは、如何成刃土僻地ノ下民小人ニ至

迄文字不知者其理ヲ不得トノ御仁意、此段以申尽シ候得

共、右權威ヲ以幼童被追払候体、実以世上見ルニ不忍歎

居候処、不図手續ヲ得テ小教院大講義殿ヨリ教解方老幼

結社ノ御免許戴、小学校ニ漏居徒ニ日ヲ経リ候幼童五六

輩相集メ、乍教解傍日用和文字ヲ為習、不日ニ学校へ入

門為致可申様ノ心得方ニ罷在候処、又候右副区长ヨリ学

務掛リへ馴合申立、正則之外幼童教示方不相成趣ヲ以家

塾差止被申、疑ラクハ右体ノ義ハ全ク中途ノ取計欵ニ奉

愚察候、右ノ模様御仁察被成下、我々共へ旧来ノ通り家

塾御許被下置候ハ、塾生共ハ不及申上、下々ニ於テハ無此上モ喜悦ノ眉ヲ開キ難有仕合ニ奉存上候、何卒右之段御仁免奉願上候也、

明治七年五月

右惣代

牧野義道(黒)

同

高山忠晴(黒)

伊集院九郎殿

冊子原寸 縦二四・三種 横一六・五種 六枚

三三三 権少教正青山惠次ヨリ政府へノ建白

神祇官ノ復旧ト国教ノ隆興

(表紙)
「建白」

臣惠次誠恐謹テ案スルニ、今也盛世ノ運ニ会シ百度挙ラサルナク、技術器械ニ至ルマテ日ヲ追テ進歩開化ス、然ルニ特ニ我国固有ノ大道タル国教ニ至テハ、政府待遇ノ薄キヲ見ル、奈ントナレハ方今七宗僧侶ト同一ニ教導職

ニ被補、大教正ヨリ訓導ニ至リ皆相同シ、彼七宗ハ元印土ヨリ来ル所釈氏ノ教ニシテ、元ヨリ我国ノ国教ニアラス、神道教職タル者ハ皆我国固有ノ国教ヲ教ル任トスレハ、其本タル論ヲ待ス、然ルヲ並立ノ姿ニ御所置有之ニ依テ、其名実正シカラズ、何ソ大ニ国教振起スルヲ得ンヤ、所謂名正シカラサレハ事行レス、惟神ノ大道震起セサレハ随テ 皇威ニ関係シ、国体ノ汚隆ニカ、ル、是国教ハ 天祖以来一系連綿ノ 至尊日嗣ヲ知シメサル、ノ大経ナレハ、何ソ印土釈氏ノ教ト一般ニナシ、玉石混スルノ理アラシヤ、或云、曩ニ教部省ヲ設ラル、際、既ニ三条教憲ヲ賜リ、以テ七宗僧侶ト云ヘトモ、我国教ニ入ルナリト、誠ニ然リ、併シ是其面ヲ知テ其服心ヲ弁ヘサルノ説ニテ、僧侶ハ彼三条教憲ニ違背スレハ自己ノ宗モ行レサルヲ知テ、表ハ奉戴ストモ奈ソ無常寂滅ヲ以テ教ル所ノ仏ニ於テ真ニ合一ニナルノ理ナク、剩ヘ陰ニ其職威ヲカツテ宗意ヲ広張セントス、是内実ヲ弁ヘズンハアラス、試ニ云フ、若シ一ノ僧侶教職朝旨遵守ヲ衆ニ説教

セン、其時聽徒ノ内ニ云フ、其教師タル本人円頂法服、之レ當時開化ノ姿ナルヤ如何ト問ハ、彼ノ教師如何カ答シヤ、且口ニ敬神ヲ説教シテ其身仏ニ奉仕ス、夫レ教師ハ人ノ標準トナラサル可ラズ、而テ如此ノ大イナル内外名実齟齬有ルヲ以テ明ナリ、祭政教一致ハ我国自然ノ大道ニシテ、敬神ハ国家ノ大事ナリ、速ニ神祇官ヲ復古アラセラレ宜教使ヲ設ラレ、本教ノ教職タル者ハ官等ニ列セラレ、天下ノ耳目ヲ新ニシ、明治三年 天皇神祇官ニ幸ノ詔ヲ御貫徹アラセラレ、祭政教一致不拔ノ大典ヲ御震起ナサルベシ、夫レ上古 神武天皇靈時ヲ鳥見ノ山ニ立、 皇祖天神ヲ祭り玉ヒシヨリ、神事ハ御政道ノ最第一トナシ玉フ、我大御国ノ大典ナリ、何ソ海外各国革命ノ国ニテ祭政相別ナル者ト日ヲ同フシテ論ズベケンヤ、神道ハ我国惟神ノ大道ニシテ 天皇陛下御躬行ノ道ニテ、則我國億兆ノ人民含著セラル、所ノ大道、則チ神州ノ国体コレヲ以テ尊嚴、是ヲ以テ立、ナンゾ彼外国ニ比シテ云ベケンヤ、此ノ基本ヲ確立シテ其余広ク外国ノ善ヲト

リ、益以テ国威ヲ広張スベシ、是ヲ真ノ開化ト云ベシ、若シ我本体ヲ捨テ彼ニ習フハ彼ニ奪ハレ、如何ホト技術器械タクミニ開ケタリトモ、何ゾ榮トセンヤ、当時万端ノ御所置内外本末ノ分ヲ御貫立ノ様コレ祈ル処ナリ、且本年外国交際ノ定約更議ノ期限ナレハ、断然速ニ神祇官ヲ復古ニ相成レハ、彼ノ外教ヲ入レントスルトモ其ノ彼レガ口実トスル道ナクシテ、名義確乎ト相貫クベシ、教部省ト号シテハ其名義諸教ヲ司ルノ義ニテ、神道七宗ヲ統轄ノ名ナレハ其名ニ因テ弊害モ起ルベク、神祇官ナレハ 天孫降臨ヨリシテ帝統一系ノ 天皇陛下 皇祖天神ヲ祭り玉フ所ニシテ、亦宣教使タル名ハ其 皇祖天神ヨリシテ御伝来ノ大教ヲ宣ル職名ナレハ、元ヨリ仏教ト並立スルノ理ナシ、因テ一日モ早ク至急ニ御改革アラセラレ、右神祇官ノ内宣教使ニテ僧侶ヲ管轄シ、三条ノ教憲ハ只今ノ通り我大御国ノ人タル者ハ一同遵奉スベキ大典トナシ置レ、尤モ僧侶ニモ御渡ニテ然ルベシ、外国ニ於テモ其国王ノ信スル所ノ宗教ハ政府ニテ保護シ、官費資

給ノ法モコレ有ルヨシニテ、其余ノ宗旨トハ格別ニ注意

イタシ、既ニ当時魯西亜ハ希臘教ニテ、其主自ラ大教主

トナルガ故ニ、政教一致ニシテ字内ニ跋扈シ、君主独裁

ノ威權盛ナル彼ノ国スラナラ此ノコトシ、嗚呼堂々タ

ル 天祖以来一系連綿ノ皇国ニ於テ、何ソ彼ニ讓ルコト

アラシヤ、彼ノ宗旨ハ人ノ信心ニマカスト云ハ、共和政

治ノ国土相應ノ説ニテ、是レ国体ノ別アル所以ナリ、右

神祇官復古ノ上へ伯ハ大臣ノ内ヨリ兼任ナサレ、且全国

大中教院ハ官立ニナシ、宣教使ニテ是レヲ惣轄シ、夫レ

等ノ御入途ハ即今教部省定額ニ相増スニ、従前社寺朱黒

印地并ニ除地ノ貢納等ヲ以テ定額ヲ宛行レシカルベシ、

国体維持 皇室ノ大事是レヨリ急ナルナケレハ、冀クハ

至急御裁決ニ相成、祭政教一致、万民一点ノ惑ヒナク上

下一塊石ノ如ク共ニ神明ヲ信シ、 皇上ヲ戴キ、死シテ

遺憾ナク、愛國ノ念堅固ナラシメ、国体儼然万世ニ興立

シ、内充実ニナラハ何ソ外教ノ入ルヲ得シヤ、終ニ本教

ヲシテ地球上万国ニ布クニ至ルベシ、謹テ奉建言候、再

拝誠恐頓首、

明治七年五月

権少教正青山慮次（朱）

冊子原寸 縦二四・五種 横一六・八種 八枚

三三三 明治七年五月台湾征伐ニ関スル電報 二通

（封筒）
「島津殿 実美」

二二九三ノ一

ホツカイマル。ピンヨリ。ヲ、クマドノエノゴナイメ
イ カツニジウクニチノデンホウ。シヤウチイタシ。ヲ
ウクボドノチャクラ。サンシユフノゴトクマチカネタリ。
サリナガラ コンヂウニヂリヤウサンゲン。ホヘイ。ロ
クシヤフタイ。モウシユンカン。ニツシンカン。メイコ
ウマル。ミクニマル。トラコウ。シユツハンセリ。タビ
タビメイレイノカハルニハマコトニコマリモウシタレド。
ハジメヨリノメイノゴドク。ミナイチトラマトメテコフ
カイノナラサルヲ。フネノ。フツカフナレトモ。マツタ

從道

クツクミチノ。ニンニタエサルノユヘトフカク。ヲソレ
〔（欄外ニアリ）五月二日六字二十分長崎西郷、三条殿へ夜四字三十分〕

二二九三ノ二

ヲイライグチンノトウリ。グンギヒビニハリ。ツイニコ
ンニチゴゴ三ヂ。ニツシン。モヲシユン。メイコウマル。
アラタニヤトイシミックニマル。トヲコウシユツハンセリ。
サイゴウハ。ヲ、クボチヤクマデ。ヒキトメタリ。イサ
イハ。サイゴヲヨリ。マウシアケルヨシユヘ。タイリヤ
クノミ。ヲドドケイタス

〔（欄外ニアリ）五月二日六字二十分大隈、三条へ四字三十分〕

文書原寸 縦二四・四種

封筒原寸 縦一七種

横二〇・三種 一枚

横五・五種

三函 久光公建白五ヶ条

○国憲云々

右 天皇陛下親臨各省并在京地方ノ勅任以上へ 御直

沙汰、地方奏任ノ場所ハ内務卿ヨリ右ノ 御趣意貫徹
スルヨフ達スヘシ、

○神祇官再興云々

付一等諸陵寮 一等教部寮属スヘシ、

右極急務ニシテ御発表相成候ハ、人民方向ヲ定メ共
和政治等ノ説自ラ止ベシ、

○皇居建立云々、

○税法ヲ正クスヘシ云々、

〔（米）税法不正アルヤト問者アラン、然レハ先ツ正税・雑税又ハ
掛物等ノ条目理解ヲ御覽其上理非御弁論ノ事〕

右急速行ハレスト雖トモ、之ヲ議決スル急ナリ、必ス
人民安堵スヘシ、

○陸軍ヲ減シ海軍ヲ広張スル云々

右五ヶ条発起ノ御議トシ、礼服復旧其他機会ヲ御見合重
テ御議相成候テハ如何哉ト存奉リ申候、

文書原寸 縦二・五種 横三九・八種

縦二・五種 横一〇・七種

三三 穂積重樹ヨリ朝廷ヘノ建言

民撰議事院開設ニ対スル反対意見

(表紙)
「民撰議事院之儀」付

建言

民撰議事院開カル可トノ御儀、之レヲ聞者拍手シテ眉ヲ披キ、文明開化之時至リ、樵夫牧童ノ辭ヲモ不棄許容セラレンハ、公正寛大ノ御処分、万般之事實直適宜之御政教可行ル難有 聖代也ト、皆人感悦ナスヲ、至愚鼠輩之評スヘキ非ストスレトモ、鸚鵡之口ヲ閉ル不能、無用之贅言ヲ吐テ其罪ヲ請、抑御一新以来上下ノ有司各人撰抜擢之任ニ非スヤ、而ハ職事々々ニ於テ夫々至当ナラサル無ト云ヘシ、尤小事瑣末之多端ナルハ、且暮任職之上ニ投身シ勉強シ、遺失ナキヲ要ス可也、去ヲ今庶民ヲ聚メ其云処ヲ広く聞之レヲ取捨シ、以テ施行セントノ御事成ナレトモ、若其云処悉ク全議ナランニハ、其假採テ行ルヘシ、然ハ其言ヲ採テ其人ヲ棄ル不能登用セラレンカ、

海内億万人全行全成ナル議者若干有シニハ、在来ノ有司我職掌ヲ譲リ去ヘキカ、爰ニ於テ人撰虚名ナルヲ天下ニ示スニ似タリ、又此新ニ登用セシ人々之上ニ一等超出スル者アラハ亦入換スヘキカ、斯テハ往々際限有ヘカラス、假令左迄ノコトニナク衆口合シテ取捨アル一旦ニモアレ、庶民等集議ノ席ニ押レ謹慎之心漸次ニ失セ、思々ニ暴言ヲモ吐コトニモ至リ、竟ニ上ヲ輕易シ有司ノ向ヲ他方エ誹謗ナス徒モ生シ、職威ヲ失フニ至ルヘシ、凡テ上之事下ヨリ測リ窺レサルヲ善トス、所謂可使由不可使知云々ニテ改教ハ威徳ノ二ニ不出、不重ハ不威也、然ルヲ方今御一洗ナレハ、彼ノ共和政治ニ移レンナレハ、威ヲ以テ下ヲ推スハ至当ナラス、上下万民ノ旨スル処ヲ以テ行フニアラネハ至当ナラスト云シカ、外国ハ不知、我国情ニ於テハ必ス種々ノ支生シテ、五年十年ニシテ全キヲ得ルハ難カルヘシ、既ニ門葉廢止ノ命アレトモ、旧習心不離レ、小民ニ至ル迄人ノ能不能ヲ不論門葉ヲ貴フコト今ニアリ、サレハ詮議ノ一偏ニノミ歸ス時ハ通ニ争擾不絶ヘ

シ、不如ノ治易キヲ棄今更ニ治難キヲ索ル御時會、不成
愚按不願僭上奉建言、再拜稽首、

戊五月

浅草森田町借居

穂積重樹

冊子原寸 縦二七・八櫃 横二〇櫃 三枚

三矣 熊谷県富岡医生一万田如水ノ諸家新聞月旦

(表紙)

「諸家新聞月旦」

上新聞月旦表

伏テ惟ハ、大政復古以來積年ノ宿弊ヲ洗滌シ、万国ニ卓
越セント新ニ大猷謀ヲ創立セラレ、文明日ニ開化シ、国
勢月ニ隆盛、誰カ感戴シテ謳歌セザランヤ、然レトモ臣
愚窃ニ疑ヒ且惑フ所アリ、夫レ此隆運ノ時ニ當ツテ一昨
壬申以來、土匪草寇諸県下ニ蜂起シ、兵力ヲ以テ纔ニ東
ヲ鎮定スレハ又西ニ起リ、客歲癸酉ニ及テハ鎮西諸国ノ
騷擾概ネ寧日ナシ、就中福岡県下ノ如キハ最モ甚シトス、

今春又佐賀県下ノ擾乱ノ如キハ、海陸ノ大兵ヲ動スニ至
ル、是レ所謂治日少フシテ乱日多キモノ歟、聖世ノ累ヒ
恐クハ文明ノ治ニ背カン、臣頑愚日夜寢食ヲ忘レテ慨歎
スル所ナリ、臣累世方技ヲ業トシテ辺鄙ニ住シ、今ハ身
老ヒ耳聾ヒ、世ニ毫モ希望ノ心ナシ、唯性愚直且ツ古老
ノ故ヲ以テ土人信シテ治ヲ乞モノ多ク、終ニ刀圭ヲ抛ッ
コト能ハズシテ、日ニ風塵ニ奔走セリ、僅ニ其余暇アレ
ハ新聞紙ヲ展閱シ、其中ニ就テ鄙心ニ会スル所ノ建白或
ハ投書等ヲ抄録シテ妄評ヲ加ヘ、筐底ニ藏スル久シ、今
ハ既ニ故紙ニ属ス、将ニ覆瓿タラントス、頃聞ク、佐賀
県平定後又宮崎県下ノ土民暴挙アリト、愕然トシテ新聞
紙ヲ借テ展閱セシニ、御布告ノ遲達ヨリ訛言ヲ生シ蜂起
セシト、尚亦飾磨県管下ニモ土民数千嘯聚セシ事ヲ掲載
シテアルヲ見テ、窃ニ以謂ク、今ヤ猶未タ 朝旨ノ下ニ
貫徹セザル如スカ、臣聞、明主ハ以天下之目而視以天下
之耳而聽ト、因テ自不揣 廟謨、万一ノ御参考ニ備ヘン
ト野人獻芹ノ意ヲ寓シ、其抄録スル所ノ数条ヲ繕写シテ

一小冊ト為シ、謹テ之ヲ奉呈 左右、幸ニ

相公閣下 觀覽ヲ賜リ、若シ乙夜ノ

宸覽ニ備ヘ奉ラセラル、コトアラハ、畜ニ先聖芻蕘ニ諮
詢スルノ遺意ニ稱ハセラル、而已ナラズ、天下志士ノ忠
謀嘉言モ相顯レン、是臣ノ国恩万ニ報答セント鄙衷ノ
丹誠ヲ表スル也、 威敵ヲ于瀆シテ恐懼戰慄ノ至リニ堪
ヘズ、死罪々々頓首稽首百拜敬白、

明治七年甲戌五月

一万田如水

諸家新聞月旦

日新真事誌第一号中ニ集議院改革更張ノ義ニ付、鳥取県
士族教部権少録須山弘建白

伏惟ニ 朝廷ノ綱紀ヲ維持シ、全国ヲ保護シ玉フ所以ノ
者ハ、蓋シ億兆ノ人民ヲシテ協和セシムルニ在リ、協和
スルトキハ全国必ス富強、背反スルトキハ全国必ス衰微
ス、此レ古今ノ常勢万国ノ通議ナリ、方今上ニ左院ヲ置

キ、国内ノ万機制度律令ヲ議シ以テ不拔ノ国是ヲ定メ、
下ニ集議院ヲ設ケ言路ヲ洞開シ、下情ヲ達シ上下壅塞ス
ル所ナカラシム、於是乎 朝廷ノ盛徳深仁兆民ニ浹洽シ、
上下既ニ協和シ、全国既ニ一致シ、加之ニ海外万国ノ善
政良法ヲ資リ、以テ我国家ヲ整正シ、其規模体例美且善
ナラサル所ナシ、抑上下ノ両院ハ所謂ル外国ノ議事院ニ
モ準擬セルモノニシテ、風俗ヲ開化シ文明ニ進歩セシム
ル基礎トナリ、全国ヲ保護シ綱紀ヲ維持シ玉フノ必務ナ
リ、何トナレハ、政府ハ国民ヲ撫育シ、国民ハ政府ヲ奉
戴シ、相互ニ協心同力スルニ非サレハ全国ヲ保護スルコ
ト難ク、一統ニ幸福ヲ得ルコト難シ、是故ニ国内衆議ノ
方法ヲ設ルトキハ、上下協和シ、全国一致シ、兆民必ス
上ヲ尊ヒ国ヲ愛スルノ道ヲ知り、人々奮テ国事ヲ勉勵シ、
從テ智ヲ明ニシ識ヲ博クシ、又從テ物理時情ヲ通曉シ、
不日ニシテ開化ノ功ヲ見ルベシ、若シ政府ノ權ト法令ト
ニ由テ進歩ノ道ヲ立ント欲スルトキハ、国民其令スル所
ニ從ハサルヲ得ス、然レトモ政府ノ意下ニ徹シ難ク、下

民ノ情上ニ達セス、上下遂ニ隔絶シ、下民或ハ惑ヲ抱キ又或ハ恚嗟怨望シ、人心從テ怠惰ニ移リ、国体モ亦振起ス可ラス、蓋シ王化ハ公明正大ノ政ニ非ス、縦令聖哲上ニ在ルモ、歲月ヲ積ミ国財ヲ費シ、人力ヲ勞スルニ非レハ、何能奏効スルニ至ンヤ、其利害得失論ヲ待タス、今我國民開化進歩ノ機ニ当リ、制度律令ヨリ凡百般ノ工芸皆之ヲ改革整正セザルナシ、其功業実ニ盛美ナリト謂ヘシ、然而愚民或ハ惑ヲ抱キ、頑民或ハ恚嗟暴動シ、僻遠陬隅ノ士族猶未タ固陋ノ見ヲ免レス、怠惰苟安ヲ貪テ物理時情ニ暗シ、府下ノ人情日ニ輕薄委靡ニ移リ、汲々私欲ヲ恣ニシ、国事ニ心ヲ尽ス者蓋シ多カラス、是故ニ時日ヲ積ミ国財ヲ費シ人力ヲ勞スルコト甚シ、而開化ノ形アレトモ未タ全ク其实ヲ得ス、此便チ上ノ人其心ヲ勞シ其力ヲ尽スト雖モ、下ノ人未タ全ク其道ヲ知ラザルニ由ル、國家ノ為メ豈之ヲ痛惜セザル可ンヤ云々中略、今天下治平ニシテ兵革ノ憂アルニ非ス、飢饉災アルニ非ス、然而上下貯蓄ニ乏シ、一旦事アレハ如何シテ之ヲ救ハン

ヤ、此其尤遠憂深慮ヲナスベキ所ナリ、是故ニ國民一統奮勵スルノ方法ヲ立テ、公勞公費ヲ省スルニ非ンハ、恐ハ十全ノ良策ニ非ス云々中略、臣惟ニ、集議院ヲ更張シ、国務ノ基礎ヲ立テ玉フトキハ、蓋シ電信寮・郵便寮博覽會ノ功業ニ勝ルコト万々ナラン、且夫レ國家ノ大体ヲ革正シ、委靡ノ風俗ヲ振起シ、怠惰ノ人心ヲ鼓舞スルコト此一挙ニアリ、若シ臣カ言取捨スル所アラハ、即時ニ數万ノ公費ヲ省スヘシ、理財ノ道之ヨリ大ナルナシ、臣敢テ虚飾浮文ヲ以テ誉ヲ求ル者ニ非ス、謹テ猷芹一片ノ微衷ヲ上陳ス云々、

愚曰、文意明暢、議論公平且ツ國家ニ謀ル志モ亦忠実ト謂ツベシ、此篇ノ如キハ政府速ニ御採用アラセラルテ、先ツ第一言路ヲ洞開シ壅塞ノ憂ナカラシメ、上下協和シ国事ニ尽力スルノ良策ヲ立サセラル、コソ方今ノ急務ナラン、然ルニ承ル、集議院ヲ更張セザルノミナラス、却テ之ヲ廢セラルト、是定テ廟謨不可測ノ深意アラン、庸凡ノ議スベキニ非ス、然レトモ諸家ノ議

論ニモ前条ニ符合セル建白投書等散見セル其中ニ、日
新真事誌第二百七十九号ニ、河原田盛美ノ上下議院ヲ
設立ヲ願フ建言書中ニ曰ク、

國家ノ盛衰ハ政教ノ美惡ニアリ、政教ノ美惡ハ生民ノ懷
否ニ関ス、可不慎哉、現今宇内各国ノ政教体裁一轍ナラ
スト雖モ、議政ノ大会ヲ設ケ上下同議ノ政治ヲ立テ、名
実相協ヒ、万国ニ超越スル者ハ、独リ歐羅巴洲中英因ヲ
以テ然リトス、其法タル貴族會議ノ上院アリ、衆庶會議
ノ下院アリ、之ヲ統ルニ内閣議院ヲ以テシ、以テ王室ヲ
保護シ三足鼎立ノ勢ヲ為スト 云々、中略 皇上庶政ヲ躬親ラ
シ、初ニ左院ヲ設ケ上下開明言路壅塞ノ患ナカラシム、
蓋シ之ヲ彼ノ内閣議院ニ擬スト云フ、左院既ニ設クレハ
貴族會議・衆庶會議ノ兩院モ亦創設セザルヘカラズ 云々、
議院ハ天下ノ得失社稷ノ大計生民ノ利害ニ繫レリ、今關
下ノ人民信スル所疑フ所アレハ、其旨趣ヲ左院ニ達スル
ヲ得ルト雖モ、四方ノ衆民ニ至リテハ何ノ所ニ信疑ヲ展
布シ、國家ヲ利スルヲ得ンヤ、是議院ノ設ケ無クンハ有

ル可ラザル所以ナリ云々、上ハ国体名分ヲ正シ、内外彼
我ノ弁ヲ明ニシ、下ハ百般ノ産業ニ至ル迄、利害得失、
緩急輕重ノ所置方法ヲ詳論熟議シ、一命令出ル輒ク之ヲ
改メス、屹然人民ノ方向ヲ決ス、國家是ヲ以テ強ク法律
是ヲ以テ立チ、公明正大ノ美政ヲ見ルベシ、今ヤ開化ヲ
事トシ、国体名分ヲ瀆シ、内外彼我ノ弁ヲ忽ニシ、下情
壅閉人民安息ノ地ナキハ議院ノ設ケナキガ為也云々、

愚曰、上下議院ノコトハ本邦ニ於テ未ダ其適否ヲ知ラ
スト雖モ、其一命令出ス輒ク是ヲ改メズト云ヒ、下情
壅塞人民安息ノ地ナシト言ヘル如キハ、方今ノ時世上
ニ於テハ至論確當、是深ク政体ヲ慨歎シテ實地ニ出ル
所ナラン、前ノ參議副島氏(權臣)及ヒ六員ヨリ民撰議院設立
ヲ願フ建白書ヲ頃日一閱セシニ、其文中ニ政權独リ有
司ニ帰ス、政令百端朝出暮改、賞罰愛憎ニ出ツ、言路
壅蔽困苦告ルナン、有司ノ權限ル所アリ等ノ數言ニテ
方今ノ政体ハ明了ナルベシ、前件須山氏ノ言中ニモ、
若シ政府ノ權ト法令トニ由テ進歩ノ道ヲ立ント欲スレ

ハ云々等ヲ以テ照考シ、之ヲ撮ミテ言ヘハ、即チ上ニ非ラス下ニ在ラス、独リ有司ニ出ツ、是ヲ以テ其威權ト法令トヲ以テ人民ヲ束縛シ、上下愈隔絶セバ、将来如何ナル変乱ヲ醸成センモ計リ難シト、何レモ深慮ノ忠肝ニ出デシナルベシ、尚次々略拳セル条件ト参考セハ明白ナラン、

日新真事誌第二周年八号ニ井上(兼)・沢沢(栄)両氏ノ建白書中ニ

本文ハ長篇ナルヲ以テ、其中ヲ摘拳シテ抄録ス

国家ノ隆替ハ固ヨリ氣運ノ然ラシムル所ト雖モ、亦未タ政府举措ノ当否ニ由ラスンバ有ラザル也篇中ノ眼目実着、今欧米諸国ハ民皆実学ヲ務メテ智識ニ優ナリ、故ニ人々各自其力ニ食ムコト能ハザルヲ以テ大恥トス、我民ハ則之ニ反ス云々、其間一二才識ヲ以テ称セラル、者アリト雖モ皆請托機ニ投シ壟断利ヲ罔スルノ徒ニ過キス、甚キハ欺詐百出誣冒万変産ヲ破リ家ヲ亡スニ至ル者比々之アリ、今斯ノ如キ輩ヲ驅テ一朝俄ニ之ヲ開明ノ域ニ届ラシメント欲ス、亦猶卵ヲ見テ時夜ヲ求ルカカ如シ評曰、能ク實際ヲ弁説ス、下民モ亦壟断ニ似

タルヲ以テ噴々スル者多シ、是レ職ニ在ル人ノ言ヘザル所ナリ、是、比年海外ニ客遊スル者其婦ルニ及テハ、英ヤ仏ヤ蘭ヤ米ヤ或ハ李ヤ澳ヤ各皆其長スル所ヲ以テ我ニ比較シ、凡百ノ事業文明ヲ資クベキモノ細大洩サズ纖毫遺サズ以テ我具備ヲ求メザル無キニ至ラン云々評曰、慮リ、徒ニ其形ノミヲ主トシテ其実ニ注意セス遠シト云ツベシ、

ニ貧弱ニ陥リ、善者アリト雖モ其後ヲ善クスル能ハズ百度愈張りテ国力愈減シ、功未タ垂成ニ至ラズシテ国既成スニ急ナレハ、勢ヒ実用ヲ捨テ空理ニ馳ルノ弊ナキ能ハス、況ヤ愛國ノ至情ヨリ彼ノ開明ノ政治ヲ欽羨シテ驟ニ之ト相抗衡セント欲ルヤヤ、是ニ於テ唯事務ノ振興ヲ求メテ治具ノ漏欠アランコトヲ恐レ、害トシテ陳セザルナク、利トシテ講セサルナク、或ハ隙ニ投シテ以テ容ル、ヲ求ル者アリ、或ハ新ヲ銜テ以テ寵ヲ要スル者アリ、院省使寮ヨリ府県ニ至ルマテ各自ニ其功ヲ貪テ往々其官

ヲ増ス、是ヲ以テ百事湊合万緒媚集、互ニ相抵触シテ政
府モ亦自ラ其弊ニ堪サラントス云々、評曰、説来テ言々実着
然トモ此弊害ハ世人ノ

皆能ク知ル所ナレトモ、口外スルコト能ハザル也、是レ有志家ノ議院設
立言路洞開等ノ説ヲ建白スル以所ナラン、思フニ今ノ有司中ニモ此ノ議
者ナキニ非ズ、時勢ニ押サレ已ムヲ得ズ心ヲ枉ケ志ヲ屈シテ從事スル者
アラン、何ントナレハ固體ヲ持重シ正理ヲ議論スル者ヲバ開化ヲ防害ス
ト唱テ之ヲ攘斥ス、是レ其職ヲ辭、古人言アリ、曰ク、民ヲ視
スルニ非レバ言ヲ發シ難キ所也、

ル傷ムカ如シト、今ヤ政府斯民ヲ視ル、啻ニ傷ムカ如キ
能ハザルノミナラス、却テ之ヲ法制ニ束縛シ之ヲ賦税ニ
督呵シ、或ハ昔日ニ加フルアリ、編戸ニ籍ナキヲ得ス、
民社ニ証ナキヲ得ス、宅ニ地券ナキヲ得ス、人ニ血税ナ
キヲ得スシテ訴訟ノ費アリ、違註ノ罰アリ、物貨販品牛

馬婢僕ニ至ルマテ皆其律ナクンバアラス、是ヲ以テ一令
下ル毎ニ輒チ斯民惘然措ヲ失シ、其嚮フ所ヲ知ラズ、評曰、
着々

實地愚田舎間ニ在テ能ク下情ヲ熟知ス、實ニ一令下ル毎ニ民惘然失措シ
テ、或ハ苦情ヲ鳴シ或ハ怨望ス、今此ニ誦至テ覚ヘス悲酸ス、下民昔日
ノ血涙移来テ滴、紙ニ漉カントス 政治ノ要ハ時勢ニ適スルヲ貴シトス、故
ニ政府ノ事ヲ施為スル能ク我国力ヲ審ニシ、能ク我民情

ヲ察セスンハ有ラス、出ルヲ量リテ入ヲ制ス云々、然ラ
ズンハ内外ノ変必ス不測ノ間ニ生シテ土崩瓦解檢束ス可

ラサルニ至ラン、之ヲ如何ソ政府ノ举措其当ヲ得タリト
謂可ケンヤ云々、今日ノ開明唯ニ其喜フ可キヲ見ザルノ

ミナラス、其大ニ憂フ可キモノ將ニ彈指ノ間ニ出ザラン
トス云々、評曰、是レ前件ニ言ヘル政府ノ举措其当ヲ得ザルヨリ土崩
瓦解ノ勢發見セシ也、又此ニ彈指ノ間ニ出ルノ語ヲ按ルニ、
大分県・北条県下等ノ暴動ヨリ追日騷擾ノ四方ニ蜂起センコトヲ察シテ
危懼ヲ生セシナラン、何トナレハ上件ニ賦税ヲ増シ備役ヲ起シ、斯民ヲ
督呵セル等ノ事件ハ皆是人民ノ怨望スル所ヲ知テ、而モ自ラ之ヲ勉力シ
テ施行セシムレバ也、是ニ由テ之ヲ觀レハ後職ヲ繼ク者能ク之ヲ照鑑シ
テ教化ノ術ヲ尽サバ、豈福岡県、
下ノ如キ動乱ヲ醸成スベケンヤ

愚窃曰、右ノ兩氏ハ其辭職ノ間ニ於テ此ノ上表ヲ為シ、
且歲計上ニ於テ多小ノ遺算アルヲ以テ之ヲ退ケラル、
是ヲ以テ爾後ニ至リ諸論家紛々競ヒ起テ之ヲ攻撃シ、
或ハ謗誦セラレ、嘖々ノ責諸新聞紙上ニ散見スレトモ、
愚窃ニ思フニ、上言ノ如キハ能ク政体ヲ洞察シテ時弊

ニ的中ス、今日實際上ニ於テ其確當著明ナルヲ証スベ
キナリ、冀ハ廟堂ノ諸賢君文字上ノ議論トノミ為シ玉
ハス、施行ヲ實地ニ照準シテ英省アラセラレハ、天下

ノ辛慶ナラン、
新聞雜誌第七十六号中ニ倫敦マクミラン氏出版ノ新聞紙

ヲ得タリ、抄訳シテ此ニ載ス、日本ノ往先ヲ考ルニ大ニ危難アランコトヲ懼ル、日本ノ開化ハ余リニ進ミ過キテ之ヲ譬ルニ迅走ノ馬ヲ無体ニ馳スレハ俄ニ倒ル、ト同様ナリ、又政治改革ハ下ヨリ起テ専ラ大名官員ノ働キニ出ルコトナレハ、彼大名官員モ当時權威ヲ奮ヒ大ナル才智アリト世人皆奉承セシガ、忽チ其権柄モ零落シテ終ニ方今ノ有様ニ至レリ、国家守護ノ原由ナル政体一定不易ノ目途覚束ナシ、此先キ立君專治ニ確定スルヤ、又ハ共和政治ニ変ズルヤ、抑君民同治ニ至レルヤ未ダ知ルベカラズ、当度日本ノ改革ハ殆ト魯西亞ノ改正ニ似タリ、魯國ニテ貴族ヲ廢棄シ、貢税ヲ増加セル等ノコトアリ、深ク考ル者ハ如斯速ニ馳ル所ノ日本ノ進歩ニ不都合ノ起ンコトヲ当惑セル計リナリ、

又一危難アリ、若年ノ書生兩三年外国ニ留学シ、不熟ノ学ヲ以テ帰國シ、直ニ大事件ニ關係シ、遂ニ其威力ヲ以テ政府高官ニ任セラル、コト也、実ニ此等ノ學者ニ重大ナル政事ノ吟味ヲ任セシナラハ、日本将来ノ事照シ合セ

テ見ルベシ、

日本横浜ヨリ欧米ニ向テ発艦セシ若年ノ書生ハ、自國ニ於テ教育ノ功ヲ積マズ直チニ各國ニ留学シ、而シテ國法嚴令モナク各思ヒノ低ニ高上ノ學問ヲ求メ、僅ノ年月ノミ止留シ浅少ナル修業ニテ、既ニ學問モ深ク進ミタル如ク傍若無人ノ量見ヲ生シ、猥リニ自負自重スルナルベシ、斯ル浅学ヲ挾ンテ帰國シ、國人海岸一步モ出ザル者ニ向テ嘘喝欺罔シ、終ニ日本ヲシテ洪水ノ溢ル、如キノ患アラシメン、且各留学セシ國ヲ鼻屑シテ米利堅ヨリ歸リタル者ハ共和政治ヲ唱へ、英吉利ヨリ歸リシ者ハ統一政治ヲ稱シ、区々ノ議論其混雜思ヒ遣^{ヤラ}レタリ、此後日本若シ如此學者ノ為ニ支配セラレテ人民安全スレハ、天ノ助クル倖僥ト云ベシ、

愚曰、此篇一閱シテ愕然トシテ驚キ、稍暫ク沈吟シ、窃ニ謂ラク、彼國人ニシテ早ニ吾邦ノ形勢ヲ洞視スル何其明了ナル一ニ斯ノ如キヤ、夫ノ政体一定不易ノ目途覚束ナシ、此先キハ立君專治ニ移ルヤ、又ハ共和政

治ニ変スルヤ云々、次条ニ不熟ノ学生ヲ以テ直ニ大事件ニ關係シ云々、又若年ノ書生浅少ノ修業ヲ以テ傍若無人ノ見ヲ生シ、海岸一步モ出サル国人ヲ嘘喝欺罔シ云々等ノ数語ニ至テハ、方今ノ体裁ヲ掌ニ指スガ如シ、孰カ卷ヲ投シテ痛哭慨嘆セザランヤ、然レトモ廟上ノ諸公ニ於テハ恬トシテ度外ニ捨置セラル、カ如シ、是レ愚ガ平昔此ノ杞憂ヲ抱ク久シト雖モ、忌諱ヲ憚リテ口ヲ鍼セシ所、彼人既ニ之ヲ言フ、西洋事情ニモ各国ニテ古来ノ風俗旧例ヲ集テ一体トナシ、次第ニ其形ヲ成シタルモノヲ国法ト名クト云ヒ、又曰、其形ヲ成スニ至ルマテノ順序ハ甚遅々トシテ殆ト其起原ヲ知ル可ラスト云々、又法ノ本ハ其国ノ習俗ニ由テ来ルコト明白ナリト、此言ニ由テ考レハ、其習俗ノ遅々トシテ幾千百ノ世ヲ経テ其国法トナリタル者ヲ廃棄シテ、一旦ニ西洋ノ風俗ニ改変セシメントスル、豈ニ危難ヲ招クニ至ラザルヲ得ンヤ、是レ浅学洋学生徒ノ為ニ国ヲ誤ルニ非ンヤ、又同書ニ古風旧例ヲ改メ其方向ヲ正ス可

シト雖モ、之ヲ廃スルハ甚難シト云ヒ、又妄リニ新奇ヲ好ミ紙上ノ空論ヲ信シテ其旧ヲ棄ルハ輕率ノ甚キト、又曰ク、古来ノ国法ヲ一旦ニ改革セントスレハ、何レニモ一度ハ国乱ヲ生ス云々等ノ説モ見ヘシカト覺ユ、西洋事情ナドハ卑近ノ書ナレトモ、国政改革ノ今日ニ当テハ緊要ノ語ナレハ、宜ク腹臚スベキ也、庶幾ハ在上当路ノ賢君方深ク此ニ注意アラセラレ、先ツ第一国典ヲ確乎立サセラレ、深慮遠謀以テ歲月ヲ積ミ、漸次ヲ追ヒ開化十全ノ偉勲ヲ建サセラレン事ヲ、東京日々新聞第百五十六号中ノ投書ニ、頃日歐洲人ノ一語ヲ得タリ、曰ク、余日本ニ来リテ在留スル玆二年アリ、往々和文ヲ学ヒ略其一班ヲ解シ、今日其新聞紙ヲ閱スルニ、日本人ノ奇ヲ好ミ本ヲ忘レ、其輕薄ナルコト夥シ、就中堂々タル神州ナリトシテ此国ヲ尊ビタル者モ、今日其国教ヲシテ益明且大ナラシメンコトニ注意セズシテ、動モスレハ那蘇教ヲ信奉シ之ヲ国教トナサント欲スル者アリ、或ハ言ノ国ト自称セシ者モ其言語ヲシテ一定ノ法

ヲ立ズシテ却我文典ニ拘泥シテ、歐洲ノ文字ヲ以テ其假
國用ニ供セントシテ、復洋書ヲ日本ノ國語ニ訳シテ読本
ヲ制スルノ意アラサル者ナリ、其他衣服ヨリ飲食ヨリ日
用百般ノ諸器具万世不朽ノ制度皆之ヲ舶來ニ仰キ、外人
ニ擬シ、所謂取人之長補我之短ノ語ニ反シ、其國ヲ自暴
自棄シ外國ニ面媚口諂スルヤ知ラス、獨立國ノ容儀ヲ失
ヒ歐米諸國ノ屬國ニ陥ルモノナリ、甚キニ至テハ 皇統
連綿タル万世不朽ノ君主國ニシテ共和政治ヲ主張セル者
アリ愚此条ニ就至テ覺へ、
涙漠紙上ニ滴ル、或ハ其國體ヲ知ラズシテ自由貿易
ヲ善トシテ保護勸業ノ術ヲ誹ルモノアリ、而シテ其此等
ノ說ヲ唱フル者ハ大概文字ヲ知り洋文ヲ解シ、自ラ文明
開化ノ人ト稱スル者ニ出テ、其要旨タル敬神愛國ノ情ニ
於テハ、却テ不開化ノ人民ニ固着シテ其為ス所野蕃ニ属
スト雖モ、其志ハ最モ賞スヘキ者、玆ニ在テ彼ニアラズ、
夫レ人ノ文学ニ従事スルヤ、元來其國ヲ富シ其兵ヲ強ク
シ、不羈獨立タラシメン事ヲ欲スルニ非スヤ、然ルニ却
テ外國ニ依頼シ我國法ヲ蔑如スル其罪大ニ無学ノ人ニ劣

レリ、如斯ナル者ハ寧ロ学ナキニ如カズ愚曰言々皆藥石洋学ニ
ニ従事スル者咀嚼シ
キナリ、今足下余ニ就テ洋学ニ従事スルト雖モ、其本ヲ
務メテ末ニ趨ルナク、所謂日本ノ日本タル所以ヲ弁別シ
テ後、外國ノ所長ヲ取り自國ノ所短ヲ補ヒ、益々皇國ヲ
シテ万国ニ龜鑑タラシムルヲ要スベシ、嗚呼、此語ヤ方
今輕薄子弟ノ砭針ニシテ我等ノ藥石ナリ、其反覆丁寧人
ニ示スノ意至テ深切ナリ、殊ニ外國人ニシテ此語アリ、
況ヤ皇國ノ人トシテ此ニ注意セザルベケンヤ、因テ之ヲ
概記シテ貴社ニ投ス、愛國志士、

愚曰、右篇中那蘇教ヲ奉シテ之ヲ國教トセント欲スト
云ヒ、其國ヲ自暴自棄シ外國ニ面媚口諂ト云ヒ、万世
不易ノ君主國ニシテ共和政治ヲ主張スト云ヒ、敬神愛
國ノ情ニ於テハ却テ不開化ノ人民ニ在リト云ヒ、外國
ニ依頼シテ我國ヲ蔑如スト云、其地言ニ句々精覈割切
能ク時弊ヲ諷刺ス、嗚呼外國人ニシテ吾邦ノ國勢ヲ通
觀スル其眼光炬ノ如シ、開化ノ諸君子何ヲ以テ之レニ
對ルヤ、嗚呼外國人ニシテ我邦ヲ愛惜シテ子弟ヲ教諭

スル、其レ如此親切也、豈啻ニ輕薄ノ子弟ノミナラン、
 当今ノ諸公モ亦能皇国ノ皇国タル所以ヲ反省シテ三思
 ヲ加ヘハ、邦家ノ大幸ナラン、

日新真事誌二周年第廿二号中ノ論説ニ、日本国目今開化
 ノ景況ヲ目撃スルニ、王政一新以來政体一変、百般ノ弊
 害ヲ洗除シ、盛ニ文学技芸ヲ興シ、人智ヲ磨キ、駸々乎
 トシテ文明ニ進歩シ、其面目ヲ改ムルハ実ニ驚クニ堪タ
 リ、而シテ政府ノ意ヲ注ク所国家富強ノ大基ヲ起シ、以
 テ各国ト并立セントス、故ニ其目的トスル所欧米文明富
 強ノ方法ニ因ラサルヲ得ス、之レ彼ノ長ヲ採リ己カ短ヲ
 裨補スル所以ノ大義也、而レトモ其国民至テハ政府ノ深
 意ヲ悟ラス、徒ニ時勢ニ乗シ其貌ヲ真似テ其実ヲ採ラス、
 文明開化ハ欧米ノ風儀ニ模擬スル迄ニテ、其真理ヲ採ラ
 ス、滔々似テ非ナル虚飾ノミ、却テ之カ為ニ国財ヲ耗シ
 国体ヲ乱ルモノ尠トセス、譬ヘハ衣帽器具ノ如キ之ヲ国
 内ニ採ラスシテ悉皆外国ニ仰クハ、日本国ノ至計ニ非ス
 云々、經濟ノ道ハ国ノ産物ヲ繁殖シ国用ニ給シ、其贏余

ヲ以テ外国へ輸出シ、理財ノ權ヲ統収スルニアリ云々、
 往昔ホルトガル国百年前ハ歐洲中有名ノ富強国ナリシガ、
 文学工芸ノ盛ニシテ国民能ク工職ニ従事シ、産物ヲ富殖
 シ、輸出貿易ノ盛ナルニ因ル、而シテ土俗奢侈懶惰ニ流
 レ、工芸漸ク衰へ、一旦給ヲ外国ニ仰クヨリ国勢次第ニ
 縮退シ、遂ニ今日ノ衰頽ニ至ル、其勉ト不勉ト、他ニ仰
 ト不仰トニ由テ、貧富霄壤ノ差ヲ生ス、願クハ日本国民
 モ早ク茲ニ注意シテ、衣帽器具ヲ始メ今日国用ニ可給必
 需ノ品物ハ、国産ヲ以テ其用ヲ給シ、而シテ各自力食勉
 勵シテ工作技芸ヲ盛ニ開キ、貨物ヲ富殖シ商旅外航ヲ務
 メ、輸出貿易ヲ更張スルトキハ、真ニ文明開化ノ実効ヲ
 顯シ、日本モ独立富強ノ域ニ進入スル期シテ待ツベキ也、
 愚云、論者貌刺屈氏ハ英人ニシテ日本ニ来リ、寄留未
 ダ数年ナラザルニ、早ク既ニ吾国ノ形勢ヲ洞視シテ、
 能ク其可否ヲ論シ、皇国ノ為メニ規諭スルモ亦懇切ト
 云ツベシ、然ルニ有司百官見ノ此ニ及バザルハ何ソヤ、
 噫、

報知新聞第百九十九号中ニ、一書生或洋人教師ニ言テ曰ク、我日本ノ如キハ衣服ヲ始メ傘・木履・草履等不便ノ品ヲ用ル所他ニ有ランヤト、洋人ノ曰ク、然ラズ、日本ハ既ニ古ハ穴居ノ風ヲ脱シ漸次是ニ至ル、是自然ノ風ナリ、蓋シ西洋各国ニ於テハ衣住食トモニ猶古ハ穴居ノ余習ヲ存セリ、中古国開クルニ随テ特ニ其文采ヲ増スノミ、畢竟身ニ毛布ヲ纏ヒ足ニ革靴ヲ着ケ、食ニ肉ヲ用ルハ曠漠タル不毛ノ地多シテ、穀乏ク民専ラ牧畜ヲ事トスル所以ニ出ルナリ、殊ニ紙或ハ樹木ノ性ニ至テハ日本ノ良ナルニ及カス、故ニ家居ハ石造・煉化石・ガラスノ類ヲ用ヒサルヲ得ス、全体人身ニ宜シカラス、故ニ追々木造・紙等ノ製日本ニ倣ヒ、漸次是ヲ導カント欲ス、然トモ国各自然ノ風アリ、容易ニ易フベカラズ、然ルニ方今其自
然ノ風ヲ廢シ求メテ西洋各国ノ風ヲ学ヒ、衣住食ヲ始メ悉ク西洋ノ品ヲ仰ントス、是困窮ノ基ナリ、何トナレハ輸ノ多キ輸出ニ百倍ス、試ニ一人ノ形ヲ見テ知ルヘシ、服ニ従前ノ服アリ、又洋服アリ、頭ニ諸國ノ帽アリ、

足ニ洋製ノ革靴アリ、又和製アリ、其他総テ之ニ倣ヒ一様ヲ以テ事足ル所ニ、二様三様ヲ備ヘ之ヲ用ユ、是レ困窮セサルヲ得ス、愚云、前件ノ論說中ニ器械衣帽ニ至ルマテ一切之ヲ外國ニ仰クハ日本ノ至計ニ非スト云ヒ、此条ニ是レ困窮セザルヲ得ズト云フ如キハ、皆是上下相競ヒ一時ニ西洋ヲ模擬スルヲ以テ国力疲弊ニ陥ルヲ深ク慨言スルニアリ、世ノ謬ニ傍觀八目ト、其ル乎又散髪ノ好ノ徒ハ之ヲ輕便トシ、或ハ健康ト称シ、特ニ其輕便費ヲ省クヲ知ルニ似タレトモ、其他百事ノ無益ニ費スコトノ不輕便ナルヲ論ゼス、又一身ノ必ス心神ヲ養フニ在テ、豈散髪ニ因ンヤ、若シ結髮健康ヲ害シ且ツ不輕便ナラバ、何ソ婦人ヲ憫マザルヤ、婦人ニ於テハ西洋各国モ皆結髮ナリ、畢竟本ヲ忘レ末ニ走リ、好ンテ新奇ヲ競ヒ定志ナキノ致ス所ナリ、愚云、定志ナキノ、一言天頂ノ一大計人定志ナキトキハ文ヲ好ムト雖モ益々詐ヲ飾リ国危シ、予ハ是等ノ開化ハ採ラス、抑国ノ開化ハ人知ヲ以テ主トス、形ノ枝葉ハ固ヨリ自然ニ任スベシ、其根本タル人知開ケハ随テ形亦開ク也、今未開ノ民ヲシテ之レニ先ンスルニ形ヲ以テスルトキハ、之ニ甚僻スル者アリ、又抗スル者アリ、之ヲ譬ルニ兄弟相争ヒ相鬪フガ如シ、風俗愈乱レ民

情益穩カナラス、風俗乱レテ国治ルコト古来未タ曾テ聞カス、此言聖教ト同一致、故ニ、然ラハ則人心ヲ以テ主トセザ方今政事家ノ執ラザル所歟ル可ラザルナリ、子等モ亦能ク此理ヲ知ラザル可ラズ、其レ能ク戒心セヨ云々以下略、

愚曰ク、此篇首ニ古ヘ穴居ノ風ヲ脱セザルノ説尤新奇ヲ覺フ、因テ熟思スルニ、此ノ話説却テ真理ヲ得タルナラン、是ニ由テ之ヲ觀レハ、我邦ハ真ノ神州ニシテ早ク穴居野処ノ風ヲ脱シ、精穀ヲ食トシテ獸肉ヲ用ヒス、茲ニハ山獸ヲ用タル例ハ稀ニアレトモ、獸ヲ、畜育シテ飼食トセン例ヲ聞カザレハ言ナリ、是即チ瑞穂ノ稱アル所以モ亦明徴ナラン、抑土地ノ肥饒ナル、絹帛ノ美ナル、米穀ノ精ナル、万国ニ卓越タルコトハ贅言ヲ待ザル所ナリ、然ルニ怪ムベキハ往年數品ノ穀種ヲ西洋ニ仰テ樹芸ヲ命セラレシハ、如何ナル穢津比(マヤ)ノ所為ナルヤ、浩歎ニ禁ヘス、偕又篇中ニ本ヲ遺レ末ニ走リ好シテ新奇ヲ競フ、定心ナキノ致ス所ト云ヒ、風俗愈乱レ民情穩カナラス云々等ノ言最モ忠告ト謂ツベキ哉、前ニ拳ケタル三条ト此篇ノ如キ、何レモ皆能ク我

国ノ利害得失ヲ通知シテ明弁セシ確言ナレハ、年来歐米ヲ師國ト仰カレタルナレバ、自今而後前件洋人ノ教諭ノ旨ヲ厚ク奉シ、深ク信シテ國体ヲ持重シ風俗ヲ正シ、人民ニ定志アラシメ、而シテ開化順序ノ道ヲ蔽明ニシ、富国強兵ノ真護ヲ確立アラセラレハ、天下大幸社稷ノ洪福ナラン、

同第百六十七号中ニ小栗松靄ノ献芹ニ曰、

現今宇内ノ形勢ヲ攻ルニ、人文彬興日進月將駸々乎シテ駟馬モ逐可ラザルノ勢アリ、然レトモ百弊ヲ芟リ百善ヲ来スノ朝意未タ下民ニ洽浹セス、故ニ口ニ開化ヲ唱ルモ衷心旧規ヲ固守スル如キ十二八九アリ、戊辰以降土寇ノ暴動ヲ計算スルニ、殆ト十八県ニ及、其原由皆御布令ノ誤解ニ出ツ、其余鎮定ノ諸県モ一旦護民ノ機ヲ失スルトキハ、狂焰響応滿県ニ波及スル燎原ノ如クナルヤ、固ヨリ論ヲ俟タス、然レハ則目今ノ急務ハ朝旨ヲ下徹セシムルニ在リ、是ヲ以テ大教院ヲ建設シテ三条ノ旨趣宗法ノ奥蘊ヲ説、又諸県学校ヲ設ケ民間ノ小童ヲ教ヘシム、斯

ノ如キハ隆世ノ美事ト云フ可レトモ、今日ノ治体ニ取テ
尚迂遠ナリトス、文化下徹ノ策ハ三長ノ者ヲ検査シテ能
ク御布令ノ意ヲ了解セシメ、戸曉家論スル能ハザルモ一
月ニ一六ノ休暇日ヲシテ、各村毎戸ノ者ヲ蒐シテ御布令
ノ旨趣ヲ懇諭セシム、縦令木石ノ如キ頑固ノ人モ天然固
有ノ正心アリ、誰カ開化ニ赴カザランヤ、誰カ朝恩ヲ握
キヲ感ゼザランヤ、今朝廷督学局ヲ置カレ、訓導儒生及
ヒ神官・僧侶ヲシテ検査試業アルモ、独リ国家ノ大本タ
ル蒼生ヲ管轄スル区戸長ノ検査ナキハ何ゾヤ、一令出ル
毎ニ洩ナク下民ヘ達スベクト有リテ達セス、揭示スベキ
モノモ十中僅カニ一二ヲ掲ルニ過キズ、一二ノ揭示モ字
面曖昧ニ涉リテ読者ナシ、適開化ノ域ヘ進歩スル者モ又
逡巡シテ旧習ニ復ス、故ニ当今頭髮ノ多端ナル貨財唱
ノ不定ナル旧曆ヲ以テ事務ヲ処スルノ類、混淆錯雜一定
ナラズ、仰キ願ハ、三長検査ノ美萃アリテ至大ノ恩波迅
速下民ニ貫徹センコトヲ、然ルトキハ風化ノ成功期シテ
俟可キノミ、斯ハ国政ノ一端草野蕪生ノ動吻ス可キニ非

ルモ、四民同權ノ明時ニ際シ黙止スベキニ非ズト、万死
ヲ犯シテ猷斧ス云々、

愚曰ク、言々皆實際ヲ踐ム鄙衷ト符合ス、然レトモ戸
曉家論ノ説ニ至テ其見少ク異ナリ、何トナレハ此任輕
カラズ、三長ノ力ノ能ク及ブ処ニ非ルヲ知ル、尚ヲ其
説下条ニ陣述セシ、

日新真事誌第六十五号中ニ、芝寄留ノ書生島田某ノ投書
ニ曰ク、近頃諸県愚民ノ暴動相踵ク、其愚固ヨリ懣ム可
シト雖モ、彼モ人ナリ、何ソ故ナクシテ俄ニ甘ンシテ奸
徒タランヤ、因ル所アツテ然ルナリ、此事ヤ專擅压制ノ
昔日ニ起ラズシテ、却テ開明ノ今日ニ起ル、殊ニ怪ムベ
シトス、苟モ憂國ノ志ヲ存ル者深ク其原因ヲ極メザル可
ンヤ、夫レ旧ヲ去リ新ニ移ルノ際、人心ノ動揺スル古今
ノ通勢ニシテ事ノ難キ者ナリ、我邦ノ如キ久ク東隅ニ孤
立シ、万国ノ事情ニ達セズ、国民ノ固陋固ヨリ言ヲ待タ
ス、而シテ一朝外国交際ノ事起リ、国政從テ遷移ナキ能
ハズ、勢ノ然ラシムル所万々止ム可ラザル也、而シテ政

令ハ公平ヲ本トシ、広ク万国ノ長ヲ取ル、之ヲ昔日ニ比スレバ何ソ只霄壤ノミナランヤ、実ニ千載一遇ノ聖世ト云ベシ、而シテ国民タル者何ソ之ヲ苦テ斯ノ如クナルヤ、奸民之ヲ煽動スルニ因ルカ、抑人民ノ蒙昧ニ因ルカ、二ツノモノ皆然リ愚云、二ツノモノ皆然リ、然レトモ此二ツノ外ニ平ノ怨憤ヲ洩スノ意氣ニ出ル者多カルベシ、ソハ前ニ挙ル建書等ヲ見テ其、一端ハ推知スベキ也、而シテ人民ノ蒙昧ニ因ル者多シ、苟モ人智開達スルトキハ、奸民アリト雖モ何ソ能センヤ、然レハ則チ人民ノ智識ヲ開達スルハ方今ノ急務ト云フベシ、今ヤ学制已ニ立ツト雖モ、全国挙テ従事スルコト能ハズ、学校悉ク備ハルモ子弟ヲ教育スルニ過キス、今已ニ成人スル者ハ固陋ニシテ身ヲ終ントス、豈ニ傷ムベキノ甚キニ非スヤ、而シテ其子弟智識ヲ開達シ、身ヲ立テ家ヲ起スニ至ルマテ、少クモ二十年ヲ待ツベシ、亦事ノ迂遠ナルモノニ非スヤ愚云、此言実地上ニ於テ的、今ノ計ヲナ中鄙衷ノ常見モ亦此ニ在リ、今ノ計ヲナス宜ク教員ヲ派出シ、万国ノ政令風俗理物理学産ヨリ方今ノ急務等凡テ今日ニ切要ナルノ事ヲ講シ、傍ラ朝旨ヲ下達スルノ楷梯トナスベシ、而シテ其費用ノ如キハ暫ラク

官ヨリ之ヲ給スベシ、人民ヲ保護教育スルノ政府、何ソ人民ノ為ニ財ヲ費スラ恪マンヤ愚云、此一言人民ヲ教育ス、彼ル治國ノ大眼目ト云ツヘシ、彼ノ教法教師ヲ減シテ其費ヲ之ニ移スヲ得ヘシ、又人民ニ暴動スルコトナク、政府ニ非常ノ費ナキニ至ラハ、之ヲ以テ償ニ余アルヘシ愚云、暴動ノ時ニ当テ費ス所ノ費ヲ以テ此教員ヲ置ク、尚ヲ余贏アリ在上參政ノ諸君此ニ遠慮アラハ何ソ國家、而人民之ニ因テ漸ク智識ヲ增長スルトキハ、自ラ費ヲ献スルニ至ルベシ、而シテ風俗人情随テ改良スルキハ洪益殆ント計ルベカラス云々、
愚曰、言々句々一ニ皆鄙意ト符契ヲ合スルガ如シ、偷快言ベカラズ、但文中ニ教員ヲ派出トアレトモ、此教員何人ヲ用ルヤ、中小学ノ教員ナルヤ、抑教導師ニ採ルヤ分明ナラス、予曩ニ郷ノ小学校ノ事ニ付県ノ暢発学校マデ建白セリ、其副書ニ陳述セシコトアレトモ、固ヨリ県ニテ施行セラルベキニ非レバ、何トゾ政府ヘ献シ度ト思惟セシカトモ、其機宜ナキヲ以テ終ニ黙止セリ、因テ今其大略ヲ左ニ録ス、
夫レ 朝廷ノ新法ヲ創立シ、海内ニ布令スル、其始テ下

ルヤ、皆側目危疑シテ驚愕セザルナシ、然レトモ諸県ノ役員及ヒ正副戸長等協心戮力シテ百万説諭シ、而後人民漸ク其半バヲ解スルニ至ル、故ニ牧民ノ任タル者ハ其土地風俗人情ヲ能ク洞察シテ法令ヲ布カザレハ壅塞渋滞シテ、動スレハ紛議ヲ生シ苦情ヲ鳴シ、甚キニ至テハ暴動ノ患害ヲ醸成ス、去壬申中北越甲斐ノ如キ、是其首魁ニシテ、爾後当癸酉ニ至テハ歳首ヨリ諸県下擾乱相続キ、其事ヤ大小輕重アリト雖モ、鎮西ノ如キハ殆寧日ナシト云、其起原ニモ異同アリト雖モ、畢竟 朝旨下ニ達セス、下情モ亦上ニ通ゼス、而シテ之ヲ概スルニ政度法令衆庶ノ耳目ニ新シキト思ヒ得ザル出費ノ新キトニ由ル、上苛政ヲ施スニ非ス、官吏私曲ヲ行フニ非ス、其布令スル所ハ万国ノ公法ヲ折衷シテ正明公平也、然レトモ猶且ツ人心ニ貫徹セザレハ、彼ガ如ク大患害ヲ生ス、小学校ノ如キハ纔ニ童蒙ニ教授スルノ法則ナレハ、一命令下ラハ闔國靡然トシテ之ヲ仰キ、一意ニ遵奉シテ各其力ヲ尽スベキニ、此ニ至ラザルハ何ソヤ、元来下民ハ無智蒙昧ナ

ル者ユヘ、容易ニ旧習ヲ脱シ難シ、今新ニ設立スル学校ノ如キモ、俄ニ之ヲ開キ俄ニ之ヲ見ル、狐疑猶予シテ進マス、蔽令ニ由テ一時之レニ従フト雖モ、中心ニ服セザレハ或ハ永永ヲ保護シ難カラン、殊更在村頑固ノ民俗ニ於テハ、維新ノ御趣旨ヲ少シモ会得セザレバ、謗議紛興シ或ハ之ヲ妨害ス、甚キハ紊乱ヲ醸成シテ学校マデヲ毀焼スルニ至ル、近爾福岡県下ノ其最大ナル者ナリ、其固陋ノ頑民タル固ヨリ論ナキコトナレトモ、政府ニモ亦其頑民ヲ教化スルノ術ヲ欠セラル、ニ非スヤ中略、夫レ人ノ思量ナキ所ニ於テ俄ニ多少ノ出費ニ及ブ、之ヲ厭フ人ノ常情ナリ、諸県下動乱ノ日其苦情ヲ告訴セシ表状ヲ以テ明白ナルヲ知ラン、是レ上ニ言ヘル法令ノ耳目ニ新キト不測ノ失費ノ多キトニ根ス、然トモ畢竟 朝旨ノ下達セザルニ出ツ、然ラバ教ヘズシテ民ヲ死地ニ陥ル、ニ近カラン、豈ニ誰カ慨歎セザランヤ、是ヲ以テ愚按ニ、先ツ第一文学才識篤実ナル士ヲ精撰セラレ、管轄所ハ寒村僻里ニ至ル迄区々一村モ漏サス巡廻セシメ、到ル処其里

正ノ宅或ハ社寺等ニ於テ、村内限り毎戸一名ツ、呼集メ、但シ老少婦女子ト雖モ手透ノ者ハ勝手ニ來聴スベキ旨ヲ令シ、偕一同來會セ^(マ)ハ自ラ席ヲ設ケ、先ツ大政改革ノ大意字内日新ノ形勢、外国交際ノ事情ヨリ文学・究理・工芸・化学等ニ至ル迄大略ヲ適宜ニ話説シ、又智ヲ開キオヲ研クノ聖旨ヨリ或ハ教導ノ意ヲ慈子・敬神・愛國ノ三則ノ大意ヲモ講説シ、就テ小学校ハ幼童ヨリ其才智ヲ生育シ、身ヲ立テ家ヲ興スノ根本ナレハ、第一此設ケ無ンバ有ル可ラズ、銘々篤ト此趣旨ヲ會得シテ速ニ小学校ヲ建設スベシトノ意ヲ反覆丁寧ニ懇諭セバ、民始テ雲霧ヲ開テ白日ヲ見ルノ思ヲナサン、然レトモ積年因襲ノ頑固ナレハ、一旦ニ旧染ヲ脱シテ心服スレニ至ルハ難キ所アラン、然レトモ一度耳ニ挾ミ心ニ記憶スレバ、先ツ其地位丈ノ心質ヲ得、且ツ開化進歩ノ原素トナラン、其中ニハ卓然ト振起シ自ラ費ヲ献シ衆ヲ鼓舞シテ事ヲ為ス者陸續傑出センコト又奚ソ疑ン、

右巡回ノ教士ハ県庁ノ官員ニ限レドモ、若シ人員不足

ナラバ貫屬士族ノ中ニテ精撰シ挙用セバ可ナラン、巡回中ノ沐浴ハ其土地ノ村費タル勿論ノ事ナレハ、巡回中ノ費用ハ僅々些少ノ給ニテ足ルベシ、是等ノ儀ハ建議シ玉ハ、何程モ良策アルベキ也、

是ヲ以愚窃ニ謂ラク、願クハ廟堂ニ之ヲ御採用アラセラレテ、普ク海内ニ布令シ、府々県々之ヲ奉シ、誠ニ能ク其人ヲ得テ施行セシメハ、豈何ソ教導師ヲ待タン、開明教化之功日ヲ期シテ待ツベキナリ、彼ノ血稅等ノ誤解ハ勿論、鎮西諸國暴動ノ如キ万々アルマジキ也以下略ス、

右ハ上意ノ下達セザルヲ深ク歎息ノ余、忌諱ヲ冒シ愚陳ニ及タルナレトモ、爾後新聞紙中ニモ同意ノ文モ多ク散見セリ、因テ其中ノ一二ヲ略挙シテ廟堂御參考ニ備フ、

日新真事誌二周年第五十二号ニ、山梨県ヨリノ建白ニ謹テ按ルニ、維新以來万機御更張細大悉ク挙リ、都会ノ民ノ如キハ開明ノ実境ヲ目撃シ^{云々、中略}、僻邑寒陋ニ至テハ未タ政体ノ何モノタルヲ解セス^{是實地ノ言、只恨クハ、}頑愚固^{在上諸君ノ知ラザルヲ}

陋上意ノアル所ヲ知ラス、遂ニ禍乱ヲ醸成スルニ至ル、
既ニ当県及ヒ新潟・大分・敦賀・北条諸県ノ如キ是ナリ、
右ハ素ヨリ無智昧ノ致ス所ト雖モ、抑亦因テ起ル所ア
ルカ、方今万機御改正ノ際、太政官諸省ノ達書陸統御頒
布、就中御規則類ノ如キハ細字数十枚モ有之、則徴兵令
改正・郵便規則・証券印紙規則等ハ、伝写ノ勞一人一日
ヲ費スモ猶余リアルモノ有リ、当県ヲ以テ算スルニ、当
明治六年第一月ヨリ五月ニ至ル迄凡百二十三件、其他県
庁限リ概要ノ布告八十五件アリ、三府及ヒ開進ノ諸県ハ
遠ク上木ノ挙行ハレ候得共、僻遠ノ諸県ニ至テハ行レ難
ク、当県従前ノ仕来リヲ見ルニ、先ツ一通ヲ写シ当直ノ
区長ニ達シ、区長亦之ヲ区中毎村ノ戸長ニ達シ、戸長之
ヲ村内ノ人民ニ伝達ス、伝写ヲ算スルニ惣計九百五十三
通ニ至ル、其煩忙想像スヘシ、此際遅延ノ患アリ、伝写
ノ誤アリ、甚キハ其勞ニ堪ヘス配達ヲ欠クノ弊ナキニ非
ス、概シテ之ヲ云ヘハ、維新以來ノ布告ヲ知ラサル者十
ガ八九ニ居ル云々、夫此ノ如クニシテ上意何ヲ以テ貫徹

セン以下略、

愚曰ク、予ハ辺鄙ニ住スルヲ以テ民俗ノ常情ヲ熟知ス、
故ニ上件ノ言ニ感徹ス、実ニ御布告ヲ知ラザル者十ガ
九ニ過クベシ、然ルニ三十日間揭示ノ後ハ皆知リタル
者ト見做ス云々ハ、何等ノ苛法ナルヤ、是レ國中ニ陷
阱ヲ作ルト同一ナラン、然トモ上ニテ苛政ヲ行フニハ
非ス、下民ノ情実ヲ識察セザルニ因ルナラン、

同第六十四号ニ載ル所ノ投書ニ、夫戸長ノ職ニ在ルヤ、
其勤ムル所上旨ヲ下達シ下情ヲ上聞シ、人民ヲシテ政治
ノ嚮フ所ヲ知シメ、以テ衆庶其業ニ安ンセシムルヲ任ト
ス、故ニ其位賤シト雖モ其責重シ云々、鎮西諸県下ノ兇
徒暴動シ、其大ナルハ官金ヲ奪却シ県庁ヲ破却シ、官員
士族ヲ害シ、其小ナルハ家財ヲ毀壞シ産業ヲ頽頽シ、一
身九族ヲ害スルニ至ル、此民ヲ視ルニ、固ヨリ頑愚陋痴
ノ致ス所ト雖モ、一ハ上意ノ下達セザルト下情ノ上聞セ
ザルニ因レリ云々、是レ戸長ノ其任ヲ尽ザル乎、抑其任ニ
堪ヘザル乎云々以、
下略ス、

愚曰ク、上旨ヲ下達シ下情ヲ上聞スルヲ戸長ノ任トスル説ハ、上ニ拳ケタル小栗氏ノ論ト同意ナリ、此他任ヲ正副戸長ニ責ル者比々之アリト雖モ、愚思フニ三長固ヨリ其任タリト雖、方今三長ノ事務繁忙ノ際ニ処シテ、煩煩ノ布令之ヲ誦読スルニ違アラズ、猶何ノ暇アツテカ毎家ニ論説スルコトヲ得ン、況ヤ其撰ニ当ツベキ人寥寥タルヲヤ、各県庁ニ於テモ其土人ノ投票ニ任セテ登用スルモ多カルベシ、三長ノ任ニ当ル固ヨリ其人乏シ、然ラハ何ヲ以テ下民ヲ教化スルヲ得ンヤ、此篇中ニモ言ル如ク、県庁ヲ破却シ官員ヲ害シ、而シテ其身終ニ九族ヲ害スルニ及ト、然ルヲ顧ミザルニ至ル者ハ積怨ノナス所ニ非スヤ、是予ガ三長ノ力ノ決シテ及ブ所ニ非ズト云モノハ是也、

同第八十一号ニ、三瀨県権参事ヨリ邏卒ヲ置ンコトヲ建白ノ抄略原文ナルヲ以テ僅ニ摘拳ス、

臣時景ヲ察スルニ、諸方党民甲起リ乙斃レ、概ネ虚日ナシ、鎮兵ノ来ル常ニ乱後ニ在リ云々、県庁ノ最モ切要ナ

ル者邏卒ナリ、今若シ官費ヲ以テ邏卒二百名若クハ三百名置クヲ許サレ、平素巡邏シ人民ヲ勸懲シ、一旦事アラハ臣等適宜ノ処置ヲ以テ邏卒ヲ役シ暴民ヲ威制シ、禍ノ少キニ防クベシ、若シ鎮定ニ至ラスシテ鎮兵ヲ乞フモ、数日ヲ支吾スルニ足レリ云々、国家誠ニ費用ヲ惜マスンバ人民ノ幸何ヲ以テ之ヲ加シ云々、臣隣県ニ在テ近日福岡県ノ変ヲ見ルニ、官私ノ失亡人民ノ不幸言ニ忍ヒザル者アリ、今其一ニヲ挙ルニ、官員并人民ノ死傷幾十人、良民ノ罪ニ係ル者幾万人、良民ノ失産スル幾千人、数旬ノ間人民ノ休業スル者幾万人、鎮兵ノ出張其費幾許、貫屬ヲ募リ一時防禦スル其費幾許、官員其他往復探索等ノ旅費幾許ヲ知ラス、是皆臣等失職ノ所為ト雖モ、時勢ノ已ムヘカラス、皇徳皇威ヲ損スルモ亦大ナリ云々以下略ス、

愚曰ク、右邏卒ヲ置ノ議案當時ニ在テハ条理至当ナラシ、然ドモ愚ノ前件ニ陳述セル教員ヲ派出シ、毎戸説諭セシムルノ策ヲ挙用シ玉ハ、擾乱預防ノ術却テ邏

卒ニ勝ル、万々ナラン、且ツ彼レヲ用ルハ則チ威力ニ出テ、此ヲ用ルハ則チ教化ニ出ツ、威力ヲ以テ民ヲ制スルト、教化ヲ以テ民ヲ保スルト、其得失利病ハ言ヲ待ザルベシ、然レトモ唯其人ヲ得ルヲ難トス、聖主誠ニ能ク下民ヲ保スル赤子ヲ保スルノ意ヲ以テ官費ヲ惜マズンハ、畜ニ此民ノ幸福ノミナラズ、亦朝廷ノ幸福ナリ、下民協和シテ各其業ヲ安スルノ日ニ至ラハ、彼ノ橋爪某ノ創建セル外債三千余万金ノ消却法モ日ヲ期シテ成就スベシ、又云、篇中人民ノ不幸言ニ忍ヒザルノ語ヲ讀テ、愴然トシテ涙ノ下ルヲ覺^ウベス、此民ノ不幸ハ即チ朝廷ノ不幸ナリ、其ノ皇徳ヲ果シ皇威ヲ損スルモ亦鮮カラズ、嗚呼苟モ志シ有モノ誰カ痛歎セザランヤ、

東京日々新聞第四百八十五号中ニ、加藤某ノ投書抄略、凡ソ物其平ヲ得ザレハ則チ鳴ル、民ニ動揺暴挙アルハ果シテ不平ナル所アレバ也、夫レ民ハ國ノ元氣、能ク民心ヲ得レハ國治リ、民心ヲ失ヘハ國乱ル^{此一言治國ノ大本、民ヲ}

養フニ注意セスシテ法律ヲ嚴ニシ稅斂ヲ厚クシ、之ニ攘奪盜擄ナキヲ禁シ、之ニ暴戻詐偽ナキヲ戒ムル時ハ、是ノ民入テハ以テ父母ヲ養フ能ハス、出テハ以テ羅網ニ罹ル、進退出入座シテ死地ニ就^ルンヨリ寧ロ法ヲ犯シテ官ニ迫リ、民間ノ苦ヲ除クニ不如ト云ニ至ル^{愚云、窮鼠却テ猫ヲ}ニ非ル、是時ニ及ンテ百方説諭シ或ハ法ヲ論シテ罰金ニ當^{嚇ノ聲、紙上ノ空言}テ、或ハ兵ヲ加ヘテ斬絞ニ処シ、以テ其法ヲ正スモ、民ノ塗炭ハ殆ト窮ル、焉ソ民ノ父母タル道ニ在ンヤ、夫レ天ハ生ヲ好ンテ死ヲ欲セス、人君ハ乃天ノ子也、天ニ代リテ化育ヲ養ルノ任ナリ、故ニ人君ノ民ヲ視ル、固ヨリ子ノ如クナルベシ、今其子ノ死地ニ就クヲ見ル、父母ノ心ニ於テ如何ソヤ、是非曲直ヲ問ズンテ赴キ救ハザルヲ得ス中略、維新以降文物紀綱大ニ開明シ、制度百變頗ル旧染ヲ脱シ、日ニ進歩ノ域ニ至ル者ハ独交際上ニ關係スルノ徒ノミ、其他一切天下ノ人民ニ至テハ、尚未タ遍ク恩雨ヲ蒙ラズ、一ト度手足ヲ動スニモ恟々トシテ只違式律ニ陥ランコトヲ恐ル、進歩ノ人ハ愈々喜悅シ、下愚ノ

民ハ愈憂戚ス、憂戚内ニ積テ訴ル所ナシ、遂ニ身ヲ刑戮ノ地ニ投シテ悔ヒス、新瀉ノ動揺ヨリ山梨・名東・大分・敦賀・鳥取等ノ蜂起続々トシテ相踵キ、交々寧歳ナキハ是其証ナリ、就中福岡凶徒ノ如キハ是其首幹タルモノニシテ、皇天怨怒ノ致ス所諸家ノ文中制度ノ失ヲ説モノ數十家アレトモ、皇天怨怒ニ出ルヲ説解スル者此ニ始テ見ル英識々々大ニ官手ヲ勞スル者公法ヲ以テ之ヲ論スレハ、是悍民意ヲ逞シテ法ヲ乱ル、其罪死ニ容レズ、一日官兵其罪ヲ問フニ至テハ、一敗地ニ塗レテ余類ナキハ断然タリ、我ヲ以テ之ヲ論スレハ、堂々タル王師ヲ以テ無智頑愚ノ民ヲ討ツ、誰カ敢テ敵スル者ゾ、父ノ威ヲ以テ子ヲ畏セシム、豈功トスルコトヲ得ンヤ、百戰百勝ハ兵家モ猶取ラズ、戦カズシテ人ノ勢ヲ屈スル、乃チ善ノ善ナル者也、姑ク寛仁大度ノ心ヲ存シ、乱ノ興ラサル日ニ先達テ愛民ノ御政度アラントヲ願フ也云々、夫レ上愛民ノ政アレハ下必ス愛戴ノ心有テ離叛セズ、廉恥ヲ重ンシテ報國ノ志厚シ、仏國ノ債億万ノ多キモ國民之ヲ償却シテ徳色ナキハ是其証也云々、誠ニ能ク昇平無窮ノ治ヲ欲セハ、民

ノ元氣ヲ養テ不平ヲ懷ク無カラシムルヲ緊要トス云々、愚曰ク、前諸篇ニ条陳スルガ如ク、自ラ身ヲ刑戮ニ投シテ悔ヒザルノミナラス、家ヲ凶シシ三族ヲ失フ、然ルヲモ願ミザル其中心懲察セザル可ンヤ、

報知新聞第六十二号中ニ、浅草澆花翁ノ投書ニ、政令ノ行ハル、ハ下情ニ適スレバ也、下情ニ適セザレハ民信セス、先聖モ民信ハ兵食ヨリ重キト云ヘリ、兵食ヲ充実ニ為スハ所謂富強ヲ謀ル也、サレハ其國ヲ富強ニ為ントセバ民信ヲ得ルヲ基礎トス、民信ヲ得ルハ下情ヲ知ルニアリ、廟堂要路ノ人下情ヲ知ラザレハ、燈火ナクシテ暗夜ヲ行カ如シ、何程経史ヲ暗誦シ治乱興廃ノ理ニ通シ、喋々其道ヲ論スルトモ、席上ノ空論現場ニ臨テ行レズ、如何トナレハ、風土アリ、時勢アリ、民情区々ナルガ故ニ漢土西洋ノ良法モ下情ニ適セザル事アレバ也云々、方今西洋各国ノ文明開化ニ擬シ、速ニ彼ト並馳ントシテモ、皇國二千年來ノ眼目ニシテ知識容易ニ開キ難ケレバ、緩急ノ順序ニ随ヒ漸（衍カ）ヲ以テスルノ外ナシ、今ヤ都下

ノ民尚文盲蠢愚半ニ過タリ、況ヤ僻邑遐陬ニ至リテハ里正モ無筆無算ニテ、一人ノ書記ヲ抱ヘ置キ、時々ノ御布告御布達ハ其書記ニ写サセ置ノミニテ、何物タルヲ知ラス、是ヲ以テ血税ノ聽濫ヨリ大沸騰ヲ起シ、地券地租ノ調査モ未ダ民心ニ適セズ、証券・印税モ輦下スラ未タノ者ハ了解セス云々、畢竟漢語交リノ公文ナル故、戸長等モ読得ザルガ多ク、漸ク読得タルモ其旨趣全ク落意セス、各府県へ学校建設ノ御世話アルハ是カ為トモ思ハルレド、幼童少年ノ書算ニ熟シ事理ヲ知り得ル迄ノウチ、此姿ニテハ差聞申ベシ、又学問モ致シヤウニテ其見識高尚ニナリ、衆人ヲ眼下ニ見下シ、糞土ノ農業ナドハ忌嫌ヒ、座食ノ徒多クナラバ一害ヲ招クニ似タリ、是等ノ下情ヲ知ロシメサレンニハ、鄙賤ノ家ニ長シ数多ノ酸苦ヲ嘗メタル老成人両三輩ヲ廟堂上ニ被差置、顧問ニ備ヘ給ハ、然ルベシ、皇国ハ万代不易ノ 皇帝座シマセハ、臣民ノ上ニ於テ叛心ヲ抱ク者ハアラジ、然レトモ民心ノ信服スルト否ラザルトハ、皇紀ノ隆替ニ関スレハ最以テ急務ナル

ベシ、方今上下同治ノ御政体ト奉存レハ、上意下情相通セスンハアル可ラス中略、伝ヘ聞、西洋各国ニテハ下民ヨリ惣代人ヲ举サセ、万機協議シテ施行スト云ヘリ、兎ニ角ニ下情ヲ知シ召レテ民心ノ信服スルヤウニ有タキ事ナリ、仰キ願クハ、高貴ノ門ニ踵ラン御人ハ此旨忠告アラン事ヲ、

愚曰ク、言々皆実着、其中漢語交リノ公文ニテ下民ニ通シ難キノ苦情ヲ鳴シタル投書等、新聞紙上ニ枚挙シ難ケレトモ、廟上ニ於テハ聊モ意ニ注メサセザルハ何ソヤ、抑朝旨ノ下ニ貫徹セザル所以ハ、客年壬申以來ノ制度ハ悉皆洋法ニ擬シテ創建セラル、ヲ以テ也、夫レ二千余年来ノ旧法ヲ廢シテ三千里外ノ新法ヲ用ユ、是レ人毎ニ説キ家毎ニ論シ、十数年ノ久キヲ経テモ尚全国ニ普ク貫徹セザルヲ恐ル、而ルヲ下民ノ読ミ難ク曉リ難キ告諭ノ新令日ニ月ニ頒布シテ、一旦ニ改変セシメント欲ス、亦難ヒカナ、是所謂民ニ教ヘズシテ民ヲ棄ルニ近カラン歟、

同第二百三十九号(星)ニ瀋西(星)隠士ノ投書中ニ、

前文 略ス 今ヤ各府各県学校ノ設ケ頗ル盛ンシテ、教化ノ道

稍備ルト云ベシ、而シテ人情日ニ忠実ヲ棄テ貪憚放恣ニ流ル、若シ此弊益甚ク人々眼ニ開化ノ皮相ヲ喜ビ、口ニ文明ノ糟粕ヲ舐(舐)リ、節操ナク廉恥ナク、輕佻浮薄ノ民ト為ラバ、縱令鉄道千里石橋百路アリトモ、何ヲ以テ海外ノ諸邦ト並立スルヲ得ンヤ、草莽ノ鄙人其位ニ在ザレハ其政ヲ謀ラズ、在上ノ君子鬻舎ノ教官宜シク注意アランコトヲ希望ス、

愚曰ク、此ノ篇首ニ人情日ニ忠実ヲ棄テ、貪憚云々ハ前条中ニ其見識高尚ニナリ衆人ヲ眼下ニ見下ス云々ト同致ニシテ、方今浮薄ノ世態ヲ憂憤ノ余声ニ出タルニテ、之レニ髣髴タル文意ノ投書モ尚許多アレトモ、煩キヲ以テ此ニ挙ケズ、然トモ実ニ人情日ニ浮薄トナツテ廉恥地ヲ払フガ如ク、殊更書生ノ如キハ多ク傲慢無礼ニシテ輕佻放恣ナルハ、世人挙テ厭嫌ヘトモ是亦在上諸公ノ知ラザル所ナラン、

日々新聞第五百五十九号中ニ、澳國博覽會ノ在留人ヨリ來書ヲ掲ケシ其中ニ、機械器械モ千百種アリ、一々目ヲ驚カス簡便至妙具ニテ、就中天鵝絨機等尤モ妙ト雖モ、今我邦ニ之ヲ用ル共、大金ヲ擲テ機械ヲ買入レシ丈ノ功用ハ有マシ、自國ニテ習熟セル手織ヲ今一段研精シテ、日本品ヲ盛ニ織出スコト緊用ナリ、西洋風ニ模擬シタル織物等ハ更ニ熟視スル者ナシ、誰カ見テモ日本品ト分ル様ニスルカ國產ヲ開ク第一務ナリ云々前後共ニ都テ略

愚曰ク、此ノ一条ハ誠ニ瑣事ト雖モ、從來洋行ノ生徒彼國ノ奇巧ヲ羨慕シ、遂ニ其器械ヲ購ヒ以テ其物品ヲ模倣センコトヲ謀ル者多シト聞ク、然ルニ此在留人ハ彼ノ妙機ヲ見テ却テ我カ邦人ニ諭警ス、其心ヲ國事ニ用ル、彼ノ國財減却ニ及ブ所ニ慮リナク輕率驕進ノ徒ト霄壤ノ差アルヲ見ル、且言フ、誰カ見テモ日本品ト分ル様ニスルガ國產ヲ開ク第一也ト、能國体ヲ知ル者ト謂ベシ、愚思フニ、唯ニ品物ノミナラス、人物ニ於ルモ亦然ラン、庶幾ハ自今以後外國ヘ航到スル者ハ洋

服ヲ用ヒス本邦ノ服ヲ便利ニ製シ、官員・書生ノ輩ハ割羽織袴其人ノ分ニ応シ美製ヲ用ヒ、且双刀ニ非ルモ小刀ヲハ帯ル様ニイタシ度、何レノ國ヘ到リテモ日本人ト目立チ称美セラル、コソ國ノ光輝ナルベシ、

日新真事誌第二百廿三号ニ、一千八百七十三年一月十五日横浜新聞ニ曰、ドクトルフラムノ旅行記ニ日本人ノ究理ト性理ノコトニ於テハ支那人ヨリモ劣レリ、然レトモ身持正シクシテ温和ナルハ、東方諸國ノ人民ノ上ニ出テ最モ勝レタルモノトス愚云、是レ往古ヨリ君子國ト、稱セラレシ國體ノ余風ナラン、又日本人ノ衣服ノ風俗ハ「ニウヨルク」ノ「フロードウエイ」ノ衣服ノ風俗ヨリ一層美麗ナル裝飾ナリ、且方今流行ノ風俗ハ笑フ可キノ至リ也云々、

愚曩歲波爾杜瓦爾爾使ノ時勢論ト題セシ書ヲ一閱セシ(符カ)シガ、其中ニ載タル言ニ曰ク、

日本ノ服制ハ海内無二ノ美服ニシテ、威アツテ猛カラズ、誠ニ大壯觀トスル処ナリ、然ルニ徳川氏以來日ニ随ヒ月ヲ追テ西洋各國ノ風習ヲ学ヒ、日本不産ノ毛布ヲ好シテ

土地出產ノ名品ヲ輕シ、国力ヲ費耗スル事一ケ年ニ幾百万ソヤ云々、中略、誠ニ可笑ノ姿粧タリ、何カ故ニ旧來ノ服ヲ廢シテ如此ノ乱服ニ變シタルヤ、夫レ服制ト云モノハ貴賤老若共ニ服ニ触レ耳ニ聞テ是ヲ尊敬シ彼ヲ賤ム、貴賤ノ目標タリ、故ニ其制輕々シク變スベキニ非ス、如斯遠謀識略モナク各位ノ欲スルニ随テ恣マ、ニ更改シ、虎頭蛇尾妖怪ノ粧ヲ禁セザルハ、無識ノ甚キ者也云々、

愚曰、此他日本ノ美服ヲ稱セシコトハ諸新聞誌中ヲ始メ諸書ニ散見シテ拳ルニ違アラズ、惟遺憾ノ甚キハ則報知新聞第三十二号ニ、英国電動新聞ニ曰ク、日本全權大使及付屬ノ大藏省・外務省・工部省・戸籍局及医学局ノ官員等、「グランウキルレ」侯并其夫人ト共ニ喫食アリ、食了リテ万国生産博物館及ヒ官有ノ園庭等ヲ歴觀アリタリ云々、中略、博物館ノ中廊ニ至リテハ左右ニ群集セル見物人ノ中ヲ通行セラレタリ、其時見物人日本服ノ奇麗ニシテ人目ヲ驚ス見ント欲セシニ、豈ニ計ンヤ、西洋服ナルニ依テ大ニ失望セリ、西國人ニ誇レタル日本大使并其

倍従ノ人々、自国ノ衣服ヲ捨テ歐羅巴及亞米利加衣服着用セルガ故ニ、之ヲ西国人ト區別スルコト甚難シ云々、大使ヘ同行ノ西国人「ロベルトセ・スローン」氏ハ生国ハ「カナダ」ニシテ、血統ハ「スコット」ナリ云々、旅客ノ各稍不規則ナル及ビ迷ハシキ有様ニテ、実ヲ言ヘバ甚ダ暗キ通路ヲ通りテ室ニ着シ、同所東方ノ端ニ於テ座ヲ取り定メリ云々以下略、

愚曰、此篇一読シテ三歎堪ヘス、前件ニ挙ル如ク、日本ノ美服ハ皆外国ニテ称誉スル所ナリ、故ニ英人ノ日本入ハ自国ノ衣服ヲ捨テ欧米ノ衣服ヲ着用スト嘲笑セラル、ニ至ル、苟モ国ヲ愛スル者誰カ慨嘆セザランヤ、古昔粟田真人遣唐使ト為テ唐ノ武后ノ朝ニ出ル時、進徳冠ニテ頂ニ華鬘アリ、四披紫袍帛帶シテ威儀神ノ如シ、滿朝見ル者嘆美セザルナシト唐書ニ見ヘタリ、千載相伝ヘテ美談ナル、夫レ此ノ如クニシテ、国体相立チ 皇威モ亦相耀クト云ヘシ、然ルヲ向ニ全權大使ノ洋服ヲ服シテ洋行アラセラレシハ、輕便ヲ旨トノ賢慮

ナランカ、然レトモ世人窃ニ之ヲ歎惜ス、仰冀ハ本邦一定ノ服色制度ヲ御建議アラセラレシコトヲ、

日新真事誌第二十号ニ、西村勝郎ノ建言ヲ抄略、曰ク、此程工部省ニテ数多ノ西洋人ヲ被召抱、海外諸国ノ物品御製造所開キ相成トノ由、此儀ハ近来皇国一般ノ流行ナレトモ、其利害得失ニ至テハ如何可有之哉、夫レ国ニ天授ノ産物アリ、民ニ天授ノ職業アリ、国ハ国ニ備ルノ産物ヲ完成シ、民ハ民タルノ職業ヲ勉勵シテ以テ能ク国家ヲ富スベシ、我 皇国ノ如キハ地球温和ノ中位ニ居リ、寒暖宜キニ協ヒ、土地肥腴ニシテ千品万物一ツモ蕃殖セザル者ナン、何ソ海外地方ノ物産ヲ羨マン哉、只恐ルベキ弊害ハ人民目的ヲ誤リ開化ノ順路ヲ失フニアリ、今外国物品ノ工作ヲ我国内ニ起サントスルニハ、先ツ必要ノ器械ヲ外国ヨリ買ハザル可ラズ、唯其器械ヲ買フノミナラズ、又教師ヲ雇ハザルヲ得ス、是カ為ニ彼ニ利ヲ得ラル、コト莫大ナラン、然シテ其器械ヨリ造リ出セシ物ニ至テハ、恐クハ彼ヨリ利ヲ得ルハ難カラン

愚云、至言、方今參政ノ諸

公深味セラ、唯僅ニ自国ノ用ニ供スルノミ、国益ト云フ能
レハ幸甚

ハズ、蓋シ本ヲ立ルニ彼ヲ利シ、末ヲ務メテ我ヲ利スル
能ハス、是其不利一ナリ、若シ今強テ其器械ヲ買入レ彼
ガ教ル所ニ從テ之ヲ運用セシメハ、多少必ス其物ヲ造リ
出スベシ、然レトモ時トシテ器械損セザルヲ得ス、依テ
又幾許ノ金ヲ費シ、加ルニ数日業ヲ止メテ其修補ヲ外国
ニ仰ク、此ノ如キ不自由ヲ經テ造成トモ、其物品良美ニ
シテ且ツ廉価ナルヲ得ベケンヤ、是其不利二ツナリ、斯
ノ如クニシテ終ニ能ク是ヲ為シ得ザルトキハ、我天授固
有ノ業モ亦益々廢シテ本末共ニ失フニ至ルベシ、是其害
ノ三也中略、憶フニ物産未富人智未開シテ唯汽器械ヲ以
テ人工ヲ省クコトヲ務レハ、其帰スル所多分閑民ノ數ヲ
増スニ至ラン、然トモ方今器械ノ国家ニ大益アルハ固ヨ
リ言ヲ待タス、故ニ之ヲ有利ニ用ヒテ不利ニ用ルコト無
ンハ、国ノ幸福更ニ大ナラン、抑 皇国ノ主タルモノハ
勸農ニアリ、就中桑茶ニ至テハ尤モ国ノ大産ニシテ、闔
国ノ貧富ハ此兩産ニ係ルヘシ、而ルニ目今歐羅巴諸国ニ

於テハ常ニ「イタリヤ」「フランス」支那等ノ糸ヲ以テ
上品トシ、皇国ノ糸ヲ以テ下品トス云々、嘗テ聞ク、
皇国ノ蚕産ハ自然地球上ニ冠タルト、然ルニ今其実際ニ
及テ此ノ如シ、是我蚕性ノ古ニ劣リタルニ非ス、業ノ彼
ニ劣リタルナルベシ中略、茶ハ今僅ニ米國ニ鬻クノミ、
歐羅巴諸国ハ太抵支那ノ産ニテ本邦ノ産ハ其万分ノ一ニ
過キス、夫レ茶ノ如キハ鉄工・織物等ニ異ニシテ、一ト
度用ヲ過レハ直ニ廢物ト為ル、時々剋々費ス所其數限リ
アル可ラス、總テ此ノ如キ物産ハ抵価ト雖モ其利却テ大
ナリトス、故ニ今之ヲ盛大ニ起シ、利ヲ薄クシ倍ヲ厚フ
シ、以テ更ニ支那ノ産ヲ压倒シ、終ニ歐米ヲシテ尽ク我
國産ノ茶ヲ用ルニ至ラシメハ、全国七分ハ此一産ヲ以テ
人民ヲ養フニ足ルベシ、何ソ区々トシテ其一隅ヲ守ルコ
ト有ンヤ云々、唯政府ノ着眼ハ自國ノ物品ヲ厚スルニ在
テ、他國ノ物産ヲ羨ムニ非スト云コトヲ天下ニ示サハ幸
甚ナラン一篇ノ大眼目、夫レ國ヲ富スハ自國ノ物産ヲ厚クシテ
他國ノ物産ヲ仮ラス、他國ノ長所ヲ羨マスシテ自國ノ長

所ヲ研究ス云々、万国ニ弘マル所ノ利ヲ取テ一国ニ満ルノ用ニ費ス、是經濟ノ主要ナラン歟、

愚曰、商人ニシテ此卓識アリ、有可見テ赧然セザランヤ、人民目的ヲ誤リ開化ノ順序ヲ失フト云ヒ、器械ヲ有利ニ用テ不利ニ用ルコト無ンハ国ノ幸福云々ノ言皆割切、又自国ノ物産ヲ厚クシテ他国ノ物産ヲ羨マス云々等ニ至テハ、実ニ經濟ノ要務、富国ノ基礎ヲ建ツルモノハ先ツ之ヨリ手下スベシ、当路ノ諸公商人ノ言ヲ以テ輕忽トスルナクンハ国家ノ至幸也、

右新聞月旦ハ去明治六年中一時ノ隨筆ナリ、其他輯録セル議論類多少アリト雖モ、却テ

賢覽ヲ煩シ奉ンコトヲ恐レ此ニ僅ニ十数条ヲ挙ケ蕪雜ヲ削リ、忌諱ニ触ル、処ヲ省略セント、俄ニ淨写ニ臨ミ刪訂ヲ加レトモ、元來非才謏劣文辭ニ倣ハス、殊ニ老邁騰写シ、略字相交ヘ衍文・脱字等出来、書式尊崇ヲ欠キ言辭不敬ニ涉リ、甚以恐懼ノ至リニ堪ヘズ、然

トモ昔賢ノ所謂聚衆思広忠益ノ尊慮ヲ以テ藁籠中ノ一物ニ備ヘサセラレント、愛国一片ノ赤心ヨリ野人ノ芹曝ヲ表呈ス、伏冀ハ諒察シ玉ハンコトヲ、

明治七年甲戌五月

熊谷県管下上毛富岡

医生一万田如水拜具

冊子原寸 縦一九・三釐 横二三・七釐 四〇枚

〇三七 久光公へ外国公使接待費等下賜ノ件

三六 三条太政大臣より島津左府公へ

伊地知壯之丞之件

〔封筒〕
「島津左府殿 実美」

〔封筒ウラ〕
「」

〔封紙ウラ書〕
「島津左府公 実美」

「」

御安康奉賀候、然は過刻ハ御書中伊知地昇階之義ニ付、

御心付之趣御尤ニ存候、同人之義相見合置申候、仍御答

申陳度如此候也、

六月五日

文書原寸 縦一七・三種 封筒原寸 縦一八・五種

横五六・七種 横 六・三種

三九 岩倉右府公より島津左府公へ

清国事件?

〔封筒〕
「島津左大臣殿 具視」

閣下

〔封筒ウラ〕
「封」

弥御清栄令賀候、然は別紙春嶽卿より来状之末徳大寺卿

〔松平慶永〕

〔実地〕

江申入、先例取調之事申談候所、別紙之通りニ候、
〔三条実美〕

江も申入置候、御賢慮如何拝承致し度、其上ニ而伊達卿

〔宗城〕

も一応御暇相成り候筈ニ候、仍早々如此候也、

六月五日

左府公
閣下

具視

文書原寸 縦一七・五種 封筒原寸 縦二一・八種

横四八・三種 横 七・三種

三〇〇 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

久光公ノ意見書撤回

〔封筒〕
「島津左府公 実美」

〔封筒ウラ〕
「緘」

御安全奉大賀候、先日御差出相成候御見込書二通、奈良

〔繁〕

原を以返上可仕御示ニ付、即返上仕候、御落手可被下候

也、

六月六日

実美

島津殿

文書原寸 縦一六・八種 封筒原寸 縦一九・七種

横四一・六種 横 六・八種

三〇二 三条梨堂ヨリ久光公へ

木戸参議ノ不平辞意ヲ懇諭ノ件

(端裏書)
「梨堂実美」

梅雨鬱陶候、益勇健大賀候、過刻は紙面を以て縷々申越候趣逐一領承仕候、鐵路云々之議も猶足下考慮之筋も有之候由、何れ明日面上縷々可承と存候、(孝九)扱木戸(真臣)從三位参議之義も広沢迄段々苦情申陳、御猶予相願候得共、猶今日從下官以密使懇ニ申遣候処、先ハ御請も可仕と相察申候、乍併明日表向被仰付候上、如何可有之哉と存候、猶御足勞ながら從先生も懇諭有之候ハ、甚力を得申候間、宜周旋有之度存候、任序過刻報答勞密々申入候、勿々不備、

六月六日

梨堂

(本文書ハ明治七年トアルモ、明治三年ノ誤リカ)

文書原寸 縦一八・二極 横六〇・五極

三〇三 茨城県士族 鈴木大ヨリ久光公へノ建言 二冊
教部中録

官吏大陶汰ノ件

三〇二ノ一

御含置迄ニ内密奉申上候事

別紙諸官員黜陟之儀御施行ニ付而ハ、別ニ又一難事と奉存候儀御座候、如何となれハ、不平之徒事を公議ニ托シ、百般及流言候儀指見エ奉存候、乍然小不忍乱大謀と之古訓も有之、自古英雄之事を為スヤ一定之見を確立シ不疑不惑、変ニ応シ機ニ投シ、而後事效始而挙リ候事ニ御座候間、勿論申上候迄も無之、右難事ハ御内算御確立被為在候御事とハ奉存候得共、大之愚見も奉申上御参考万分之一ニ供シ度左ニ奉申上候、

一此ノ三十年來之全国形勢を一覽するニ、国政を改正シ人材を育成致候ハ、薩・肥・水・長・土ニ有之候、右之内水戸ハ数度之困難ニ而人物不残致死去、当時見るニ足ル者一人も無之候、長・土も追々之變に而死シ候者不少候故歎、人物少く見受ケ申候、薩・肥ハ国難等

も無之人物之多キ天下第一と奉存候処、肥之儀ハ閑叟公薨去後纏リ不申候欤に而終ニ当春之一挙ニ及候間、今日ニ至而ハ人材之多キ薩之右ニ出ル者無之事と奉存候、

一御維新之儀ハ薩・長・土・肥之力居多ニ而、諸省使府県右四国之士多く候間、今日黜陟へ御着手被遊候時ハ右申上候難事ハ此ノ長・土・肥之人より必ず起リ可申此ハ一ト先ツ御注意被遊候て可然哉と奉存候、乍然大之所見ニ而ハ左之通ニ御座候、

一長州之人物ニ而以前功勞有之今日閑散之地ニ居候者、大抵今日之御政体を善トハ存シ不申候様子ニ御座候間、右之者を御登用之義御事務欤と奉存候、大之所聞ニテハ左之通リニ御座候、

〔付箋〕
一人物申上候儀ハ容易ニ無御座候処、本文ハ一ト通リ承リ候儀ヲ認メ候ニ付、尚更御注意被下置候様仕度奉存候事」

御維新之時尽力有之後引籠居ル由、人物ハ勅任之人たりと云

當時国ニ居ル(一談)前原彦太郎

丙寅ノ年長州危難之節芸州口之將ニ而當時引込居ル人物ハ奏任之人と云

當時東京ニ居ル楊井謙藏

文久癸亥ノ年薩船ヲ下関ニテ撃候時事を進退シ応接等此人物之由人物ハ前ニ同シ

當時国ニ居ル桂謙介

御維新之時尽力アリ當時引込居ル人物ハ奏任以上之人之由

同(謙輔)奥平百合三郎

同断

同堀新五郎

先ツ此等之人物御騰用ニ而、公論正義ヲ以而御改革御取掛ニ相成候ハ、長州人驟之容レ所有之間敷奉存候、右之外閑散ニ居候人物余程有之由ニ候得共、右之人々挙リ候得ハ随而挙リ候事と奉存候間、一々ハ不申上候、左候得ハ長人ハ動キ申間敷候、

一土州人之義ハ党派数種ニ分れ居候由ニ候得共、其内に而何れ之党よりも人望を得居候者ハ斉藤氏之由ニ候処、此ハ過日被召候由ニ承リ、之ニ加フルニ板垣氏等復職(退助)被仰付候ハ、此又動キ候事ニも相成申間敷奉存候、一肥州人之義ハ此と申不承候得共、大隈氏・大木氏ハ国之人望去リ居候欤と有之候間、征韓論主張之徒御引上ケニ候ハ、異議も有之間敷欤と奉存候、

右ハ甚術数ニ渡リ候様ニ被思召候而ハ恐入候得共、既ニ薩ニ被欺候而ハ指支候扨申儀承候事も御座候間、無御扱御情実被為在候欵とも奉存候ニ付、如何敷とも奉存候得共、却而無伏臆不憚忌諱極密奉申上候事ニ御座候、以上、

明治七年

六月七日

鈴木大恐悚百拜謹言 (朱「鈴木」)

冊子原寸 縦二四・五種 横一七種 五枚

二三〇二二

不憚忌諱奉建言候事

謹テ奉申上候、天下之事可憂可悲之条件ハ、明治五年之冬并同六年之夏奉申上候通りニ而、尚更御旧藩士和田氏集義院へ建言へ大抵拳ヶ置キ候故、今更喋々不奉申上候、扱
從二位様之御進退ハ即天下安危之決スル所と奉存候間、昨年来右へノミ着眼罷在候、豈料らん、大勢御変革御

帰国被遊候ニ付悲歎罷在候処、先般更ニ御上京要路へ御当リ被遊候段、雀躍申迄も無之候、大儀卑賤之身ヲ以而越俎之罪を顧みず、忌憚ヲ犯シ天下之大事ヲ申上候ハ、実ニ恐入候儀ニ候得共、今日之御形勢安シ居兼候事件有之候故奉申上候事ニ御座候、乍然今日之弊を改メ 皇国を山嶽之安ニ御置キ被遊候ニハ、実地上御手順も可被為在、右御手順も元御藩士之内可然御人物数多被為在候間、此以大儀彼此申上候ニも不及候得共、御在職以来三十余日未タ一事も不奉拝見候内、過日以來御引込被遊候由奉承知、御事情ハ不奉承知候得共、窃ニ杞憂罷在候、此ニ因テ愚見之趣又々奉申上候事ニ御座候、

一七年前御維新之御事業相建候儀ハ千条万縷事情ハ有之候得共、一言之ヲ括スレハ、有志之公卿・諸侯・士民迄慷慨発憤勉勵精之致ス所ニテ、幕府天下之政柄ヲ握ルと雖、之ニ当ルコト能ハサレハナリ、右御勉勵之御眼目ハ戊辰ノ春御誓言ニ而赫然明著ニ奉存候、

一今日之御政体可憂可悲ハ此又一言之ヲ括スレハ、怠惰
之一事ニ有之候、右怠惰ハ、廟堂上一二大臣御着眼小
ナルガ故ニ可有之候三条公等小成、
ニ安スルヲ云、此ニ因テ參議之議論
尽スコト能ハザル所アリ西郷氏副島氏議論
用ラレザルヲ云フ、諸省之勅奏官
尽ク其人を得ル能ハズ、加之御維新之日事情已ムコト
を得不得トハ雖、為官撰人之古訓ニ反シ、為人ニ官ヲ撰
び以而其功勞ニ報ひ候間、官其人ニ非ザル者無之ニ非
ず広ク奏任
官ヲ云フ、其人々一旦高位ニ在リ意滿心驕ル、奢侈懶
惰漸ク盛ナリ、此ニ於テヤ公正忠実之士漸ク退キ、阿
諛巧佞之徒漸ク進ム、月ニ積ミ年ニ長ズ、大凡三四年
終ニ今日之形勢ニ至リ、在上公卿唯其一旦事アリ、其
身之安からざるを患フルノミ、天下之利害何物たるを
知らず、徳川之末世と大同小異ニ相成申候、

一風ニ承り候ニハ、廟堂上去年樺太ヲ棄ル之論アリ、朝
鮮・台湾之不法を問ハザル之論アリ、過日英國公使之
事ありと云、此皆御誓言ニ反スル之大なる者にして、
之を、皇国之罪人と云ざる可けんや、殊ニ朝鮮等之事

ニ至而ハ、既ニ、廟堂上之議論のみならず、參議之尊
キヲ以而其論を新聞紙ニ掲ルニ至ル、夫レ朝鮮・台湾
之事ハ議論ヲ弊ス迄も無之、安ゾ其罪を問ハざる可ケ
ンヤ、其罪を問コト能ハざる之國勢たるを知らバ、恐
懼恟慄、広ク衆議を詢ヒ、日夜焦心苦思セズんハある
可らざる者明なり、今や然らず、喋々新聞紙上ニ於而
世上之論を庠伏センと為と雖、識者より之を見れハ自
ら無事安逸を計ル之策ニ過キざる者明々瞭々、疑を容
ル可らず、木戸參議既ニ黜リ固ニ其宜なり、其余之人
々才幹識慮木戸氏之下ニ出ツル様承リ居候間、果して
然らバ今日之參議ハ乍憚老人として參議之任ニ堪ル者
無之と申る可なるべし、此れ外國人之愚弄を免かれざ
る所以にして、皇国之御為メ尤可憂事ニ奉存候、

一凡ソ事其人を得不得ハ其効立ざるハ古今之通論ニ而、申
上候迄も無之、今日之急務ハ唯々其位ニ其人を得候外
ニ御策ハ無之歟と奉存候、就而ハ、廟堂不殘御入替被
遊候外ニ天下之御為ハ無之儀、此又明々瞭々ニ奉存候、

一右之通り申上候得共、右御着手ハ殊之外御至難欵ハ難計奉存候、兎ニ角愚見之趣左之通り申上候事ニ御座候、一此ノ三四年來之懶惰ニ至リ候者ハ、上ニ嚴肅之政無之故ニ付、最上御立場に而御咎人其罪ニ任シ不申候而ハ紀綱相立兼候様奉存候、三条公即其責ニ当リ候間、一旦ハ御辭職被遊候外有之間敷候得共、御維新之御大功も被為在候間、何と欵御優待之道も有之哉と奉存候、一參議之儀ハ西郷氏・副島氏其余征韓ヲ主張之徒御復職有之、征韓論不同意之徒総而免職可然哉と奉存候、一右ニ而先ツ大本御立被遊候儀と奉存候、次ニ奏任官之御黜陟御専務ニ奉存候、

一右ハ諸省奏任官不殘免職被仰出、一省一二人宛別ニ御精撰ニ而御任シ有之、其余ハ総而御用滞在中左院へ出仕セしめ、凡ソ四五十日間議論策問を以テ其人物を試ミ、之ヲ議官議生之公論ニ付シ、其用べきハ用イ用イ可らざる者ハ免シ、僥倖之徒無之様仕度奉存候、

但シ御維新以來有功之徒ハ其賞典を別段ニ被下、御

優待有之候とも其職ニ堪へ不申候者ハ、功之有無ニ不拘必ス免職有之候様仕度候、奏任官之不人物ハ判任官迄、不人物を引入れ其害不少故ニ御座候、就而ハ有徳ヲ位シ有功を賞スル之古訓ニ背キ不申候様、御眼目御立有之度奉存候、

一判任官も矢張諸省一同不殘免職、右奏任同様左院ニ而試験有之候上ニ而御用イ有之可然奉存候、

一右ニ付而ハ第一最初ニ左院之議官等御撰択有之度候、

一地方官之儀ハ一時大ニ動シ候節ハ妄ニ人心を動揺為致候患有之、不容易候間、漸ヲ以御黜陟可然哉と奉存候、

一右ニ而此迄之官員ヲ一洗シ、以後ハ諸省并使府県共登用之者ハ判任ニ至ル迄総而履歷書ヲ以テ正院へ届出、

左院へ三十日間出仕為致、其人物智識并所長迄試ミ候上許可致候様御規定有之度奉存候、

(付紙)

大儀

教部中録拜命罷在候得共、本文職外之儀組越申上候故右御役名ハ記載不仕候」

一右之通り官員登用之道ヲ御鄭重ニ被遊、之ニ加ルニ左之法方御立有之度奉存候、

一凡ソ人を撰挙スルニハ履歷并行実等委細具状スルハ勿論、登用後過失有之候ハ、其罪科ニより而ハ撰挙人迄私党ニ処シ致免職候様御法度御定有之度候、左候得ハ濫進之徒減シ可申奉存候、

一彈正台之職ヲ正院へ被為置、専ら諸官員之正邪得失を糾弾シ、紀綱を嚴肅して風憲を御維持有之度奉存候、

一兼而申上候通り、旧幕人ハ太平之風習骨髓ニ染込ミ居リ、一寸見候てハ用ニ足り候様ニ候得共、諸官省中ニ

而悪事阿諛之甚シキ事よ
起ル事件等ヲ云を為ス者ハ、兎角旧幕人之様見受申候、就而ハ総而旧幕人ハ成丈ケ免職可然奉存候、

尤人物ニ見へ候者ハ可惜義ニも候間、此ハ一般ニ地方庁へ仕官為致、地方之景況を為見習候方可然、且ツ又

地方庁ニハ目未タ東京を見不申候者も有之欵ニ付、右と引替諸官省へ出仕為致候ハ、一ニハ大ニ氣脈も通シ、第一従前之弊習も抜ケ候本と罷成候欵と奉存候、

右之件々御施行罷成候ハ、先ツ此迄之如キ因循ハ御一洗ニも可相成哉と奉存候、此段申上候事、

明治七年 茨城県士族 鈴木大百拜謹言(朱一錦大)

六月七日

冊子原寸 縦二四・五種 横一七種 八枚

三〇三 三条太政大臣より島津左府公へ

久光公建白の件

(包紙ウツ書)

島津従二位殿 実美 請
緘

(別紙) 島津従二位殿三条太政大臣

別紙原寸 縦一七・三種 横五・五種

今朝御紙面之趣謹承候、猶近日中御答可申入候、仍此段貴報申入候也、

六月十日

実美

島津從二位殿

文書原寸 縦一七・三種

包紙原寸 縦二八・三種

横 四二種

横 四〇種

三〇四 堤功長ヨリ島津左府公へ

就職ノ件

(包紙ウリ書)

「島津公 堤功長

殿下

○(朱「紙」)

┌

百拝、不肖功長其任ナクシテ只管官途ヲ希望スル段、太
タ恐懼々々、殊ニ方今ハ正院ヲ始以下各庁御精撰ニテ一
層ノ人才ナクシハ、必任官補等ノコトアラン由拜承ス、
至極々々当然敬賀ス、功長無才トイヘトモ何卒一タヒハ
奏任官ニ列シ、謹テ職ヲ奉シ度志願ヨリ、一昨壬申夏五
月貫属換ヲ願、当
釐下江移住仕候ヘトモ、不倅ニテ願望ノ時日未運、全ク
微力ニヘト日夜慨歎不止、爰ニ旧同族現今勅奏ノ官ニア

ルモノ殆ト二十名、且維新倉卒ノ際ニハ先考哲長参与職、

其後侍從ヲ奉シ候儀モ有之、個以分隙モ功長尸位素餐黙

止スルニ難耐、去迎可然的人モ無之ユヘ、不得止一日ヲ

送り、終ニ今日ニ至聊ノ勤学ニ消光罷在候、然ルニ

殿下兼テ内閣顧問ノ大任御奉職ノトコロ、先般左丞相御

推任アリ、今ヤ功長数年来希望ノ官等へ非常ノ御採擧被

成下度奉懇願候、ケ様ノ儀願出候ハ親戚ナカラモ公私ヲ

混一ニスルヨフ深恐入候得共、格別ノ御由縁ヲ以書面ノ

願条及失敬ノ罪ハ偏ニ仰寛宥ヲ、呉々モ数年渴望ノ志願

不日相叶候様御賢考千拝シテ伏テ奉願候、謹言、

第七年

六月十五日

從四位堤功長

稽類

島津左丞相殿

殿下

文書原寸 縦一六・三種

包紙原寸 縦二七・八種

横 一三〇種

横 四〇種

三〇五 松平慶永公ヨリ島津久光公へ

久光公訪問ノ件

(封紙ウツ書)

(欠損)

賢契

弄鐮

閣下

封

」

愈御安暢奉賀候、爾後は後契關至悚候、仍而明日御清暇ニ候得は拜趨可仕、御否定乞御一報所希也、

六月十七日

文書原寸 縦一七種 横二九・二種

三〇六 久光公建白十四箇条ノ解釈呈出

(端裏書)

「此註解不差出候事」

献言箇条書エ註解仕差上候様承知仕、精々差急候得共漸ク今日致清書呈上仕候、筆端ニ著シ候得は口上ニ述候トハ大ニ忌諱嫌疑ニ触候義不少、別而恐縮之至奉存候、不遜之罪幾重ニモ 御有恕奉伏願候、恐惶敬白、

癸酉

六月廿二日

從二位島津久光

文書原寸 縦一九種 横五一種

三〇七 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

訪問通告

(封筒)

(欠損)

「津左府殿 実美」

弥御安全奉賀候、然ハ明朝御談申度義有之参堂仕度、差支有無拜承仕度候也、

六月廿二日

実美

島津殿

文書原寸 縦一七・二種

封筒原寸 縦一八・三種

横 三四種

横 五・七種

三〇八 三条太政大臣ヨリ大久保利通へ

参朝面会ノ件

三〇九 三条太政大臣より島津左府公へ

大限参議免官之件

(包紙ウツ書)
「島津左府殿 実□□」

文書原寸 縦

一七種

封筒原寸

縦 一九種

横 一〇一・七種

横 五・七種

三〇 堤右京大夫ヨリ島津中将公へ

暑中見舞

(包紙ウツ書)
「島津中将殿 堤右京大夫

フ

」

煤霖鬱陶候処、益御清穆奉万賀候、然は過日御書簡を以て御来示有之候、大限参議辞表之義、兩日中被開召候様御示之趣承知仕候、本官之義ハ先日來免職之咎ニ候得共、願出候迎総而被免候義ハ御同意難仕存候、尊公御出勤之義ハ今日国家危急之際ニも有之候得ハ、一参議進退之為

ニ御引入相成候而は、乍憚不可然と愚考仕候、何卒大小輕重深御考慮相成度企望仕候、大限より差出候紙面之義

ハ、書取ニテ御答も難仕候間、猶拜面ニ可申解候、仍乍延引過日御答迄申陳候、草々謹復、

六月廿二日

実美

左府公

本文之義ハ拙官一分之御答ニ有之候、右大臣ハ自ら

別ニ御答可被申上と存候、

一筆致啓上候、甚暑之節御座候処、愈御堅固被成御座珍重存候、暑中御見舞為可申入如斯御座候、恐々謹言、

六月廿三日

堤 勘解由次官

雅長



堤 右兵衛佐

功長

丙

堤 右京大夫

哲長

栞

島津中将殿

文書原寸 縦一八種 包紙原寸 縦二七・五種

横四九種 横 四〇種

三三 島津左府公ヨリ三条相国へ

大隈大藏卿処分ノ件

芳墨拝読仕候、然ハ下官進退之一条ハ何分御指令難被成趣拜承仕候、仍大隈之御処分相決候迄ハ、先当分通罷在可申と愚考仕候、且衆議評決ハ如何之由拜承仕候得共、角迄紛紜と成立候上ハ、いつれ衆議ニ被決候様無之而は、

人心弥安心致兼候場合ニ可立到、再三之申立如何之至ニ

御座候得共、猶愚考申上候、偏ニ御賢慮ヲ以明白之御処分奉希候也、

六月廿四日

久光

三条殿

閣下

文書原寸 縦二六・八種 横七四・七種

三三 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

台湾事件評議

(封筒) 島津左府公

(啓紙、実美カ)

(封筒ウラ)

台湾事件評議仕候間、今朝八字御来集可給候、重大事件

ニ付、頃日来辞表差出居候参議之人も別段集会有之候様

仕候間、此段も申上添候也、

六月廿五日

島津殿

実美

文書原寸 縦 一七種 封筒原寸 縦 一八種

横四五・三種 横五・八種

三三三 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

大隈免職ノ件

(封筒) 島津左府公 実美

弥御清康奉賀候、昨日御示教之趣敬承仕候、大隈一件是非衆議ニ無之而は天下御為不可然との尊慮之御旨再度御諭之趣も有之候得共、愚存ハ昨日申上候通、如此事件衆議ニ相成候而は却而御不体裁ニ可相成と、何分御同意仕兼候、且昨日海江田を以て申上候末相同、当人江も相達申候条、唯今別ニ取計方も無之、折角御来諭之事ニハ候得共、猶愚存御答申上候、草々拝復、

六月廿五日

島津老公

実美

文書原寸 縦一七・二種 封筒原寸 縦一八・四種

横七二・八種 横五・八種

三三四 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

三条公ヲ強迫ノ件

(封筒) 島津左府殿 実美 拜復

御安全奉賀候、過刻御書状拝読御教示之趣驕然之至ニ存候、大蔵官員ニ而僕ニ相迫り候者有之由御聞之趣、姓名等内々御泄し被下候ハ、明了可申上候、僕一向心当り無之候、猶台湾事済之上云々御示之趣ハ是迄度々申上候事と存候間、今更申上ニ不及と奉存候、仍右御答迄如此候也、

六月廿六日

実美

島津老公

文書原寸 縦一七・二種 封筒原寸 縦一八種

横五九・二種 横五・七種

三三五 三条相国ヨリ大久保参議へ

伊藤大隈辞表召留

左府殿昨日別紙到来候、最早足下ニ入覽も無用と存候得共為心得一見ニ入候、早々返却有之度候、

弥清康大賀候、伊藤(博文)・大隈等辞表召留之義相達置候間、今日よりハ出勤可有之と存候、拙官今朝ハ赤坂江出頭候ニ付、参朝遅刻ニ可相成も難計、此段御含有之度候也、
六月廿七日

実美

大久保参議殿

文書原寸 縦一六・八種 横三〇・二種

三三六 山階宮見親王より島津左府公へ

時候御見舞

〔封筒〕
「左大臣様 侍史中 晃

〔封筒ウラ〕
「封 侍史中

〔封紙ウツ書〕
「左大臣様 侍史中 晃

フ
〔墨引〕

榎雨中日々濛々ニ候得共、益御勇健ニ御奉職奉大賀候、扱此一折不珍乍赤面時令御見舞申上候驗迄ニ進上仕度、御叱納も被下候ハ、深々畏入奉存候、縷々期拝顔候也、
敬白、

戊六月廿九日

二白、時節御用意伏願候、乍憚晃無事、御安慮被下候、恐々、

文書原寸 縦一七・二種 封筒原寸 縦一八・三種

横四七・五種 横四・八種

三三七 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

地租改正ノ件

地租改正評議案御下問御廻申候、御意見も候ハ、承度候也、

六月三十日

実美

島津從二位殿

文書原寸 縦一七・三釐 横三二・八釐

三三八 東京芝青松寺学寮榎田晋作ヨリ左府公へノ

建白

時弊矯正策十ヶ条

(表紙)
「奉芹言」

榎田晋作

管見ノ知識ヨリ杞人ノ憂念ヲ発シ、悱憤慷慨ノ言ヲ漏シ謹テ奉建言候、昧死百拜恭惟、

一 風俗ハ天下ノ大事也、 我国ノ風俗制度不一シテ従前

ノ姿ニテ不変者頑固ノ唱エ有、又ハ西洋ニ移リ変ゼン者ハ開化ニ趨ルノ唱エ有テ、互ニ氷炭ヲ懷キ相非トシ隙ヲ生シテ一和セズ、天下ノ人何レヲ適トセンヤ、方
向ニ迷ンコトヲ憂フ、貴賤上下ヲ弁シ、風俗製作一ニ
確定有ンコトヲ願、風俗ハ国家ノ基本カト窃ニ愚意仕
候、

一本邦刀剣ノ靈ナルヤ、宇宙ノ間未タ其銳利ノ髣髴スル
アルヲ聞ス、故ニ是ヲ以己レヲ衛レハ、邪氣自ラ謝シ
義氣常ニ張り、之ヲ以敵ニ向フ時ハ敵先ツ死氣、此レ
我靈氣世界ニ独歩他国ノ寒心我国ノ威氣ニシテ、之ヲ
佩ル者ニハ彼ノ犯サザル所以ナリ、故ニ平時身ニ帶シ
テ能ク廉隅正直心ニ根シ、義氣育成ス、其功殊佩革佩
弦スルノ僅ニ性情ヲ矯正スルノ比ナランヤ、其利用其
レ亦遠哉、然ルヲ近来粗暴ノ徒アルヲ以、併セテ此靈
器ヲ廢セントス、此艾羹吹齋ニ異ナランヤ、又曰、世
運開化此等ノ物必竟虚飾ニ供スト、嗚呼斯ノ言ヤ、洋
教ニ弊溺スルニ非ズンハ豈国体ヲ失フノ甚キニ非ス

ヤ、列聖ノ玉璽神鏡ト同ク億世ニ継々承々為シ玉ヘル、是仁義智ニ比シ、其寓意ノ深淵ナル、惶クモ猶余リ有り、苟モ時ニ無用ナルガ如キヲ以テ之ヲ非議セハ、彼ノ神器モ亦將タ虚飾無用ト云シカ、夫亦深く思ハザルノミ、且其開化トハ果シテ如何ナル世態ヲ指ス、豈古昔列聖ノ御宇ノ時ノ如ク、文教武衛ノ設アリテ思威並ヒ行ヘル、ノ時ヲ云ニ非ズヤ、是故磨刀ハ不可也、抑西洋諸州ノ如キ商法ノ利得旨トシ廉恥ヲ問ハズ、腰ニ刀劍ナク敵愾ナク、戦争ノ勝敗又ハ法ヲ犯シ、不礼ヲ加ルノ徒唯金ヲ以償ノ類ハ君子ノ取ザル所也、方今国体ヲ守リ国威ヲ振ハズンハ有ル可ラザルノ秋也、佩刀ハ益銳利ヲ欲シ、廉恥ハ益深ヲ欲スルノ時ナラスヤ、猶国家泰平ト云テ枉テ刀劍ヲ廢セントス、此何ソ火ヲ滅ントシテ水瓶ヲ毀チ、盜ヲ防カントシテ鎖鑰ヲ脱スルニ異ナランヤ、治ニシテ乱ヲ忘レザルハ、聖者ハ嗜メル也、夫レ士モ亦時アリテ非義ノ念ヲ萌サザルニ非ス、刀劍ニ恥テ終ニ能ク礼義ノ心ニ反ル、凡ソ士

タル者治乱ニ不関須臾モ其身ヲ離ル可ラザルハ必セリ、抑我神州名義ノ邦ニ於テハ、上ハ三種ノ神宝ヲ守護シ奉リ、己レニ佩ルトキハ刀劍ヲ忠義ノ友トシ、邪氣ヲ攘ヒ治国修身ノ器トス、

一教化ハ国家之急務也、我國

応仁天皇學師ヲ百濟ニ徵サレ、文教ヲ尊ビ

仁徳天皇論語ヲ王仁ニ御學アツテ、政教國ニ行レ、而後二十余年刑措ニ至レリ、古今ノ美事也、当今都鄙ニ學校ノ設ケアリト雖トモ、教授スル所ハ新奇ヲ主トシ西洋ニ管係スルヲ主張ス、小学規則ノ外ハ県下ニ教授不相成ノ嚴禁アルノ県モ往々ニ有之由、願クハ聖賢ノ教則ニ因テ孝悌忠信ノ顯事ヲ先トシ、次ニ神典ノ幽事ヲ教トスルトキハ、顯ヨリ幽ノ深奥ヲ探リ覺悟シ易カラシコトヲ欲ス、故ニ菅公自非和魂漢才不能闕其闕矣ト孝悌忠信ヲ心ニ根シ置テ、皇國ノ尊ヲ奉戴スルノ国体ヲ知ラシメ、本ヲ定メ次ニ西洋ノ學ニ渉ルハ如何ト窃ニ愚意仕候、

一 邪蘇教ノ害ハ既弁妄ノ御序ニ於テ窃ニ

閣下ノ卓見ヲ窺フ不須論、

一 維新以來府県ニ於テ建言箱ヲ設ケ、大ニ言路ヲ聞キ、天下有志ノ者ヲシテ諱憚無ク其所懷ヲ吐キ直諫セシ処、近來右建言箱廢撤ニ相成言路閉塞シ、只々損益利談ノ事ハ微シク行ル、ト云フ、願ハ芻蕘ノ言モ採ルベキハ詢ハレ度キコト也、当今有志ノ者公然トシテ直諫スルヲ好マザルニ非ズ、徒ニ貴權ノ怒ニ触レテ罪ニ陷ンコトヲ恐レ、故ニロヲ閉ツ、聖賢在上治國トキハ善言拝シ、芻蕘ニ詢ルノコトヲ聞ク、従前ノ通言路御洞開アツテハ如何ト窃ニ愚意仕候、

一 論語曰、導千乘之國敬事而信節用而愛人ト、近來大蔵大輔ノ歳入歳出ノ會計ト、參議卿ノ會計トノ書ヲ見ルニ、一年分ニ於テ一千貳百万円ノ過不足ノ違ヒ顯然トシテ、天下億兆ノ人ニ知ラシメ、且ツ外國エノ聞エモ恐ル可キ義也、天下人民愕然トシ相顧ミ、窃ニ疑惑ヲ抱カザル者無シ、出納入ヲ量テ出スヲ度リ節用而後民

ヲシテ誠ヲ信セシメコト如何、窃ニ愚意仕候、

一 西洋御交際且貿易之義ハ、土着行國ノ分界ヲ御檢察ア

ツテ御所直有ツマタキ事也、

彼ノ國ハ商法ヲ主トスルノ行國エ對シ我土着國ヲ以テ比較セントスルトキハ、日々損アツテ益ナシト窃愚意仕候、

一 朝廷ニ諫議大夫ヲ置セラレ、

上ノ補過拾遺聖明益昭著シ、且ツ御史大夫監察ノ官ヲ設ケ、

上ノ聡明ヲ四海ニ達シ、黜陟賞罰ヲ明ニ檢劾シ、官員ノ篤実勲功ノ者ヲ賞シ、怠職遊惰ノ者罰スルトキハ、善ニ遷ル可ト窃ニ愚意仕候、

一 我國一彈丸ノ小國也ト雖トモ、人員ニ至テハ英國ニ髣髴スト、人心一和シ義氣ヲ結ニ至ラハ敢テ西洋各國ノ侮リヲ受ンヤ、春秋ノ時鄭ハ小國也、晋楚齊ニ扶マレ年トシ兵ヲ加エラレザルハ無シ、然ルニ子産國政ヲ執シヨリ条理ヲ以交際スル時ハ、大國ノ勢ヲ以テ暴凌スルコト不能也、況ンヤ当今万国公法ヲ以交リ、条理ニ

不違シテ推ストキハ、西洋各国豈敢我ニ暴ヲ加エンヤ、若シ妄ニ暴凌ニ及フ時ハ大義ノ大決断ヲ施シ、公道ヲ行フトキハ不得止機会来テ人心一和ス可シト、窃ニ愚意仕候、

一 皇国漸々国債相積、此ノ時方ニ上下同心戮力シ、可報
国恩ノ秋也、然ルニ弊溺ノ徒西洋ノ居館器械等ノ末事
ニ見ヲ奪レ、我国ノ古製ヲ嫌ヒ居館西洋風ニ新築シ、
或ハ鉄道・鉄橋其外共総テ新奇ヲ好トシ、工部ヲ盛ニ
シ且洋人ヲ雇ヒ入レ巨大ノ費ヲ不顧シテ今日開化トシ、
其事ニ関係スル人ハ国家ノ経営ヲ疎ニシテ已レノ経営
ヲ先務トシ、費ヲ不厭国ノ入ヲ量テ出サザレハ、後ニ
ハ天下ノ財モ不足也、此低相過キナハ

皇国ノ行末ハ如何成行ク可キト痛息候、古来ヨリ幼帝
ノ大位ニ在ル聖賢有テ是ヲ輔翼シ、終ニ国家ヲ治安セ
シムルニ至レリ、成王ノ周公、且劉禪ノ諸葛亮、哲宗
ノ司馬光則是也、

左府相公ハ実ニ今日周公・諸葛・司馬ノ大任也、

相公閣下前年御建言ノ条々今日ニ御施行アツテ、上ハ
社稷ヲ安置シ、下ハ生靈ヲ撫育シ、廟堂ニ座シテ百
官ヲ進退シ、

皇国ヲシテ富嶽ノ安キニ置シ事天下ノ人々大旱ノ雲霓
ヲ望ムガ如シ、群情ニ叶ヒ給ハン事之レ祈ル而已、小
臣己レノ分ヲ不知シテ文辭不敬ニ渉ルヲ忘、妄ニ奉芹
言干瀆尊嚴、伏地惶恐百拜、

愛宕町一丁目青松寺地中学半舎主
草莽書生 榎田晋作

○馬

上
左府相公閣下

冊子原寸 縦一八種 横一〇種 七枚

三三九 台湾征伐ノ不可ヲ諫奏セラレン事ヲ左府公

ニ望ムノ書 筆者不明

時務急要

左府公宜シク時務ヲ諫奏アラレ玉フヘキ条

大学ニ云ク、見賢不能拳々而不能先命也ト云コト有、君

タル人其臣ノ賢ヲ知ナカラ、或ハ己レノ懦弱暗劣ヲ諫メラル、ヲ不便トシ、或ハ己レ慾スル所ヲ行ハントスルヲ諫ルヲ不便トシ、或ハ左右ノ大小臣ニ遮障セラレ共ニ尊位ニ挙ルコト能ハス、又幸ヒニ挙タリトモ之ニ委任シテ己レノ尊ヲ屈シ、之ニ順カヒ玉フコト能ハス、凡ソ自然ニ斯ノ如クナリユクハ、是ハ滅亡ノ定命也ト云コトトミユ、此先字ハ坤ノ象伝ニモ淺智ニシテ智者ニ先タチ之ヲ役セントスレハ、方向ニ迷ヒテ道ヲ失フヨシヲ云リ、故ニ臣ト雖トモ賢ナレハ之ヲ先キニ立テ、君順カヒ行ヒ玉ヘハ、方向ニ迷ヒ道ヲ失ヒ玉フコトハナシ、然ルヲ先タツルコト能ハサルハ既ニ滅亡ノ定リタル天命也ト云タルモノニテ、此命字ヲ漢以來ノ儒生ノ読コト能ハサルヨシ、朱喜^(喜)ノ注ニ粗ミユ、是天命ノ実ヲ知サルヨリ起ルコト也、故ニ人ハ天命ヲ知ヲ要トスルコト也、按スルニ 左大臣ハ之ヲ一人ト称ス、枢機ハ全ク此公ノ掌握ニ存シ、太政大臣ハ関リ玉フ所ニ非ルコト、日本ノ名存セン限リハ租典ノ大要 主上ト雖トモ動カシ玉フコト得玉ハサル所

ニシテ、況ヤ其他ノ人ニ於テオヤ、今 主上拔テ 島津公ヲ之ニ居キ玉ヒ、天下ノ人皆此公ノ儼然ヲ具瞻スル情アレハ、是見賢而舉之ト云モノ也、百事 此公ト機密ヲ議シ玉ヒ、尊ヲ屈シ公ノ老實ニ從ヒ玉ヘハ、是舉而先之ト云モノナレトモ、此ニ至ラセ玉ハサルハ命字ノ落着未タ明ラカナラサル也、故ニ已ヲ得ス 公其不可ヲ諫奏シ匡輔シ玉ハント天ノ 此公ニ左府ノ官ヲ授ケ玉ヒシ命ヲ奉シ玉フト謂ツ可キカ、然ルニ諫言ハ率直ニ過ルハ君父ニ納ル、ノ道ニ非ス、仍テ幾諫トテ幾ヲ相シテ諫ムヘキコト也、幾トハ何ソ、先其過チヲ悔ヘキ情ノ動カントスル幾微ナリ、情輒ク我思フ所ニ動ク可ラス、故ニ先其情ヲ動カスニ害ノ薄ルヲ明ラカニ知シメ、害ヲ解ノ義ヲ以テセハ害ヲ怵ル、ノ情何トナク内ニ動キ、而ルヲ見而后ニ諫ムレハ情自然ニ其方ニ向ハサルコトヲ得サルモノ也、今台湾ヲ伐は何ノ為ソ、台湾ノ人罪ヲ我ニ得ル所ナシ、恐ラクハ小人辺寡ヲ^(衍カ)開キ功ヲ微ヘント欲スルニ出ルモノ、ミ、然ハ罪ハ我ニ在テ清國曾テ之ナシ、是清

國ヨリ翻テ伐ルヘキ一也、今清國ヨリ同盟ノ諸國ヘ乞ヒ
曲直ヲ正サハ、其曲ヲ援ケス直ニ与スルニ於テハ孰ヲカ
伐シ、是我ニ敵多クシテ清ニ援アルノ証ナリ、今士族ヲ
始メ虐政ヲ以テ苦シム、上ヲ怨ミサルモノナシ、故ニ処
々紛擾ヲ士民ニ生シ、姦人少シク煽動スレハ応スルノ輒
キ其証也、之ヲ民心ニ離散スト云、散地ノ勢トハ是也、
孫子ニ散地則無戰トアルハ散地ノ勢ヒニ居リテ戰ヒ勝ノ
術ハ無シト云コトニテ、乃チ後口崩レトナリ、人民皆上
ノ為ニ鬪ヒヲ勉ムル者ナケレハ也、然ハ敗亡ハ論ヲ俟ス、
凡ソ斯ノ若キ國害ヲ掲ケ数日前ニ奏シ玉ヒ、而シテ后ニ
今日ノ急ハ清國ト戰ノ義ハ万々之ナク、且天子ハ民ノ
父母タルコト天ノ命スル所ナレハ、先此意ヲ体シ玉ヒ、
天心ニ体シ玉ヒテ宜シク事ヲ処シ玉フヘシ、天ノ人ヲ生
スル其生ヲ聊ニシ、其性ヲ達セシムルコト徳ノ全也、然
ルヲ不義ヲ以テ無辜ノ民ヲ死セシメ玉ハンコト、天ノ化
育ノ功ヲ妄リナルコトヲ以テ戕ナヒヤフリ玉フコト也、
是天咎ヲ親カラ招キ玉フ所也、夫天ノ人ヲ生スルヤ、化

育ヲ行ヒ玉フ所ノ心ヲ人ニ頒チ与ヘテ人ノ性質ノ本心ト
ナサシム、之ヲ中徳ト云、故ニ孔子思ノ中字ヲ釈スルニ
天命之謂性ト云リ、此本心ヲ仁共云也、人之ヲ喪ナヘハ
百慮皆邪ニシテ賤劣トナリ、一モ人ト相對スルノ智ヲ発
スルコトヲ得ス、仍テ孫子ノ兵法ニモ五事ヲ建テ勝ヲ制
スルノ基トス、曰、道天地將法是也、道ハ即チ上ニ所謂
ル天稟ノ本心ヲ存シ、此本心ニ率カヒ一民ニモ傷殘ノ害
ナカラシメス是敵ノ民ト雖トモ同ト行ナヒ、以テ雲ノ覆ハン
限リノ人ヲハ我此天ト同キ徳ニ親シミ付シメントスルコ
トナリ、天トハ天時也、是天ノ何タルコトヲ以テ賞罰ヲ
行ヒ玉フヲ明ラカニ知、其天心ニ順カヒ其功ヲ贊クル也、
今日ハ易ニ所謂ル需ノ勢ヒニテ伐、灣兵ハ九三ノ剛暴ニ
出テ、上六ノ虛弱ニ終ル也、九三ニ曰、需于泥致寇之至
トアリ、仲尼ノ伝ニ、自我致寇トアリ、是ハ自分ヨリ妄
ナルコトヲ仕出シテ人ヨリ伐ル、自滅ノ謀ヲナスト云コ
ト也、又曰、敬慎不敗也トアリテ、敬トハ天命ヲ敬スル
ヲ本トス、天命ハ即チ民ノ父母トナリテ一人モ傷殘ノ害

ヲ受シムルコト無ラシメ、兩國ノ人民ヲ無事ニ聊ンセシメント行フコト也、是ナレハ不義ヲ以テ國ヲ失フ可ラサルノ父祖ノ命ヲモ敬スルニナリテ、己レノ妄動ヲ慎ムコトナル也、是ナラハ敗亡トハナラサル也、之ヲ以テ見レハ百端罪ヲ謝シ玉ヒテ兩國無事ニナラセ玉ハンコト也、然ハ 皇國ニ敗亡ノ患ハナクナル也、是ヲ天ノ制度トスルニヨリ時制也トアリ、孫子ノ時制ヲ知ンニハ易ノ中爻ノ辭ヲ明ラカニシテ術ヲ制セサレハ、別ニ拠トスルモノナシ、九五ノ制ヲ見ルニ有孚光享トアリ、孚トハ上ニ所謂ル天稟ノ本心ニテ、民ノ父母タルノ心也、光トハ行事ニ其孚ノアラハル、コト也、享トハ成功アルコト也、是ハ中正ノ無偏無私党王道蕩々トスルコト也、何モ難キコト有モノニ非ス、世間ノ人ノ有モセサル智慧ヲ無理ニコキマハシ、險難ヲ強テ行ハントスル如キモノニ非ル也、只今日ニテ云ハ、和ヲ取結フノコト也、大久保ノ和議ハ必ラス一旦破ルヘシ、駭クコト勿レ、別人ヲ以テ行ハセラレハ和ハナルノ道アルヘシ、是天ノ時制ヲ遵奉シテ敵

ニ勝ノ道也、地トハ地利也、台灣ノ海中ニ劣カニ孤軍ヲ以テ必敗ノ地ニ立、是地理ヲ知サルモノ也、且庚午以來諸藩ニ於テ造リオキシ刃備ノ器械ヲ始メ、藩ノ器械ヲ皆破リ棄ラル、是ハ秦ノ始皇ノ郡県ヲ行フニ就テ、天下ノ怨ンコトヲ恐レ、兵器ヲ毀チタル情ノ理ニ出タリトミユ、故ニ各藩ノ地衛リナシ、地ノ利安シカ特シ、將トハ大將タル人ノ器使ノ法也、故ニ智信仁勇嚴トアリ、今智將ハ誰ソ、信將ハ孰ソ、勇將ハ孰ソ、嚴將ハ孰ソ、神武ニシテ不殺ナル仁將ハ誰トカスル、此五器一モ得ル所ナシ、是將ナキ也、軍ニ將ナキハ木偶人ノ如シ、何ヲ以テ戰フコトヲ得ン、法トハ各其守ル所ノ官ノ道ヲ明ラカニシ乱ラス、百物ノ制編束ヨリ器械ノ類ニ至リ、各主タル者アリ、用タル者アリ、之ヲ嚴明ニセサレハ戰鬪ハ行ハル、モノニ非ス、之ヲ知タル人アルヲ見ス、只五事ニ於ルセラ一モ具ル所ナシ、而シテ散地ニ処リ戰ヒヲ求ム、敗兵ノ極致ニシテ毫髮モ利アルヲ見ス、敗兵先戰而後求勝トハ愚人敗亡ノ状ヲ云タルモノ也、故ニ今日ノ戰ヒヲ云モ

ノ実ニ鹿ヲ追獵師山ヲ見スト云諺ナルモノ也、国ノ大患ハ此人ヨリ大ヒナルハナシ、臣久光

玉座ヲ居キ奉ル地ト 列聖ノ寢陵ト天下貴賤ノ荼毒トヲ憂慮仕候ヘハ、魂魄消磨セント欲ス、主上至仁ノ大恩ヲ以テ悉皆ノ廟議ヲ和ノ一字ニ決定ノ 明詔ヲ下シ賜ハリ、且和議ヲ整ヘ国家ヲ鎮定スルノ事ハ、臣ヲシテ罪ヲ左大臣ニ既ニ待シメ玉フ上ハ、一命ノ存セン限りハ 玉座ヲ安ンシ 寝廟ヲ安ンシ奉リ、国家鎮定兆民安堵ノ功ヲ臣一人ニ責賜ハルニ於テハ、臣死シテ冥目仕ルヘク、地下ニ 先帝殊遇ノ恩ヲ始メ、 列聖ヲ拝スルコトヲ得ルノ面目ヲ初メテ開カント号泣、以テ諫奏アラセ玉ハ、在官無官天下ノ貴賤誰カ一言間然スル者アラン、皆其仁ニ感泣セサル者有ンヤ、特リ恨ムル者ハ辺功ヲ喜フ小人ノミナルヘシ、然トモ是其党類ヲ碎クノ術ハ方寸ニ存ス、而シテ清国ヲ始西洋夷共皆片渾ヲ吞テ我ノ処置ヲ窺フ、此ニ於テ 公ノ素志ヲ伸玉フトキハ、其智力ニ落胆スルコト必ス其詳細ノ術ノ如キハ片紙ニ尽スコトヲ得ス、唯

公ノ貞大人ノ徳ヲ仰キ奉ルノミ、貞トハ事難ニ当リビク共セス、大目的ヲ見ツメテ小事ニ眼ヲ及ホサス、大人トハ太陽ノ徳輝ノ万物生育ヲ掌トリ、天地間ヲ一目瞭然シ玉フト同シ意味ナリ、是 公ニ望ム所ナリ、子願クハ拝謁ヲ得テ之ヲ陳セヨ、 公必ラス其言ヲ納レ玉フヲ知、予癸丑以来 公ノ面ヲ未タ知ス、而シテ其徳ニハ既ニ醉 公天下ノ讒ヲ得玉フ、而シテ其跡予ノ心事ト一也、小人ノ知ルコト能ハサル所ノモノ有、故ニ今日ニ於テモ公ニ毫髮疑ヒヲ容レサル者ハ、天下広シト雖トモ子一人タルコト自カラ信スルコト甚タ篤シ、子モ亦子ノ言ヲ瞭察セヨ、

冊子原寸 縦二八種 横一〇種 六枚

三三〇 白川県士族木曾源太郎ヨリ左府公ヘノ建白

祭政一致教学一途ノ議

臣源太郎庸劣

愚昧ノ管見ヲ以テ叨ニ天下ノ大政ヲ奉議候ハ、多罪至極

ニ奉存候へトモ、猷芹之愚忠御察被成下候ハ、誠以
 難有仕合ニ奉存候、伏惟ニ国家之治乱隆替ハ氣運ノ然ラ
 令ムル儀ニハ御座候へトモ、方今内外之憂患百出、就中
 邪教蔓延ノ萌シ顯然、内ニハ紀綱ノ弛ムアリ、外ニハ邪
 教ノ浸然アリ、所謂邪教ハ寛永邪党ノ比ニ非ス、今也前
 日ニ百倍シ、人工ヲ経テ巧ミヲ設ケ、愚夫愚婦ヲシテ邪
 徑ニ誘ヒ候儀ハ、識者ノ先知スル処ニ御座候へハ、更ニ
 不警戒、実ニ 皇国ノ大難、邦家ノ危急此事ニ奉存候間、
 速ニ祭政一致教学一途ニ行ハレ不申候半テハ、赫々タ
 ル 神国ノ大道將ニ氓滅ニ至リ可申、杞憂ノ至ニ不耐奉
 存候間、今般早々神祇官御再興被為在 皇国ノ大道ニ明
 ナル誠忠ノ士ヲ数輩御拔擢被為在、御再興ノ事務ヲ奉行
 シ、伯大副少副ハ古法ニ因テ貴族ノ御方ヲ御任選被為在
 度、勿論君子ヲ進メ小人ヲ退ケ候ハ当然之儀ニ御座候テ、
 經倫敦宰ノ根本ハ人才ニテ、人才ノ根本ハ即チ誠心ニ可
 有御座候、故ニ有治人而無治法ト云フ古語モ御座候へハ、
 何トソ其治人ヲ御求得可被遊候様懇願ノ至ニ奉存候、

- 一 因古法神祇官ヲ太政官ノ上ニ被為置候事
- 一 伊勢神宮御復古之事
- 一 伊勢斎宮御再興之事
- 一 伊勢神宮祭主之儀ハ因古法大中臣氏へ可被任候事
- 一 伊勢兩宮祢宜ハ荒木田・度会ノ両氏へ可被任候事
- 一 宮中内侍所因旧式尚更御崇敬被為在候事
- 一 諸神社破壞御修繕之方法之事
- 一 諸神社絶タル祭典ヲ存シ、廢タル旧式ヲ起シ候事
- 一 諸神社旧神官各復旧職候事
- 一 伊勢神宮ヲ奉始諸神社因旧法循旧式常可奉畏 神威事
- 一 延喜式々内ノ神社ハ勿論、惣テ来歴ノ正シキ神社ヲ御
 尊崇被為在候事
- 一 新規ノ神社建立或ハ淫祠ニ等シキ社建立候儀ハ、以来
 御制禁被為在度候事
- 一 葬祭ノ儀ハ別ニ葬祭ヲ掌リ候葬官ヲ設候方法有之度候
 事
- 一 当時神官・僧侶教導職ニ任シ、却テ耶蘇ノ前驅ニナラ

サル様有之度事

一正大ノ学校ヲ創立シ千古千載古今ニ通徹スル彝倫ヲ講究シ、教学一途經濟兵学ヲ始トシテ国家有用ノ学ニ入ラシメ、常ニ生徒ヲ教育シ其學術ヲ正シテ、時々官府或ハ学校ニ於テ吾 天祖ノ皇孫ニ授給フ固有ノ大道ヲ講明シ、聖賢ノ道ヲ説論シ、礼義廉恥ノ風ヲ興起セシメ、加之漢土ニ於テ儒釈老三家拳テ邪教ヲ論破セシ破邪集書名、吾邦織田右府南蛮寺ヲ建立シ、豊太閤ニ至テ其巨害ヲ察シ、終ニ嚴禁ヲ被設候始末、随テ先哲ノ論破スルトコロノ記録等ヲ参照シ、天下ノ宿儒高僧知識ニ命シテ邪教ヲ論破弁駁シテ、是ヲ諸官員庶人ニ至ルマテ聴聞セシメ、良民ヲ邪徑ニ不陥予防ノ御策略御設

有之度候事

其他建言仕度件々多端ニ御座候へトモ、却テ繁雜ニ涉リ候テハ恐懼之至ニ奉存候間、祭祀ニ關係仕候儀ヲ撮録シ

テ、謹テ奉供 電覽候、所謂国ノ大事ハ祀ト戎トニアリ

ト申候ハ、誠ニ千載ノ確言ニシテ明君ノ所重ニ御座候へ

ハ、祭祀ハ 治国ノ大本ニシテ天神地祇ヲ恭敬シ蒼生ヲ

撫育シ給フ朝廷ノ大道ニ可有御座奉存候間、乍恐廟堂ニ

於テ天下ノ政務本末輕重ヲ御論定被為遊、早々神祇官御

再興并ニ建白ノ条々御採扱被為成下候ハ、天下ノ大幸

不過之難有仕合ニ奉存候、鄙野小人ヲ以テ 閣下ノ威嚴

ヲ冒瀆シ奉ル罪応万死、誠恐誠惶頓首謹白、

明治七年六月

白川 泉實 屬士族

木曾源太郎



左府公閣下

冊子原寸 縦一八種 横二〇種 六枚

三三三 東京府三等巡查本城規矩造ヨリ左府公へノ

建言

学校生徒ニ柔術ヲ学ハシムルノ件

一三三二一〇一

(表紙)

「建言書」

学校生徒へ柔術ヲ学ハシメ度旨申上候事

乍恐微賤之身ヲ以テ下顧狂妄聊愚意ヲ奉陳述候、方今御国内洩ル処ナク学校御設相成、華土族平民ノ子弟悉ク入校被仰付、右生徒学業間体操ノ課有之候ハ、文武偏廢セシメス、御国民ヲシテ開明勇壯以テ御国力ヲ振發セシムルノ御旨趣ト深ク奉感服候、然ル処愚意ヲ以テスレハ、右体操ノ外に打拳柔術ヲ雜ヘ学ハシメ候ハ、身益健に胆愈練レ、急変に処シ一層敏妙ノ働キヲ得可シト奉存候、抑皇国武芸ノ中柔術ハ死活ノ法ヲ主トシ、心胆ヲ鍛鍊シ、身に寸鉄ヲ滯セストモ我柔ヲ以テ彼カ剛ヲ制スルにアリ、武技ノ内に於テモ專是ヲ簡要ト仕候、夫鳥獸ハ嘯翼爪牙アリテ己ヲ害セントスル者ヲ撲撃シ、罟網ノ危難ヲ遁レ以テ身ヲ防護ス、況ンヤ万物ノ靈長タル人身何ノ防護ノ具無キヲ得ンヤ、方今ノ御時勢四民一に帰シ刀劍廢物トナリ、兵隊ヲ除クノ外絶テ武ヲ心掛ル者ナシ、名ハ開化ノ美アリト雖モ実ハ文弱愉惰ヲ病、且夫西洋各国人渡来ノ折柄、彼カ凌侮ヲ受ルコト亦少シトセス、若シ意外急

難ノ際器械モ無之、何ヲ以テカ不慮ノ毀傷ヲ免ン、平素柔術ヲ習慣スルトキハ、弱者ト雖モ能ク暴者ヲ制シ、兵器に對シテ危災ヲ避ケ可申候に付、冀クハ普ク各学校毎に稽古場ヲ設ケ、生徒ヲシテ練磨致サセ、上ハ御国威振興ノ一端トナシ、下ハ自己防護ノ予備に為致度、兼而志願不過之候、現今開化ノ秋に際リ、右様頑愚固陋ノ義建言候ハ実に慚入候得共、此假に打過候テハ日ナラス我國ノ武芸悉ク埋没に至リ、御国威に關係ヘキに付杞憂に堪ヘス、此段明公閣下迄奉申上候、万々一御採用相成候ハ、兼而其術ニ長セル同志ノ者共申談シ、右稽古場方法規則等巨細取調可申上候、何卒微衷ノ肺肝御亮察被成下度奉願上候、誠恐誠惶頓首謹言百拝、

明治七年六月

東京府管下平民

第一大区三三小区詰

三等巡查

本城規矩造

〇

第一大区小四区神田西

松下町拾五番地

宮島勸電方下宿

島津左大臣公

閣下

二三二二二

先般上言仕置候着発弾ボエス并ニ地水雷火其他大砲ヲ不用而施行スル竹管之器内献上御試檢之儀奉懇願候折柄、御威徳全盛之 御宇ニ伏シ、支那国政府ヨリ償金差出、御和議希望申立之通 御聞届相成候段敬承重疊奉恐悦候、乍併即今兵隊専ラ御主張之時勢ニ付、何卒御試檢之上建白之通相違モ無之発火相成候得ハ御採用被成下度、兼々万器発明之儀ハ火業ニ不限弘ク渴望罷在候間、自今工夫之奇術相開、追々出願之者も可有之候ニ付、新規物ハ夫々御採用被遊候ハ、後進之有志者及能工珍器之製造ヲ券リ、普ク有功之者各志願モ相達、実ニ公明盛大之御所置大ニ可奉感佩候、斯人智ヲ愛シ良工ヲ増殖シ、正ニ開化之秋自他ヲ不論、同心協力真議ヲ尽ハ、各国ニ不屈名法奇術発明之原ト推究仕候間、拙器献納奉追願候ニ付、仰願クハ其未到ヲ育不足ヲ補 御司至適之御加削被下、

緊要隊之羽翼ト成ハ幸甚々々喜悅至極ニ奉存候ニ付、別格之御執成ヲ以偏ニ 御聞届之程、謹而奉内願候、以上、

栃木県土木掛

明治七年十一月

芳賀忠昌(愚)

冊子原寸 縦二八釐 横一〇釐 二枚

三三三 大限参議より島津久光公への質問書

大限参議より三条岩倉両公への願書

大限参議辞表

指令書共四通

大限参議免官の件

二三三二二

(包紙ウツ書)

島津左大臣殿 大限重信 親展

(朱)

曩ニ閣下ノ建議アルヤ、三条太政大臣公・岩倉右大臣公(付巻)一参議免職以前ニ御諭甚不都合ニ御諭如何致仰彼如何御答申上候哉一重信ニ諭示ス所アリ、重信乃チ鄙見ヲ概陳シ、尋テ辞

表ヲ上ル、退テ仄カニ聞ク所アルナリ、書ヲ呈シ以テ公

裁ヲ仰ク、(付箋)「何様ニ御諭被成候哉、僕申立候ニ付両公ハ不得止御内諭被

成タルト相聞得申候、僕初申立候節両公も御同意ニ御座候、只右府公之台灣事件済

アルノミト重信命ヲ得テ憂惶身ヲ容ルニ地ナシ、苟モ黙

シテ止ム、此本文通ニ而は両公ハ御不同意と相聞得申候、尤大久保ニも右府公同

様申聞申候、世ニ遭遇シ久シク拔擢ヲ蒙ル、是ニ於テカ鋭意奮勵維新

ノ業ヲ賛成スルアラントシ、心事素リ他アルニ非ス、閣

下ノ知ル所ナリ、夫レ閣下両公ト同シク中興ノ元勳職宰

輔ニ在リ、(付箋)「此辺之文甚不都合ニは無之哉」其言行人心ノ向背之レニ係リ、治乱ノ機之レ

ニ乗ス、重信不肖ト雖トモ員ニ内閣ニ備ハル、亦内外人

民ノ觀望スルモノタリ、而シテ一旦重信カ免職ノ内談ア

ル所以ハ、(付箋)「參議ノ過誤失錯ハ僕モ不知如、僕カ申立候ハ大蔵之職務ニ御座候、參議迄

未タ必シモ所由ナシトセス、重信カ職ニ稱ハ

サルカ、之免職ハ両公之御趣意ニ而、僕ハ初ニ不同意申出候得共、姑息無極、不得止次第ニ

將タ過誤失錯ノ糾正スヘキカ、然ルニ免職ハ參

議ニ止ル云々ト、過誤失錯ノ果シテ該職上ニアルカ、是

レ重信カ憂惶スル所以ナリ、冀クハ閣下襟懷ヲ披キ、明

教ヲ垂レ、重信ヲシテ罪アラハ甘シテ之レヲ受ケ、罪ナ

キ申雪スル所アラシメヨ、然ラスンハ重信

天皇陛下ノ明ヲ汚シ、且ツ閣下ノ知ニ負ク懇願ノ至ニ勝

ニス、誠恐謹白、

明治七年六月

大隈重信

左大臣島津久光殿

閣下

文書原寸 縦一七・九種

包紙原寸 縦二五・五種

横 二二〇種

横 四九種

二三三二ノ二

曩ニ島津左大臣公ノ建議アルヤ、本月七日閣下重信ニ論

スル所アリ、重信乃チ鄙見ノ概略ヲ陳述シ、尋テ病ヲ以

テ辭職ヲ請ヘリ、退テ之レヲ友人ニ聞ク、其建議條款中

重信カ職ニ在ル破廉恥ヲ以テ物議ヲ来タシ、因テ重信カ

進退ニ及ヘリト、重信憂惶措ク能ハス、窃ニ思フ 聖恩

優渥重信カ不肖ヲ棄テス、久シク三職ニ列セシム、重信

日夜奮勵維新ノ業ヲ賛成スル所アラシム、是レ凶ル、而

シテ自ラ信ス、重信心事之レヲ天地神明ニ質シテ愧ルナ

シト、然ルニ重信果シテ罪過アラハ何ノ顔アリテ容隠シ

朝ニ立タン、又安クンソ内外人民ニ対セン、是レ

私儀

聖明ノ累ヲ為スナリ、願クハ閣下成憲ニ因リ法吏ニ下タシ、審断スル所アラシメハ重信湯鑊ト雖トモ之レヲ甘ニス、事若シ讒構ニ出テ無根ノ説ヲ主張シ以テ公ノ明ヲ惑ハシ、重信ヲ罪過ニ誣ユルモノアランカ、是レ亦法ノ敢テ宥スヘキニ非ス、閣下重信カ愚衷ヲ察シ、速ニ明断ヲナシ、其事実ヲ詳ニシ、是非曲直ヲ公裁セラレンヲ懇祈ノ至ニ勝エス、誠恐謹白ス、

明治七年六月

大限重信

三条太政大臣殿

岩倉右大臣殿

閣下

冊子原寸 縦二四・三種 横一六・四種 一枚

二三三二ノ三

(包紙ワラ書)
「上」

参議大限重信」

昨夏以来肝臟充血之症ニ而種々療養差加、略及快復ニ候之処、当今ニ至リ再発一層悩苦相増人事難弁程之儀ニ付、篤ト治療仕度候間、恐縮之至ニ候得共、当職并兼官共被免度此段奉願候、以上、

明治七年六月

参議大限重信〇(朱)

太政大臣三条実美殿

文書原寸 縦一七・八種 包紙原寸 縦三七・八種

横 三九種

横 三九種

二三三二ノ四

左府殿建議中足下行跡ニ付掲載ノ廉ハ無之、唯免職之義ヲ内談有之候迄之事、二候

文書原寸 縦一七・八種 横一四種

三三三 方今ノ御失体ニ付久光公ノ箇条書

扣書共二通

二三三ノ一

- 一先王ノ法服ヲ洋服ニ改ラル事
- 一太陽曆ト称シテ西洋ノ正朔ヲ用ラル事
- 一玉座ヲ奉始各省総テ洋風ニ模擬セラル事
- 一各省ニ洋人ヲ雇ヒ彼ノ教示ヲ受ル事
- 一侍読其人ニ非ル事
- 一侍臣阿諛ノ輩多キ事
- 一兵卒ヲ君側ニ近クル事
- 一官員等驕奢淫佚ノ輩多キ事
- 一華族ノ遊蕩ヲ禁セサル事
- 一学校之規則洋風ヲ基本トセラル事
- 一都下之禁令苛酷ニ過ル事
- 一擊劍之師ヲ命セラレサル事
- 一兵制洋式ヲ用ラル、事
- 一不急之土木ヲ興シ会計之欠乏ヲ顧ミサル事
- 一無用之官員増加スル事
- 一邪宗ノ蔓延ヲ防カサル事

一 外国人ト婚姻ヲ許サル事

- 一 神祇官ヲ廢シ神仏混合シテ教部省トナサレ、彈正台・刑部省ヲ合シテ司法部ヲ置ル、事
- 一 民政部・大藏ノ二省ヲ合併セラル、事
- 一 散髪・脱刀ノ洋風ヲ重シ、束髪・帯刀ノ御国風ヲ賤ル事

右二十条愚意疑惑氷解不仕候ニ付、明白ノ御教諭承

知仕度、不奉願忌諱御尋申上候事、

六月

島津久光

(本文書ハ六月トスルモ五月ノ誤リカ)

文書原寸 縦一九・三釐 横二三・五釐

二三三ノ二

方今ノ御失体

- 一先王ノ法制法服ヲ改ラル事
- 一太陽曆ト称シテ西洋ノ正朔ヲ用ラル事
- 一玉座ノ夷風

一 御日課ノ御休日

一 侍読其人ニ非ル事

一 侍臣阿諛ノ輩多キ事

一 兵隊ヲ君側ニ近ツクル事

一 官員ノ驕奢淫佚ヲ縱ニスル事

一 学校ノ洋風

一 苛酷ノ制令

一 散髪・脱刀ヲ重シ、結髪・帶刀ヲ賤ル事

一 擊劍ノ師ヲ命ゼザル事

一 銃砲總テ仏式ヲ用ラル事

一 不急ノ土木ヲ興シ會計ノ欠乏ヲ顧ミザル事

一 無用ノ官員増加スル事

一 邪教ノ蔓延ヲ防ガザル事

一 神祇官ヲ廢シ神仏ヲ混合シテ教部省ヲ置ル事

一 民部・大藏ヲ合併セラル事

文書原寸 縦一六・九種 横四七・三種

三三三 久光公ノ大隈重信彈劾始末書

口述ノ扣

大隈重信

此者大藏卿職務上姦曲之聞得拙者承候は三五年以前之事、然処今般猶又種々承候上ハ当分通被 召置候而ハ、国家之御為不可然、尤人民保護ニ於ても不相濟存詰、奉職之際ヨリ三条・岩倉兩公江世上ニ漏洩セサル内速ニ御処分可然旨及内談候処、両公共ニ異議無之、岩倉之意ニハ詰リ免職ハ勿論ナレトモ、即今処分有之候而ハ台湾事件故ト世上專可申、然ラハ於台湾事件ハ拙者魁首ナレハ辭職ノ外ナシト、夫故右事件相濟候上ハ無子細トノ事也、僕再三弁解イタスト雖承引ナク、然ラハ參議計免シ兼官并台湾事務總裁ダケハ先当分通ニ而、事件濟之上ハ決而免職ノツモリト被申、無拗応其意置候処、如何之御評議欵同人江右之内論有之之由、拙者ニは相談無之事也、然ルニ同人承知セス種々申立、此方江も乞面会候得共、免職之事内議セシ人江大臣トシテ可面会訳無之、不応其議候

処、以書面申出候子細有之、尤不都合之文面故付紙イタ
 シ両公江及尋問候処、条公来臨弁解有之、岩公ハ何之返
 詞モナシ、然処近日ニイタリ条公来臨被内談候ニハ、同
 人辞表差出候上ハ総別之免職ナラテハ不相濟、然れハ台
 灣事件ニ差支候故辞表ヲ返シ、先是迄通之処ニ而参朝可
 致旨ナラテハ大ニ不都合之由也、僕ニハ右内談不承知也、
 子細ハ両公ヨリ参議迄免シ、余ハ奉職スヘシト内論迄有
 之候上承服セス、総別之辞表差出、且不都合之書面差出
 候以上ハ、兎角願通之方至当ナルヘシト再三申立候得共、
(詰カ)
 結リ条公ニハ太政大臣之儀故独決ヲ以処分スト返答アリ、
 僕ニ於テハ国家之御為且人民之為同人在職ニテハ不可然、
 殊ニ両公より内論アリシモ不承服、書取ヲ以種々申出、
 且日教ヲ重ネ世上エモ漏洩セシ上ハ最早免職ヨリ外ニ処
 分ナシト申立、終ニ議両途ニ別レ、条公ハ類ニ独決ヲ被
 申立候故、僕も不肖タレトモ大臣ノ員ニ備リ、朝廷人民
 之為ヲ存シ再三再四申立候得共御承引ナク、強情無極、
 別而不条理と考ユ、然ラハ参議中ハ勿論左院并諸省勅任

官且麝香之間詰国事御諮詢之面々江も評議不相成シテハ
 不相濟旨、是又再三申立候得共、条公一円承引ナク、終
 ニ今日ニ至レリ、概略如右、足下議長トシテ如何相考候
 哉、

文書原寸 縦一六・九釐 横九六・五釐

三三三 熊谷県、中太祐、森田藤吉等ヨリ伊集院九

郎ヘノ願書

私塾廃止ノ復興ニ付

(表紙)
「上」

奉歎願口上覚

一拙者共旧来私塾・家塾開居近隣ノ幼童相集メ、当務ノ
 書籍皇学・漢籍素読師範仕来候処、先般御正則ニ付幼童
 教示ノ分不殘御廃止ニ相成、依之門弟子離散仕候所、去
 ル秋中小学校是処彼処ニ開校ニ相成、依而県庁御役員ノ
 中ヨリ学務掛、或ハ毎区ノ内ヨリ学校掛、又ハ学校保護

役ト申者、副区长ト申合セ權威ヲ以家毎ノ幼童強而学校ニ入学為致、洋風專一トシテ横文字洋算ヲ教示仕、尚校内ニ教師或ハ助教師数多ノ師範人遊惰ノ勤方多分ノ月給ヲ貪取リ、則反別戸数人員割合莫太ノ入費村々戸長ヨリ取立ニ相成、実ニ粗糲(マブ)ヨリモ増加タル取立方故、下々殆ト難仕、尚又校学ノ風俗ハ不馴事、親々共幼童ヲ始メ進ミ不申、右次第区々村々ノ人民歎息仕居候、近頃親タル者我等方へ慕来リ、徒ニ幼童野遊ニ日ヲ暮シ居候間、何レノ文字成共教示相頼度様頼来リ候得共、先般御廃止ノ家塾故幼童多人教預申儀者相成兼、右様歎来候家々ノ幼童其佝見捨候モ難黙止候間、何卒 我々共へ筆学教示相協候様御仁免被成下候ハ、世上ノ人民無此上モ大悅仕候間、慈悲々々此段御仁恵ヲ以御許容被仰付候様奉願上候、以上、

熊谷県管下南第二大区四小区

武州入間郡下南畑村

第百八十七番地

明治七年六月

中 太祐〇黒

同県管下南第二大区三小区

同州同郡北永井村

第三拾六番地森田六之助

次男森田藤吉〇黒

埼玉県管下廿七区

武州足立郡塚本村

第拾七番屋敷

榎本義正□黒

伊集院九郎殿

(付箋)
「東京第九大区小三区
下駒込村三番地
赤沢孝舜」

冊子原寸 縦二四・五釐 横一七・三釐 四枚

三三六 越後大橋清齋ヨリ左府公へノ建白

時弊革正ニ付

(表紙)
「上左大臣島津久光公書」

北越布衣清齋恐惶再拜白

左大臣島津公閣下、伏惟方今之 国体恰如罹癘疽兩疾、苟憂国者誰不痛哭乎、夫大臣弄

朝權以逞私欲、 国家之安危忽然如措諸干度外、小臣急功名以貪利祿、民情之疾痛颯然、如秦人於楚人故蒼生目官省如仇讎、目官吏如蛇蝎、其疾痛之情無所翹闔有土崩之萌、是所痛哭第一条也、内有怨望民外有覬覦之國、而無可守之兵、無可伐之艦、所謂嘗胆座薪之日也、而上下交征利奢靡輕薄成風礼義廉恥抃地、只謀眼前之利、不知意外之可慮、是所痛哭第二条也、深刻者日進平允者日退、法網之密如結蜘蛛之糸、民無措手足处、且直言者為誹謗憂国者為不軌或处於鎖鑰或繫於囹圄不遑枚舉、是所痛哭第三条也、耶蘇之害 国体固不殊論、未聞解禁之令、洋僧公然說之、愚民靡然奉之、此教延蔓 皇國、忠孝之道變為無君無父之域、是所痛哭第四条也、大小之官吏多眩惑輕捷便利之說、凡百事悉師西洋以不急之業為急務者故非啻妄費濫出、国用不足、躬涉欧米、不

学欧米者為不足共談、其尤甚者蔑視万古不易之 国体、忘却開国以降之

天恩喋々有說共和政之美者、是所痛哭第五条也、有此五条之大患欲国不亡、豈可得乎、今除此大患挽回將絕之 国脈者、豈尋常之所能乎、伏惟 閣下抱文武之才行仁義之道、故衆人所爭為 閣下有不為衆人所畏避 閣下有勇進其所不為巍然如泰山之不可動、雖秦儀之弁不能移其所勇進沛乎、如大江之決下流、雖貴育之勇不能遏精忠至誠動天人公明正大感鬼神、故蒼生悉繫望於 閣下、昨午聞 閣下庇

勅入京、遠近相慶曰、当脱塗炭之苦、拜白日之余光日夜望 閣下之大有為如大旱之望雲霓也、而更無一事可見 閣下今春就國蒼生若闇夜失灯也、今 閣下復奉

聖勅在左大臣重任二閱月、於茲參議木戶某纔雖桂冠弊事猶依然故僻陋之民稍有生疑者、仰願 閣下実追楠公之遺風、当天受之大任、欲共与 国家存亡擴張十四条之國是區々之利害焉、汚 閣下之聖明矣、臣聞奸臣塞路迭相党

授斥天下之公論、張一己之私説、虛美甘言薰

聖聽、雖事言

勅詔其寔蓋出奸臣之手果如斯何日能拓國是張國威乎、伏惟

皇國之安危實係 閣下之拳措、嗟呼、今日

皇國未曾有危急存亡之秋、而又未曾有千歲一時之大機會也、若誤此時機士氣陵夷、正義弘地、然則文武之才無所施、仁義之道無所行、天柱傾地軸折矣、是實所以痛哭流涕長歎也、故狂妄不遜忘身分、敢陳一片之愚情、而心竊冀望 閣下非常之大英斷也、是則

皇天皇土之所冀望、而又天下蒼生之所冀望也、 閣下願察焉、不耐激切悃誠之至、多罪々々頓首謹言、

越後草莽

明治七年戊戌年六月

大橋清賢(一書)(愚)

冊子原寸 縦二四・七種 横三一・三種 五枚

三三七 左府公ヨリ三条岩倉兩公へ

大隈參議免職ノ件

兩公弥御安泰可被成勤仕奉恐賀候、然ハ(重書)大隈云々之事件より長ク朝參不仕候処、過日兩公共々前後ニ御來臨、大

隈処分時日遷延之物儀モ有之故、僕速ニ朝參可仕旨同様被仰候ニ付、實ニ足痛も有之兩日之間ニ何分可申出と御答申上置候、然処彼より別紙之通申越、了解難致文も有之、仍備尊覽申候、御教示奉願候、就而ハ幸辞表差出候ニ付、今日中願通被仰付候方当然と存候、左様無之候而ハ僕朝參難仕、到底參議免職前以御内諭被成候ニ付、如此次第ニ相成申候、彼実ニ無罪ニ候ハ、只今通被召置、僕申立非義ニ候ハ、免職相願申候、先ハ右申述度如此御座候、御決答奉待候也、

再伸、別紙御覽濟御返却奉願候、

文書原寸 縦一六・九種 横三九・五種

三三六 左府公ヨリ三条岩倉兩公へノ質疑

大隈処分ニ付

参議免職前ニ御諭甚不都合之至、如何御諭被成候哉、

彼如何御答申上候哉、

書ヲ呈ストハ何様之書面ニ候哉、

何様ニ御諭被成候哉、僕申立候ニ付兩公ハ不得止御内諭

被成タルト相聞得候、始僕申立候節、兩公も御同意ニ御

座候、只右府公之台湾事件済と被仰候迄之事ニ御座候、

本文通ニ而は兩公御不同意と相見得申候、尤大久保江も

右府公同様承申候、

参議ノ過誤失錯ハ僕も不知処、僕か申立候ハ大藏之職務

ニ有之、参議迄ノ処ハ兩公之御趣意ニシテ、僕ハ初ハ御

同意申置候、併姑息無極不得已次第ニ立到申候、

文書原寸 縦一七種 横二六・四種

三三九 左府公ヨリ三条相国へ

大隈処分ノ件

二通

三三九ノ一

不勝之天氣御座候得共、弥御安康被成御座奉大賀候、然

ハ大隈事件御独決之旨拜承、猶天下之御為と存込再愚意

陳述仕候得共、一円御承引無之、御強情驚愕至極奉存候、

太政大臣之御職掌御独決ハ勿論之事ニ候得共、事ニ大小

輕重之分有之、大藏官員彼か僕ノ如キ者類ニ御迫り申上

候故ヲ以、不誠実不廉直之者ニ金穀之權ヲ御委任之御独

決ハ、国家之御為何共了解難仕、是か為ニ閣下之御不明

御不徳天下ニ流布シ、実ニ笑止千万奉存候、尤此末台湾

事件相濟候ハ、御内評之通免職之処如何被成候哉、何

分御決定之御返答承知仕度、不憚忌諱此旨御尋申上候、

文書原寸 縦一六・七種 横五二・七種

三三九ノ二

過刻ハ海江田ヲ以所存申上候処、閣下愈御不同意ニ而、

御独決ヲ以大隈辞表御返シ、本官兼官等都而奉職之処御

達シ之段拜承、右様強情之御趣意ニ候ハ、此上愚意可申

上事ニハ無之候得共、何分日数ヲ重ね世上ニモ相響キ候上ハ、此御処分別而重大之義と致愚考候、故ニ參議中ハ勿論左院并勅任官、且麝香之間国事御諮詢之面々迄も被召集、衆議御聞無之候而は天下之御為実以不可然義と奉存候、最早余計之愚論ニは候得共、不得已所存申出候、偏ニ御賢考奉希候、以上、

再伸、昨冬五參議ハ輕率ニ退意し之大隈ハ何様之訳ヲ以御引止御座候也、愚意了解難仕候や、

文書原寸 縦二六・九釐 横一九・四釐

三三〇 宮内卿徳大寺実則侍従長東久世通禧ヨリ大臣參議ヘノ建白

国憲編纂掛推薦ノ件

二二三〇ノ一

明治七年六月

大臣〇〇 (朱「三條」) (朱「岩倉」)

(朱「日下部」)

參議 (朱「徳大寺実則」)

名

〇 (朱「安芳」)

〇 議長 (朱「伊地知」)

宮内卿徳大寺実則外一名ヨリ建議之趣御採用有之、福岡美静・加藤弘之兩名国憲編纂掛被仰付可然存候也、

二二三〇ノ二

窃聞、頃日左院ニ於テ国憲編纂ノ挙アリト、恭惟、維新以来五洲ノ形勢ヲ察シ、天賦ノ民彝ニ基キ封建束縛ノ制ヲ解キ、民ニ自主ノ權ヲ与へ、政令日ニ開明ノ域ニ進ミ、人民月ニ寛仁ノ沢ニ浴シ、将ニ欧亞ノ民ト同シク天与人職ヲ全クスルヲ得ントス、是実ニ人民ノ至幸ト謂フ可シ、然レトモ害ヲ除テ害随テ生シ、枉ヲ矯テ直ニ過ルハ古今ノ通患、流ニ順テ下リ、回舟停棹ノ方ヲ知ラサレハ遂ニ全舟覆没ノ禍ニ罹リ、前ノ民權ヲ与フル者将ニ自ら找ヒ人ヲ害フノ具トナラントス、是則君民ノ權ノ制限アラサル可カラサル所、国憲編纂ノ急ニセサル可カラサル所ニシテ、其編纂ノ制内外ノ宜ヲ取り、方今ノ民俗ヲ察シ、以テ時世至当ノ制ヲ立ラル、ハ、某等ノ疑ヲ容レサル所ニシテ、固リ愚者ノ過慮ヲ煩サス、然レトモ愚ノ所

見ヲ以テスレハ、今日ノ勢少シク直ニ過クルノ弊アルニ似タリ、是独上 帝権ノ衰テヲ憂フルニアラス、下人民ノ為メ未タ甚タ不可ナル所アラン、然則今日国憲編纂ノ挙ハ邦家隆替ノ関スル所ニシテ、最モ其宜ヲ制セサル可カラス、幸ニ本省出仕福羽美静・加藤弘之儀、宮中ニ奉職シ、美静ハ 帝室ノ制度ニ明ラカニ、弘之ハ政事ノ学ニ通シ、国憲ノ制限ニ於テ所見少ナシトセス、願クハ此兩名ヲシテ編纂ノ列ニ加ハラシメハ、裨益スル所ナシトセサランカ、廟堂ノ広キ万々遺欠アルナシト雖トモ、区々ノ微衷ヲ察シ採択スル所アレハ、何幸カ之ニ如シ、実則・通禮恐懼再拜、

明治七年六月

宮内卿徳大寺実則

侍従長東久世通禮

冊子原寸 縦一七種 横一〇種 四枚

三一 長崎県渡辺等ヨリ左府公ヘノ建白

長崎県令参事ノ黜陟ニ就テ

夫レ県令参事ハ該人民ヲ保護スルモノナリ、其任タルヤ必ス其人ヲ得テ而シテ之レヲ能クス、其人ヲ得ル時ハ能ハルナリ、故ニ人民ヲシテ 朝旨ニ通シ開化日新ノ域ニ進歩セシムルハ、令参事ニ由ルナリ、而シテ人民ヲシテ 朝旨ニ暗ク因循頑固ニ退安セシムルモ亦令参事ニ由ルナリ、然ラハ令参事ノ任タルヤ、亦重ク且ツ大也、必ス其人ヲ得不ンバ有ル可ラス、又其任ニ居ルモノ亦能ク注意セ不ンハ有ル可ラス、夫レ長崎県令宮川房之殿、参事兵頭正懿殿此ノ二人ハ、皆其人ニ非ルニ似タリ、請フ、先ツ宮川氏ノ事ヲ述ヘン、外温和ニシテ内奸佞、而シテ其事ニ於ケルヤ因循偏頗、粗々其条款ヲ挙ク、第一才智有ルモノハ之ヲ退ケ、又気慨有ルモノハ之レヲ悪ム、而シテ奸佞ナルモノハ之ヲ愛シ、及ヒ因循偏頗ナルモノハ之レヲ近ク、彼上村直則・小川政孝ノ徒ハ奸佞偏頗ノ最タリ、故ヘニ之レヲ愛シ之ヲ近ケ、頻リニ昇官セシメ

リ、而シテ彼ノ租稅寮權助横山貞秀殿ノ如キハ氣慨有リ、又才智有ルモノナリ、故ニ之ヲ惡ミ之レヲ嫉ミ、遂ニ兼長崎縣權參事ヲ免セシメタリ、第二聞ク、地方官黜陟賞罰ノ權ハ唯県令ニ在リテ參事ニ在ラズト、而シテ宮川氏其權ニ於ケル十二八九ハ兵頭氏ノ奪フ所トナレリ、何ソ顛倒ノ甚キヤ、而シテ宮川氏猶慙愧ノ色モナク、靦然面目一ニ彼ノ為ス所ニ任ス、第三夫レ京官ノ此ノ地ニ至ルヤ、宮川氏之ヲ待遇スル至レリ尽セリ、朝夕ニ之レニ謁シ昏ヘニ之ニ見、且ツ之レヲ己レノ家ニ招キ美味以テ之ヲ奉シ、或ハ之ヲ妓樓ニ誘キ登リ、盛饌以テ之ヲ供ス、京官ノ至ル毎ニ然リ、蓋シ以テ己レヲ固クスルナリ、第四昨年以來宮川氏ノ名惡シ、近來ニ至テハ甚タ惡シ、是ニ於テヤ宮川氏ノ状タルヤ実ニ笑フベシ、朝夕ニハ戰々トシテ免官トナランコトヲ恐レ、昏ヘニハ瞿々トシテ之レヲ失ハンコトヲ憂フ、此ノ如クナレバ其意何ソ事務ニ及バンヤ、第五該庁曩キニ医学校及ヒ外国語学校及ヒ税関ト事ヲ生シテ之レニ伏謝スル数々也、是時ニ於テヤ、

該地司法裁判所建設セリ、故ニ該庁ノ無状ヤ裁判所ノ為メニ指揚セラル、コト亦数々ニシテ、之レニ伏謝スルモ亦数々也、第六宮川氏ノ兵頭氏ニ於ケルヤ、元相ヒ善シ、而シテ近來相視ルコト寇讎ノ如シ、互ニ詆リ互ニ醜状ヲ揚クルニ至レリ、夫レ宮川氏ノ状大抵此ノ如シ、而モ此ニ尽スニ非ズ、

夫レ兵頭氏ノ人ト也ヤ、亦狡黠卑劣、且ツ專橫偏私、実ニ宮川氏ト相類似ス、而シテ奸才ハ其上ニ出ツ、故ヘニ彼ノ宮川氏ヲ視ルヤ屬官ノ如シ、黜陟賞罰ノ權ハ己レ之ヲ執レリ、粗其條款ヲ拳ク、第一其初メ此地ニ來ルヤ須永綽ト云ヘル者ヲ從へ來ル、亦奸佞輕佻、而シテ擅ニ之レヲ中屬ニ任ス、少ラク焉アリテ之レヲ權大屬ニ遷ツス、第二昨年十月其上京スルヤ、冗官十余名擅ニ之ヲ命ス、皆斗筲ノ人ナリ、是時該庁官員闕クルナシ、故ニ彼レ冗官ニ屬スルナリ、第三客冬十二月廢スヘキ罪ナキ官吏十三名擅マ、ニ之レヲ廢ス他ナシ、之レヲ廢セサレハ彼ノ冗官ニ屬スルノ徒ヲ容ル、所ナケレバナリ、第四他日初

村中屬ヲシテ妓女某ヲ媒酌セシム、初村周旋シテ之ヲ成
 ス、因テ官一等ヲ昇ス、第五其入県セシヨリ一年、而シ
 テ前後上京二次昨年九月上京
今又上京中也、二次俱ニ属官ニシテ可ナル
 ノ事件ナリ、而シテ己レ上京ス他ナシ、旅費ニ着意スレ
 バナリ、第六曩キニ佐賀県乱後往テ賊徒ヲ各地ニ探索ス、
 此レ司法検事ノ任ナリ、豈參事ノ任ナランヤ、亦旅費ニ
 意有レバナリ、第七向キニ上京スルヤ宮川氏之ヲ留ム、
 是時大隈參議殿台湾ノ事ニテ此ニ至レリ、兵頭氏因テ其
 寓所ニ至リ欺テ曰ク、事件ノ本省ニ上申スヘキ有リ、故
 ニ近日ニ上京ス、固ヨリ宮川氏之レヲ許諾セリト、而シ
 テ宮川氏ニ至リ亦欺テ曰ク、大隈參議殿ニ面謁セシカバ
 上京セヨト、遂ニ遽テ、上京ス、夫レ兵頭氏ノ無狀大抵
 此ノ如シ、而シテ此ニ尽スニ非ス、是ヲ以テ百般ノ事務
 稍因循退歩シ、而シテ人民稍頑固暴慢乃チ新政ノ感佩ス
 ヘキヲ知ラズ、又時勢ノ何物タルヲ弁セズ、蓋シ該管下
 滔々是レナリ、特ニ該県下ノ景況ヲ目撃スルニ日ヲ追ヒ
 月ヲ逐テ在苒疲弊ノ色ヲ生ス、是ニ於テヤ、三尺ノ童子

モ既ニ該庁ノ無狀ナルヤ熟々知り、而シテ令參事ノ無狀
 ナルヤ亦熟々知レリ、勢ヒ復タ令參事ヲ尊崇スル無ラン
 トス、朝夕ニ歎息ノ声囂々街ニ滿チ、昏ヘニ怨愁ノ声喧
 々巷ニ充ツ、且ツソレ此地ヤ開港場ニシテ他ノ無港ノ県
 ノ如キニ非ル也、而シテ彼レガ如キ無狀ナルヤ、洋人必
 ス之レヲ耳目セサルヲ得ス、果シテ彼ノ耳目スル所トナ
 ルハ醜態ヲ海外ニ播ク也、国家ノ恥豈ニ大ナラズヤ、況
 ヤ開化進歩ノ秋ニシテ此レ有ル可ラサルコト也、某シ窃
 カニ以為フ、県庁ハ人民ヲ保護スル所ニ非スヤ、令參事
 ハ其任ニ居ルモノニ非スヤ、而シテ彼レガ如キノ無狀ニ
 シテ安ゾ県庁タルニ在ンヤ、安ゾ令參事タルニ在ンヤ、
 且ツ政令何ヲ以テ行ハレンヤ、人民何ヲ以テ聽カンヤ、
 此レ乃チ人民ヲ保護スルニ非スシテ却テ人民ヲ妨害スル
 ナリ、蓋シ 朝廷何ソ之レヲ知ラサランヤ、而シテ之レ
 ヲ意トナサ、ルハ、恐クハ其不明ニ属センコトヲ、某一
 ツハ 朝廷ノ為ニ之ヲ歎嗟シ、一ツハ該人民ノ為メニ之
 レヲ悲哀ス、願クハ断然速カニ此ノ令參事ヲ退去シ、別

ニ人材ヲ撰置センコトヲ、果シテ此ニ到ラハ該人民ノ幸福此レヨリ大ナルハナシ、誰レカ感佩セサランヤ、誰レカ感悦セサランヤ、

夫レ上ノ各款某現ニ耳目スル所ニシテ虚誕ニ非ルナリ、故ヘニ忌諱ヲ顧ミス之レヲ 閣下ニ奉白ス、而シテ某ヤ其任ニ非ズシテ漫ニ之レヲ議スルハ、僭越ノ罪固ヨリ誅ニ容ラレズ、然レトモ之レヲ袖手旁觀スルニ忍ヒス敢テ國家ノ為メニ之レヲ言フナリ、願ヒ奉ル、其言ノ疎暴ナルヲ咎メズ、其ノ意ヲ酌取セバ某実ニ感激ノ至ニ堪ヘス、誠恐誠惶、

副啓シ奉ル、右各款ニ於テ若疑フコト有ラハ、宜シク人ヲシテ之レヲ御尋搜セシムヘシ、該地稅関及ヒ裁判所等ニ御尋問有ラハ、必ス判然タラン、敬白、

明治七年七月二日

長崎県實屬

渡辺等

奉

島津左大臣殿閣下

冊子原寸 縦二七・五種 横一九種 五枚

三三三 三条太政大臣より島津左府公へ

左府公来駕期日の件

〔封筒〕
「從二位島津殿 実美

悟右

〔封筒ウラ〕
「封

暑氣相催候処、益御健康奉大賀候、然は今日御来駕之義申入置候処、差向候用事有之差支候間、今夕は御来駕ニ不及候間此段御断申候、実は御建言之事件ニ付御面晤申度舍ニ御座候間、当六日七日両日之中御来駕被下度候、七日ニ候ハ、於拙者は猶更都合宜御座候、御一筆御答可給候、仍草々如此候也、

七月四日

実美

島津從二位殿

文書原寸 縦一七・三極 封筒原寸 縦二〇・八極

横 七〇極 横 八・五極

三三三 備後国沼名前神社宮司千賀通世ヨリ左院へ

ノ建白

祭政一致ト久光公神宮祭主兼任ノ件

一三三三三ノ一

別紙建白書朱書之上左院より返書相成候間、則相違候也、

明治七年九月十二日

教部省

備後国沼名前
神社宮司千賀通世殿

文書原寸 縦二五・五極 横三八・五極

一三三三三ノ二

(表紙)

「七月廿二日」
「第百十号」

建白

(朱)
七月廿日
建
第百廿五号
備後国鞆浦
沼名前神社宮司
千賀通世

祭政一途之儀ニ付建白

謹按、方今理学ノ盛ナル人民ノ智識日ニ開ケ、工芸技術
大ニ其等ヲ進ムト雖モ、固有ノ正氣ハ漸ク衰滅シ、加之
外教所謂一神教ナルモノ東漸シテ欧洲ニ所謂衆神教ニ併
テ我天神地祇ヲ輕視シ、祭政一致政教一途ヲ分離セムト
ス、其極神人ノ脈絡ヲ絶チ共和政ノ端ヲ啓カムトスル勢
モ相見候得共、水土ト建国ノ体裁ノ異同必米國ノ制度ニ
倣フ事ヲ不得シテ、徒ニ仏國ノ沿革ニ近似セル禍乱ヲ醸
シ、四分五裂如何トモスヘカラサルニ至ラム、雖然此國
体ヲ維持スルハ祠官僧侶長袖ノ腕力ノ及フ処ニ非ス、伏
願、更ニ神祇ノ職制ヲ御改正相成、神宮祭主以下ノ神官
ヲ度外ニ置玉ハス、之ヲ大政官ノ管轄トシ、教導職ハ之
ヲ教部省ニ屬セラレム事ヲ、亦左大臣島津久光公ヲ殊ニ
天皇ノ補佐神宮ノ祭主ヲ兼任アラン事ヲ、公ラシテ斯道

ノ棟梁トナシ玉ハ、諸社ノ名実紊乱セルモノヲ正シ、大ニ人民ノ信敬ヲ起シ、幾分ノ忠厚ヲ増シ、幾分ノ輕薄ヲ減シ、以テ万世一系天壤無窮ノ皇基ヲ護シ玉ハム事、刮目シテ可俟ナリ、皇国ノ富強モ亦刮目シテ可俟ナリ、微臣今僻地ニ在テ独憂墳ニ不堪、敢潛越之罪ヲ不顧聊愚衷ヲ上陳仕候也、誠惶誠恐頓首謹言、

明治七年七月四日

左院御中

備後国沼隈郡納浦
沼名前神社宮司兼中講義

千賀通世(朱)

(朱)「建白之趣祭政一途ノ議ニ至ツテハ採ルヘキナシトセス、然リト雖トモ鳥津左大臣ヲ以テ神宮ノ祭主ニ任スル云々ハ、陛下ノ特権ニシテ敢テ宮司ノ議スヘキモノニ非ス、仍テ本書返却候事、

明治七年八月廿四日(朱)左院之印

冊子原寸 縦二八種 横一〇・五種 四枚

三言 九鬼隆都ヨリ左府公へ

薩州政事施行ノ世評云々

(包紙ウツ書)
「添呈上」

九鬼隆都

ナ

(端裏書)

湯島

奉添呈

九鬼維五郎隆都

密事御直覽

」

又追懸申上候、然は今般世間ニ而も御一般薩州御政事ニ相成候由評判仕候、何れ右之場合ニ可被致候半、右之時 尊君様ニも数々御勘弁強御出被成候間御落度も有之候得共、如此御懇配を受候はん、老婆心御案申上候儀ニ候、尊君よき御答給候義も、万一御届被成安心乍憚存上候儀ニ御座候ハ、不願憚愚意申上度存候、尊君御事故御子細も有之間敷候得共、若哉ケ様之事ハいまたケ様迄ハ御承知不被為在義可有之哉と心痛仕候事共も有之候ニ付甚恐入候得共、前達而此段極密申上度、今日も参殿仕候共、其後 御職掌山々敷被為在候儀ニ故、中々

拝顔之義ハ無寛束候間、態と認取持参差上置申候、且御
報書被成下候様奉希候、頓首、

七月五日

文書原寸 縦二八・二種 包紙原寸 縦二七・八種

横四〇・三種 横二一・八種

三三三 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

左府公来駕差支ノ通知

(封筒) 「島津従二位殿 実美」

(封筒ウラ) 「
」

(付紙) 「島津従二位殿 三条太政大臣」

弥御清穆奉賀候、然は今日御来駕之申上置候処、仏郎西
国特命全権公使国書持参謁見被仰出候ニ付、差支ニ相成
候間、今日之処御理申候、仍右得貴意度如這候也、

七月七日

実美

島津従二位殿

文書原寸 縦一七・三種 封筒原寸 縦二〇・五種 横八・三種

横五〇・五種 付紙原寸 縦一七・三種 横六・三種

三三三 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

陸海軍両卿へノ内達書案 但書案ナシ

(包紙ウラ書) 「左大臣殿 太政大臣
御秘見」

(朱「藏」) 「
」

今朝従右大臣被及御談候陸海軍両卿へ内達書案御廻し申
候間、御検断之上御返却可有之候也、

七月九日

実美

左大臣殿

文書原寸 縦一七・四種 封筒原寸 縦二二・九種

横四六・二種 横七・三種

三三七 三条相国ヨリ島津左府公へ

出兵準備ノ件

〔実美〕

昨日山県陸軍卿江準備相達候ニ付而は、将官評議之上籌
画申出候筈ニ候、然処大隈参議より申立之趣、此俟陸軍
卿ニ相達候而も速奉命否如何と存候、併極而急務ニ付陸
軍卿之上申を不俟別紙ハ指令致候事ニ候哉、又々懸念之
廉も有之候間、一応内談仕候、仍此段伺貴意度如此候也、

七月十日

実美

文書原寸 縦一七・三釐 横三九釐

三三八 鹿兒島県士族青崎祐友ヨリ政府へノ建白

物価低廉国富増進策 建言書添書共二通

二二三八ノ一

〔表紙〕
〔添書〕

青崎祐友

乍恐於 御上は追々開化致シ候得ハ、諸色モ下直ニ相成
御目的被為在御座候御儀ハ、至極御尤千万奉存上候得共、
當時之処ニテハ下直ニ相成程モ少シ無覺束奉存候、就テ
ハ乍恐日数三千日ヲ得日本国中富貴相成趣法并諸色下直
ニ相成趣法建奉申上候、御上ニモ御存ノ通當時金銀之
位至極下直ニ有之訳合ハ、兼テ御存ノ通候、諸色ハ金銀
ヨリモ至極高直ニ有之訳合御存ノ通候、三四拾年以前ハ
金銀之位高直故諸色下直ニ有之候、譬ハ當時ノ処ニテ金
銀ト諸色ト高下ヲ比較候得は、諸色直段ノ高サ一丈有之
候得ハ、當時金銀之高サ式尺位有之候、三四拾年以前ハ
金銀ノ高サ一丈有之候得ハ諸色ノ高サ式三尺位有之候、
當時は以前ト違ヒ金銀ノ直段至極下直ニ相成リ居ル故、
格外ニ諸色高直ニ相見、夫故万民高直ノ音ニ恐レ、人氣
甚惡敷相成居ル訳ニ御座候、譬ハ音ヲ替ルモ替サルモ事
ハ同様ニ御座候得共、人氣ニ相掛ル訳合ニ御座候、人氣
能ク相成リ候得は国中富貴相成候儀疑無御座候、尤渡世
ノ次第ハ軍務モ同前ニテ、人氣能キ時ハ闘勝ち、人氣惡

敷時ハ鬪負ケ、就テハ人氣能ク引立候様有之度奉存候、
 実ハ御存ノ通、拾四五年以前ハ金相場壹両ニ付六貫四百
 文ニテ有之候、右之儀は現錢六貫四百文ニテ有之候、当
 時ハ一円ニ付拾貫文相場ニ候得共、現錢壹貫文ニテ有之
 候、真実本道ヲ以算当致シ候得ハ、壹円ニ付六拾四貫文
 相場致候儀当然ニ有之候得共、當時ノ拾貫文ハ音斗^{フシバカリ}ニテ、
 現錢ハ一貫文ニテ残り九貫文ハ偽ノ舌ニテ有之故、現金
 ノ位至極下直有之訳合ニ候、右ニ付今更金相場高直ニ相
 成訳モ不出来、御心配被為在候儀は兼テ乍恐奉存候、就
 テ左ニ奉申上候通、趣法立ヲ以音ヲ御直シ方被仰渡候得
 は、万民一統難有可奉存儀御座候、御上ヨリ御差図一ツ
 ヲ以莫大ノ御益分何程ト難見積儀ニ御座候、國中ハ申ニ
 不及、富貴ニ相成、諸色ハ下直ニ相成訳合ニ御座候、尤
 當時ハ外国船モ過分ニ出入等モ有之候得は、日本國中へ
 纔之御軍艦七八艘御繫キ置被遊、実以心細キ儀ハサテ置、
 外国人ヨリ兼テ輕蔑ヲ請候次第近頃残念ノ至奉存候、左
 候得共印度人又ハ支那人ヨリモ日本人ハ少シハ輕蔑モ薄

ク哉ニハ承リ候得共、是非諸色下直ニ致、御軍艦五六拾
 艘ハ拾ケ年ノ内ニ御繫キ置被為在度恐多モ奉存候、何分
 ニモ當時通ニテ高直ニ有之儀ニ付テハ、於造船方モ過分
 ノ御入費被為及儀ニ候、譬へ軍艦一艘出来上ルニモ凡入
 金拾四万五万円モ相掛リ可申ノ処、諸色下直ニ有之候得は
 三四万円モ有之候得ハ出来上リ申訳合ニ御座候、尤當時
 之諸税ノ儀モ諸色下直ニ有之候得は、民ヨリ諸税モ心安
 ク差出可申候得共、高直ニへ色々ト歎キ申訳合度々承リ
 候、東京ニ於テハ過半余ハ歎キモ有之候得共、於諸県々
 甚難渋ノ由御座候、就テハ從二位公御奉職被為在候ニ付、
 万民一統何カ難有御沙汰モ可有之儀ト朝夕奉待候儀ニ付、
 何レ人望有之御方ヨリノ御沙汰有之候得ハ、民一統善惡
 共正服致可申儀ト乍恐奉存候、就テハ何卒從二位公ヨリ
 御沙汰被為在度奉存候、前文奉申上候通、御利益ノ訳合
 ハ当分ノ錢ノ儀ニ御座候、別紙現錢通掛目方故万民甚疑
 惑致居次第御座候、右錢七色有之、錢色余リ過分ニ奉存
 候、乍恐錢ハ一品カ二品位モ有之候得ハ過分ノ儀ト奉存

候、右錢惣テ鑄直シ方被仰渡度、左候得ハ王政ノ明儀ニ
モ相叶可申儀ト奉存候、

一 ⑧札壹錢長サ三寸五分
横幅一寸

一 ⑨札五厘長サ式寸五分
横幅六分

右之通札造調方被仰付度、右札ヲ以テ當時ノ通用錢寛永
錢并ニ青錢・天保錢・文久錢・無穴錢惣テ御引替被仰渡
度、左候テ右錢ヲ以テ當時ノ無穴錢ニ穴ヲ明ケ通用被仰
渡度、左候得ハ其行違ヲ以テ莫大ノ御利益被為在御座候、
尤紙幣寮一ヶ所ノ製造方ニテハ七八ヶ年モ相掛リ可申儀
ニ御座候、右ニ付テハ東京・大坂金満家ノ者共二三拾軒
ニ右札製造方被仰付、出来上リ候札売上被仰付、壹枚ニ
付式厘カ三厘位ニテ御買上被仰付、片ノ免印迄紙幣寮ニ
テ片印押方被仰付候得ハ速ニ出来上リ申儀ニ御座候、右
ニ就テハ多分ハ似セ札等ノ御疑念モ難計御座候得共、似
札ノ儀ハ纔百文位ノ小札ヲ似セ作り候テハ間ニ合不申、
何レ似札ハ大金札ナレハ無相違作り申儀無疑次第ニ御座
候、其誤合ハ譬ヘハ似札拾円札・式拾円札或ハ百円札之
大札拾四五枚モ造リ申候得ハ首壹ツ哉式ツハ差出候テモ

何ソ差支無之候得共、纔ノ百文位ノ似札譬ヘ千枚造リ候
テモ纔拾円位御座候、首一ツニハ難替儀ト乍恐奉存候ニ
付、右ノ二三拾軒エ被仰付候テモ少シモ御疑念被為在候
儀無御座候、就テ當時ノ通用現錢拾文ヲ以テ右壹錢札ト
御引替被仰付、五厘札ハ其割并シヲ以テ御引替被仰付、
於大坂ハ一錢札一枚ト現錢八文ト御引替相成候、右ノ儀
ハ大坂ハ八文ニテ百文通用ニ御座候、五厘札前文同斷、
於薩摩辺ハ壹錢札一枚ト現錢三文ト御引替相成候、右ノ
儀ハ薩摩ハ三文ニテ百文通用ニ御座候、五厘札前文同斷、
其外於県々モ薩摩同様ノ高下ノ場所モ多分有之候ニ付、
何レモ右ノ割引ヲ以被仰付、尤右ノ壹錢札・五厘札製造
銅版ノ儀ハ前文二三十軒ノ者共ヘ御渡付相成候様被仰付、
左候得ハ速ニ相調可申候、右引替錢ノ儀ハ直様諸所鑄物
所ヘ御廻シ付ケ被仰渡度、尤右ノ札兩三年過キ候得ハ、
譬日本國中ヘ拾億モ出来上リ候得ハ、壹億位ハ必スタリ
可申候、其誤合ハ出火或ハ海河ヘ無疑スタリ、或ハ子供
抔ヘ遣シ候得ハ必損物出来可申候、如斯札二三年モ過キ

候得ハ、老文位ノ様ニ民思ヒ、老文札同前ニ小仕致シ候様罷成リ申儀相違無御座候、

老錢 **五厘錢** 此錢拾分ノ一製造方被仰付候事、

壹厘 此錢御取止

一御一新後右ノ通新錢御製造被為在候得共、真中へ穴無之候ニ付穴ヲ明ケ製造方致シ候様被仰渡候、追々御製造モ可有之筈ニ候得共、當時ノ処ニテ諸色高料ニ付、御上御不益民難渋致儀ニ付テハ速ニ御引替被仰渡候御座候、今成ニテ追々御製造方ニテハ甚手間取ニ相成儀ニ御座候、御上御不益民難渋致儀ニテハ速ニ御製造方被仰出度、今通ノ製造方ニテハ拾ケ年余モ相掛リ可申候半、何レ為御上為民ニ候得ハ是非急々ニ有之度旨被仰渡候、就ハ一ニケ所位ノ製作所ニテハ速之間ニ合不申候、諸所於県每一ケ所宛鑄物製作所御取仕建方被仰出候得ハ、速ニ端々迄無残行届可申候、右様急速ニ諸所ニ御取仕建相成儀ニ付、御入費ノ処何ノ余計出増訶ハ毛頭無御座候、何レ一錢札ヲ以テ御引替ノ上ニ候得ハ、御上ヨリノ御入費等ハ

札御買上ケノ御本手金迄ニ御座候、是非諸県毎ニ鑄物製造場所御取仕建方被仰渡候奉存候、

一前文札ヲ以テ速ニ御引替被仰渡候得ハ、則ヨリ札面通ニテ於市中老錢或ハ五厘ト唱へ申候テ、諸品々ヲ売買致候様罷成申儀疑ヒ無御座候、尤外々色々錢有之候テハ六ツケ數御座候、是非外錢御買上ケ相成リ候上ハ、弥々音ナヲリ申候、惣テ右札等一錢五厘錢迄ニ候得ハ無疑音ナヲリ可申候、弥々荒増音直リ一錢・二錢等唱へ代リ申候時節ヲ御見計、諸県々迄御聞合被為在、最早右一文ノ錢其外ノ錢毛頭無之段相聞へ候上、

一当分通用錢一文ヨリ十文・百文・一貫文・十貫文・百貫文惣テ何文ト申候事御廃止被仰渡候テ、一錢・十錢・百錢・何拾貫錢ト御新被仰渡候、左候得ハ先丑年比ニ相成リ候得ハ音節カワリ申儀相違無御座候、

一先卯年比新製ノ一錢ヲ又候御新一文ト唱ヲ普通用致候様被仰渡候得ハ、大古ノ通米一升ニ付十文位ヨリ七八文位ノ相場ニ相成申候、何様ノ訳合ニテ右様ノ直段ニ可相

成儀御疑モ御座候半、右ノ儀ハ前文ノ札ハ一錢ノ名目當時ノ通用百文、現錢ハ十文ニテ、寛永ノ旧四文錢ノ掛目ハ一匁五分有之候、當時ノ無穴錢ハ掛目一匁九分有之ニテ通用錢百文右ノ通ノ訳合ユヘ、是迄百文ニテ通用致候錢ヲ一文ノ通用ニ相成ユヘニ御座候、尤御上ヨリ御差図一ツニテ行ヒ能ク行キ届クト届カサルハ陰陽ノ訳ヲ乍恐能ク御調べ被仰渡候得ハ、規則不届ト申儀無御座候半ト奉存候、

一新製錢通用被仰渡候節金相場一円ニ付五貫文宛相場被召建候様被仰渡候得ハ、御利益何程ト難申シ尽候、左スレハ民ノ喜ヒ數無限次第御座候、左候得ハ前文ノ金銀ト諸色トノ高下則相知レ申候、金高サ一丈位諸色高サ式尺位ニ相成申候、尤御利益并金銀ト諸色ノ高下ノ次第は是迄一円ニ付拾貫文相場ニ候得共、偽ノ舌九貫文入現錢ハ老貫文ニテ御座候、本行ノ五貫文ノ相場被相定候節ニハ現錢五貫文ニテ御座候、御利益ハ則現錢四貫文ツ、御利益有之候、乍恐日本國中富貴ニ相成訳ハ右ノ情実ニ有之

候、

一當時ノ銀貨ノ内ニ五錢或ハ拾錢・二十錢・五拾錢ト銘有之候ニ付、前文ノ錢御引替渡シノ節ニハ右四品ノ銀貨ノ儀ハ札ト共ニ御引替被仰渡度、右銀貨ノ銘ハ是非半円カ一円ト有之方宜敷御座候、先々新錢ノ唱ヘ代リ候節ニ妨ニ相成訳合御座候、尤去年比御布告ニ恣匁・式匁ト申儀ハ銀目ニテ有之候ニ付御廢止被仰渡候得共、今ニ相用ヒ居申候、當時ノ十文錢ノ儀モ是迄ノ通り被召置通用致シ候得ハ、迎モ音ナリ兼申儀ニ御座候、依テ是迄ノ銅錢類ハ惣テ御廢止被仰渡度御座候、

諸色趣法建

一諸色局一ヶ所
右局被召建置、大藏省諸品御買入物ハ勿論諸所局々ヨリ何品物ニ不限御買上物有之節ニハ、時々諸色局へ直段相場尋問合越候上、何品物ニ不限御買上相成候様有之度、右様無之候テハ當時諸色直段定確無之故、過分ノ御損失被為及候儀ハ眼前ニ御座候、就テハ右局被召建諸職人被

招呼談合被致候様被仰付、直段相場御定メ御規則被為立度、諸県々ノ儀ハ此程右局ヘ当務乍持卷人ツ、四五月相詰候様被仰付度、尤右局被召建候得ハ御利益一ヶ月ニハ纔何百円ニ有之候得、^(C.M.)一ヶ年ニハ何万円ノ御利益有之候儀眼前ニ御座候、

一第一米根本ニテ御座候ニ付、米相場所ヨリ時々御届ケ申出候様被仰付度、左候得ハ米相場ヲ以テ諸品其外諸職人手間賃錢等ニ至ル迄御定メ被仰付度、左候テ右局ヨリ御定メノ御規則書壁書銘々店毎ニハ勿論、諸職人ニ至ル迄御渡付相成候様被仰付度、

一諸職人手間賃錢ノ儀ハ、中白米代ヲ以テ手間料御定メ被仰付度、左候得ハ米ト共々ニ上リ下リ致候様罷成申候、一免札卷ツ銘々ヘ御渡付被仰付、一長サ三寸位、一横幅卷寸五分位、諸細工人ハ大工ヲ本ニ御定リ、其外諸細工人ハ大工ニ基キ趣法被仰付度、
一上大工卷人手間賃錢中白米五升代当時ニテハ凡米卷升代卷貫文位ニ御座候、錢五貫文、

一中大工卷人右同断米四升五合代錢四貫五百文、
一下大工卷人右同断米四升代錢四貫文、

右銘々五組ノ証文御規則可相守ノ証書右局ヘ請取置候様被仰付度、左ニ如斯、

一此節諸色直段御定ニ付、私共手間賃錢ノ儀時々ノ米相場中白米五升代ヲ以テ無間違相請取可申候、万一法外ノ賃錢請取候段相聞ヘ候得ハ、組合中ヘ御規則破リ候儀御沙汰次第組合中ヲ以テ自身ノ家内ノ前ニ晝夜七日科晒方可仕候、万一其節ニ至リ難洩申上候儀モ有之候得ハ、組合中五人共ニ御上ヨリ晝夜御晒可被仰付候、仍而如斯証文、

何ノ何某印
何ノ何某印
何ノ何某印
何ノ何某印
何ノ何某印

右ノ通証文何職人何商人ニ不限右局ヘ請取候様被仰付度、
一土方日用夫ニ至ル迄同断
一船運賃錢石間ヲ以テ白米代錢

一茶船并上荷船船頭老人ニ付白米六升代

一駄賃錢ノ儀ハ道法リ巷里ニ付中白米貳升代錢

一米中買人共ノ五組ハ別段敵敷為書認め、右局へ請取置候様被仰付度

一米屋店毎ニ直段書日々屹度差出置候様被仰付度

一其外万物ノ品々何品ニ不限店毎ニ直段書同断

一同職同志五組証文前文同断差出置候様被仰付度

一古道具屋并ニ古金物屋・古着屋・質屋等ノ儀ハ、別段

ニ敵重伍組証文認めサセ、右局へ相請取置候様被仰付度、

右ノ儀ハ盜物類有之候節御取調ノ時節早目ニ御手續キニ及可申候、

一金利足ノ儀ハ天保年中比ノ利足ヲ以テ御定メ被仰付度、

右ノ趣ヲ以テ只今ヨリ御規則御定リ被仰付置候得ハ、前

文ノ札御引替ノ節右局ヨリ差引有之候様有之度、万一色

々ト申立者モ難計儀有之、右局ヨリ差引被仰付度、就テ

惣テ何品ニ不限同職同志ノ内へ老人ツ、職頭被仰付度、

右様有之候得ハ蛇ノ道ハへビ知ルト古人言モ有之、兎角

道々ノ者罷居リ不申候テハ品位旁情実能ク相知レ不申、

何偏ニ不限頭取被召建度、左様候得は行ヒノ次第細々届

キ可申候、何レ天地陰陽モ同前ニテ、一国一城一家ノ主
モ同断ニテ、何品何工ニ不限軸被召建候得ハ、乍恐規則

行届スト申儀無御座候、左候得共刑罰ハ正シク被仰渡度、

如斯ク御規則被仰付候得ハ御上ヨリ御取締ニハ不及、民

一統ニテ取締方致ス訳合ニ御座候、唯規則丈ハ御上ヨリ

御沙汰可有之儀ハ当前ニ候、就テ奉申上候通趣法被召建

候得ハ御利益御座候、乍恐尊宮室御造営無之儀、御国費

御多繁之折柄除費相成候趣ニテ、仮ニ御造営相成候由、
就テハ右申上候件々利益ヲ以テ御建築被為在御座候様仕
度候、

七月十日

芝山内八軒寺町

華養院方寄留

鹿兒島士族

青崎祐友

明治七年四十八歳八ヶ月

冊子原寸 縦二四・八櫃 横一六・八櫃 一七枚

二三三八ノ二
（表紙）
一 建言書

青崎祐友

再拜、謹白、今日皇國ノ開化日ニ進ミ月ニ増ス、其勢必
ス数十年ヲ曆スシテ西洋各国ト並立セン、臣等深ク喜フ
所也、猶全国一般早く開化ニ転ラシメンヲ欲シ、不願
臣国恩ニ報シ度奉建言候、聞ニ、西洋各国ノ開化ニ於ケ
ル人民、一ニ帰シ猶進ムコト今ニ至テ不止、米國ノ如キ
ハ政府官員ヲ定ムルモ、国民ノ入札スル所トナル、政府
民ニ権ヲ授ケ国民ノ望所ニ依テ国政ヲ取ル、之人心ヲ一
ナラ令メンカ為也、嗚呼開化進歩ハ人心ノ協力ニ在リ、
故ニ皇國ニ於モ下民ノ望ム所ニ依テ其開化ヲ進ムルニ不
若、思フニ、皇國ノ民情廉物ヲ好ム、其幣ヲ以テ可為器
各国ノ物価不廉ニシテ、開化ヲ進ムルハ人民其不廉ヲ恐
レス、其故何乎曰ク、出入共ニ大ナルカ故也、皇國ノ民
情ハ之ニ反セリ、譬へハ百ヲ取テ百ヲ捨、十ヲ取テ十ヲ

捨ル、其残ル所無ニ至テハ、乃チ同シ、只大小名ヲ異ニ
スル而已、復云、物価不廉者ハ遊民ヲ廢シ開化ヲ進ムル
ノ本ト云フ者アリ、思フニ、物価ノ関スル所ニ非ス、唯
人心ヲシテ一ナラ令ル所ニ在リ、故ニ早く物価ヲ下サン
ヲ願フ、物価廉ナル時ハ外国交際ニ依テ不利ヲ論スル者
アリト雖トモ、其語非也、反テ政府ニ大利ヲ有シ、下民
ハ之カ為ニ安居シ、忽チ富國センコト必然也、富國強兵
ナル時ハ普ク開化シ、各国ト並立シテ何乎屈ス所無キニ
至ル、故ニ其法記老冊ヲ付シ建言仕候也、章句不備御水
解無之時ハ、自出テ弁解ヲ為スヲ乞フ、採捨兩ナカラ伏
而奉待御所置候、謹言、

七月十日

芝山内八軒寺町
華養院方寄留
鹿兒島原土族（愚）
青崎祐友○
明治七年七月四拾八歳八ヶ月
冊子原寸 縦二四・三櫃 横一七・三櫃 四枚

三三九 堤功長ヨリ島津左府公へ

就職願出ノ件

〔包紙ウツ書〕
「島津御老候

閣下

堤功長

〔朱提〕

┌

過日來度々御歎題申出、恐懼多罪之至、猶又太々御世話敷相迫り、何共無心之仕合、偕去ル十日功長參殿之處、御外出中ニ付乍遺憾不得拜面、御家士宝賀氏江事情逐一委頼仕置候、就而は昨今御答窺トシテ參殿可仕ト存候得共、御都合振モ如何個以乍失敬以書中相伺候、自然御差障モ不被為在候ハ、何時ニテモ参趨可仕候、御面倒恐入候得共、左右否貴酬相伺度候、早々不尽、

七月十四日

堤功長

島津御老候

閣下

文書原寸 縦一六・三種

包紙原寸

縦二八種

横五九・五種

横四〇種

三四〇 九鬼隆都ヨリ久光公へ

同上

二三四〇ノ一

〔朱〕

菅原道真

菅公座西洋何行

菅公嘗辭遣唐使

任天下兵事防禦

文武兼備英傑神

〔朱〕

柿本人麿

柿本座耶蘇何來

柿本嘗改中臣祓

去身体情慾汚迷

退天下四海惡魔

右明治七年甲戌七月十六日

從五位藤原隆都謹書

〔朱〕

文書原寸 縦六三種 横三三・三種

二三四〇ノ二

尊奉日月御旌論

井伊捨身容西洋 薩長惡敵又從敵

詩二首

神国威光無所立 失
王政復古之道

立正安国論的中 日月旌旗知益尊

請速迎本丸城中

天皇親拜祈太平

明治七年甲戌十月十二日

從五位藤原朝臣九鬼隆都

頓首再拜 謹書

文書原寸 縦二八・二種 横四〇・五種

三書二 押小路実潔より島津左府公へ

時事ニ関スル意見

(包紙ウツ書) 一左大臣殿 押小路実潔

フ 七月十六日

(封紙ウツ書) 一左大臣殿 実潔

内啓

フ

向暑之砌弥御安康奉恐賀候、然は安田轍蔵上京得面会候
処、旧来知己之故を以他言を禁し、方今東京三公間之都

合云云及び歎息話巨細承知、為国家驚人且憂慮ニ不耐事
共ニ候、且同人三品宮謁見談話云云、安田見込云云致承

知候、同人見込之通於実潔も可然坎ト存候、尚御熟慮所
希候、委細之義は安田より御聞取可給候、方今形勢ニ付

不容易御厚配之義と遠察候、何分人心離散之姿ニ相考、
甚以苦心仕候、何卒此上万民安堵之場合ニ至候様偏ニ所

祈候、

一乍序愚存申入候京坂之所追々衰弊、万民難立行趣承深
痛心候、具々人心安堵承伏仕候御所置御急務坎ト存候、

是等之事情御推察可給候、

右之条申迄も無之候得とも、極密ニ御一覽必御火中希度
候也、

七月十六日

病中其上左筆候、御推覧所願候也、

文書原寸 縦一五・七種 横一五一・五種

包紙原寸 縦二七種 横三九種

頓首謹言、

明治七年七月十六日

名東県阿波国士族
権大講義
松浦長年

三三三 名東県阿波国士族権大講義松浦長年ヨリ久

光公へノ願書

文書原寸 縦二四・三種 横三三種

島津家系凶歴史取調掛拜命願

忠久公問題及五帝考証添三通

二三四二ノ二

(表紙)
「五帝略譜考証」

二三四二ノ一

御願

五帝略譜考証

私儀

名東県権大講義松浦長年謹稿

元来頑愚ニ御座候へとも壮年より国学相励来候処、追々
老年ニ相及候へとも一度は

天朝之学事ニ尽力仕度奉存候、就而は御系凶歴史地志等
は得意之学筋ニ有之、御系凶取調等之御用被 仰付候ハ
、難有奉存候、然ニ私耳聾之持病有之候故、出勤之儀は
如何とは奉存候へとも、何卒 御垂憐ヲ以而宅調ニ被
命候ハ、別而難有仕合ニ奉存候、右之段偏ニ奉懇願候、

此の五帝と申すは崇神天皇・仲哀天皇・顕宗天皇・仁賢
天皇・武烈天皇に坐り、其御系のみを斯く校正なし奉る
事は、世界万国に類ひ無き 皇統御一連の御上に謬伝有
りては惶しとも惶き御事なれば一帝も黙止難きに、五帝
の御譜古来より混同して、所謂玉に疵の遺憾に堪受、御
闕典の程恐れ多く、僭上罪戾の御咎めは慎み畏りツ、
毎条に

御系を引て其弁解をなし奉るなむ、

崇神天皇

紀記日本記古事記旧事云、已下准之 俱に開化天皇の御子としたるは、

其御母伊香色謎命の縁故に依て混同なしたるなりけり、

抑々崇神天皇は孝元天皇の御末子にして、開化天皇の

御弟なるを、御養子にぞし給ひつるなれ、然るを古来

より実の御子と思ひ誤りて、此彼打合ぬを曲説して、

世を強たるはいと有まじき事なれ、故可畏けれど、左

件の御系に細註を加へ置たれへ、博識好古の君子、其

可否を論じ定めてよ、

孝靈天皇

孝元天皇

倭迹々日百襲姫命

崇神天皇紀ニ姑トアル此也、
倭迹々姫命ニ混クコト勿レ

倭迹々稚屋姫命

姉妹姪俱ニ倭迹々ト云、又妹
ヲ稚ト云皆上代ノ古実也

五十狭芹彦命

亦名ハ古備津彦命

彦狭島命

稚武彦命

其他略之

開化天皇

大彦命

倭迹々姫命

彦太忍信命

武埴安彦命

古事記ニ庶兄トアル此也

崇神帝

紀ニ百々襲姫ヲ姑ト記シ記ニ埴安彦
ヲ庶兄ト宣ヒシ、是等悉ク孝元天皇
ノ御末子ナル明証ナラスヤ

其他御兄弟無シ

○崇神天皇

母ハ伊香色謎命此レヲ開化天皇ノ庶
母トアリ、故レ此是ニ崇神天皇ハ御
弟ナルノ一証ニ備フベシ所謂太弟ナ
リ

彦湯産隅命

此産ノ字日本紀ニ彦ト誤レリ

彦坐王

其他略之

仲哀天皇

此レの天皇ハ日本武尊の御孫にして、御子ならざる正

実の証白を挙て、古来よりの疑惑を氷解なさんとす、

故紀記俱に布多遲能入毗売命を布多遲比売命に混同し

顯宗天皇
仁賢天皇

此兩帝は市辺之忍齒王之御孫に坐を紀記俱に御子としたるより、年立合ず事実も矛盾して考証家の苦しむなるは押羽別王を考へ漏せしが故也、夫は左の御系図にて弁ふべし、抑々顯宗帝は御弟ながらも故ありて先に大御代を統セ給ひ、仁賢帝は御兄ながら其後を統坐し事は、世の人よく知る所なれば、凡て略きたり、さて次の条に浦島子の旧伝を摘出しは卒然なるに似たれど、此兩帝には深契ありて旨と御系図に係れる要領の符合すればなりけり、

水江浦島子伝考証此考証は御系の末に奉へきを仁賢帝顯宗帝の御父をすべ標意置時へ御系を見るに便りよきが故也
古来より世に聞えたる本朝の神仙にして国史にさへ載られし程の旧伝なれば臆臆氣の事にハ非ずかし、故諸書にも広く散見しながら其事實を知し人稀なるは例の漢書にのみ泥て皇国の古義旧伝に注意せざるが故也、いでや千歳の湮晦を今爰にいさゝか表顯てむ、夫は彼

忍齒王の殺され給たる時に御子押羽別王の既くも丹波国余社郡に逃去り給ひ、深く忍ひ隠れ坐て、島子といふ飯の御名のみ伝はりしに、仁賢天皇を島稚子と申す古実におもひ当りてつらく考るに、浦島子は疑無く押羽別王なることを算り得てしより、時代の等しきハ更にもいはず、丹波も余社も違はず、史典・旧迹みなよく事実に符合せしは、偶然に非ず、他証多き確実にてぞありける、さて島子か海宮に入しは雄略天皇初年なるべきを廿二年七月とせしは論あり、(頭註①アリ)又淳和天皇天長二年本土に帰りしといふ事も、島子の遠孫丹波の余社郡より都に出て淳和帝弟四ノ妃に備ハリしを、島子の本土に帰りし趣に文をなし、妃の時めき給ひしも御子無しから、雄略天皇廿二年より淳和天皇天長二年迄三百四十七年を限りに島子の結めとはせしなるべし也、凡て仁賢帝の御統へ武烈帝を限りとして天長の頃にハ係らざるを古実とす、さて此妃空海を尊信ありて後に尼となり給ふ、丹波にて祖先より古く伝はれる秘

蔵の宝器あり、是を紫雲篋と云し由、空海の雨乞に貸給はりて、殊に法験を得たりし也、此尼公を如意輪尼と申シて元享(享)積書ハ更にもいはず、地誌古縁起などに多く散見して此彼傍証となすに足れり、又浦島子ハ日下部首之祖と云事見えて、(頭註②アリ)仁賢天皇の帳内に日下部連使主あり、吾田彦あり、是等も奇也と云べし、猶島子の事ハ仁賢天皇に係れる故、縁多く諸書に在む限りを漏さず参考して、別冊に拳記さん事を思ふのみいま無くて今に至れり、

(頭註①)或人云、然るやんことなき御裔ミサチなりし故に妃には備ハリしならん、況て御子もあらねバ普通の女ニてハ及び難き事、彼ノ采女の類ひを思ふべしと、実に宜オスなる示し也けり、

(頭註②)島子に日下部の縁ある事或人の示しに依りて斯校シカ合せしか、島子の住れたる余社郡筒川村に日量ノ里あり、所謂日下氏の本義なれば、日量ノ里に決めて天文台トいふ類

ひ有へし、今も其旧迹ありや尋ぬへし、日量は日下の根底なる古実もいはまほしけれど説長く此ニ尽し難し、

履中天皇

市辺之忍齒ノ王
雄略天皇ニ殺サレ給ヘリ、

市辺ノ押羽別ノ王

丹波国与謝郡水江浦ニ遁ル所謂浦島子是ナリ、父王殺サレ玉ヒシ時ノ御子達丹波国与謝郡ニ逃去坐シ事明ニ日本紀ニ見エタリ

飯豊王

亦名忍海郎女

葛木忍海之高木角利宮ニ坐ストアリ、日本紀ニ清寧天皇三年七月飯豊皇女与レ夫初交トアルハ此王ナリ、古事記ハ忍齒別王之妹トアリ、又仁賢天皇願宗天皇ノ御姨トアリ皆ヨク合リ

願宗天皇

忍齒王ノ御子ナラヌ故ニ古事記ノ記シサマモ例ニ差ヘリ、此ハ本居翁モ答メ置レタリ
○仁賢天皇
御名島ノ稚子郎島子ノ御子ノ意ニテ稚子ト申セリ、播磨国赤石郡縮見ノ宅ニテ丹波ノ少子ト日本紀ニアレハ初メハ丹波ニ隠レ坐シ事明白ナリ、京ニ入坐シテ書紀ニ清寧天皇ノ御世トセシ方ヨロシ、古事記ニ飯豊王ノ時ニ成シタルハ甚シキ謬伝ナリ

忍海飯豊青尊

皇太子ニ王讓位久而不処由之御姉於忍海ノ角刺宮ニ臨朝兼レ政自称忍海飯豊青尊、旧紀ニ見ユ、此皇女ノミ尊ト云臨朝兼政トアル上代ノ至尊ニ争ヒ与レ夫初交云云抔云事ノアラン、ヨク思クベシ、中世乱階不正ノ高野帝ノ如キ其例ニハ非ズカシ

青海郎女

紀記ヲ始メ先説執レモ此郎女ト飯豊王ト忍海青尊ト三皇女ヲ一女ト混同シテ事実ヲ誤リタリ、然ル眼ニテ紀記ヲ見ンニハ年立ノ合ヌハ宜ナラスヤ、故レ三皇女ノ内青ノ尊ノミ女帝ニハ坐ンケルナリ、其ハ青尊ノ細註ニ記スカ如シ

○青海郎女

○飯豊王

○忍海飯豊青尊と代々等しき趣の御名ある例上古にはいと多し、既に上に挙たる大多牟坂の子大陀牟夜別ありて又其聲に大多牟坂王あるか如し、此をも古来三人を一人に混

同せしはいかにぞや

紀記俱に仁賢天皇の御実子となし御母を春日大娘皇女とし、降誕を允恭天皇廿九年庚寅となすが如き、一ツとして誠実条理に協へるは無し、故古史といへとも斯る謬伝此彼あり、されと其誤る所は唯一事の混同に起りて他条を乱す事彼ノ一犬虚を吠て万犬に失を伝ふる類ひなり、故其水源を清く校正なす時は下流の濁りは自然ニ弁へ知られて、一洗なすに然しも難き事は非ずなむ、抑々武烈天皇は雄略天皇の御末子なるを仁賢天皇に男王の坐ざるから、皇后の御弟稚鷯鷯尊を御子として統せ給ひし也けり、此御系図をも左に記し奉るへきを猶考へ、漏せし事もあれば、三帝譜考証と俱に広く引書の自由成む時をぞ俟になもありける、

上件り五帝の外に応神帝・仁徳帝・雄略帝の三帝をも紀記に混同せしを、古来より考へ得たる説無く言巻も綾に惶き帝系に疑惑を遺して過行めるは、いかに惶しとも惜

しとも云べき限りに非ずなむ、故神武天皇已前の御系は別に論あり、已後は此八帝の御系明白にならば、歴代数千古の帝譜更に不審隅無く赫々たる天津日嗣の皇統、弥ますく宇宙に貫徹し給ひ、万国に類ひ無き御一系の条理正しく、塵をも居ぬ玉の妙なるも琢磨の功に依てこそ光も耀き珍重するなれ、いでいかでと彼ノ八帝の御譜を兼々熟考し奉るに、皆其大本は纒なる一失の混同に起りし事なり、故レ毫釐の差ひ千里の謬を醸しぬる根底を探り得て、旧来拔萃せし諸書の考証あれと、国に遺して身に属されば、今は記憶に在のみを国史と帝皇略譜谷森氏の要弁なる小本也と外に少カ借り求メなとして、編つ草稿本になもありける、旅寓の習ハし引書に乏しくよろづ心に任せされバ、後日校正清記して撃つ奉らんとす、其他紀記中に不明なる事の将多かれと春の池水周結せし類ひなれば、程無く氷解なすに易かり、然シも帝系の如き困事にては非ずなむ、あなかしこ、

明治七年甲戌七月十三日

冊子原寸 縦二八種 横一〇種 九枚

三三三 寺田勘十郎ヨリ久光公へノ左右へ

公ノ帰県ヲ諫止ス

(口紙ウツ書)
「口上書」

屋形様暫ク御引被遊、且御帰県之御願実驚入、去ル九日
再ヒ参上、不願恐云云奉申上候ヨリ乍不及深ク心配仕、
且亦世之風説ヲ略承リ候ニ台湾戦争之動靜嘔々之取沙汰
ニテ甚痛心仕候ニ付、古主広周認置候草稿隨筆之内、方
今之時勢ニ応スル書モ有之哉と相尋候処、未前之時勢ハ
認無之ト雖モ、隨筆簡条之内〇武士之大体トスル所ハ仮
令何様之事ニ臨ト雖モ、御国体ヲ重シ尽忠セスンバ不可
有、古語ニモ陽氣ノ発ル処金石尚透ル、精神一度至バ何
事坎不就、是誠ニ武士之肝要也、朝夕不忘云云ト認メ御
座候、右之趣意ヲ以テ愚按仕ルニ今天下之人望屋形様ニ
帰スル所ナレバ、是ヨリ先キ台湾之事件差纏レ、朝鮮支

那ト之合戦ニ相成ル坎、又ハ左モ無ク鎮靜ニ及ヒ候坎ハ
私共之謀リ可知処ニ不有共、御在職中ハ海内人心之動

乱有之間鋪ト奉存候得共、若シ御帰県ニモ被為成候時ハ、
普ク望ヲ失ヒ、忽チ惑乱可仕哉モ難斗、是則 屋形様之

御建白ヲ皆心魂ニ徹シ難有奉存故也、然ハ今天下多端之
御場合御帰県被遊事第一皇国ヲ御補佐不被成様万人之望

ヲ失ヒ可申哉如何と乍憚愚察候、如此人望之帰スル所ヲ
以テ御国体之為ニ御誠意御貫キ被下候様仕度奉懇願候、

然ル時ハ語ニ云精神一度至テ何事坎不就トノ意ニ相当リ
可申哉と奉存候、就而ハ何卒万人之望ヲ不失様御帰県之

儀ハ御止リ被成下度、乍恐私之誠心奉申上候、謹言、
七月十七日 寺田勘十郎

一前文申上候得共、私短才不学之儀ハ御用捨之程、偏ニ
奉願上候、以上、

文書原寸 縦一六・八種 包紙原寸 縦一四・五種

横 四八種 横 三三種

三區 岐阜県安八郡医師橋良平ヨリ左府公へノ

建白 同文二通

神道教法ヲ拡大シ国体ヲ万国ニ輝スノ議

(封筒)
〔東京〕
太政官正院
左大臣島津久光殿
岐阜県下第三大区十三小区
美濃国安八郡原名脇田村
蛇池村
橋良平
謹上

七月二十日
美濃国今尾村郵便取扱所江出ス

〔封筒ウラ〕(黒二ツ)



一三四四ノ一

謹而

小民良平頓首百拜

左大臣閣下ニ上言ス、我国上古以来億兆一心、嘗テ革命ノ變ナク間々乱賊アリト雖モ之ヲ征スルコト易ク、国体

確乎トシテ美ヲ万国ニ耀カスモノハ、

皇家ヲ以テ教法ノ基本ト為スガユヘニ、億兆ノ

皇上ヲ載クコト、其父母ヲ載クカ如クニシテ之ヲ顛移ス

可ラサレハナリ、故ニ中世ニ及テ仏教浸淫スト雖モ、我

国ノ教法ヲ無ミシテ独立スルコト能ハス、之ヲ我教ニ付

会シ、両部ノ名ヲ立テ、漸ク人心ヲ帰セシムルニ至ル、

是我教法ノ確タル所ナリ、今論者アリテ教法ハ愚民ノ心

ヲ安ンセシムル而已ノ具ナレハ、之ヲ度外ニ置モ国家ノ

興廃ニ関係スヘキ者ニアラサルノ説ヲ立ルモ、是其教法

ヲ小ニスルノ致ス所ニシテ教法ハ元来善ヲ未発ニ勸メ、

悪ヲ未然ニ誠ムルノ良具、人道ヲ教ルノ大本ナルニ、然

ルニ今日ノ世ニ当テ、之ヲ小ニセハ後來何ヲ以カ人道ヲ

教ルコトヲ為シヤ、殊ニ我國ノ教法ハ国体ノ隆替、

皇家ノ安危皆其因ル所ナレハ、必ス之ヲ忽セニス可ラス、

故ニ一昨年教部省ヲ建サセラレ、三条ノ教則ヲ立テ、布

教ノ大体ト為シ、稍其教法ヲ大ニシ給フト雖モ、今ヤ神

道各宗各独立シテ其伍ヲ同フスルガユヘニ皆此時ニ乗シ

テ己カ道ヲ興隆セント欲シテ、其教法ヲ小ニシ、相競テ己ヲ称ケ、彼ヲ斥ケ互ニ相仇視シ、其説ク所彼是水炭ノ別ヲ為シ、遂ニ三条ノ教則ヲ外ニシテ神談仏話ト為スニ至ル、近来真宗ノ分離ヲ唱ルヲ以テモ、自教ノ為ニ教法ヲ蔑視スルノ情察ルヘシ、之ニ依テ愚民モ亦其信スル所ニ確執シテ互ニ党派ヲ分ツ、如此ンハ教導却テ熒惑ノ媒ト為リ、治具却テ争乱ノ具ト為リ、何ノ用ヲ為シヤ、方今学風一変シ洋学大ニ盛ニシテ、人皆実学ニ就キ支那虚文ノ学滅シ、随テ修身ノ学ヲ唱フル者ナク、加之兵制復古シ、士族ハ其常職ヲ解カレテ既ニ固有ノ気節ヲ挫キ、兵役ヲ服スル者ハ十二八九ハ至愚極陋ニシテ気節ナク、廉恥ヲ不知ノ小民ナルニ然ニ布教ノ濫雜ナルコト如此ナレハ、人道忽チ堙滅シテ廉恥地ヲ払ヒ、風俗頽廢シ、人皆政府アルコトヲ知テ、

皇家アルコトヲ知サルニ至ルベク、此時ニ当テ万一不虞ノ事アラハ異説紛起シテ人心爪ノ如ク分レ、国体瓦ノ如ク解テ遂ニ不測ノ大害ヲ生セン、然ルトキハ教法ノ利害

アル我国ヨリ甚シキハナク、此時ヨリ急ナルハナシ、必ス之カ虞ヲ為サル可ラス、夫レ物一害有レハ必ス一利アリ、今一層教法ヲ大ニシ他教ヲ器トシ、用ヒテ之ヲ助ケシメバ、仏教ノミナラス仮令耶教・回教ノ属ト雖モ何ソ国体ヲ害シ開化ヲ妨ルノ憂有シヤ、苟モ教法ヲ小ニセハ、我国ノ教ト雖モ国学者流ノ説ノ如キ膚浅固僻ニシテ開化ヲ逡巡セシムル者ハ却テ国体ヲ顛覆セシムル媒ト成シ、夫レ政令ハ人心ニ入り難ク、教法ハ人心ニ入り易キハ人ノ情也、然ニ教部省 御設立以來茲ニ三年、未タ其功端ヲ形サル而已ナラズ、異説ヲ唱ル者ノ日ニ多キハ、是其方法ヲ得ザレバナリ、琴瑟ノ調サルコト甚キハ必ス更メ張テ乃鼓ツヘシ、今一大変革ヲ為シ、教法ヲ至大ニシ、教導ヲ婦一ナラシメ、万世不拔ノ策ヲ立テハ、人皆其教法ニ浴シ、人道初テ明ニシテ不知不識国体ヲ維持スルニ至ルベシ、仮令論者アリテ、名分国体ハ我国ノ私説後來洋学大ニ開ケ、大勢一ヒ遷ラハ之ヲ禦グモ禦ク可ラス、国体一ヒ変セハ蓄弊洗除シ、開化モ亦随テ速カナル

ノ説ヲ立ルモ、夫レ国体ノ顛覆スルヤ歐洲ニ冠タル仏國ニ於テモ猶近来ノ景況アリ、国富強ニシテ幸ニ独立ヲ失ハスト雖モ、我國若シ此覆轍ヲ踐ハ其害如何ソヤ、是レ良平国家ノ為ニ日夜杞憂スル所ニシテ今管蠡ヲ述ルモ教法ノ為ニ敢テスルニアラズ、

閣下賢明

皇事ニ勤勞シ給フコト多年身台鼎ニ在シ、

皇家ヲ憂ルノ志益々深シト、是志士ノ属目スル所也、伏

シテ願クハ 御採択アツテ 奏聞有ンコトヲ、其方法ノ

如キハ良平竝ニ苦心スルコト多年聊カ所見無キニアラス

ト雖モ、筆紙ノ能ク尽ス所ニアラス、若シ本論取ル所ナ

クンハ止シ、万一取ル所アツテ他日 御垂問ヲ蒙ラハ、

心胆ヲ碎テ以テ方法ヲ図セン、恐惶頓首謹言、

明治七年七月二十日

岐阜県下第三大区十三小区
美濃国安八郡原名脇田村
蛇池村住
同県下平民医
橘 良平 (患)

齡三十一歳六箇月

左大臣島津久光殿

冊子原寸 縦二四・七種 横一六種 七枚

二三四四ノ二

(表紙)
副書

本文書ハ二三四四ノ一号文書ト同文ニ付省略ス

冊子原寸 縦二四・七種

封筒原寸 縦二四・五種

横 一六種 七枚

横 八・五種

三聖 樺山資親ヨリ西郷隆盛へ

台湾征討ノ急務ヲ論ズ

其已来倍御建則被遊御座、大慶不斜奉欣然候、偕今般台征御一挙之儀は追々御詳達被為在、御苦慮も御座候半奉恐察候、就而は去春大使之談判十分満足ナラサルより、此時機ニ立到千歳之遺憾、其罪私一身ニ御座候、台地之事ハ疾名分相立、此末結局而已、其成否ハ後日御覽被下度、因テ此節御尊弟様之御指揮ニ而谷參謀并田中同船帰朝仕、今更政府江伺リニ不及事ナカラ今日之御廟議御目

途如何ニ候哉、若支那和信ヲ破ル時は、我等は勿論之事、何レ此上ハ条公始有職之面々弾丸斃レザルより外有間敷、左候得は自然有志之輩奮発スル時ハ、結末之処ハ寸分も御熱念(懸之)ニ及間敷候、最早此上ハ実ニ人民情義不得已之義より、如此御盛挙なりし主意ヲ以テ、何方追ツも御貫キ斃テ止ヲ、今日之進退互ニ大機之得失關係不少、神速ニ断然御決心ナクテハ条理モ不条理ニナリ、況ヤ如此之御一条此辺ノ御目途は勿論、確乎タル前議も被為在筈ナリ、限今危急之勢ひナリト谷等ト建言ナリシニ、去ル十日御決議ニ成候使節之儀は柳原(前光)ニ御委任状もアリ、和親ハ可成破ラン様との事なレとも、若不得已彼より破談ニ及ひ、御一新後未年数も経ス、軍備も十分之事ハ調はザレトモ断然戦事ニ決スト、又軍勢ニ即チ号令(利通)ヲ下シ、時日之政府ハ先委外之事ニ御座候半、畢竟大久保先生之御尽力、只其外川村士辞表等之事より此場ニ至リシ次第カト奉存候、因テ川村も再勤之積大奮発等ニテ、大ニ仕合之至ニ御座候、若事破ル日ハ直ニ北京ニ突込、台地全島ハ勿論、厦

門辺ニ突入り尊弟様(ルカ)之御見込ニテ御座候、就而ハ前件御廟議ヲ以テ談判ヲ迅速ニセンカ為、私ニも去ル十六日東京も発シ、今日当地より上海ニ出艦仕候、此末如何之大愉(喜)ヲ快生スル事も難測、何れ御英断奉仰より外無御座候、乍併近日之報知、前日之照会状ニ表裏シ、支那より兵を引クコトヲ取消シ、又返テ彼より償金ヲ出サント談判セント甚た不解事有リ、いまた其子細も相分不申、左候得ハ前日事悉く返対(反)トナリシ始末、其情難決ニ御座候、台地之事ハ英人之注意甚た深く、尤宗砂(敏カ)ヲ以テ蕃地迄追々教化スル勢ひ、此が為苦ニ失望セリ、其上混雜之発兵稍船艦之嫌疑も有リ、西人より煽動セラレ(欠損)解兵之策等も相立、米堅之雇舟且「リセントル」等之事よりシテ愕然トシテ政府腰ゾ弱ク、夫ニ從(島津久光)二位様之御ケ条書ニ而殆ト瓦解之勢、漸ク右時機ニ運ひ立、最早朝之事タニ変スル様之者有リまひと相考候得共、腰之痛様ハ容易治療之難スル処、何レ此後之時機次第、御一同之御尽力より外治療之道ハ御座有間敷、尚又御勘考被下度伏

而奉冀候申上度儀は山海ニ御座候得共、如此機会今時茂
遅シト出發仕トテ残念寸緒拜呈仕候、

戊

七月廿一日舟中ニ認ル

恐々頓首、

樺山資親

西郷吉之助様閣下

文書原寸 縦一八種 横一六一・五種

縦一八種 横 四三種

百拜、

七月廿二日

浅井実雄

三〇 浅井実雄ヨリ左府公へノ建白

神国日継ノ道ニ就テ

頓首ス

從一位左大臣閣下

文書原寸 縦一五・五種 横一五九種

三〇 岩倉右府ヨリ島津左府公へ

書類廻付

廟堂、

從一位左大臣閣下ニ表白ス、仰伏惟ミルニ閣下之意天地

ヲ經榮、^(宮) 皇基ヲ立ル之倭赤心也、万民是ヲ仰キ恋矣、

閣下之前仰乞フハ、神国日継之道ヲ行可シ、然カラハ慷

慨之悲士モ亦慷慨ニ流レズ、臣民之道ヲ守リ自然之大道

〔封筒〕 左大臣殿 具視

〔封筒ウラ〕 封

別紙一袋從条公相廻リニ付御使エ申上候、御落掌可給候

也、

七月廿五日

具視

左大臣殿

文書原寸 縦 一八種 封筒原寸 縦一八・三種

横四六・七種 横 六・一種

三〇六 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

台湾征討ノ件

〔封筒〕
「島津左大臣殿 実美
大至急 〕

兵隊ヲ以テ我ヲ追ヒダスコトヲ都督多分決シタリ、台湾
兵足レ共軍艦不足、東ラ大至急出ス可シト、只今御申越
ニハ候得共電信ス、

七月廿五日午後八時九分発ス

長崎支局

東京本局

右大隈より相廻候間差し達候也、

七月廿六日

実美

島津左大臣殿

文書原寸 縦二四・五種 封筒原寸 縦一七・五種

横 三三種 横 六・五種

三〇九 岩倉右府ヨリ島津左府公へ

英人ドン見込書但シ無之

〔封筒〕
「左大臣殿 具視
〔封筒ウラ〕
「封 〕

別紙英人ドン見込書御廻し申上候也、

七月廿七日

具視

左大臣殿

文書原寸 縦 一六種 封筒原寸 縦一七・三種

横一八・二種 横 六・三種

三三〇 山階宮晃親王より島津久光公へ

暑中見舞

〔包紙ウツ書〕
「左大臣様」

晃

〔封紙ウツ書〕
「左大臣様」

侍史中

晃

〔墨引〕

「」

大暑中日々炎氣熾ニ御座候得共、益御勇健に御奉職奉大
賀候、抑々此一折不珍乍赤面時令御見舞申上候驗迄ニ進
上之仕候、御笑留被下候得は深々畏入奉存候、尚期拝謁
候也、

敬白、

戊七月廿九日

如此時節折角御用心之儀願候、去ル廿三日ニハ御陪
食被仰出不存寄恐入候、内々御礼申上候也、

文書原寸 縦 一七種 包紙原寸 縦三一・七種

横四九・二種

横四四・五種

三三一 久光公へノ建白「愛国大狂論」 筆者不明

国体論、兵制論等廿三論

〔表紙〕
「愛国大狂論」

謹上再拜敬慎言、

殿下英明幸以大度之仁恕、勿咎狂妄之謾言焉、今也時既
中夏日之長、願献午睡之一笑、凡為所人情之赴也、善善
惡惡、愛美嫌醜、去惡進善、自賤登貴、以為美目者天下
之通情也、故智也能也日進、愚也不能也日退、語曰、佞
不可以接士、愚不可以事君也、為人子而不能承其父者則
不敢當其後也、為人臣而不見察其君者則不敢立其朝也、
故將有所為者、禽獸且計其可為与不可為、而戰則用之爪
牙、游泳則用之鱗蹼、雖有距有長脛所以、未戰而走、未
立於深者、所謂知彼知己之謂乎、因之觀之則苟為人而不
慎者大狂大愚也、大狂大愚者無由壳無能無術者人所不容
也、今不啻於尋常之布衣而于万乘之君、而雖辱無醜女
四殆之言、窃慕 殿下之大義而已、故以区区眇盲之驅而

冀^(負)負薪之仕、以駕馬犬羊之類而似待千金之餽、一食欲喰

石粟者矣、非狂且愚而何乎、曰雖狂狂愚愚恐有所用乎、

軍勢曰使智使勇使貪使愚、智者樂立其功、勇者好行其志、

貪者邀趨其利、愚者不顧其死、因其至情而用之此軍之微

權也、請看大狂生不狂生、智有所愚、愚有所智、陰生陽、

陽生陰、火水也、水火也、清濁也、濁清也、凡天之生万

物也、以一氣非生成者也、故雖天地之最初生成於渾沌之

中、劍產於蛇身、玉產於崑崙、人產於真鼎、万物尽產於

水土、水土、渾沌、崑崙、真鼎皆陰也、陰下也、下水也、

水土也、土沌也、沌愚也、陽上也、上天也、天火也、火

清也、清明也、明智也、故智愚相合天地能交、姤則造化

為不測之妙用也、然碩學賢顏之輩、自言天道而不識天理

以所不已之識、為非所不能已之識、以老壯為不測、為邪

說信邪蘇而如今日何不曉之甚哉、史記之世家曰、孔子適

周問礼於老子、既反而弟子益進又有猶龍之歎稱矣、子貢

曰、夫子之文章可得而聞也、夫子之言、性与天道不可得

而聞也、子路有聞未之能行唯恐有聞也、夫子之信老子也、

孔子者不如、老子弟子者不如孔也明矣、然學者不能窺天

機、叨論和漢上代之神聖為詭誕妄說、適以如漢武泰王、

玄宗者而為咲、以上古之書而為虛說之甚、宜哉、非訝井

蛙之大海不知、夏虫之水而已、聖人深長天機之漏秘焉誠

有故哉、若使天下之人尺識之、則釀大害之故也、是以為

秘訣以隱語傳焉、雖有書籍誦者殆不可解者也、假令誦畢

而雖有悟、其意者百事百芸未可成者、嗚呼可嘆、其以不

安解世人棄之、而為無益之書、終數千百歲、如無神聖之

道哀哉、產於神明之國、而誹古事記、旧事紀、日嗣者

為非火玉之子、笑燕子巨人之跡、而謗三皇五帝、詰極案

蓮台之說、而誹佛祖入於神教者誹儒仏入、於儒教者誹神

仏入、於仏教者誹神儒、為我是為彼非何迷甚哉、夫道則

天地之道也、何彼我之差別之有乎、唯因風土寒暑之異、

有所人種亦各異、夫形異者言語亦異、言語異者性質亦異、

性質異者智愚強弱其有所異、而設之教故雖不同、立法典

經三教者、一物一体也、然後人不識一画一点之字義、不

悟秘訣之隱語、然而以凡夫之身比神聖之事焉能所可尋常

之知乎、故於韓愈之博學論、而晚年愧之、於宣長之博識且論大聖、於篤胤之博覽晉、而不止者、兒戲也、韓愈之懺愧者、學之進也、篤胤之不悟者、國之害也、凡人生而非知之者、學而後知之者也、故習以成性、可不慎乎、然使無學、幼稚之者聞、佻骨兒戲之說、則誰有不信之者乎、信之師之而進其學風、則其道益遠於天道、遠於天道則遠於天理、天理天道不得其衷、則如無天命、為無天命者、如無神聖仙、仙之道苟無神代之事、無三皇五帝之事、無仙仙之事、則後世以何有可知天地人之道之本元者乎、倘以神代之事為付會之說、則始其說者神武、非神武、綏靖、非綏靖、安寧、非安寧、懿德、非懿德、孝昭、非神武、夫神武為神武也、非為詭譎不知父祖者也、加之經開化崇神之隆世、而說神以來之漢籍、自神武經星霜一千三百七十二年之久、當於蕃神婦依之秋、辱無國藉、茲雖作異說之書、孰有信之用之者乎、夫古事記之成也、四十三代元明之壬子和銅五年也、日本書紀之成也、元正之庚申養老四年也、夫為神州之風習也、言語之國也、故言繼語統以為教行語行聞耕

語耕聞、然而相傳相繼而至茲、因之見之則何付會之說之有乎、伏惟神聖秘之而不顯、言雖學之求之、非其人所以不敢言者、和漢同一有故哉、然後人是不知口言敬神、口言崇聖、而所以誹揚墨積老者何乎、曰不知神聖也、人情去固寧安、故教先聖之人也、隨於人情而立之教者、隨於流而降、則唯非為其道之成安而已、非欲使天下之人、盡為聖賢者、故先安後固誠哉、積近謀遠者、勞而無功、積遠謀近者、佚而有終也、是以寧近不追遠、雖然、道者不一、偏強非積遠謀近而已、不溫古焉能知新乎、曾子曰、慎終追遠、民德歸厚矣、慎終喪、盡其禮、追遠者、祭、盡其誠、民德歸厚、謂下民化之、其德亦歸厚、蓋終者、人之所易忽也、而能謹之、遠者、人之所易忘也、而能追之、厚之道也、故以此自為則己之德、厚下民化之、則其德亦歸於厚也、然為神代之事也、去今甚遠、遠者則易忘而難知、故措而至於不論、是以知所以神明為神明、聖人為聖人者、甚稀也、故生神明之國而謗神明、生於聖人之國而謗聖人者、無各、而之祖神而謗之也、假令雖有君上、父祖之過、以臣子之身顯諫之、且非忠臣孝子之事也、然況

僅以凡夫之覬試於誹赫赫明明之天祖天神者乎、抑神代之事非則老子亦非也、神代之事是則老子亦是也、夫老子者太上老君也、混沌之凶云、初三皇之時化身為万法、天師中三皇之時為盤古、先生伏羲之時為鬱華子、女媧氏之時為鬱密子、神農之時為大成子、軒轅之時為黃成子、少皞之時為隨応子、顓帝之時為赤精子、帝嚳之時為録凶子、堯之時為務成子、舜之時為尹壽子、禹之時為真行子、湯之時為錫則子、老君雖累世化身、而未有誕生之迹迨商陽甲之時分、神化氣始寄胎玄妙玉女八十一年、暨武丁庚辰二月十五日卯時降誕於楚之苦泉瀨鄉曲仁里矣、自武丁至於周末幽王之時也、世既二十二代也、自東周之始迨敬王十七年、孔子問道於老子、蓋概略其年數茲二百六十八年也、是乃吾朝當於懿德之戊戌八年矣、孔子之生也魯襄公二十二年庚戌之歲也、則當於綏靖之三十二年矣、孔子之卒也哀公十七年也、則當於懿德之壬戌三十二年矣、然老子者自伏羲至於幽王、既經六十六代之久而東周以來迨於唐高祖武德三年、茲一千三百九十年也、則當於推古之庚

辰二十八年矣、嗚呼夫老子之為事跡也、如斯彼若雖有神通隱顯無測變化無窮普度天人良不可以具述者老子也、實可堪笑哉、故討之者為丈夫之徒、說之者為巫祝之徒爾、雖然叨舉人之寸尺者、有所不自尋丈之知、故詰老子之詭譎而別欲言天理有、孔子猶龍之歎稱、故以孔子為是則老子亦是也、以老子為非則孔子亦非也、於是也學者失方向、雖不知所以論是非之何、鮑魚之肆不知腥內、自顧神代則古事記件件、有付會之說矣、破此則破國体無此則係天子之系譜、於茲乎神代之事措雖不論怪心神武之母神、窃嘲日嗣之尊稱、以蛇為蛇而不知為龜蛇之何、或不知為伏龍伏虎之何、或不知為玄妙玄闕之何、或不知為天光靈光之何、或不知為劍靈汞聖之何、或不知所以斬須佐之男命之蛇、或漢高祖者以三尺之劍斬白蛇而不知所以治天下、然而創業之為君者之所為雖有、為和漢同然之歎者、如高祖立鴻業於天下者自當大蛇而為斬之、則所謂慕虎憑河之徒而何所稱之有乎、一蛇雖為民害未所闕天下之治乱興廢也、夫為斬之文字也、恐陰陽變動之象也欵、斬新日月之謂欵、

然不知焉故以神代之事為虛說、以老仙故為妄語、終雖為世人之咲三皇五帝者師老子而為治道矣、故画八卦造書契制嫁娶教民佃漁畜牧造琴瑟者伏羲也、芸五穀為廩市制醫藥者神農也、置左右大監、監万国立相及史官、制文字、立井、制田、作宮室、制衣裳、作器用、作貨幣、制武備、設陣法、立占天官、作甲子、制歷象、作數、造律呂、作藥、制醫書、教民蚕者黃帝也、是以考古、則神聖仙仙之事強誹之笑之、則却為老仙之笑矣、抑吾為國体也雖無聖人之道無所不足、雖然神代之文字也者不過配五十韻、故以言語相教相習焉、是以迨至於後世於言聞之間漸漸生誤、既致事實之相違、故元明憂之而作古事記、元正亦作日本書紀矣、然其書似老仙之事而非可解者也、於茲乎主張國學者神計神事者為所不人之知學韓藉者敬鬼神而遠之、置而不論者有為誹謗者、故以金玉之書為無益之書、為天下之笑下於佻說信、邪蘇而破國体然而為美事矣、臣雖大狂大愚為 朝廷國家焉能得不哀乎、嗟所以來此國害者何乎、曰腐儒庸人拘泥於書而為頑固之風習、以語和漢上

代之奇事為怪力乱神、故謗故惡終無神道之故也、蓋為怪力乱神之謂也、知而不語者如孔子、不知而無之者如商鞅矣、若有奉戴元明元正之遺志者、而明天理悟神代之事、敬天祖尊 天子守護國家而不墜、神武內守封疆則固外攻夷狄則敗戰則勝欲、以寡與衆戰則假令四夷八蛮一舉而雖來攻、吾能挫之能擊之、降者能懷之、替於天地而欲養民者務在窮天理、天理明則人与神明通人有神明之術者為所庸人之不知、託之鬼神而欺人寄之、天文雲氣而為天助神明之擁護、掩自功而所以不為功者恐天機之漏也、夫天氣之漏也雖所神聖之慎為人君行人君之道、為人臣行人臣之道、為人子行人子之道、心誠尽忠尽孝愛民竭力、致身焦心孜孜思而終始不撓、則神明哀、其至誠雖神秘之事授之而所無愛惜、故古之良將者自施神明、佞授之術而如不知者、或畜有一芸一能者、而能使立其功雖毫末無違於天理夫為天之文字也、僅一画悖則忽為天矣、大哉明君之德也、洋洋乎如大海臨之益深、巍巍乎如泰山仰之益高、溟溟乎如夜陰隲之益闇、照照乎如白日昃之益明也、夫將之如斯者

治國家則深間不能窺、智者不能謀、勇者不能侵、狡黠不能凌、然旧幕創業以來既致太平之久矣、故上下更遷奢逸染流於文弱、雖形漸大似食鯨鯢之群鱗耳、故受醜夷之侮、特非汝之恥辱、爾雖至汗國體蛙面灌水猶不知者釀國辱國害之甚、然而悖攘夷之勅命、數為不良之企敬夷狄過於聖賢終為禿國之吏其逃辭曰兵者凶器也、軍備未整、寡者不敵於衆、小者不勝於大也、然無勝算而起無謀之師者愚也、狂愚謂不然也、夫兵者聞拙速不觀功之久也、故善戰者其勢險其節短也、因之見之則如兩藩可戰、則速戰者雖將來不容彼其侮也、然外虜憑器械大艦來而欲拔、吾龍髻可謂天賜也、有吾聞不取天之與則却受其禍也、兵書曰、敵國亡而國常弱也、故天來夷狄欲使吾練兵力也、然征夷大將軍怯而不戰也、譬有投勞鼠與於貓者則貓畏之而走逃、曰、古語有焉、窮鼠却食貓也、可乎、故畜主怒之而廢貓矣、凡物以我及彼則有天地懸隔之齟齬乎、諺曰、哀貓足之寒而有屬足袋者猫逢犬而見獲也、夫善甚突者一目而有勝算、不其善者雖三年拱手座案、不知所手之舞足之踏也、豈言

無妙手乎、雖寡素不敵於衆小者不勝於大、於鯨鯢之鯪鯪於牛馬之虎狼、於神州之諸蠻彼大國也大者牛也、我小國也小者狼也、見狼之一牛也、敢非所恐也、見牛之一狼也、却懼焉、然欲使牛與狼諸戰者見大與小、而謂狼牙者不如於牛角唯所見也、由五指之更彈寧不如於一舉也、於茲乎憂狼之小而行變性、牛兒之大法以名僧知識之功力間漸為似牛兒者矣、嗟可哀桑田變為海、猛獸變為犢僕無五角之勢亦失、固有之牙術矣、故盪和魂媚於牝牝終致既往之幕臭矣、伏惟仁也、義也、忠也、孝也、智也、信也、慈也、悌也、爪也、牙也、所以生勇者也、然所兵家之貴者智術與爪牙也、無智術與爪牙者縱雖極必死之勇、而能戰慈牝鷄之雛而如擊蛇猫而已、故良將者使士卒有爪牙與羽蹠、是以雖豫海上無墜之憂、入於水中而無溺之患、雖強敵無所恐無所畏者、禍害常免所謂不戰而勝即是也、縱雖智士仕人以徒手弁口焉、能拒豺狼乎、故以劍戟為爪牙、以銃艦為羽蹠則可也、故為用兵之要也、宜使虎狼生羽蹠也、鴻鵠一舉而雖躡翔千里、焉能得克於虎乎、雖無虎羽翼鳥

來則食、焉鳥去則不追而已、凡過於事之憂慮也無益乎、狼也、兔也、同山而住焉、鷹也、雀也、不隔墻壁而居焉、然而未嘗聞絕其種類也、然夷狄者群鷹也、吾者鷲鷹也、何足為憂哉、若鷲鳥一声一翥則群鷹尽散、散則擊其一、而獲之何難之有乎、曩所并蛙之管見、雖如斯退顧過激之愚說、軍讖曰能柔能剛其國弥光、能弱能強其國弥彰、純柔純弱其國必削、純剛純強其國必亡也、故能兼用剛柔強弱而制、其宜敵國禁、耀武威若彼亂法則以理正之彼為暴、則以武懲之何忌憚之有乎、醜夷之始來於下田也、寄事於薪水而為窺吾虛衷也、其再來於本牧也、薪水之謝或論兄弟之國而請和親、所請雖和親其實也在於通商矣、彼非於通商之利焉能言兄弟和親來者乎、故許和親而不許通商、則彼必仇於我也明矣、因於利而為兄弟、為夫婦、為和親者非於人倫之事也、所謂人面獸心夷狄之情也、抑國之產也、有前後人種之異也、有別開化也有遲速、加之言語容貌禮義法式非同種、同類者百事万端不勝枚舉、況隔万里之波濤矣、今吾於神州之人也、產於同國同景同鄉同里同

街同屋、且同人種而有不得為父子兄弟者、有不得為婚嫁者、有不得同位階者、有不得居於同室者、有不得為心答者、有不得為出入者、雖然是未骨肉同胞之事也、古今同胤同胞而兄為大臣、弟為野人、弟為富貴兄為貧賤、或為忠臣為賊臣、焉能得為兄弟乎、是亦未一身一体之事也、一身一体而頭足不能無之差別也、司馬牛憂曰、人皆有兄弟、我独亡牛有兄弟而云、然者憂其為亂而將死也、子夏曰、商聞之矣、死生有命、富貴在天、君子敬而無失与人恭而有礼、四海之内皆兄弟也、君子何患乎無兄弟也、註曰、既安於命又当修其在己者、故又言苟能持己以敬而不間斷、接人以恭而有節、文則天下之人皆愛敬之如兄弟矣、蓋子夏欲以寬牛之憂、故為是不得已之辭誦者不以辞害意可也、胡氏曰、子夏四海皆兄弟之言特以広司馬牛之意、意円而語滯者也、惟聖人則無此病矣、且子夏知此而以哭子喪、明則以蔽於愛而昧於理是以不能踐、其言爾因之見之、則雖子夏焉能以夷狄得為兄弟乎、縱雖曰有夷狄而夷狄之礼何為如神州之礼乎、見有夷狄之礼而為可者所不知

吾其心也、以吾意見夷狄之禮則夷狄之禮也已矣、夫為神州之人也皆雖神明之遺體也、行夷禮則夷狄之人也、有鳩三枝之禮、有烏反哺之孝、逢犬其主人則垂兩耳低頭出鼻聲搖尾、或逢其強犬也上四枝而倒於地者是則犬禮也、凡至禽獸鱗虫非無禮者也、雖然如神州漢土之禮非恭敬、謹慎之者夫札式言語冠服筆法文体其他之百事由、非華奢僭上以省略為非禮為野卑、故以神明之遺體廢神明相傳之國體而行夷禮、廢法言而學蠻語、廢冠服為被髮左衽、廢穀食為肉食、廢文字而學蘭字、廢甲冑而着戎服、廢旌旗金鼓變兵制、以異類異形之醜夷為兄成弟、棄神聖之道奉彼而不忍為屬國之姿乎、假令雖聽通商有內服制而禁華美驕逸之事、無使無益之物翫弄着服、則彼之計算為画餅矣、彼鬻餅我嗜酒彼來於酒家而欲完餅我辭之是以彼為仇、則曲在彼直在我以直懲曲何畏之有乎、若有可用物則料有、無於蘭人所無於彼者命於彼而求之、何有所不可得乎、然則於中間恐得蘭人之利欵彼商賈也、我買客也何論僅之得失乎、世間適恐下僕、利於中間促車駕勞步足而、至商家

有為直買者、是能雖足防中間之利、於人馬往返之上不知有失費也、商賈素狡猾也、善察其吝情、阿諛稱殿樣、振舌而貪高利、是曰、善鳥之羅者痴漢之隱語也、因之見之、則開諸港接諸蠻以一國之力由為與數國充買、寧以蘭人為中買以所一商之壳而為所一家之求、則妨下僕之利而由自損之大可乎、然法者不一論者依人而雖異恐事之、繁者過多善乘者、墮善泳者溺計算立而有錢不足者可謂多智破事必然之勢也、故絕諸蠻以親於蘭商為良策、然則蘭商以親於吾諸蠻妬之乎、譬魚壳每人來而強於吾、吾求魚於每人而不能食焉、故辭之彼懷恨而來侵欵、噍之一棒而令去者武夫之事也、然恐魚壳之怒財破產求於每人、見壳於每人而不能辭、終致自滅之基、嗚呼何為士氣之如斯不張也、先帝聞之而日夜憂攘夷之勅命數雖下因循姑息非不果而已、却計廢帝猷毒之事有志為之破產投命、雖東奔西走非所能為於效也、努力之三藩翼王室、故親征之鴻業至將拳秋、豈計崩御之凶報到於四方、上雲上下草莽無不泣哭、然在其中間而幕府窃祝謂西也、曇顛卵也東照又為萬歲之思矣、雖然天道爭翼逆臣者乎、偏依神武之威靈欵、霧島

山之嵐夷薩薩之聲高聳、然雲霧淀川之水不溜切弘為蒼、於東叡山華又散而陸奧也蝦夷之千島之草木迄所以尽靡斤伏者、雖所天運之勃興非薩國之武威、焉能得東行遷都之速乎、於此也上下欣然皆祝萬歲、忠臣得志而賞有功、時當宜復古而國体忽破、又所以益一層之憂者兩虎爭肉狐乘其虛之謂乎、哀哉廟土未乾使夷狄參內 天子咫尺接於蛮使而何事欵、為盟約破 先帝之遺旨、偏如非此際不成者何之謂乎、縱彼雖欲乘兩虎之鬪隙防之一言也已矣、在於帝諒闇且有賊臣之大亂而自國之興廢未可知也、故不違為外事也、只所使節之見也、先弘膝下之火急、謹行喪祭之大礼漸至於哀哭之薄而後可聞使節之言也、今吾 君 王苟為人子而忘親喪之哀泣、着喪服而和會於他邦之人壤、特 当帝之孝道非不忍為親陸之事而已以忌服之體、聽他邦之拜謁者非礼也、然賊塞未拔勝敗、未決安危、未定天下於忽忽之間、破 先帝大諱之禁勅不顧、天下之議断然棄國体、而更法變風俗從宮室橋梁船艦器械之製作至言語飲食起居、曆象百事百物、雖以用彼者而為開化以用、我者而為因循以携銃器、脫刀者而為強兵以試劍帶刀者而

為無益、見其為人非神非聖、年令僅二十或三十或四十或五十或六十或七十或八十年、其所學有四焉、一曰国学、二曰漢学、三曰仏学、四曰洋学是也、為其国学者不知神明、為其漢学者不知聖人、為其仏学者不知釈氏、為其洋学者不知基督、故不知不及基督於釈氏、釈氏於大聖、大聖於天神也、不知則如無神明之事、夫劍也弓也不知所以有其威德者為不如於火器矣、故廢之而為無益之者乎、夫為武夫之双刀也、長短者陰陽也、有所用陰有所用陽、夫陰陽者須臾不可離身者也、凡為武臣衛 天子者不可無利刀請見於 日本武命之草薙帶之則能征東夷、能免火攻脫之則有胆吹之難、故有平氏小烏拔円二刀源氏亦作截鬚膝円二刀伝之、子孫握將門之權而使衛 王室、假令雖有源平二口之名劍若無劍之威德則焉能得為守護乎、特有源平二口之名劍而、天下之士豈無利刀乎、夫所以有劍之威德者、雖非所狂者之能知有鏢刃之別者、人人自試而可知也、威在於鏢矣、德在於刃矣、雖然是刀劍自然之威德也、故不能使英雄猛獸及通力之妖怪威伏也、唯足使其恐者畏而已、若加劍神秘之威德而有用之者、縱雖彈丸何者也、盍

足畏乎、夫有劍之威德也、如有人之威德者、凡人生而非有威得者也、有所以威德之加者而後人畏之伏於是者也、因之觀之則於弓箭之術亦然矣、神代所謂有天之鷹弓天之羽羽矢者、天上天下徒手飛之而能有射殺者、或患 白河法之夢魘也義家獻一鳴弦而鎮之、賴政於化鳥本間於鸚奈須於扇、皆是非弓箭自然之威德也、昔者行鳴弦暮目而顯射術之名譽者特非件之四輩而已滿仲為弓勢也、射十有六町、蓆野十津川之新兵者射指矢三町遠矢八町、為朝發矢於大島而達鎌倉矣、其中与不中者有攻之術、則有守之術之故也、然近世於射術家所謂雖有暮目者、多論弓箭之製作、或論射禮而已也欵、故敬慎雖行之却為狐狸見愚陋、其逃辭曰、是誠心不致之故也狐狸妖怪不去、則断然可射也、誠心至此則狐狸可去也、嗚呼何逃辭之甚哉、誠心者素雖然若如斯則何暮目之有乎、一拳猶殺也狐狸若羅於父母不去則殺之可謂孝乎、然是為暮目或置鹿島・香取・熱田神功而無一戰功勞以応神為弓箭武門之神明、然而不知所以可為武神者多矣、或以大元貴命為医神而不知其藥法、或

以秋葉為火防之神、或以池鯉鮒明神為蛇除之神、或以能勢之黑札為落狐之守、而不知其由來也、故雖曰敬神尊王愛民天理國体富国强兵廉恥孝悌一和、皆是言行相反、而所謂無不有名無実者終所以致失体者可為骨鯁之臣者失神明相伝之武術也、其為漢學者所學主忠孝仁義而不言窮理也、故疎於天理而不能知聖人之秘訣、隱語誹老佞神仙而由、非堯舜文武周公孔子為非至道、而不知為堯舜文武周公孔子之聖仙也、夫老君者吾天祖如天御中主神高御產巢日神、神御產巢日神也者、三皇者如天神七代之神、神五帝者如神武以來至於開化、崇神者文武者、如神功、応神者、周公孔子者如仁德、天智者欵、雖然非無和漢勝劣也、凡謂其趣而已伏惟天祖伝道、而開於化子孫者与老子尽理明文漏氣而垂教於世者、和漢同一雖非虛譴不真人伝授之人焉能有知妙之一字者乎、抑為神代之事也、神武以來敢不言漢土為上代之事也、五帝以來慎不漏故信堯舜文武周公孔子、而疑老子信人王以來之事、而所以容疑於神代者言与不言聞与不聞也、言則為老子不言則為孔子聞則疑焉、

不聞則信不知故神仙者、時當可謂則無所不謂矣、神仙無形、無形者虛也、虛者天也、無天口故使人言者自言而不知所自言也、上若有不祥則凶兆顯於天妖、言行於上下仁賢則祥瑞顯於天地刃土唱方歲、奚言無天命乎、然不知天理而張我意者、縱雖英勇智士也、庶幾於亡乎、故古之良將者得保命護身之術、而明利害得失矣、保命護身之術者所謂非巫祝之九字護身也、今洋僻之徒不知一身之利害得失、自欲拔爪牙者焉、能知所有天下之利害得失哉、夫無天理神明者却見時勢之變遷、而為天下之煩、或雖婦之天教何天教天運之有乎、文王問太公曰、天下熙熙一盈一虛一治一亂所以然者何也、其君賢不肖不等乎、其天時變化自然乎、太公曰、君不肖則國危而民亂、君賢聖則國安而民治、禍福在君不在天時也、然則不在天時也明矣、然棄神明之道而行夷狄之道、更風俗奉彼如神明者恐夷狄之窮理而不知有神聖之神通之故也、嗚呼學聖人之道而以醜夷為賢於聖人堪笑使賢尊於聖去而之道、就洋學者如出白日而入闇夜、諺曰、愛憎變遷之速如貓瞳者無常形定心也、

故妄安者雖奸婦容而所不為奸夫也、然無奸婦之思慮苟肩儒之名義者如今日、則天下孰敢有議國家之大事者乎、然不顧者儒者過也、其為僧侶之弊風也雖不少、非為大害者狂生嘗習仏如仇讎、效先年一僧來曰、無益之僧徒為蚕食不知地極極樂而欺愚夫愚婦貪財宝矣、其罪恐深乎、是以考、則廢仏不足悔也、吾答曰、然、雖然汝知汝之無益、而知汝之有益乎、彼答曰、改戶籍宗旨者是欵、曰否、汝欺人貪財無益之故有益也、汝欺人不貪、則不能建伽藍堂塔鑲金銀衣錦綉文綺乘鸞輿、則塞天下之融通也、僧徒貪財則其財及諸商工人、工商得財則僧又奪之、故普流通於天下而為國益矣、然官吏惡神官僧徒之無益廢之、而廢武臣之世祿合而欲婦於農工商、蓋為天下之田高也三千七百十餘万石而已矣、為天下之禿買也、非不商賈之足、非不工匠之足、非不農夫之足、以農之多非米穀之出、以工匠多非為家作、以商賈之多非多食多飲多衣、因之觀之、則農工商之多者民之疲弊也、民疲則國不富國不富則兵不強兵不強則國亡、故良將者雖憑六翻不去脊上腹下之囊駝也、

伏以興廢戶之仏寺者不可也、廢右府信長之仏者美事也、今議廢仏者拙策也、古來以山門之衆徒為兵非無其例也、今以神官、修驗僧侶為兵隊、則神官、修驗一家一院而可得兵士三人欵、伽藍一寺一院而可得兵士十人欵、凡物不用有而欲用無、則無不無益者夫仏之根元也者本窮理詳魂魄昇降之理宜濟度衆生也、若有使禽獸鱗虫草木金石及之魂魄各得其所者實謂天下之大功乎、夫仏者之窮理者非所邪蘇宗蛮夷之善知也、今謂其一二則墨染之法衣也、伽藍塔上之九輪也、僧侶不帶劍戟甲冑故着墨衣也、九輪者非甌上之飾所謂今之雷除也、伽藍者所人之集也、故設之也、其高十有六丈也者除方四町其八丈也者除方二町其四丈也者除方一町也、抑在吾國之塔也以天王寺為始、蓋至明治之甲戌一千二百八十一年也、因之見之則仏者之窮理者古於西洋各國若有知此事者焉能泥於彼乎、譬如不羨晚年者小兒之風車矣、然入於仏門而不知之者僧侶之過也、其為洋學者生於神州而不知神明之名義、或不知四十七字之仮名使、或不知詠歌之手仁遠波、或不知天氣之流行、或不

知神儒仏之窮理、偏溺器械精味、而雖無益之事幸神州而欲使為、如蛮人者是洋學之邪僻也、夫人万物之靈也、見鳶尾則作棍、見龜鶴則延壽命、見不金石變更則保身者可也、然不知三教不知邪蘇為被髮左衽、則為文明開化破國体苦生靈使、日嗣如夷狄之君雖君辱無臣死之氣節義勇、猥廢自國之事如彼者皆是而我者尽非也者、所謂天魔之所為欵、百官百司群吏朋党以類而鳩一派為怪体之風俗曰、奉職之商法、曰、官祿之奪、或自為而非天下之為一月賜六休自朝至明、且或登樓、或卜店、或戲場、或滑稽、或內妾、或外妾、或白昼与芸妓同車而為美目、以不潔之身謁天子、放逸遊盪無所不為矣、官吏如斯則民人亦如斯上下交為流連姪逸、曰、之愉快散財如水、故雖有金玉之山、其財可尽黃金不多、所謂交不深、交不深則在官不長、在官不長則等給不進、等給不進則生計難立矣、於茲乎類賄賂行、古之賄賂者贈之甚難受之、亦甚難古之官吏者內雖不正也外正威義而居巨室出入有從者貴賤有別接对不安故唱裏子而納於函、或納於魚腹而雖呈之不能無奏者中間

之疑、是以主人百金則別贈奏者之十金、然而中間之事未可知也、其贈之難者則是也、其受之難者對於贈者而非無所恥也、故辭之所以難其受者則是也、然今之賄賂者贈安受安其為情也、独行獨步誘月誘雪誘華誘杜鵑、或登樓、或卜店賄主先於受客而為其會計、或曰、吾家有何商之來者何品之廉價殆不可言比之他商不至半價云云、欺之先納其品而不取其價也、如斯則彼受安我贈安之情也、凡出於事之成安者可謂智欵、隨人情而為政則不令而行安也、於茲乎使民有自主自由之權故無上凌下僭上無禮流連荒亡無所不為、忠信孝悌之道崩而狡黠之事頻行、彼揚米價、我揚酒漿、彼揚金息、我揚雇賃統統揚於彼類類揚於我、嗚呼為物價騰貴之勢也、恐不可知騰天也、伏以舛米之價十金也、則一日之雇賃亦為十金、則似不足為憂矣、雖然以十金而配之日用、則不足塞雜費之半也、夫物價雇賃益貴則貨幣通用益零落而其所用不得不多、是以雖欲黃金之多世如斯流金精尽海底、豈能可得之乎、夫金者陽精也、故人勢盛則鍾左前之山為英雄如產者於此乎、朝廷作紙幣

今年所作明年不返於朝廷、則又作之、年年歲歲而不足則年年歲歲而作之、夫紙幣者猶証券券也者、然以証券用之各國交際貿易之事、則將後患之來也可無日、然為一日康安之策而釀將來之禍如盤石安全者、自称文明開化之人重國體不變風俗、以帶劍之武夫為因循姑息、或為不知時勢、或為大狂大愚天下一人雖無容交者、遙顧西州妓在神武之旧跡所謂高千穗之峯是也、在大鳥於此山可謂神武之化身也、此鳥蜚必冲天鳴必驚人、且有尖烈巨大之齧爪、是以一擱則握四夷八蠻、一啄則外國皆可屠、故妖邪畏之而隱欲拔爪牙、夫所以畏虎者有爪牙之故也、縱雖鷲鳥猛獸也去爪牙則為小兒之弄物恐為螻蟻見征未可知也、今觀所天下人心之婦十而有八分者有一分半者、有一分之半者其所可多者如斯少、其所可少者如斯多、是以在是非之何乎可知也、仰冀為天朝國家無屈大志不失、爪牙以神明相伝之國無使、玉石混淆、而至天下之大事也、与衆無計慎不漏天機、則將祥瑞之降者雖不遑枚舉、今也為天下之急務者有二、焉曰、富國也、強兵也、然世人所謂非富國

強兵也、若幸秘此事而窃是行 殿下之手実神州之幸甚也、
迂拙之謾言恐章之長左拳表目、而冀一笑誠恐誠惶頓首頓
謹言、

明治七年甲戌年旧曆六月廿日

表目

国体論

神武之封建異近代之封建論

天智之郡県異方今之郡県論

立征夷大將軍論

兵制論

以神官寺院修驗富農力士為兵論

定士族卒族各三等之世祿論

不分海軍陸軍論

重門閥別貴賤論

民政減租稅論

刑律論

定服制論

米穀定價論

物價準米價論

窮民救助論

非軍事以蒸氣禁人民通行論

禁異国家作論

廢鐵道電信線論

廢議院立彈正台論

學校論

復讎論

正風俗論

外夷通商論

定洋學生徒人員論

以夷人不為官員論

禁邪蘇論

定金息論

作舍於道邊論

以上

狂愚無學也、故雖不知文法野鷲之訛言却為有一興、使秃筆言上愚意、然此筆也有疾曰、聾啞也欤、書漸成而見所其記載、有意而辭不足、有辭而意不足者、強非拙筆之科而已、今也東國無一家擊劍武場、故為天下養人而不失其業、然家財既盡而為座食效四年也、其貧殆不可謂餓死將無日、心焉得無煩乱哉、是以雖不能貫徹其意所願無他、唯使此國脈無斷絕其為勲功也、雖和楠兩公不及於殿下万万也、夫所十目之視所、十手指者未足与謀也、伏以臥龍不再生楠氏不復出英雄不常在、矣千載之一時國体存亡之秋也、冀明察而祈有良計、伏地待罪、再拜、

冊子原寸 縦一八・六種 横一三・二種 二九枚

三三三 京都大河万丈ヨリ左府公へノ上書

府県庁廃止ノ議

(表紙)
謹上

島津殿閣下書」

從來之府県ヲ廢セラレ更ニ太政官

代理庁ヲ置カレ度儀ニ付建白

謹而案スルニ古今未曾有之太政維新、万機更張ノ運ニ際シ、諸般之事務其盛典ヲ極メサルナシ、然リト雖モ地方官三府七十二県ノ如キ、何レモ太政官ノ定論ヲ持シテ、親シク人民ニ指令施行スルノ庁ナレハ、最モ至重ト謂ツ可シ、而シテ人民頑固ノ者ノ多キト維新ノ太政習染ノ日久シカラサルト、変革ノ必適ヲ期スルト、衆態ノ旨趣ヲ異ニスルトノ秋ニ当テ、太政府ノ定論愈確實ニシテ、人民ノ方向益迷乱スル者多ニ居レリ、故ニ法教ノ設アツテ府県ニ裁判処ヲ置カレ、一般ノ社寺ヲ教院ト為ス如キ、尤モ美事ト謂ツ可シ、猶金玉ノ微瑕アラシク恐ル、如何トナレハ凡上ノ論悉ク実地ニ宜ヲ得ルト為シ難ク、実地ノ見都而其定論ニ符合セシム可カラス、況ンヤ或ハ地方官裁判処ト合ハス、或ハ令ト参事ト持論異ニシテ、頗ル醜声ノ外ニ洩ル、カ如キニ於テヲヤ、其弊害ノ人民ニ波及スルモ亦尠カラサル可シ、而シテ彼裁判所ノ如ク、諸

省寮司齊シク地方ニ支庁ヲ置カレハ費用モ亦多カラシ、

コレニ由テコレヲ觀レハ、從來ノ府県ヲ廢セラレ、更ニ

一ヶ国ニ一ヶ所ツ、太政官代理庁ヲ置カレ、各府県ノ官

員ヲモ諸省寮司ノ官員ト為シ、都而合一ニ其庁ニ出張シ、

以テ太政府ノ定論ヲ懇ニ指令施行シ、奏任以下判任以上

期限ヲ定メ、壹式ケ年乃至數年間ヲ以テ当地ヨリ交代ア

ルニ至ラハ、徒勞ト冗費トヲ減シテ、却テ運事モ速カニ

弁ス可ク、人民モ感戴ス可ク、几上実地ノ趣ヲ異ニスル

ノ憂モナク、維新之太政益美ナル可クト奉存候、今日言

路洞開ノ日ニ逢テ欣然トシテ此段奉建白候、誠恐誠惶頓

首謹言、

戊七月

西京草莽之臣

大河万丈(馬)

冊子原寸 縦二八・五種 横二〇種 四枚

三三三 度会県士族太郎館季資ヨリ左府公へ

忠臣ヲ官幣社ニ祭祀シ耶蘇教ヲ排シ神道ヲ普

及スルノ件

「(包紙ウツ書)

建言

度会県實屬士族季光父隱居

太郎館季資

「(表紙)

建言

建言

微臣季資 大洋ノ洪大ナルヲ志サル井蛙ノ身ヲ以龍鬚(鬚カ)ヲ

窺カ如キ罪ヲモ顧ス、謹テ 殿下御執事ニ表ス、方今

熟惟ミルニ維新以降 皇制ニ不伏ノ賊徒御征伐ノ際、

官軍ノ壯士忠死ノ靈魂御祭鎮ノ為都下ニ社殿ヲ御造築、

招魂社ト称シ、盛大ノ御美華、加之 官幣ノ嚴重ナ

ル 天恩ノ鴻大ナル各魂地下ニ感戴奉ラサランヤ、且

ハ宇内蒼生モ此御仁恤ノ博厚ヲ拳テ仰慕シ奉ラサラン

ヤ、然ルニ豈凶ンヤ、此 聖世ニ在テ爰ニ独可憂事件

アリ、如何トナレハ 神武天皇御創業ノ際、 皇兄彦

五瀬命及大臣可美真手命、道臣命 天皇ヲ補翼賛成シ

奉リテ宇内ヲ鎮撫統御シ給趣ナリ、サレハ其補贊ノ勲

勞功績ハ拔群ノ鴻大ト謂ヘシ、故ニ乍恐上ハ

朝廷ニ於テ是ヲ御賞讃被為在候ハ、蒼生タルモノ誰カ其御忠功ヲ慕敬セスンハ有ヘカラスヤ、猶亦御歴代奉仕ノ王臣ノ中ニ崇道尽敬天室專一為、大連藤原鎌足・和氣清曆・坂上田村麻呂・源賴義・源義家・平重盛・藤原藤房・北畠親房・北畠顯家・新田義貞・脇屋義助・楠正行・菊池武時・菊池武重・児島高德・名和長年・平信長・源光圀是等ノ英名モ志心ヲ以 王室ニ尽シ、輔翼贊成比類ナキ功績ノ拔群タルハ国史ニ顯然タレハ、微臣ノ贅言ニ不及候、依是之ヲ觀レハ、乍恐朝廷ニ於テハ臣節ノ誠忠ヲ重セラレ、下万民ニ到テハ勤 王ノ赤心ヲ欽慕恭仰セスンハ有ヘカラス、雖然未タ 官幣社ニモ列セラル、ヲ聞ス、唯維新以來忠死ノ靈魂而已 官祭ヲ加ヘラル、トキク、是 廟堂上ニ於テハ深キ御旨趣可被在御儀トハ奉公察候得共、固陋卑拙ノ吾輩ニ到テハ、如何共万ノ拜仕兼、恐縮仕候而已ナリ、抑忠孝ヲ重スルハ、国家大義人はヲ明ニスル根元ナリ、況ヤ方今人民ノ幸福三則ノ 御教憲ヲ以御説

論ノ時節仰冀クハ 皇兄彦五瀬命始メ奉リ前件拔群ノ王臣達ノ神靈ハ、更ニ 官幣社ニ列セラレン事ヲ、是則忠孝節義ノ明鏡ヲシテ字内ノ人魂ニ照徹セシメ、邪思奸佞ヲ憎脱シ、速ニ誠忠ノ赤心ニ到ラシメント欲ス、何卒御高評ノ上御所置奉仰候御事、

但 官幣社ノ内ニ同神ヲ祭鎮候アリ、是ハ其旧元ノ神社ヲ以是ヲ齋祭シ、其自余ノ社ハ御改正有テモ可ナランヤト奉存候御事、

一 文部学校教院等盛大御設立有リ、御学則ヲ以テハ字内ニ智識ヲ求メシメ、御教憲ヲ以テハ神惟ノ国体ヲ弁知シ、天理人はヲ明正ニ教化セシメ、近衛兵ヲ始トシテ国々ニ鎮台兵ヲ置キ、国民ヲ保護シ給御方法ニ到迄、乍恐全国開化ノ御規則到レリ備レリト謂ヘシ、是亦億兆ノ洪事誰カ是ヲ仰奉ラサンヤ、敬酬奉ラサンヤ、然而後亦爰ニ患憂スル所アリ、依之熟々其原由ヲ按スルニ、豈不凶ヤ、未タ文明ノ域ニ不入国々里々モ不少ヤ、喋々呶々醜声モ亦尤不稀、恐歎ノ極ナラスヤ、仰

願クハ 廟堂上ニ於テ今一層ノ御仁恵ヲ被為遺袁所僻^(遺)
地ノ頑夫斑婦ニ到迄全国一般無洩落、此一座世ノ 王
法ニ化セサル蒼生ナカラシメンコトヲ、尤其御方法ニ
於テハ無智に育ノ吾輩ノ所不及、宜敷民情ヲ御臨察ノ
上御施行可被為在候様奉仰候御事、

一方今開明ノ形勢ヲ熟々迂考スルニ、西学日新人心研究
窮理有用ノ教道ニハ有之候へ共、万一誤解仕共和迂替
等ノ蒙相唱候輩有之候テハ、慨歎之極御座候、加之耶
蘇教モ逐次蕃殖仕候哉ニ承及候、雖然維新以降御嚴禁
ノ廉ニモ無之候得は、苟モ必 皇威御国体ニハ関係可
仕義ニハ有之間鋪トハ察志仕候得共、是亦自然受業未
熟ノ徒、誤訳可仕欵モ難計、焦慮苦心仕候間、宇内ノ
学校及教院今一層御盛大ニナシ給ヒ、是ニ加フルニ教
浅講官言行一致ノ純粹輩ヲ御清選外国ニ卓越シタル御
規範ヲ以テ、億兆此堂々タル 神皇相承、万世一統皇
国体ナルコトヲ弥以能ク憲并シ奉リ、毫モ誤伝等ノ失
錯ナクシテ愛國ノ至情ヲ尽シ、然後外国人ニ応スルニ

公法アリ、接スルニ信義アリ、亦彼カ方法タリ、器械
タルヤ可否長趣ヲ取捨シ、開明ノ全城ニ寧庄シテ天地
間ニ冠絶シタル 皇威ノ尊嚴ナルヲ万国ヲシテ仰奉ラ
シメンヲ要スヘク、御所置奉仰候御事、

右等ノ件々ハ天下ノ大計大議 廟堂上ニアリ、曾テ以
草野ノ下々ニ民ノ敢テ關係スル所ニ非スト雖モ、賤身
ニ至リテモ 造化天神ノ大御恩頼ヲ受テ、忝クモ幸ニ
シテ吾 皇国ノ内ニ土生シテ、世上無測ノ 天恩相蒙
候万分ノ一ヲモ敬酬奉ラント欲ス、亦幸成言路洞開御
盛時名ヲ以テ不顧、乍怖芹獻ノ微衷ヲ吐露シテ尽言セ
サルヲ得ス、何卒不憚忌諱ノ罪御憐赦有テ、乍恐御允
裁被為在候様伏而奉懇禱候、微臣季資恭敬シテ以聞ス、

度会具貴属士族季光父隱居^(朱)季資^(朱)
太郎館季資^(朱)
紀元二千五百廿四年第七月

島津殿御執事

冊子原寸 縦一八種 包紙原寸 縦 二八種
横一〇種 四枚 横一九・八種

三書 千葉県小学教員某(依田力) ヨリ三条島津

両大臣へ

日清開戦ヲ期シ西郷副島復職ノ件

(包紙ウツ書)

〔東京〕

三条大政大臣

千葉県管下第九大区三小区

上総国武射郡飯櫃村寄留

島津左大臣

○〔明治七・一・一六、東京ヲ滯留アリ〕

小学教員依田力

明治七年 十一月十三日

上之

〔朱〕

〔一紙切手二枚〕

大政大臣三条実美殿

左大臣 島津光久殿

依田力上

謹テ封事ヲ大政大臣左大臣両公ノ閣下ニ上リ以白ス、臣
微蕪ノ身ヲ以頻ニ方今国命ノ多端ヲ憂テ熄能ハズ、嚮ニ
建議ヲ左院ニ申陳シ、自後含歎連々トシテ慎俟ス可ラズ、
今又尋デ尊聞ヲ冒シ、尚將タ罪ヲ重ス、抑時下日清ノ事
窃カニ聞ク所ト勢ノ漸スル所、則識ル結末果シテ戦ニ決
セザルヲ得ザルヲ、蓋シ上旨ノ在所ニ於ルモ恐クハ此ニ

出シコトヲ、且戦ハサルヲ得ザルノ機会ヲ有シテ而テ力
メテ之ヲ撤メントスル、則今日ニシテ大凶出師ノ本意ヲ
失フノミナラズ、却テ四方ノ侮笑ヲ引シ、夫皇国豈タ、
ニ人ノ国ヲ襲フニアランヤ、是ヲ以其方向ノ預メスル所
知ル可ナリ、是時ニ当テ苟モ持論延遷以事機ニ後レバ後
顧フトモ畢ニ及ブ可ラズ、宜ク廟廷ノ相將タルモノ各自
尽任協戮、依テ以前ヲ制シ後ヲ紹ギ、首尾相援庸テ皇威
ヲ揚ルノ大策アルヘシ、然リ而テ其前ヲ制スルヤ尋常ニ
シテ獲可ニ非ズ、今ヤ徵募ノ両軍仮ヒ雄ナリト雖モ、適
ニ異域広疆ニ横行スル衆ナラズ、均ナラサレバ則其宜ヲ
得可ラズ、而テ海陸ノ兵未ダ全ク衆ナラズ、忠未ダ全ク
均トセザルナリ、而テ其後ヲ紹グヤ非常ニ量ラザルベカ
ラズ、今夫自奮ノ数党未ダ必シモ雌トセズ、而モ同心固
結從征ニ充ツベク頼ムベシ、則其当ヲ保ツヤ必セリ、且
其数多カルベク其志信ズベシ、若能之ヲシテ奇兵トナラ
シメ、或ハ用テ羽翼鋒殿ノ衝ヲ作シ、或ハ用テ弁進犄角
ノ勢ヲ張り以其正兵ヲ助ケバ、外ハ以衆ヲ多クスルニ足

リ、内ハ以テ志ヲ均クスルニ足ルベシ、然リ而テ自奮ノ徒ハ原ヨリ士族多キ居ル故ニ論者或ハ日シテ旧弊トシ、執テ不可トシテ曰、一旦之ヲ用フ後復之ヲイカント些細ノ縷説ヲ以スト雖モ、而ルモ今猶半開ノ世徵兵未ダ悉ク虎ニ非ズ、士族未ダ必ズ狗ニ非ズ、況ヤ仍之ニ禄スルヲヤ、皇国ニシテ時ニ此輩ヲ用ユ、奚ゾ敢テ妨アラン、亦時有テ之ヲ舍ムルモ苟モ其信ヲ以セバ、朝召暮罷スト雖モ誰カ之ヲ意トセンヤ、唯信ナキヲ憂フルノミ、伏テ冀ハ両公破甕ノ英断ヲ以曰、棄レ和決レ戰日用ニ自奮ノ士民ヲ一些ノ者資リ機ニ臨テ指麾ヲ下シ、且宜ク西郷・副島等ノ諸勲旧ヲ復シ、広ク國中ノ豪俊ヲ扱ビ、逆シテ海陸ノ大元帥ヲ拜シ、以上下ノ紛疑ヲ定賜ハンコトヲ、夫自奮ノ兵ノ如キ、或ハ烏合ヲ以視ルト雖モ、固ヨリ封建割拠ノ時ノ如キニ非ズ、独皇師ノアルヲ知ル、憤忠ノ金鉄ニ至テハタトヒ一場ノ鍊ナキモ一朝ノ制御易々ノミ其建策ノ如キ衆ノ難シ毀ルニ会ハム真ニ惜ムベシ、若眷責ヲ忝フストセバ、將ニ聊陋胸ノ韜忠ヲ啓セントス、臣ガ言

類狂不遜、遂ニ賢慮ニ触ル、ヲ覺ユ、然トモ卑身元ヨリ

國ニ捧グ、苟モ不良疾ムベントセバ、請フ先臣ガ罪ヲ律

シテ而シテ後ニ止玉ハンコトヲ、臣泣血誠恐々々謹言、

文書原寸 縦二七・五種 包紙原寸 縦二七・五種

横三八・五種 横 三四種

三臺 青森県士族山崎六郎ヨリ左府公へ

時弊救済策五ヶ条

〔包紙ウツ書〕 上 青森県士族山崎六郎

封〇^朱

臣謹奉書

左府公閣下、夫天有大命、人有大命、下所尊敬者天也、

上所愛育者人也、故明主布教易知、用法易行、人臣任職、

亦循天順人、進淳朴、導愚蒙耳、夫順天理、而養之則用

力寡、而令行功成、釈天理、而行難知之道、則小民范乎、

若亡其心也、勞而令不行、功不成、加之棄封内、而恃外

五条

交、不用近賢之謀、却信万里外人之說則、下怨上之無顧己、上怒下之不遵命、怒積於上、怨積於下、以積怒、御積怨、則兩危矣、抑雖有明察之資、仁義之志、上不応天心、下不順人心、而專任其私智、欲猶以北方之酷寒、南方之炎熱、豈不悖乎、豈不惑乎、今

閣下居重位、蒙

天寵、天下思慕之者、不啻古管仲蕭何、万靈之浮沈、一

係于

閣下忠憤、恭惟

皇帝安万乘之高、庶民各樂其業、

閣下不空累年之勲蹟、足垂功德于万世焉、当此時

閣下益固精神大義、而一憤起則、何言不行、何事不成、

然

閣下言有不敢發、事有不敢成也、嗚呼是天命也、如臣卑

言、一雖無益国家、賢者不廢狂言、是以不避重誅、敢獻

瞽言五条、死罪々々恐懼再拜、

明治七年七月

青森県士族

山崎六郎(巻)

一民之風俗ハ治国之綱也、当今冠履上ニ制有ト雖トモ下

守所ナシ、上下殆ト別ナク、居華麗ヲ好ミ傍ヲ車服珍

器ニ及フ、国土之良産ヲ以無用トナシ、外邦之長物ヲ

以必用トナス、衣服家宅悉ク海外ニ模擬ス、而国力未

タ富ス、国政未タ振ハスト陽ニ愛国ヲ以言トナス、陰

ニ己ヲ利スルヲ以心ト為ス、廉恥節義蕩然地ヲ掃フ、

噫是何ノ故ソヤ、賢不肖別ナク、上下之分明カナラス、

是以富者車馬衣服王侯ニ比シ、貧者力ヲ竭シ心ヲ尽シ

惟日足ラス、是他ナシ風俗濫ヲ以テ也、故曰車馬衣服

之制定リ、貴賤上下之別立ハ則、民俗正而国綱拳ニ庶

幾ソカ、

一学校之設民心ヲ正スル所以也、今ヤ聖賢之道ヲ以迂遠

トナシ、西洋之学ヲ以急務トナス、而テ英ヲ師トセハ

仏ニ通セス、米ヲ師トセハ魯ニ通セス、各一端ヲ得テ

而彼此相通セス、何ソ其不便也ヤ、然トモ人々洋学ニ争趨スル者何ソヤ、上好ム所有レハ下必ス甚キ者有ル所謂也、我小国ヲ以テ各国之学ヲ極ムト雖トモ、各其長スル所ニ偏レハ則、万人ニシ而万人同シカラス、何ヲ以能ク同一ヲ得ンヤ、且夫、子ヲ養フ而人ニ与フ可也、未タ兵ヲ養フ而敵ニ与フル者ヲ聞カサル也、宜シク、工部之如キ、別ニ一学校ヲ設ケ、通弁翻譯之吏ヲ養ヒ、我国土ハ、風俗ニ適スヘキノ学業一定セハ、説諭喋々ヲ待スシテ、民心帰一、尊主愛国、爰以開化之域ニ至ル可キカ、

一理財之道ハ徑国之要也、官苟モ利ヲ欲セハ、衆窮民窘、昔者箕子象箸ヲ見テ以奢侈之漸ヲ恐ル、今人ノ在官、驕ハ則、會計乱テ理財之道ヲ失フ焉、夫猾吏、進則良民ヲシテ姦ヲ為サシメ、退則善人ヲシテ禍ニ罹ラシム、其流毒細故ニ非サル也、果シテ此ノ如キハ則、規矩ヲ失フテ百事妄舉、屢官吏ヲ易エ、賢不肖並ヒ舉ラル、夫民ノ若クモ、亦然リ、屢業ヲ変スレハ富民姦ヲ逞シ、

小民愈窘、是以有道之世、屢法ヲ変セス、姦商ヲシテ小民之利ヲ綱スルヲ得サラシム、是故ニ上苟モ簡法薄罰、而テ民ト利ヲ争ハサレハ、民モ財貨ヲ争ハス、上下相害セス、民愈蕃息シ民愈蕃息セハ、国用饒也、官利ヲ欲セス而利自ラ生矣、

一兵革者患害ニ備フ所以也、古之明主止ヲ得スシテ、而之ヲ用ユ、然而忿争之心ナシ、忿争之心ナケレハ則、危ヲ蹈マス、方今国家、新ニ約ヲ各国ニ結ヒ、千章万条誓約有ト雖トモ、果シテ能ク信ヲ取ルニ足ラン乎、但シ我国守ルノ地多カル可ク、用ユルノ兵未タ多カラサル可シ、財粮又饒カナラス、而テ衆心一ナラサルノ士ヲ以テ、遠ク兵ヲ台湾ニ從事ス、臣其可否果シテ如何ヲ知ラス、且支那、大而台湾ニ接シ、我邦小ニシテ、波濤遠隔、我征台湾、支那之恥ル処、而テ嚮ニ聞、彼喜色有リ、今ハ聴ク忿色有ト、抑何ノ心也ヤ、仮令、我台湾ヲ得モ亦巨万之費ヲ費ス、我費則、支那之利スル処、蓋シ海岸一朝暴風有ラハ則、万里ノ一小島ヲ顧

ルニ違アラス、是ニ於テ我力ヲ費ス所、恐クハ支那ノ有スル所ト為シ乎、故ニ成功ヲ期シ、速ニ帥ヲ班シニ若ス、而テ從來養フ処、百万之土族ヲシテ、其籍ヲ安シ、以財ヲ輕シテ廉恥ヲ勉勵ス、然則一旦、恬然、生死之命ヲ必トスル也、是ニ於テ乎、守余有リ攻力有リ矣、今人ヲシテ饑寒ニ衣食ヲ去ラシメハ、膏育ト雖トモ力ヲ效シ能ハス、其道ニ由ラサレハ、智能ト雖トモ事ヲ拳ル能ハス、唯能、天理ニ順ヒ義命ヲ重シレハ則、兵勢自ラ彊シ、

一 国常彊無ク常弱ナシ、惟其施為、如何ニ在耳、今夫、大臣華麗ヲ好ミ、徒ニ車服ヲ美ニシ、商賈外ニ馳、小民内ニ困ム、此ノ如キ者其国弱シ、能ク之ニ反シ、以テ智勇公正之士ヲ養ヒ、之ヲ任用スレハ則、見遠而察明、彊毅勁直、心偏党ナラス、遂ニ小吏朋党比周之姦行ヲ矯シ、不肖者逐ハスシテ自ラ退ク、官吏法ヲ奉シ、正シケレハ則、貴者賤ヲ斥サス、富者貧ヲ侮ラス、小民之ヲ仰テ、敬服セサル者ナシ、故ニ令出ハ則、雲ノ

如ク布、風ノ如ク動ク、是他ナシ、任用其人ヲ得ルニ在矣、然後君子楽テ其道ヲ行、小民悦テ其処ヲ得、嗚呼、国其常彊無ヲ患サル可シ矣、

冊子原寸 縦三・五種

包紙原寸 縦二四・六種

横一六・五種 六枚

横三三・九種

三三美 秋田県土族高垣尚志ヨリ左府公へ

買国ノ姦臣ヲ斥ケ万民塗炭ノ苦ヲ救ハレシコトヲ

秋田県土族

高垣尚志

賤愚

謹テ机下ニ拝伏テ一言ヲ願述セン、今国中ノ官吏専ラ利欲ヲ擅ニス^①テ、姦邪盛ニ志ヲ得、忠臣尽ク遠サカリ、姦臣法ヲ取テ万民不施命、国勢日々衰外夷月ニ盛ステ、神州綱紀正ニ施ントス、此時ニ当テ臣豈無忼慨義烈之志哉、故ニ拋身命雖欲報国恩、可措買国ノ姦臣忠道ニ塞リ、賤身孤力以テ不能遂節義、空ク撫劍忿然タルノミ、今幸ヒニ 閣下政令ヲ掌リ、威徳ヲ国中ニ振ヒ、無所人民不

婦義士不服故、伏テ請フ、閣下 皇国ヲ重ンズ、再ヒ

神州ヲ灌清シ、万民塗炭ノ苦ヲ救ヒ玉ハバ、胸下ニ府属

輕死重義以テ遂志、報国恩不計世上ト共ニ流行ス玉ハバ、

譬ヘ雖飢死決テ一飯ヲ不求、反テ英雄ヲ侍ン、何為暗々

トシテ非義ニ陥哉、伏テ祈ス、閣下 皇国ヲ重ズ、社稷

ヲ輔佐シ忠良ノ道ヲ開キ、万民ヲ安ンズ、願クハ使為臣

机下ノ僕玉フ事、頓首齊拜、

島津左大臣

高垣尚志

文書原寸 縦二四・七種 横三四・二種

三三三 洛陽山科生幹ヨリ島津左府公ヘノ建言 二通

国家経綸ノ五大綱領及内政修理論

(①紙ウツ書)

永田町住居
士族

左大臣島津久光公閣下 山科生幹

二三五七ノ一

事務多端自写スルニ暇アラス、人ヲ使テ清書セシメハ、

恐クハ失誤脱欠アラン、願クハコレヲ免セヨ、

文書原寸 縦二七・八種 横一・三三種

二三五七ノ二

明治甲戌七月洛陽書生山科生幹 頓首再拜、謹奉書於 左

大臣島津久光公閣下、夫龍之蟠而蟄也、無与衆蛇異一旦

乘時而興焉雲雨從之虎之蹲而眠也、非与群獸異一旦乘勢

而嘯焉、疾風從之物皆然也、故有非常之時則斯有非常之

人則斯有非常之事、若夫逢非常之時有非常之名而不能為

非常之事、則譬諸龍虎得時与勢而不能為風雲生幹決知非

真龍虎也、夫吾朝楠中將及彼異邦諸葛亮、天下同口伝以

為古今義烈無双之大英雄、彼二公之時如此而其功業之俊

偉公明果何脩而得之、二公為真龍虎可知也、生幹一介書

生、自年少喜道義之学抱狂狷之性妄不自量頗有所志焉、

幸遇明天子之世、時勢大變億兆拭目 閣下平素負天下之

重名、一日播然顯出当大有為之任、則其施設算略、固有

大驚醒天下之耳目者不俟生幹之絮聒也、生幹固知 閣下

之為真龍虎矣、生幹曾聞有杞人憂天之墜者、天固無墜之理而憂之者素為至愚之人、但其憂之也不失為出於至誠之心、則亦有所可恕焉、又聞詢芻蕘々々何為者、然頭貴才智之人、而詢之古人之思慮周密亦可知也、然則生幹狂狷之愚今日欲有所獻於 閣下者實不異杞人之憂、而 閣下之聞生幹 若或有合於詢芻蕘之古意也、夫方今論天下之形勢大病之余氣体未復喘乎、只求救藥之方決不得不投其適中之良劑也、生幹謹分之為五大綱領下各加条目敢獻於 閣下、一曰、要 聖主之講學其目七、講明國体也、崇尊道義也、詳用兵術也、知民困苦也、撰教導仁也、侍從討論也、嚴講習法也、二曰、明撰舉之法規其目三、敷納建言也、明顯功烈也、設選舉局也、三曰、溥海內之恩沢其目五、平均穀餼也、聽民苦情也、体民苦樂也、一各地制也、革吏給制也、四曰、正國內之風俗其目四、禁止奢靡也、崇尊禮讓也、一定服制也、正整容貌也、五曰、作天下之士氣其目四、振起廉恥也、嚴祭祀禮也、禁異端教也、修學校政也、所謂要聖主之講學者、蓋天下之大四海之遠、

其運用之妙存於一機括、此地纔高明天下皆沾陽春之温、此地纔賤汗四海皆苦慘憺之虛、恭惟 聖皇天子昭臨四海、猶白日中天、其光輝煥發、万々無邪暗之蔽可知矣、但愛之之深憂之之切言、則若夫万一隱微之地幽深之際帶一点之黑子、則聰明之害審知之累、蓋有不鮮少者此素委在 閣下、則是亦有不得已者、所謂明撰舉之法規者、方今四海文明賢才滿朝固無所乏、雖然維新以還已歷年、所治功未治者何也、是天下賢材猶有所遺未悉舉之故歟、夫海內之広一二人耳目心智之非所能及、必宜立之法規尽無党無偏王道平々之体也、所謂溥海內之恩沢者、方今四海合同權帰一人恩赦之令教出、而億兆之衆庶猶未蒙濡沢其病安在也、蓋天下之大四海之広小惠私恩之非所得而済也、其為法尽天下之公利惠、而不費之政行得人々樂、其樂利其利則普偏周流恩沢無不浹洽、所謂正國內之風俗者與靡、闕風俗闕政教天下人人文日開、氣化日漓奔競求利貪昌忘恥駸々然相率、不倫胥於禽獸区域者幾希禁遏之、之術在抑奢靡崇節儉敦禮讓知廉恥、所謂作天下之士氣者、蓋國

有土氣猶家有柱、家無柱則壞國無土氣則亡是古今彼我之通勢也、況我神州之建國以武為本武非土氣之盛則不成、抑祖宗創開以來凡二千五百年之間能確然、為獨立固守之體者、唯在土氣之盛而已矣、豈可不鼓舞磨勵哉、若夫如此則庶乎有為矣、生幹謹誦、諸葛武侯之言曰、君子之行靜以脩身儉、以養德非胆泊無明志非寧靜無致、遠彼孔明以一介之書生佐衰弱之漢室、以爭天下之大權終成國家之偉業者、蓋兇胆泊寧靜之方寸而收俊拔挺特之大功其迹豈不偉哉、如吾桶中將其言無傳而其功業之英、与彼孔明爭光則其心地之明遠決有不異、於孔明者然則今所陳其有五、而其統合要領在一心之精妙者否耶、此二公之所以為真龍虎、而今日生幹所以不願為閣下假龍虎也、但五綱姑略陳梗概未敢謂尽當時施設之如何也、閣下幸若聞之則又陳其一二以獻而已矣、今且誠能因聖賢祖宗之規模以真欲治平、國家則一旦断然非一洗政體施格示天下以誠意真憂之旨不可也、若不然而因循旧格乃謂戊辰已變革政格今年又一洗之、則天下或取不信於

廟堂民心恐動焉、不若從之以自決治涵養今日革一事明日變一事、而遂為儉節素質之體是非也、苟從事國家者不果断勇決而豈能作宇內之士氣、能服天下之庶民哉、然而最急速可變洗者在脱却邇臣侍從奢靡遊惰之習慣欲脱却之、則宜精撰才之術而放斥管見海外侈奢之風者也、唯閣下之明幸裁之生幹狂愚敢不知所免汗犯之繹也、山科生幹頓首至痛、

冊子原寸 縱二八釐 横〇釐 七枚

二三五七ノ三

内政修理論

生幹聞治國有大体立大体而後紀綱正、如此而後機變權衡行、此古今不易之道也、伏惟、閣下以英明勇智之資、克碩大光明之學留神政事勵志恢復頃者既当大有為之任、而未久日月、生幹予竊案將有措置算略大濟中興之業矣、然而方今、廟堂有司日夜思治焦心而大欲未成大願未遂者其病何也、蓋大体之未立而規模之未定欵、生幹常憂之、

嘗欲輸肝胆効素情上書、於廟堂之下又念世俗道薄獻言之人動必有覲心、雖不然跡或近似誰能不疑、又安能察其言而明其情、此生幹之所大懼而卒以自沮也、今日幸當閣下当路之際、敢俯伏

殿下畢写区々之忠以捧上焉、閣下幸寬其万死不以為草茅之言、聊留神臨察、是實天下社稷之福也、生幹至痛、

生幹窃惟夷外入航海內紛雜、當此時幕府慨然庶民苦慘不可以不極、國家恥慙不可以不雪、忠義氣節之士不可以不撫是核、提童子之所同知而幕吏不能濟之者、獨畏其強而長一日之欲之過也焉、終奉復大權於朝廷又未數月而有賊徒暴逆之事、朝廷憤然募義兵以伐賊、稱維新以更改移大駕於灘波以勵士氣、屢幸於社祠以示至誠、下令以弔窮民鼓舞天下以光武備殆已仁政之大体立焉、而政体日革月變漸隔年而至今日、則各國無用之風布涵於中国土氣風俗於此乎壞頽、國中事花美、又有至誠者鮮矣今日之事可得、而緩乎閣下平素憂勤側席慨然有平一、天下之志

固已不惑於群議矣、今幸当大有為之任、未久日月而其所憂者、在人心未同本根未定、賢者私憂而姦者窃笑必焉、生幹雖頑魯窃為閣下知之也、若不然則閣下之憂將又何在乎、千一閣下所憂者真如生幹所知則消此憂也、有一二其為法可思所以反其道也、誠能反其道則政化行、政化行則人心同、人心同則本根定矣、今宜開誠勵臣整体而各有目開、誠之目曰広酌衆之議以立大計、任賢使能以清官事更設台諫以正朝綱示、先務以斥虛文來敢言以作天下士氣、勵臣之目曰懲奸吏以明賞罰右武事以振國勢、崇礼立制以齊其習、整体之目曰尊老慈幼、以厚風儀簡法重令以清其源是也、然而已上三大綱領之要道如何、曰為開誠之要也、生幹窃觀自古大有為之人慷慨果敢而示之、以必為之意味白洞公而開之、以無隱之誠、故天下英雄豪秀之士雲霧蒸集爭以其所得、自効而不敢萌、欺罔之心泰然各職其職而不敢生、不滿之念故所欲而獲所為而成而卓乎其不可及也、仰惟聖主英明秀豪荷天下大任咸知其為真聖主矣、而所欲未獲所為未成雖、生幹亦為聖主疑之也、夫慷慨果

敢有司、固示之以必為之意矣、而天下之氣索然而不応或者明白洞公開之以無隱之誠者容有未至乎、夫任人之道非必每事疑之而後非無隱之誠也、心知其不足任而姑使之、以充吾位使之既久而姑遷之以慰其心、而大責或不必任、密議或不得聞聽、其言而不責、其責迫之以目前、而不待其成恐、聖主任人之際頗亦有近於此者乎、若或近之則非所謂明白洞公開之以無隱之誠也、此以天下庸懦委瑣之人得以自容而無嫌、而狂斐妄誕之流得以肆言而無忌、中實無能而外為欺罔平居、則官不可為緩急、則何人不退縮矣所以可嘆、天下人才無一之可用也、雖然何世不生才何才不資、世天下雄英豪偉之士、未嘗不延頰待用而、每視聖主之心為如何、使聖主虚心以待之推誠以用之雖不必高爵厚祿而可使之死沉於其中之計謀乎、聖主有司而有矜天下之心、則雖高爵厚祿日陳於前而、雄英豪偉之士有窮餓而死、爾義有所不屑於此也、夫天下之可以爵祿誘者、皆非所謂雄英豪偉之士也、願聖主無以其可以爵祿誘奴使而婢呼之、天下固有雄英豪偉之士、懼聖主誠心

之未至而未敢來也、生幹願閣下勸教聖主使之虛懷易慮、開心見誠、疑則無用、用則無疑、任以事無、間以言秀才必使之、當大責高臣必使之、与密議大計言必責其其實必要其成、君臣衆吏之間、皆相与如一体、明白洞公豁然無隱而猶不得濟大業則始、閣下又教佐聖主、可以斥天下之士、而不与之共斯世矣、如此則何事感至誠而不濟、若不然生幹恐孤、聖主必為之心、沮天下願為之志兩相求而不相值也、閣下裁帶之為勵臣之要也、生幹聞上下一心君臣戮力者無事不濟、上下相離、君臣異志者、功無不壞今也、閣下大概念國家之老勛恢復之志、夙夜為謀相時伺隙而、聖主重臣亦非無此患憂而群臣恬然如不知所、急毛拳細事以後大謀甚者僥倖、苟且習以成風實慨嘆之至也、生幹望閣下教聖主慨然興懷勵志徹案止遊夙、夜惕勵乃列群臣而詔之曰、朕承先帝付托之重念國家之深憂志在中興有年于、茲若涉大川未知攸濟而群臣或玩故養安誠鮮戮力者是、朕不明不德不足、以承大宝凶大業、又何顏臨於四海士民之上、況敢即安以自取辱、

夫如此則群臣必震懼頓首請罪、然後徐之諭之曰、朕固未敢即安群臣、猶以朕可有為其各厥職効濟厥事、上率其下下勉其上、自度其力之不逮者無尸其官、朕將明賞罰以勸、其後由今以降群臣咸為朕思所以、畏天愛民求賢發政、富國強兵恢復、守禦之道無以小事、塞責無以小講亂大皆相與熟考、惟新之政、使內外有序、則朕之至慶也、夫然而聖主惕然側席圖濟大業、而群臣不能惕然、承意竭力以報其上、則是人而禽獸也、斥之放之何所不可誠能使上下、同心君臣戮力則何事不濟哉、為整體之道也、生幹嘗聞君以仁為體、臣以忠為體、覆周包含如天地之大仁也、公事知無不為忠也、故君行恩而臣行令、是以君常當其善、臣常當其怨、君臣之體也、君常任其美、臣常任其責、君臣之體也、今也則不然、聖主銳意於有為、而群臣持祿、固位頗務收恩、聖主慨然重臣々立計而群臣動欲使、聖主孤立以主大計群臣安座、而窃美名、是尚為得君臣之体本乎、生幹願閣下佐聖主、使之總攬大柄端已責成、畏天愛民以德自護、明詔大臣群臣、

当大任不憚小怨、不辭大艱使天下、仰聖主之恩、而憚大臣之忠果、則何事之不濟、何功之不成、閣下勉教、聖主法於祖宗德義之体、則或庶幾有為矣、

今陳スル所ノ二書、当今措置ノ本根規模ヲ概拵ス、而シテ其言皆古人多ク論弁スル所ノ者ニシテ、已ニ迂遠ノ非ヲ免レサルニ似タリト雖トモ、方今、廟堂ノ措置算謀、或ハ己レニ法セサルヲ見ル、故ニ勞心焦思シテ未タ功ナシ、若シ古人祖宗ノ法ニ從ヒ、誠ニ能クコレヲ行ヘハ、何ノ業カ濟ラサラン、夫レ古人、祖宗教人ノ論ヲ閱スルニ本根皆同シク、而シテ恰モ一口ニ出ルカ如キ者、是レ即チ万代不易ノ規模タル所以ニシテ、深奥ノ妙此ニ於テカ存ス矣、世人コレヲ以テ迂遠ニシテ事變ニ応スルヲ得ヘカラスト為ス、何ソ其レ誤レヲ生幹嘗テ数区々ノ微忠ヲ左院ニ呈セント欲スト雖トモ、必ス迂遠ヲ以斥ケラレニコトヲ察シ、無益ノ挙ヲ為スハ智ニ非スト、乃チ閣下ニ就キ以テ此ノ久憤ヲ發スル也、閣下幸ニ生幹孤

志ノ微忠ヲ推シ、聊カ以テ哀憐ヲ加ヘヨ、而シテ生幹又
將ニ此ノ規模大綱ニ因リ、其紀目ヲ歴書シ、措置如何ノ
細微ヲ記シ、題シテ興業論策ト為シ、以テ今陳スル所ニ
就テ綱目ヲ具備全成セントス、稿成ラハ亦自ラ顧ミス、
試ニ閣下ニ呈シテ以テ 高裁ニ仰ント欲ス、

山科生幹頓首再拜罪当万死、
冊子原寸 縦二八種 包紙原寸 縦三九・八種
横二〇種 一〇枚 横二七・三種

三三六 宮崎県土族稲津濟ヨリ左府公ヘノ建白

時弊救済八策

〔包紙ウツ書〕
上

宮崎県土族
稲津 濟

〔表紙〕
上書

宮崎県土族稲津濟謹テ

左府島津二位公閣下ニ白ス、閣下 王室中興ノ元老勲高

ク望重シ、今ヤ 皇国多事ノ際ニ當リ、 聖上輔翼ノ職
ニ任ス、志士之ヲ聞テ拊舞シ、万民之ヲ聞テ瞻仰ス、皆
謂閣下畢生ノ力ヲ尽シ弊害ヲ一掃シ、上ミ 宸襟ヲ安シ
下モ民望ヲ慰シ、国家頽敗ヲ挽回スルノ期、將サニ今日
ニアリト、今ヤ三月ヲ閱シ、未タ一号令ノ革マルヲ見ス、
人々疑懼殆ト望ミヲ失フニ至ル、濟窃ニ謂革弊ノ事固ヨ
リ容易ナラス、常情ヲ捨テ大義ヲ取り、英断果決天下ノ
耳目ヲ一變シ、姦宵ノ心膽ヲ挫折スルニ非サレハ、事ノ
成ル万々難シ、伝ニ云断シテ之ヲ行ヘハ鬼神モ之ヲ避ク
ト、濟昨春來輦轂ノ下ニ游ヒ、窃カニ目今ノ形勢ヲ察シ、
聊カ見ル所アリ、上言セント欲スル久シ、然ト雖トモ論
時ト背キ見人ト違フ、故ニ遷延以テ時ノ至ルヲ待ツ、今
閣下新ニ大任ヲ奉シ方サニ讜言ヲ求ム、此レ濟カ將サニ
言フヘキノ時ナリ、故ニ狂妄ノ罪ヲ顧ミス、肺腑ヲ吐露
シ、方今ノ急務ヲ条陳ス、閣下幸ヒニ觀覽ヲ賜ヘ、但其
細目着手ノ方法ノ如キハ官暇場前三尺ノ坐ヲ賜ハ、濟請
フ得テ之ヲ尺言セン、謬々ノ至リニ堪ヘス、上書以聞ス、

誠恐誠惶頓首謹言、

挙人材

維新以来闕閔ヲ廃シ、旧弊ヲ除キ、言路ヲ開キ、人材ヲ
抜キ欧米諸洲ノ長ヲ取り、以テ我カ短ヲ補ヒ、国ヲ富シ
兵ヲ強シ、皇威ヲ万邦ニ輝サント欲シ、深思長慮至ラ
サルナキ也、而国体未タ立タス、風俗頽敗、政令屢変シ
人心未タ和セス、国力日ニ疲弊シ、四方時ニ騷擾スル者
何ソヤ、法ヲ立ル敝ナラサルニ非サル也、政ヲ為ス勉メ
サルニ非サル也、蓋其事ヲ執リ其責ニ任スル者人情ヲ凶
ラス、世態ヲ知ラス我カ固有ノ良法美制ヲ廃棄シ事ノ先
後緩急ヲ弁セス、只旧ヲ革メ新ヲ興スヲ以テ開明ト称シ、
揚々自得スルヨリ遂ニ今日ノ形勢ヲ醸成ス、豈嘆スヘキ
ノ至ニ非スヤ、今之カ勉ヲ為サント欲スル、其大弊ヲ去
リ其大害ヲ除カサル可ラス、然ト雖トモ其弊害ヲ除カシ
ト欲スル、断然事ヲ誤リ職ヲ辱ムルノ人ヲ黜ケサルヲ得
ス、故ニ今日天下ヲ維持スルノ策、速カニ人材ヲ選舉

シ、更ニ其責ニ任スルヲ以テ第一ノ急務トス、

付、姦ヲ除キ、邪ヲ去ルハ之ヲ虎ヲ打ツニ譬フ、一搏
ノ下之ヲ斃ス能ハサレハ、党与固結羽翼已ニ成リ、却
テ彼カ爪牙ニ触レ、意外ノ禍ヲ取ルニ至ル、察セサル
ベカラス、

立国体

立君独裁ハ万古不易ノ良法、天地ト并ヒ立チ、日月ト并
ヒ行ヒ決テ変改スヘカラサル者也、今ヤ皇運古ニ復シ、
百度更始ノ時、聖上宜ク銳意凶治確乎不拔ノ体ヲ立ツ
ヘキノ秋ナリ、然ルニ聖上春秋鼎盛維新以来政ヲ二三
大臣ニ委シ、今日ニ至リ未タ万機ヲ親ラニシ玉ヲ聴カ
ス、我カ国人浴習ニ押^(押カ)レ怪ム者少ト雖トモ、外人ヨリ之
ヲ觀レハ我カ国体ノ何物タルヲ知ラス、終ニ紛々誹議ヲ
生スルニ至ル、豈恥ツヘキノ至リニ非スヤ、伏テ願クハ
今ヨリ聖上、日ニ政府ニ臨ミ、二三大臣ト謀リ万機ヲ
親ラニシ玉ハンコトヲ、況ヤ今上ハ中興ノ英主苟モ法
ヲ立ル、之ヲ万世ニ伝ルヲ為スベシ、今空シク手ヲ九重

ノ内ニ束ネ、大政ヲ二三大臣ニ委託ス、之ヲ後世ニ伝ヘ
良法ト云ベケンヤ、俚語ニ云、学ブヨリ押ル、ニ加カス
ト、今ヤ日々政府ニ臨ミ万機ノ政ヲ聽キ玉ハ、自然治
国安民ノ 聖知ヲ開キ玉フニ至ラン、然則独裁ノ実今日
ニ挙リ他日大権下ニ移ルノ弊ナク、外国ノ謗モ亦從テ止
ムニ至ラン、是国体ヲ立ツルノ一大要務ナリ、
付、君心ノ非ヲ格スハ大臣ノ職掌、宜ク徳望衆ニ超ル
者ヲ選抜シ、之ヲ君側ニ置キ拾遺補闕ノ職ニ任シ、
聖徳ヲ陶鎔シ玉フベキ也、

正風俗

風俗ハ敦厚朴実ヲ貴ヒ、浮華輕薄ヲ賤ム、古今ノ通論ナ
リ、蓄学ノ東漸セシヨリ天下滔然新奇ニ趨リ、実用ヲ勉
メス今日ニ至リ其弊極ル、凡ソ百事我カ私ニ便ナルヲ以
テ自由トシ、我カ意ニ適スルヲ以テ自主トシ、自主自由
ノ說一出シテ風俗頹敗、礼義廉恥、蕩然地ヲ掃テ尽ク是
亦天下ノ大變ナリ、宜ク蔽ニ制度ヲ設ケ、浮薄ニ流ル、
ノ風ヲ戒メ、人心ヲシテ敦朴ノ俗ニ帰セシムベシ、其方

法ハ學術ヲ正スヨリ善キハナシ、學術正フシテ浮薄ノ風
止ム、浮薄止テ敦朴ノ俗起ル、敦朴起テ礼義廉恥ノ道明
カ、礼義廉恥ノ道明カニシテ人々令ヲ奉シ禁ヲ守ルヲ知
ル、

付、上下貴賤ノ分ヲ明カニシ、宮室衣服ノ制度ヲ定ル
等ノ事風俗ニ關係スル者多シ、宜シク深思熟慮シ玉フ
ベシ、

省冗費

入ルヲ量テ出スヲ為スハ古今理財ノ要訣、方今百度更始
ノ秋、我カ有限ノ租稅ヲ以テ官省府県ノ庁用及ヒ土木營
繕ノ入費、其他限り無キノ臨時費用ニ給スル用度ノ不足
智者ヲ待タスシテ知ルナリ、故ニ一ツ已ムヲ得サルノ事
アル、之ヲ外国ニ借ラサルヲ得ス、之ヲ國民ニ斂メサル
ヲ得ス、負債收斂ノ說、上ニ行ハレテ怨嗟ノ声下ニ起ル、
今之カ策ヲ成ス、如何シテ可ナラン、曰ク、冗費ヲ省ク
ニ在リ、冗費ヲ省ク如何、曰ク、不急ノ務ヲ止ルナリ、
土木營繕ヲ節スルナリ、奢侈華麗ヲ禁スルナリ、無用ノ

玩物器械ヲ廢スルナリ、此數者省ヒテ財ヲ理ルノ本立ツ、
付、外国交際ノ密ナリシヨリ貨財不足ナレハ則曰ク、
之ヲ欧米諸州ニ借ラン、米穀不足ナレハ則曰ク、之ヲ
欧米諸州ニ仰カン、嗚呼宇宙間第一肥沃ノ土地ヲ有シ、
外国ヲ特^(待)ミ以テ国計ヲ立ツ、豈恥ツヘキノ極ニ非スヤ、
今日速カニ此弊ヲ革メスンハ、彼僉陵轢將サニ不測ノ
禍ヲ生セン、然ルニ世ノ洋説ヲ主張スル者債ヲ外国ニ
負フヲ以テ弊害ナシトス、是亦本ヲ知ラサルノ論ナリ、
察セサル可ケンヤ、

省冗官

官ヲ省クハ事ヲ省クニ加カス、事ヲ省クハ靜清寡欲ナル
ニ加カス、古人ノ知言ナリ、方今官省ヲ設ケ、官員ヲ置
クハ人民ヲ保護シ其便ヲ得セシムル所以ナリ、今ヤ諸省
府県ノ其責ニ任スル者率ネ新ニ趨リ、奇ヲ好ミ、一時ノ
功名ヲ貪リ、百端事ヲ改メ、千緒業ヲ初ム、故ニ員愈置
テ事愈劇、事愈劇ニシテ功愈挙ラス、是皆功利ヲ貪リ靜
清寡欲ナル能ハサルニ因ル、既ニ靜清ナル能ハス、故ニ

事ヲ省ク能ハス、事ヲ省ク能ハス故亦官ヲ省ク能ハス、
是以各省府県官員甚タ冗多而人民其弊ニ堪ヘス、大蔵亦
其費用ニ困ムニ至ル、今ニシテ之カ制限ヲ立テ冗員ヲ淘
汰セスンバ、其患只小人僥倖ノ門ヲ開クノミナラス国家
困弊人民怨嗟終ニ外国ノ笑ヲ招クニ至ラン、察セサルベ
ケンヤ、

付、請謁媚ヲ献シ、趨付扳援以テ出身シ、官位ヲ以テ
商法トシ、官省ヲ以テ教育所トスルノ弊、全ク選舉ノ
方法官員ノ制限確立セサルヨリ起ル、蔽ニ淘汰ヲ施シ
黜陟ノ典ナル可カラス、

改制

文学ノ道ハ修身齐家治国平天下ノ外ニ出テス、故ニ子弟
ヲ教育スルハ先ツ修身ヲ基礎トシ、忠信孝悌礼義廉恥ノ
氣ヲ養フヲ要務トス、彼西洋各国ノ学科ハ悉ク翻訳書ヲ
以テ学ハシムベシ、但シ学校中別ニ蕃学局ヲ設ケ生徒ノ
員ヲ限り、各国ノ文字語言ヲ講習シ、訳官翻訳ノ用ニ供
ス、医学ニ至リ亦然リ、方今各省中兵学・工学・勸業・

開拓等ノ称呼ヲ立テ、各教師ヲ置キ子弟ヲ教育スル者悉ク之ヲ文部ノ一省ニ管セシムベシ、府県中小学ノ如キモ亦其大小ニ応シ、別ニ蕃字ノ生員ヲ限り之ヲ学ハシムベシ、其他一切蟹行書ヲ読ムヲ禁スベシ、

付、都下小学ノ外華族等自費ヲ以テ別ニ学校ヲ建設スルヲ見ル、美事ト云ベシ、然而其実ヲ察スルニ、多クハ虚名ヲ求ムルニ過キス、故ニ昨日之ヲ建テ今日之ヲ閉ル者往々之レアリ、亦無益ト云ベシ、都下ノ如キハ毎区ニ便地ヲ選ミ、小学一ヶ所ヲ建設シ、子弟ヲ教育セシメ、猥ニ学校ヲ設立シ、虚名ヲ取ルノ風ヲ長スベカラス、諸県ノ如キハ土地人情ノ便ヲ計リ、学校ヲ設ケ、教育ノ道ヲ盛ニスベシ、必ス都下ト同一規タラサルモ可ナラン、

改兵制

徵募ノ兵制ヲ廢シ、更ニ華土族ヲ以テ兵隊ヲ編成スヘシ、凡ソ 皇國華土族ノ祿概算一千万石ニ下ラス、百石ニ兵士一人ヲ出セハ現兵十万人ヲ得ベシ、若シ猶不足トセハ

五十石ニ一人ヲ出サシム、即チ現兵ノ二十万人ヲ得、之ヲ陸軍常備兵トシ、其衣服飲食ヲ自費トシ、器械彈藥ヲ官費トシ、方今陸軍歲額八百万円ノ内、官員給器械費ヲ除ノ外悉ク之ヲ海軍費ニ転スル海軍歲額四百万円ニ下ラス、其半ヲ以テ軍艦ヲ備ユル、必ス歲ニ二三隻ヲ得ベシ、其余ヲ以テ官員兵卒ノ給俸艦具修繕ノ用ニ充ル、数年ヲ出テスシテ海陸兩軍ノ備完全シ、以テ外侮ヲ禦キ、國威ヲ張ルニ足ラン、

付、土族祿五十石ニ充サル者他ト合併、之ヲ算シテ五十石ニ充テ兵士一人ヲ出ス、其五十石ヨリ多ク百石ヨリ寡キ者亦同ク合併百石ニ充テ兵士二人ヲ出ス、即チ石万石ニ至ルモ亦同シ、古者一井車一乘ヲ出スト一般○又維新以來華土族戸位素餐ノ論起テ、祿稅徵兵家祿奉還等ノ制紛々施行ス、其利害得失熟考シ玉ハンコトヲ願フ、

開物産

方今交易ノ度ヲ察スルニ、我カ輸出品常ニ寡ク、彼カ輸

入品常ニ多シ、是皆我カ開産ノ方、未タ其方ヲ尽サス、地方ノ官未タ其意ヲ用ヒサルニ因ルナリ、宜ク府県ニ令シ開産ノ方ヲ設ケ、人民ニ説諭シ、県吏更ニ一層ノ力ヲ尽シ、物産増殖ノ工夫ヲ費スベシ、徒ラニ之ヲ姦商ノ手ニ委シ、目前ノ利ヲ謀リ、後來ノ産出ヲ減省セシムベカラス、且ツ現今諸国産スル所ノ物品率ネ皆旧藩ノ遺物、今ニシテ之カ保護勸奨ヲナサル、一年ハ一年ヨリ減シ数年ヲ出テスシテ産出殆ト地ヲ掃フニ至ラン、心ヲ用ヒサルベケンヤ、

付、漢文帝云、朕ト天下ヲ共ニスル者其只良二千石乎、故ニ牧民ノ官宜ク敦厚老練ノ吏ヲ選フヘシ、早進少年及ヒ諸省淘汰ノ人ヲ用ヒ、蚩々ノ民ヲ攪擾セシムヘカラス○西洋輸入ノ物品無用ノ玩器半ハニ居ル、宜ク有用無用ノ別ヲナシ、我カ商賈舶来無用ノ物品ヲ鬻ク者其税ヲ重クシ、有用ノ物品ハ其税ヲ輕クス可シ、税ノ輕重其当ヲ得テ、無用ノ物品市ニ入ラズ、

三五九 台湾蕃地処分趣旨書第二款及第三款
柳原公使ノ談判等

二三五九ノ一

台湾蕃地処分趣旨書第二款

柳原公使^(前光)ノ北京ニ赴キ、途天津ヲ經ルヤ、七月廿四日、直隸總督李鴻章ニ応接ス、鴻章難問シテ云、貴国ノ蕃地ヲ伐ツ、我国ノ孱弱ヲ侮ルニ出ツ、已ニ笑ヲ各国ニ取り、我国ヲシテ面目ヲ失ハシム、其所以ハ、蕃地我国ノ隸タリ、仮トヒ蕃民ノ船客ヲ剽殺スルモ、苟モ我ニ説明セハ、我政府罪ヲ科スヘキニ、貴国突然出征ノ挙ニ及フ、春秋ノ所謂、之ヲ侵シ之ヲ襲フモノ、速ニ西郷ノ兵ヲ撤セヨト、鴻章頗ル倨傲ニシテ、語驕氣ヲ挟ミ、実ハ公使ヲ要シ、北京ノ行ヲ阻攔セントセリ、柳原ハ辞令ヲ慎ミ、答ルニ、蕃地ノ孤立タル已ニ久シ、向ニ英米二国兵ヲ出シ、征蕃セシコトアリ、貴国之ヲ問ハサルニ措ク、況ン

ヤ我師親ク実地ヲ蹈ムニ、蕃人貴国ヲ仇視シ、貴国ノ人
 ヲ殺スヲ以テ最大快事トス、而シテ貴国之ヲ理セス、亦
 以テ其属地ニ非ルヲ信スルニ足ル、今夫兩國間ニ野蕃ア
 リ、隣ヲ疾マシメ、人ヲ害ス、一国之ヲ理セサレハ、一
 国之ヲ征ス可ナリ、是万国公法所載豈我國ノ出師ヲ指シ
 テ、侵シ且襲フトセンヤ、逐件弁明ス、柳原ハ北京駐劄
 ノ命ヲ奉シ、加ルニ天津ハ議決ノ地ニ非レハ、遂ニ鴻章
 ニ聽カス、七月三十一日、北京ニ入ル、八月三日、総理
 衙門及沈葆楨潘霽來書三函ヲ繳収ス、衙門ノ概旨ハ、前
 照会兩次ノ意ヲ固執シ、或ハ公使ノ駐劄ヲ稱シテ、好言
 以テ我ヲ欺ストシ、或ハ公使ノ覆書ニ、征蕃ヲ前年ノ説
 明ニ符セルトスルハ、自ラ誣ヒ、並テ本王大臣ヲ誣ル等、
 其言稍無礼ニ渉ル、潘沈ノ書意ニ至テハ、曾テ隻辭ノ食
 言ヲ謝スルナク、遂ニ復前約ト牴牾シ、徒ニ第一二条ハ
 已ニ了結セリ、第三条善後ノ策ハ自ラ任セン、速ニ撤兵
 ヲ謂フト称セリ、蓋シ柳原・西郷ノ居住隔絶スルヲ利シ、
 靦然詭計ヲ其間ニ施ス、巧譎実ニ可惡ノ甚シキナリ、柳

原先ツ書ヲ総理衙門ニ贈リ、貴国従前蕃地ヲ化外ニ棄ツ、
 則無主ノ一野蕃タリ、野蕃獐惡、殺戮以テ業トナス、已
 ニ政紀ナク、法典ナシ、安ソ人國ノ目ニ列センヤ、ト
 答ヘリ、八月七日柳原公使清国総理衙門ニ抵リ、軍機大
 臣協弁大学士宝鋆以下七大臣ト応接ス、大要七大臣ノ主
 張スル所ハ、蕃地ハ清ノ属地ナルニ、清国ニ申明セスシ
 テ、貴国ノ兵ヲ出タスハ、我國權ヲ犯シ、公法ヲ破リ、
 内政ヲ干預代謀スルモノニテ、甚タ道理ニ悖ル、蕃地固
 ヨリ政教速ハストモ、台湾府県ノ治ニ接シ、貴国ノ海水
 ヲ隔ツル如クナラス、其遠近ヲ以テ視ルモ、我ノ版図タ
 リ云々、柳原乃チ条理ニ抛リ、答弁ノ略ニ、蕃地ハ貴国
 ノ化外ナリ、已ニ化外タルトキハ、無主ノ民ナリ、今無
 主ノ民ヲ以テ我人人民ヲ暴殺ス、以テ征蕃ノ義挙アル所ナ
 リ、特ニ昨年ノ通告ハ原好意ニ出ルノミ、然ルニ一言ノ
 異辭ナク、今ニ至リ、從テ之カ辭ヲ作ルハ、自ラ図ラサ
 ルノ甚シキモノナリ、到頭諸大臣蕃地ノ実況ヲ詳ニセス、
 強テ属地ヲ侵越スルトナスモ、曾テ貴国政教ノ蕃地ニ及

ヒシコトナク、之ヲ古今ノ書籍ニ徴シ、之ヲ目撃ノ將士ニ質スニ、尽ク然ラサルハナシ、貴國ノ台湾ヲ定メシハ、僅ニ康熙年間ニ在リテ、現ニ蕃地ト其境界ヲ立テタリ、蕃人尤モ貴國人ヲ殺スニ甘心シ其研獲セシ鬪體ノ多寡ヲ較シ、各自兇武ニ矜ルニ至ル、然ルニ貴國毫モ意ニ介セス、夫一種ノ野蛮土我得テ之ヲ誅スル、何ソ貴國ニ干渉スルアラン、是我獨立國ノ権理ヲ全シ、人民ノタメ義務ヲ尽ス、名正ク言順フ、貴大臣自ラ顧慮セハ、大ニ我説ヲ信セント、諸大臣皆黙屈シ、日後柳原ヲ訪ハンヲ訂セリ、因テ帰寓ス、八月十日、柳原更ニ書ヲ沈葆楨、潘蔚ニ致シ、前約ヲ踐マサルヲ詰シ、其内卑南ヲ指シテ無辜トスルハ、陳安生ノ救護一層ヲ知り、該蕃人ノ衣物船貨ヲ搶掠セシコトヲ知ラサルヲ以テセリ、八月十九日、大久保弁理大臣上海ニ至ル、此時清國軍備極テ急ナリ、

冊子原寸 縦二・一 種 横一四種 四枚

二三三九ノ二

台湾蕃地処分趣旨書第三款

八月十三日、柳原公使ハ、総理大臣発スル所ノ照会、及啓文ヲ接收ス、要旨ヲ摘ム、左ノ如シ、台湾各蕃社ハ、本國ノ境地タル、台湾府志開載甚悉セリ、貴大臣ハ前次ノ照会ニ、台湾全地ハ久シク本國ニ隸スト大書シ、此次ノ照会ニ生蕃ヲ称シ、無主ノ野蛮ト云、其説変易如此、若夫潘蔚上海ニ在リテ覆セシ書ハ、貴大臣面談ノ詞ニシテ、閩ニ抵ル後ハ、西郷面正ノ語ニ拠ル、以テ小異アル所ナリ、又称ス貴大臣沈潘ニ与フル書意、保存和合ノ四字ト合セスト、向キニ潘蔚前後反覆セシヲ以テ、一々柳原ノ論詰スル所トナリ、頗ル答辭ニ窘ム、清國諸官員乃チ柳原ノ書ニ就キ、段節ヲ割断シ、漫ニ理窟ヲ^{ネハリツル}扭捏シ、以テ此書ヲ致ス、豈窮計ニ非スヤ、八月十三日、総理大臣董恂以下七名、柳原公使ノ旅館ニ答礼ス、柳原公使鄭書記官、及外務省四等出仕田辺太一、在厦門領事福島九成相見シ、応接ノ大略ニ、清國諸大臣ノ説ニ云、生蕃ノ帰化シテ、屬地タルコト、台湾府志ニ明カナリ、府志今

日ノ為ニ作ルニ非ス、所伝既ニ久シ、後世必ス抛ル、天下ノ常理、貴国豈遵守セザルヘケンヤ、備中漂民ノ如キハ、固ヨリ性命ヲ卑南ニ失ハス、却テ陳安生ノ為メ救護セラレシニ非スヤ、且修好条規第一条明文アリ、副島大使ノ曾テ諾スル所タリ、然レトモ貴国其屬地タルヲ認メスシテ、伐蕃ノ挙ヲナス、今証スルニ府志ヲ以テス、已ニ自ラ其非ヲ悟ルヘキノミ、然ルニ其弁論ヲ競フモ、実事結局ノ期ナシ、更ニ共ニ決スルアラシニハ如カス、但義務云々ノ確答ニ至テハ、諸大臣ノ商議ヲ待ツヘント、我国官員ノ説ニ云、曾テ外務省ニ於テ、備中ノ漂民ニ面咨スルニ、漂民卑南ニ至ル、蕃人麤至シ、悉ク船料衣服ヲ剝奪シ、刀ヲ執リ將ニ殺サントス、人ノ救ニ因リ、僅ニ免ル、後チ陳安生ニ投スト、搶奪ノ罪ハ言ヲ俟タス、若シ救者ナケレハ漂民悉ク魚肉トナル必セリ、初メ我兵ノ琅瑤ニ到ル、營地ヲ借ラントス、之ヲ土人ニ問フニ、此地ハ土人自ラ開墾耕種スル所ニシテ、他ノ所轄ニ非ス、此内亦租ヲ生蕃ニ輸シ、估作スル者アリト答フ、貴国ノ

地ニ非サルノ証ナリ、風港ハ、我營ヲ去ル遠シ、酋長數人營ニ來リ、訴フルニ、常ニ生蕃ノ横虐ニ苦ム、願クハ王師ヲ迎ヘ、生蕃ヲ剿滅セン、諸軍需及ヒ使役ハ唯命是從ハント、蓋無告ノ民、王師ノ至ルヲ見テ、欣々來婦スルナリ、其各蕃ノ訟、四十年ヲ經テ止マス、鬪擾數回、其曲直ヲ審判スルモノナキカ如キモ、西郷中將ノ營ニ抵リ裁判ヲ乞ヘリ、貴国之ヲ屬地トセハ、何ソ生殺ノ大事ヲ捨テ聞サルカ、且自国ノ著述府志ヲ以テ信トセハ、我国書ニモ、三百年前我人民移抛セシヲ載セタリ、貴国其レ之ヲ信スルカ、近年西洋人著書アリ、独立ノ野蠻トイヘリ、是稍証スヘシ、且条規ハ、兩國固ヨリ確守スヘキモ、引テ之ヲ這般ニ証スルハ、比倫ヲ失ス、仮令ヘハ、我師台湾府、及ヒ廈門島ヲ擾スルアラハ、固ヨリ貴国ノ所説ノ如シ、而シテ野蠻ニ在テハ、何ソ関カラシ、只冀クハ、小枝節ノ論ヲ廢シ、其大体ニ帰宿センニハ、我国政府ノ本旨義ニ仗リ、野蠻ヲ伐ツ、他ノ牽制ニ由ラス、貴国蕃地ヲ屬地トスル、万々信セサル所ナリ、貴国以テ

如何カ処置スル、請フ十七日ヲ期シ、貴署ニ抵リ、之ヲ
聽候セン」八月十五日、柳原更ニ書ニ函ヲ総理衙門ニ覆
ス、其意ニ、貴王大臣前書ノ破句ヲ摘取シ、措詞前後對
セサルヲ致スハ、窃カニ取ラス、本大臣蕃地貴國ニ屬セ
サルヲ以テ旨トスルハ、在滬以來、毎ニ文移晤談スル所
ナリ、再ヒ本大臣前兩次ノ照會ト潘文稿ト照覽セハ、鑿
々据ルヘシ、潘ノ西郷ト語スル晤談筆記ニ拠レハ、其謬
妄ヲ知ルニ足ル、蕃地果シテ貴國ニ屬スルカ、何ソ去年
特告セントキ、即チ堅却セサル、我國懲弁ヲ將帥ニ命シ、
蕃人已ニ懾服シ、始テ其不可ヲ説ク、亦已ニ及フナキノ
ミ、將帥一タヒ詔ヲ奉ス、大兵豈空ク還ランヤ、貴國其
レ之ヲ処スル如何スヘキ、即チ為ニ裁示セヨ、以テ我國
政府ニ繳回セシメントスルニ急ナリ、前日已ニ貴王大臣
等ト面シ、回話スヘキヲ承ケタリ、特ニ再ヒ照覆スルハ
議ヲ彙メテ定妥センヲ請フト、八月十七日、総理衙門ニ
於テ、柳原公使愛親覺羅恭親王以下ト応接ス、清官云ク、
伐蕃ノ舉ハ、和戰計ルヘカラス、兩國固ヨリ同文ノ邦ニ

シテ、唇齒接連ス、因テ閱牆禦侮ノ意ヲ取り、和好ヲ保
全スヘシ、本大臣貴大臣ト交ル久シ、全肺腑ヲ開カンニ、
已ニ文移会晤數回ナルモ、枝節ヲ滋スニ過キス、唯忠懇
ニ基キ、外國ノ所見ヲ憚リ、各自好計ヲナスヘキノミ、
試ニ之ヲ筆セハ、兩國誰家ノ勝負ニ論ナク、兩家ノ利ニ
アラス、既ニ此理ニ明カナレハ、必スシモ弁論セス、今
日ノ舉、本國貴國ヲシテ了結ナカラシムヘカラス、貴國
モ亦本國ヲシテ了結ナカラシムヘカラス、兩辺其了結ヲ
要スルハ、所謂忠恕ナリ、其伐蕃ヲ以テ義務トスル、貴
國ニ在テハ容易ニ決ストモ、本大臣同僚數員尚他ノ諸大
臣アリ、急覆スルヲ得スト、柳原ノ言ニハ、本國固ヨリ
戰ヲ喜ムニ非ス、但其文移会晤ヲ重ヌルモ、意見遂ニ逕
庭ス、這般ノ舉、本國ノ義務タレハ、枉テ貴説ニ從フヲ
得ス、其紛紜ヲ去リ、各自好計ヲナスハ、我モ亦之ヲ然
スレトモ、後局ノ処分、遲緩スヘカラス、事固ニ重大ニ
屬ス、我國政府人ヲ派シ、本大臣ニ命スル所アリ、曠日
弥久スレハ、内外ノ物議益甚シ、今日決セサレハ、一兩

日ヲ出テス、必ス報スルアレ、八月廿二日、総理大臣書啓二通ヲ柳原公使ニ贈ル、抄略ニ云ク、生蕃ノ居ル所ハ、中国ノ輿地ニ係ル、中国現在弁妥シ、利他国ニ及フ、従前外国人漂到遭害ノ情事アルモ、章程ヲ創立シ、以テ整理スルヲ期ス、貴国其レ能ク兵ヲ退ケハ、将来ノ施設ハ、中国自ラ弁ス、況ンヤ貴国ノ云ハユル、恤民ノ心已ニ白セリト、抑清国蕃地ヲ化外トシ、各国人ノ難ヲ傍觀シ、漠然省セス、而シテ猶靦然トシテ、現在利他国ニ及フナド、称スルハ、害ヲ以テ利トスルカ、将タ剛愎非ヲ飾ルカ、同廿四日、柳原照覆ノ摘要ニ云ク、貴衙門ノ所論、已ニ此ノ如シ、畢竟弁論疊次ナルモ、依様葫蘆ニシテ、終ニ了期ナシ、茲ニ特ニ告明スル所ハ、我国既ニ自主ノ權ニ仗リ、無主ノ野蠻ヲ伐ツ、奚ソ他国ノ物議ヲ容レン、今内ヲ恤ミ外ヲ恵ムノ義ヲ取り、終始貫徹シ、漸次ニ蕃地ヲ撫綏シ、我風化ニ帰セシメントス、是我政府ノ意ヲ決シ行フ所ニシテ、本大臣ノ奉体スル所ナリト、柳原ハ一刀兩断ノ報覆ヲ待テリ、同廿六日、総理大臣照会ノ

要ニ、生蕃隸シテ台湾版図ニアリ、実ニ本国ノ地方ナレハ、無主ノ野蠻トスルヲ得ス、其帰化撫綏ノ如キハ、本国自主ノ權アリ、物議如何ヲ論セスト、是ニ於テ、清国ノ見ル所、我国政府ト大ニ相背馳ス、此ヨリ先キ、清国大ニ兵ヲ募リ、之ヲ南国ニ遣ハシ、台湾鎮兵ノ応援トシ、前年国乱ニ従事セシ、勲功ノ武將ヲ徵シ、皆之ヲ北京ニ致ス、柳原ハ大久保弁理大臣已ニ天津ニ到ルヲ聞キ、人ヲシテ之ヲ迎ヘシメ、大ニ清国談判ノ後図ヲ協議セントス、又吉田海軍大尉ヲ帰朝セシメ、兩國談判已ニ切迫スルト、清国軍防甚急ナルトノ実況ヲ陳シ、日後我兵備機ニ臨ミ、敢テ失フヘカラサルヲ以テセリ、

冊子原寸 縦二・一 櫃 横一四 櫃 四枚

三六〇 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

台湾征討ノ件

（封筒）
「島津左大臣殿 三条太政大臣

至急

」

二三三六〇ノ一

(大三部)

昨日赤松少将書翰到来ス、支那政府戦ニ決セリ、品川領事顯然其用意頗リ也、故ニ今一度電信セハ大至急兵隊ヲ操出シ致希望候ト、此ノ書翰ハ本日ノ米國ノ邦船ヨリ差出申候、機会ヲ誤テバ後チ悔ユトモ甲斐無シ、大至急御整頓甚タ致希望候、

七月卅一日午後九時五分発ス、

長崎

横山祖税権助

谷副軍少丞

大隈蕃地事務長官殿

二三三六〇ノ二

別紙電報御廻申候也、

八月一日

実美

島津殿

文書原寸 縦二七・五種

横四〇・五種 二枚

封筒原寸 縦二二・八種

横七・三種

三三六 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

山県、黒田、伊地知等参議ノ件

(封紙ウツ書)
「島津左府殿」

実美

ノ

」

弥御安清奉賀候、然は昨日も御談申候、大久保(利通)ニも清國

ニ被差支、政府多事不容易時体ニ付而は山県(有朋)陸軍卿・黒

田開拓次官・伊地知(正造)議長等も内閣参議ニ被仰付候ハ、御

都合可然相考申候、同僚中申聞候処別ニ異存も無之、猶

尊公思召之处奉窺度候、乍略儀差急候事ニ付以書面御談

申候、御回答奉仰候、勿々拝具、

八月一日

文書原寸 縦一七種 横七六種

三三三 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

大久保参議清国派遣ノ件

(封筒)
「島津左府殿」

実美」

弥御清廉奉賀候、然は別紙大久保參議ニ御内勅旨取調申
候間差出候、御存慮不被為有候ハ、御鈴章可給候、尚海
陸両省へ内達案も差出申候、草々拝具、

八月三日

実美

島津老公

文書原寸 縦一七・三種 封筒原寸 縦一七・五種

横三六・八種 横 五・八種

三三 從五位藤原隆都ヨリ左府公へノ密呈

練武振威策

〔表紙〕
「密呈 御直覽」

再度呈愚案、謹言尊公真意雖実公平盛大御見込、然不被
為在 御任用、尋其根源、近来諸藩脱武威降平民、其砌
無一人思慕祖先之深意、而為天下暫時加勸弁
評天下之仁、故諸大名空脱武威各降平民、故尊公亦

祈其德厚其志功、然尊公武威不能施行其志、然則非
今上御任用之藩、恐似尊公御自力藩、御先祖源頼朝
公御身無兵力之砌、隱小島而待到軍兵剛大之刻、
終御遂大望被奉輔翼

天朝於是可識、薩長土一旦雖勢權似強剛、出不
重主將不敬隊長、各任一時之戈力一身之機発、
働自由而已、西郷隆盛・大久保一藏之類是也、請 尊
公為

天皇静練武穩握威之策有之度、私儀種々廻工夫忘寝
食未得妙策、唯怨薩長土雖一旦武威盛大、然唯其
中一二人有才力而已不能成大功、似到當時与
他国無勝負、其余華族英才無之、実 天命如斯矣乎、
嘆息此事御座候、不相替暴論御堅流可被下候、頓首再拜、

明治七年甲戌八月四日

從五位藤原隆都謹言

鳥津左大臣様

尊膝下密呈

副書

又案、静練^レ武、穩握^レ威之策、使^下有志之華族一二御教導、悦^ニ親古臣民^一合^ニ体元為^ニ君臣^一、

天皇立^守護國家^一安^ニ泰天下^一之志操^上、而後 尊公誘^ニ引華族右志者^一、厚謀^ニ天下之大事^一、深任^ニ四海之急務^一而後、嘗所御見込、右之御真意御成就有^レ之度窃奉祈候也、

次又一策我日本国根本神伝秘術可相成御授用有^レ之度、然則雖^ニ嘗御見込御真意急速不^レ行、悠然時節御待之御志操乍憚相立可申、御心長幸福来之期御覽被^下度、此神伝、紀州熊野祠髓伝来有^レ之候由承及候、私共受伝候秘伝、即愚拙著述申悉致発露置申候、其極意唯息合之伝而已有^レ之候、委曲拜謁当緒可申上候、以上、

冊子原寸 縦二七・三種 横一九・三種 五枚

三三四 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

定額一件會議

〔封筒〕
島津左府公 実美
〔封筒ウラ〕
17

御安泰奉賀候、然ハ今朝御来臨之處、御所勞ニ而御理之趣、御念示敬承仕候、明朝ハ昨日申上候通定額一件内會議可仕少ニ而も御快方候ハ、来駕希度候、猶御都合伺旁一筆啓上仕候、草々拜具、

八月四日

実美

島津公

二伸、折角御自愛專祈仕候也、

文書原寸 縦一七・二種 封筒原寸 縦一七・八種
横五八・二種 横 五・七種

三三五 春日敬三ヨリ左府公へノ建言

黜陟賞罰ヲ蔽明ナラシムルノ議

春日敬三謹再拜白

左大臣公閣下伏テ方今ノ形勢ヲ察スルニ、内憂外患交薄マル、実ニ危急存亡ノ秋也、曩ニ

閣下ノ左大臣ニ拜セラル、ヤ、天下ノ士夫欣欣并舞、恰モ嬰兒ノ慈親ヲ見ルカ如ク、皆曰、

閣下不世ノ材徳ヲ蓄テ而官、 亜相ノ尊ニ至ル隆盛至治立トコロニ致ス可キ也ト、悉ク領ヲ引テ、而

閣下ノ調羹ヲ望ムコト、豈啻一日三秋ノ如キノミナラシヤ、然ルニ爾來已ニ数月ニ及フト雖、未曾テ一事ノ挙措アルヲ聞カス、於是向キノ仰望セシ者、往々將ニ解体ノ色アラントス、或ハ云仲尼曰、大臣者以道事君不可則止、又云、古人有言、曰、陳力就列不能者止、危而不持顛而不扶則將焉用彼相矣ト、

閣下位ニ居ル、今已ニ数月、然ルニ進テ而大ニ為ス所無ク、退テ而其事ヲ高尚ニスルナシ、古ノ道ト相似サル如ク、然ルハ何ソヤト小人固遠大ノ 神算ヲ伺知ル能ハスト雖、亦迹因循ニ似ルアルヲ以テ終ニ疑惑ヲ免レス、敬三以為ラク、政ヲ施ス宜シク其時ニ及フ可シ、

如シ遷延久ニ涉リ民心瓦解ノ秋ニ至ラハ、縦ヒ良法アリト雖其行ハル、ヤ難矣、恭惟ミルニ黜陟賞罰ハ政ノ

急務ニシテ、而治乱ノ枢機也、故ニ大舜四凶ヲ退ケテ而天下悦服シ、仲尼少正卯ヲ誅シテ、而三月魯国大ニ

治リ齊ノ威王、阿ノ大夫等ヲ烹、即墨ノ大夫ヲ封セシヨリ、齊国大ニ振ルヘリ、皆以テ法ト為スニ足ル、今

ヤ危急目下ニ迫レリ、早ク是カ計ヲ為サレハ、則禍災日一日ヨリモ深クシテ、而終ニ救棄ス可カラサルニ至ラン、伏冀クハ

閣下大ニ憤ヲ発シ、速ニ

廟堂ニ昇リ、

陛下ト是非得失ヲ明論シ、大英断ヲ以テ黜陟ヲ嚴ニシ、

賞罰ヲ正フシ、確乎不拔ノ国是ヲ定メ、以テ国運ヲ挽復シ、内ハ以テ国体ヲ固フシ、外ハ以テ凌侮ヲ禦キ、

上ハ以テ

宸憂ヲ弛ヘ、下ハ以テ生靈ヲ安ンセンコトヲ、書曰、爾

嘉謀嘉猷アラハ則入テ爾ノ后ニ内ニ告ケ、爾乃チ之ニ

外ニ順テ斯謀斯猷、惟我后之徳ト曰へ、韓愈曰、束帶結髮

闕下ニ進テ而其辭説ヲ伸へ、吾君ヲ堯舜ニ致シ、鴻号ヲ無窮ニ濶ロメンコトヲ願フト、是亦実ニ大臣宰相ノ事也、今

闕下ニ仰望スル所如此、尊敵ヲ冒瀆シ惶惧無已、明治七年八月九日春日敬三謹再拜白

文書原寸 縦二六釐 横一七・五釐 一枚

三六 茨城県土族黒沢勝頭ヨリ左府公へノ建白
白川県土族栖本義定

時弊矯正、政府ノ施政方針ニ就テ

茨城県土族黒沢勝頭、白川県土族栖本義定謹テ書ラ

左大臣島津公闕下ノ執事ニ奉リ、敵威ヲ冒シテ愚魯杞憂ノ衷情ヲ上言シ、伏シテ

闕下ノ昭鑑ヲ仰ク、夫レ国家ノ隆替ハ氣運ノ然ラシムル処トハ雖トモ、亦未タ必スシモ政府举措ノ当否ト人情ノ向背トニ因ラスンハアラス、苟モ举措其当ヲ得ス、撫御

其道ヲ失ヒ政治人情ト相背ク時ハ禍端是ヨリ醸成シ、遂ニハ国家盛衰ノ運ニモ關係スルニ至ル、豈ニ戒メサル可ケンヤ、抑戊辰天下一大變革シ大政全ク

朝廷ニ帰セシヨリ數百年、既ニ衰ヘタル紀綱ヲ恢弘シ、將ニ絶ヘタルノ大典ヲ興シ、旧染ノ弊習ヲ一洗シテ百度、惟新方化ニ嚮ヒ、天下其治ヲ仰ク、當時議者謂ラク、數年ヲ出スシテ国威赫然特立シ、盛ヲ欧米諸国ニ比スルモ亦、將ニ慚色ナキニ至ルヘシト、然シヨリ爰ニ七年、政府銳意ニ歩ヲ開明ノ域ニ進メ、百度愈張リテ国力衰耗シ、法制益美ニシテ人民疲弊ス、初メ嘗テ思フ処ト大イニ反シ、天下失望シ人情洵々物議騒然タルニ至ル、甚タ疑フ期ノ如キ何ニ依テカ然ル、蓋シ惟レハ政治ノ要ハ審ニ国力ト民情トヲ察セスンハアル可ラス、而シテ施為ノ緩急ヲ弁別シ、順序ヲ逐フテ其宜キヲ較量シ、時勢ニ適スルヲ貴フ、今政府ノ施ス処ヲ見ルニ、或ハ緩急其序ヲ失フモノアルニ似タリ、謹テ惟レハ国家今日騒乱ノ余弊ヲ受ケテ、国力未タ全カラス、民心未タ定ラス此ノ時ニ

当リテハ将ニ無用不急ノ冗費ヲ省キ、用度ヲ節シテ国力ヲ補全シ、賦税ヲ輕フシテ民心ヲ安定シ、緩急漸次其事ヲ挙クヘシ、然シテ政府徒ニ一日ノ速成ヲ求メ、皆之ヲ一時ニ變更シ以テ海外万国ニ抗衡セント欲シ、其本ヲ務メス其実ニ需メスシテ之ヲ形ニ取リ、末ニ奔リテ外飾ヲ事トシ、荐リニ土木ヲ起シ、財ヲ不急ノ鐵路鍊瓦室等ニ費シ、徒ニ開明ノ形跡上ニ空馳シテ其実ヲ得ス、此ヲ以テ百度愈張ルニ似テ国勢却テ振ワス、法制美ナルカ如クシテ人民疲弊ス、治績未タ垂成ニ至ラス、国家將サニ貧弱ニ陥ラントス、今日ノ形勢ヲ見ルニ内ニハ富強ノ道立タス、国力未タ全タカラス、物議騒然人情洶々トシテ外ニハ魯西ノ羨涎ヲ垂レテ其鬻ヲ窺視シ、欧米諸国モ若シ窺フヘキノ虚アラハ其弊ニ乗セント欲シ、且朝鮮屢侮漫無礼ヲ加ヘ、其罪未タ問フニ暇マアラスシテ、当時既ニ征台ノ挙アリ、百事紛擾今ノ勢ヲ以テ論スレハ憂患交モ内外ニ迫ツテ殆ント累卵ノ危キニ処ス、願ワクハ政府爰ニ注意シテ国是確定ノ議ヲ広ク天下ニ告ケ明カニ大義ノ

向フ処ヲ知ラシメ、以テ衆情ヲ安シ、不急ノ費ヲ省キ、用ヲ兵制ニ盡ニシ意ヲ民力上ニ用ヒテ徒ニ開明ノ空形ニ馳スルナク、国力民情ヲ審カニシ、着午ノ緩急其宜キヲ量リ、政治民情ト相背カサラシメ、富実ノ本ヲ務メテ国勢振起シ、外其侮リヲ禦クニ足ラン、夫レ廉恥氣節ハ国家ヲ維持スルノ本、而シテ当今ノ如キ廉恥氣節、月ニ消シ一般風ヲ成シテ徒ニ利害ニ奔リ、人心日ニ輕薄、早ク法方ヲ設ケ、廉恥ヲ励シ氣節ヲ艱ヒ、士氣ヲ鼓舞セスンハ、益萎靡沮敗シテ国勢振ワス、其弊云ウ可カラサルニ至ルアラン、勝頭等以為ラク、兵ヲ編制スル専ラ士族ニ於テスヘシ、今之ヲ四民ニ募ルハ其宜キモノニアラス、農商ノ募リニ応スルモノ多クハ其職業ヲ事トセサル無頼ノ徒ニシテ、且廉恥氣節ノ何物タルヲ知ラス、事ニ臨ンテ畏避披靡トニシテ八九ハ其用ヲ成サス、奚ソ士ノ廉恥ヲ知り、氣節アツテ能ク其事ニ堪ユルニシカンヤ、商ハ貿易ヲ務メ、ソノ法ヲ明ニシ、農ハ耕桑ノ術ヲ講シテ力ヲ尽シ、工ハ器械ノ巧ヲ求メテ其精ヲ究メ、各其職トス

ル処ヲ励ンテ富国ノ道立ツ可ク兵ヲ募ル、都テ士ニ於テ
スル時ハ士モ亦徒食ノ責メヲ免レテ、各發奮勉勵強兵ノ
実立ツニ至ラン、又以為ク、近年上下一般盛ニ洋風ヲ
競ヒ、屋舎服飾几床等ヨリ日用ノ器物座右ノ翫具ニ至ル
迄、西洋ニ摸シ、器什翫物ノ輸入スル三分ノ一ツニ居ル
ト聞ク、其財ヲ無用ノ翫器ニ費スモ亦許多、カクノ如キ
速ニ禁セサル可ラス、又嘗テ聞ク、官員ノ中或ハ商法ヲ
為スノ人アリト、夫レ堂々タル

朝廷ノ官員トシテ商賈ト利ヲ争フ、不体裁是ヨリ甚タシ
キハアラス、之レ尤モ風俗ヲ敗ルノ本敵ニ制禁ス可シ、
是等ノ数件ハ速ニ令ヲ下シテ改正スヘシ、事ハソノ微ナ
ルニ見テ、之ヲ未タ萌サル、ニ防カスンハ、一旦若シ内
外不虞ノ變発ルアラハ、土崩瓦解殆ント收拾ス可ラサル
ニ至ラン、今勝頭等カ論列スル処、目今見ル処ヲ以テ言
ウ、或ハ其実ヲ得サルモノアラン、且ソノ職ニアラスシ
テ漫リニ其事ヲ議スルノ責メ、実ニ免レカタシト雖トモ
夙夜慷慨ニ堪ヘサルノ余リ忌諱斧誅ノ罪ヲ願ルニ暇マア

ラス、杞憂一片ノ衷情ヲ上言シ、伏シテ

閣下ノ昭鑑ヲ仰ク、誠恐誠惶謹テ白ス、

明治七年 八月十一日

黒沢勝頭

栖本義定

冊子原寸 縦二四・八櫃 横二六・五櫃 六枚

三三三 熊谷県士族権大講義高原信久ヨリ左府公へ

ノ建言

制度改革ノ件

(表紙)
「建言」

凡天下ノ事必本末アリ、本ヲ立テ、末ヲ取ルハ天下ノ公
論也、末ヲ取テ本ヲ棄ルハ天下ノ僻論也、抑御一新以來
我短ヲ捨テ、彼ガ長ヲ取ルノ朝旨ヨリ、遂ニ本ヲ壞シテ
末ニ流レ大ニ御国体ヲ失スルモノアリ、中古以來ノ礼服
ヲ廢シテ、洋夷ノ醜風ニ倣ヒ、便服ヲ以テ礼服ト定ム、
是其一也、固有ノ利刀ヲ廢シテ洋刀^{ヤウダウ}ヲ下ゲシム、是其二

也、民命ヲ重ズル朝旨ヨリ復讎ヲ禁ジテ忠孝信義ノ大道ニ悖ル、是其三也、心氣ヲ練リ人情ヲ拔フ、兵法ヲ棄テ律ヲ以テ束縛シ器械ニ泥ムノ兵法ヲ用フ、是其四也、廉恥ノ風儀ヲ破テ洋夷ニ腰ヲ屈シテ從学セシム、是其五也、美髮ヲ斬テ洋夷ノ醜キ頭髮ニ倣ヒ易ヲ捨テ難ニ就ク、是其六也、固有自然ノ風習ハ美惡トモニ悉皆固陋ト唱へ、心新奇ニ移リ贅物ヲ愛スル輕薄男女ヲ文明開化ノ才子ト貴ヒ、信義質朴ノ志士ヲ頑愚ト鄙ム風儀ニ到ル、是皆富国強兵ノ道ニ反スル御運ビニテ御誓文ニモ悖リ、且又洋夷ノ輕侮ヲ受ケ民心ハ日ヲ追テ洋風ニ傾キ、恐ラクハ遂ニ共和政治ヲ以テ天下ノ公論ト唱フルニ至ラン、是皆西洋新奇ノ贅物ニ眩惑スル無識ノ甚者也、今ヤ台湾へ問罪ノ師ヲ差向ラル、好機會ニ乘シ、大政御變革確乎不拔ノ国是ヲ御定被遊候ハ、皇威自ラ万国ニ赫輝シ朝鮮等ノ小国ハ彼ヨリ帰順スルニモ至ラン、其御變革ノ施行多端ナルベキ中ニ愚案ヲ聊左ニ記ス、

一府県ノ長官並ニ官国幣社ノ官司ヲ廢シ、国造・県主ノ

古名ヲ復シ祭政ヲ司ラシメ、華族ノ家祿、賞典米ノ外ヲ三百石以下ニ三等ニ分チ、人撰シテ之ニ任ズベキ事

一士族ノ家祿モ三十石以下ニ三等ニ分チ、敵ニ遊惰ヲ督責シ、大ニ刀槍ノ芸ヲ振起シ、華士族ハ双刀平民ノ徵兵ハ一刀ト定メ、火器隊ト雖モ短兵接戰ヲ習練セシメ平民ノ徵兵ハ多カラザルヲ要スベキ事

一官人並ニ華士族ハ双刀、平民ハ一刀ト定ムベキ事

一上下一般婦人ニ小刀ヲ帶バシメ、礼服ヲ定メ袴ヲ用フベキ事

一西洋風ノ無用ノ土木ヲ廢スベキ事

一雇入ノ西洋教師ヲ悉皆暇ヲ遣ハサルベキ事

一僧侶ハ悉皆神官ノ教導職トナシ、葬祭ハ一般古代ノ礼式ニ復スベキ事

右ハ概略ヲ挙ルナリ、尚御下問御座候ハ、詳ニ言上仕ベク候、コ、ニ身ノ不肖ヲ忘レ杞憂ノ念難默止、犯万死奉建言候、誠恐誠惶頓首謹言、

熊谷県貴屬士族川越住居

明治七甲戌年八月十一日 権大講義高原信久(生高原)

左大臣島津久光公

閣下

冊子原寸 縦三種 横一七・七種 五枚

三六 中山忠能卿より島津左府公へ

久光公訪問之件

〔封筒〕
「左府公」

忠能

〔封筒ウツシ〕
閣下

〔封筒ウツシ〕
緘

〔封筒ウツシ〕
「左大臣殿」

忠能

閣下

追而明日御差支無之候ハ、不及貴答候、若御差支有之候ハ、十三日ニ而も相願度候、時刻御一筆希入候也、

不揃之時候候、弥御安全奉大賀候、此間は御出仕之由伝承恐悦候、陳は甚乍御面働明十二日午後三時比参上、暫

御拝顔相願御差支無御座候哉、内々拝談仕度義有之御様子相伺候、御同心も給ハ、喜入候、先願越候也、

八月十一日

文書原寸 縦一七・四種 封筒原寸 縦二〇・三種

横四三・三種

横 六種

三六 三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

御陪食ノ件

〔封筒〕
「島津左府公 実美」

御安全奉賀候、然ハ明日御陪食ニ御召候義、宮内卿へ相尋候処、下官

尊君と之由ニ御座候ハ暑中御困却とも存候得共、御所勞御格別之義も無之ハ、何卒御参内相成候ハ、可然奉存候、尤料理も日本食と存候、仍右申入度早々如此候也、

八月十三日

実美